
JD Edwards EnterpriseOne 住所 録 9.0 製品ガイド

2008 年 12月

JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド
SKU E190AAB-B 1208JPN

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.

Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.

Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.

This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com). All rights reserved.

This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

目次

はじめに

この PeopleBook について	xv
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xv
アプリケーションの基礎.....	xv
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xvi
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xvi
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xvi
追加情報.....	xvi
表記規則.....	xviii
表記規則.....	xviii
注意事項の表示.....	xix
国、地域、業種の表記.....	xix
通貨コード.....	xx
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xx
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xx

まえがき

JD Edwards EnterpriseOne住所録 – まえがき.....	xxiii
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xxiii
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xxiii

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne住所録 – はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOne住所録について.....	1
JD Edwards EnterpriseOne住所録とJD Edwards EnterpriseOneの他のシステムの統合.....	2
JD Edwards EnterpriseOne住所録の導入.....	3
JD Edwards EnterpriseOne住所録の導入の手順.....	3

第 2 章

JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの設定.....	5
JD Edwards住所録の設定要件について.....	5
ユーザー定義コードの設定.....	6
カテゴリ・コードの設定.....	9

固定情報の設定.....	11
住所録固定情報について.....	11
国別固定情報について.....	12
事前設定.....	16
固定情報の設定に使用するフォーム.....	16
住所録固定情報の設定.....	16
国別固定情報の設定.....	18
監査ログの設定.....	19
監査ログについて.....	19
監査ログの設定に使用するフォーム.....	20
住所録監査ログの設定.....	20
自動採番の設定.....	20
自動採番の設定に使用するフォーム.....	21
住所録自動採番の設定.....	21
郵便番号の設定.....	22
郵便番号について.....	22
郵便番号の設定に使用するフォーム.....	22
住所録郵便番号の設定.....	22
補足データの設定.....	22
事前設定.....	22
補足データの設定に使用するフォーム.....	23
住所録に使用する補足データの設定.....	23

第 3 章

親/子関係と組織構造の設定.....	25
親/子関係の設定.....	25
親/子関係について.....	25
親/子関係の作成に使用するフォーム.....	26
構造の改訂(P0150)の処理オプションの設定.....	26
構造の照会(P02150)の処理オプションの設定.....	26
親/子関係の作成.....	27
親/子関係の検討.....	28
親/子の組織構造の階層の設定.....	28
親/子の組織構造の階層について.....	29
事前設定.....	29
親/子組織構造の階層の設定に使用するフォーム.....	30
階層を使用した組織構造の作成.....	30
特定の日付の組織構造でルートになる親の特定.....	30
組織構造の階層記述の入力.....	31

親/子関係(上級)の設定.....	31
親/子関係(上級)について.....	31
事前設定.....	31
親/子関係(上級)の設定に使用するフォーム.....	32
親/子関係(上級)の作成.....	32
 第 4 章	
住所録レコードの入力.....	35
住所録情報について.....	35
住所録レコードの入力.....	36
住所録レコードについて.....	36
住所録レコードの入力に使用するフォーム.....	38
住所録MBF(P0100041)の処理オプションの設定.....	38
住所録の改訂(P01012)の処理オプションの設定.....	39
住所録レコードの追加.....	41
住所録レコードへの電話番号の追加.....	48
住所録レコードへの人名録情報の追加.....	48
人名録情報について.....	49
住所録レコードへの人名録情報の追加に使用するフォーム.....	51
人名録MBF PO(P0100087)の処理オプションの設定.....	52
人名録レコードの追加.....	52
人名録レコードへの電話番号の追加.....	54
人名録レコードへの電子メール/インターネット・アドレス情報の追加.....	55
人名録レコードへの関連先情報の追加.....	55
人名録レコードへの代替住所情報の追加.....	56
(BRA)住所録レコードの税情報の入力.....	57
事前設定.....	57
住所録レコードへの税情報の入力に使用するフォーム(ブラジル).....	58
住所録レコードへの税情報の追加.....	58
(CHL)住所録追加情報の入力.....	61
事前設定.....	61
住所録追加情報の入力に使用するフォーム(チリ).....	62
住所録追加情報の入力(チリ).....	62
(COL)住所録追加情報の入力.....	63
事前設定.....	63
住所録追加情報の入力に使用するフォーム(コロンビア).....	63
住所録の追加情報の入力(コロンビア).....	63
(ECU)住所録追加情報の入力.....	65
事前設定.....	65

住所録追加情報の入力に使用するフォーム(エクアドル).....	65
住所録情報の追加(エクアドル).....	65
(PER)住所録追加情報の入力.....	66
事前設定.....	66
住所録情報の入力に使用するフォーム(ペルー).....	66
住所録情報の追加(ペルー).....	66
(POL)住所録追加情報の入力.....	68
住所録情報の入力に使用するフォーム(ポーランド).....	68
住所録追加情報の入力(ポーランド).....	68
(RUS)住所録追加情報の入力.....	69
住所録追加情報の入力に使用するフォーム(ロシア).....	69
住所録追加情報の入力(ロシア).....	69
(VEN)住所録追加情報の入力.....	70
住所録情報の入力に使用するフォーム(ベネズエラ).....	70
住所録情報の入力(ベネズエラ).....	70
重複チェック・レポートの印刷.....	71
重複チェック・レポートについて.....	71
重複チェック・レポートの実行.....	72
重複チェック・レポートのデータ順序の設定.....	72
住所録 - 重複チェック(R014052)の処理オプションの設定.....	72
住所録語句検索テーブルの作成.....	73
語句検索について.....	73
語句検索に使用するフォーム.....	73
語句検索の作成プログラムの実行.....	73
語句検索の作成(R01BDWRD)の処理オプションの設定.....	73
住所録語句検索の使い方.....	74

第 5 章

住所録レコードと個人情報管理システムの同期化.....	75
PIM同期化について.....	75
事前設定.....	76
PIMシステムからの連絡先情報のアップロード.....	76
受信連絡先レコードについて.....	76
事前設定.....	77
PIMシステムからの連絡先情報のアップロードに使用するフォーム.....	77
受信連絡先レコードへの住所録番号の割当.....	77
人名録バッチのアップロード・プログラム(R011110Z)の処理オプションの設定.....	77
人名録バッチのアップロード・プログラム(R011110Z)の実行.....	78
顧客レコードと連絡先レコードへのサブスクライブ.....	78

顧客および連絡先のサブスクライブについて.....	78
顧客レコードと連絡先レコードのサブスクライブに使用するフォーム.....	80
単一顧客へのサブスクライブ.....	81
複数の顧客および連絡先へのサブスクライブ.....	81
関連連絡先へのサブスクライブ.....	81
サブスクライブの削除.....	82
アクティビティの同期化.....	82
アクティビティの同期化について.....	82
事前設定.....	82
アクティビティの同期化に使用するフォーム.....	83
アクティビティの同期化の設定.....	83
第 6 章	
基本設定カレンダーの使い方.....	85
基本設定カレンダーについて.....	85
基本設定カレンダーの設定要件について.....	86
カレンダーの管理.....	91
カレンダーについて.....	92
カレンダーの管理に使用するフォーム.....	93
カレンダー管理(P01311)の処理オプションの設定.....	93
カレンダーの追加.....	93
カレンダーの関連付け.....	95
アクティビティの管理.....	96
アクティビティについて.....	96
アクティビティの管理に使用するフォーム.....	105
アクティビティ・ビュー(P01301)の処理オプションの設定.....	105
アクティビティ検索(P01300)の処理オプションの設定.....	106
アクティビティ共通処理オプション(P01350)の処理オプションの設定.....	108
基本アクティビティの管理(P01302)の処理オプションの設定.....	108
アクティビティ・ホームページ(P01312)の処理オプションの設定.....	109
アクティビティの作成.....	110
アクティビティの定期処理情報の入力.....	112
アクティビティの担当者の管理.....	113
スピード追加を使用したタスクの追加.....	114
アクティビティの検索.....	114
別のユーザーのアクティビティの表示.....	117
アクティビティの状況の更新.....	117
アクション・プランの作成.....	118
アクション・プランについて.....	118

アクション・プランの作成に使用するフォーム.....	119
アクション・プランの設定.....	119
アクション・プランへのアクティビティの追加.....	120

第 7 章

住所録セルフサービスの使い方.....	123
住所録セルフサービスについて.....	123
住所録の改訂プログラムのセルフサービスの使用方法.....	123
住所録の改訂プログラムのセルフサービスについて.....	123
住所録の改訂プログラムのセルフサービス機能のアクティブ化.....	124
住所録セルフサービス・プログラムの使用方法.....	124
住所録セルフサービス・プログラムについて.....	124
連絡先セルフサービス・プログラムについて.....	125
住所録および連絡先情報の更新に使用するフォーム.....	125
住所録セルフサービス (P01012SS) の処理オプションの設定.....	125
住所録セルフサービス・プログラムの使用方法.....	126
連絡先セルフサービス・プログラムの使用方法.....	128

第 8 章

住所録レコードの更新と除去.....	131
住所録の更新プログラムと除去プログラムについて.....	131
有効日付による住所録レコードの更新.....	131
住所録の更新について.....	131
事前設定.....	132
有効住所の更新プログラムの実行.....	132
カテゴリ・コードの更新.....	132
カテゴリ・コードの更新について.....	132
事前設定.....	132
カテゴリ・コード一括更新プログラムの実行.....	132
カテゴリ・コード一括更新 (R01490) の処理オプションの設定.....	132
住所録とメッセージ・ログ・レコードの除去.....	133
住所録とメッセージ・ログの除去について.....	134
事前設定.....	134
住所録レコードの除去プログラムの実行.....	135
住所録レコードの除去 (R01800P) の処理オプションの設定.....	135
メッセージ・ログの除去プログラムの実行.....	135
メッセージ・ログの除去 (R01131P) の処理オプションの設定.....	135
(BRA)ブラジルの住所録レコードの除去.....	136

ブラジルの住所録タグ・ファイルの除去プログラムについて.....	136
Purge Brazilian Address Book Tag Filesプログラムの実行.....	136
Purge Brazilian Address Book Tag Files(R76011P)の処理オプションの設定.....	136
第 9 章	
住所録レコードのバッチ処理.....	139
バッチ処理について.....	139
バッチ住所録レコードの追加.....	141
バッチ・レコードについて.....	141
バッチ住所録レコードの追加に使用するフォーム.....	142
新しいバッチの作成およびレコードの追加.....	142
住所録バッチ情報のアップロード.....	142
住所録バッチ・アップロード・プログラムについて.....	143
事前設定.....	143
住所録バッチ・アップロード・プログラムの実行.....	143
住所録バッチ・アップロード(R01010Z)の処理オプションの設定.....	144
顧客マスター・バッチ情報のアップロード.....	144
顧客マスター・バッチ・アップロード・プログラムについて.....	144
事前設定.....	145
顧客マスター・バッチ・アップロード・プログラムの実行.....	145
顧客マスター・バッチ・アップロード(R03010Z)の処理オプションの設定.....	145
仕入先マスター・バッチ情報のアップロード.....	145
仕入先マスター・バッチ・アップロード・プログラムについて.....	145
事前設定.....	146
仕入先マスター・バッチ・アップロード・プログラムの実行.....	146
仕入先マスター・バッチ・アップロード(R04010Z)の処理オプションの設定.....	146
人名録バッチ情報のアップロード.....	146
人名録バッチのアップロード・プログラムについて.....	147
事前設定.....	147
人名録バッチのアップロード・プログラムの実行.....	147
人名録バッチのアップロード(R011110Z)の処理オプションの設定.....	147
未処理バッチの改訂.....	148
正常に処理が行われなかったバッチについて.....	148
未処理バッチの改訂に使用するフォーム.....	149
未処理バッチ・レコードの改訂.....	149
処理済バッチの改訂.....	150
正常に処理されたバッチについて.....	150
処理済バッチの改訂に使用するフォーム.....	151
住所録バッチの除去.....	151

住所録バッチ除去プログラムについて.....	151
事前設定.....	152
住所録バッチ除去プログラムの実行.....	152
住所録バッチ除去 (R0101Z1P) の処理オプションの設定.....	152

付録 A

バッチ処理用のフィールドのマッピング.....	155
住所録 - インタオペラビリティ・テーブル (F0101Z2) のフィールドのマッピング.....	155
業種別顧客マスター - バッチ・テーブル (F0301Z1) のフィールドのマッピング.....	171
仕入先マスター - バッチ・アップロード・テーブル (F0401Z1) のフィールドのマッピング.....	216
バッチ - 人名録情報テーブル (F0111Z1) のフィールドのマッピング.....	237
バッチ - 関連先テーブル (F0111Z1) のフィールドのマッピング.....	246
電話番号 - インタオペラビリティ・テーブル (F0115Z1) のフィールドのマッピング.....	251
バッチ - 電子メール・アドレス・テーブル (F01151Z1) のフィールドのマッピング.....	257
バッチ - 代替住所テーブル (F01161Z1) のフィールドのマッピング.....	262

付録 B

住所録システムで使用するテーブル.....	271
住所録テーブル.....	271
バッチ処理用の住所録テーブル.....	273

付録 C

JD Edwards EnterpriseOne住所録の標準ワークフロー.....	275
JD Edwards EnterpriseOne住所録の標準ワークフロー.....	275
アクティビティ/タスクの通知.....	275

付録 D

JD Edwards EnterpriseOne住所録レポート.....	277
住所録レポート.....	277
住所録のすべてのレポート.....	277
住所録の主なレポート.....	278
R01050 - 顧客マスターへのカテゴリ・コードのコピー.....	279
顧客マスターへのカテゴリ・コードのコピーの処理オプション.....	279
R01401 - 宛名ラベルの印刷.....	279
宛名ラベルの印刷 (R01401) の処理オプション.....	279
R01401A - 標準宛名ラベル.....	280

標準宛名ラベル(R01401A)の処理オプション.....280

JD Edwards EnterpriseOne用語集..... 281

索引297

この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

注意: 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお薦めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- ドキュメンテーションのダウンロード

最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

重要: アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html

ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒()で区切られています。
[] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

表記規則

注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

注意: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

国の表記

国際標準化機構(ISO)が定める国コードを使って表記しています。

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF(米国連邦政府)

- E&G(教育/公的機関)

通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合もあります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/1C)のコードが表示されます。値は次のとおりです。</p> <p>空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。</p> <p>A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されています。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p> <p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p>

	U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。
事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
カテゴリ・コード	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
伝票会社	<p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
伝票番号	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
伝票タイプ	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票</p> <p>R: 売掛金伝票</p> <p>T: 時間および給与伝票</p> <p>I: 在庫伝票</p> <p>O: 購買オーダー伝票</p> <p>S: 受注オーダー伝票</p>
有効日付	<p>住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住所の変更が有効になる日付 • 賃貸契約が有効になる日付

- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

元帳日付

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

JD Edwards EnterpriseOne住所録 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

JD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOneセールス・フォース・オートメーション

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts/index.html>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementアプリケーションの基礎 – まえがき」

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne住所録 – はじめに

この章では、JD Edwards EnterpriseOne住所録の概要と、次の方法について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne住所録とJD Edwards EnterpriseOneの他のシステムの統合
- JD Edwards EnterpriseOne住所録の導入

JD Edwards EnterpriseOne住所録について

住所録システムは、JD Edwards EnterpriseOneの各システムの基盤となります。住所録システムには、顧客、仕入先、企業などの名称、住所、電話番号が保管されます。この情報は複数のテーブルに保管され、情報の中央リポジトリとして機能します。住所録システムに登録されている名前や住所の最新情報は、JD Edwards EnterpriseOneの他のシステムからも利用できます。たとえば、買掛管理システムでは仕入先への支払を生成する際に、売掛管理システムでは顧客への請求書や計算書を生成する際に住所録の情報が使用されます。

JD Edwards EnterpriseOneの他のシステムと統合されている住所録リポジトリを使用して、住所録の情報を効率的に管理できます。住所録システムには、次の機能が備わっています。

- 従業員、顧客、仕入先などの情報一式の管理
- 与信の警告、保留メッセージ、その他重要な売掛情報など、特別な状況に関する該当ユーザーへの通知
- 照会およびレポート用の、検索タイプ別の住所レコードの分類
- 名前、住所、電話番号、検索タイプを使った情報検索機能
- 税情報の管理
- 1つの住所録レコードに複数の住所に関連付ける機能
- 住所変更の有効日付
- 標準マスター・テーブルに含まれていない情報の管理、照会用の補足データ

住所録レポート

住所録システムでは、情報のソート順序や分類方法を定義してレポートを作成できます。ユーザー定義情報を作成したり構成して、住所録レコードにその情報を加えることにより、ニーズにあわせてレポートをカスタマイズできます。ユーザー定義情報では、次の定義ができます。

- 住所録カテゴリ・コード(最大30個)。住所情報の照会や、レポート出力時に使用します。たとえば、あるレポートでは仕入先を販売担当者別にソートして、別のレポートでは地域別にソートできます。
- 人名録カテゴリ・コード(最大10個)。特定の会社の住所録レコードに関連付けられている請求先担当者、管理者、販売担当者などの識別に使用できます。
- 連絡先情報カテゴリ・コード(最大10個)。人名録レコードをさらに詳しく分類できます。

- 関連先カテゴリ・コード(最大5個)。関連先情報を分類できます。

また、レポートをカスタマイズして、郵送宛名リストやラベルなどを作成することもできます。

JD Edwards EnterpriseOne住所録とJD Edwards EnterpriseOneの他のシステムの統合

オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOneシステムとJD Edwards EnterpriseOne住所録システムを統合して、次のタスクを実行できます。

システム	タスク
JD Edwards EnterpriseOne買掛管理	仕入先と税務当局の設定
JD Edwards EnterpriseOne売掛管理	顧客と税務当局の設定
JD Edwards EnterpriseOne一般会計	会社とビジネスユニットの設定
JD Edwards EnterpriseOne作業原価	作業の設定、および仕入先、外注業者、プロジェクト管理者、責任者への作業の割当
JD Edwards EnterpriseOne固定資産管理	固定資産の担当者と仕入先の設定
JD Edwards EnterpriseOne調達管理	仕入先、購買担当者、運送業者、事業所、出荷先住所、輸入業者(通関業者)の設定
JD Edwards EnterpriseOne受注管理	出荷先住所、販売先住所、運送業者、販売担当者、事業所、顧客請求指示の設定
JD Edwards EnterpriseOne在庫管理	品目マスター・レコードに登録する計画担当者、購買担当者、事業所の設定
JD Edwards EnterpriseOne契約管理	出来高払い処理用の仕入先および契約ログの設定
JD Edwards EnterpriseOne契約請求	建築士、顧客、所有者、送金先、代替請求先、連絡先の設定
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理	作業オーダーに割り当てる従業員および顧客の設定
JD Edwards EnterpriseOne価格管理	価格調整を適用する際に使用する顧客カテゴリ・コードの設定
JD Edwards EnterpriseOne所要量計画	事業所および計画担当者(資材計画担当者や製品ライン監督者)の設定
JD Edwards EnterpriseOne予測管理	予測階層の設定
JD Edwards EnterpriseOne設備/工場管理	設備管理者、設備納入会社、メンテナンス担当者の設定

システム	タスク
JD Edwards EnterpriseOne 作業オーダー管理	顧客、管理者、入力者、監督者の設定
JD Edwards EnterpriseOne サービス管理	顧客とサービス業者の設定
JD Edwards EnterpriseOne Payroll	従業員の氏名および住所の設定
JD Edwards EnterpriseOne Human Capital Management	従業員、扶養家族、応募者の設定
JD Edwards EnterpriseOne システムのユーザー・プロフィール	ユーザー名に対する住所録レコードの設定および各ユーザー名に対する電子メール・アドレスの追加
JD Edwards EnterpriseOne ワークフロー・ツール	ワークフロー・メッセージの宛先および住所録レコードの電子メール・アドレスの設定

JD Edwards EnterpriseOne住所録の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムを導入するために必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOne に関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne住所録について、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

JD Edwards EnterpriseOne住所録の導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムのアプリケーション別の推奨導入手順を示します。

手順	参照
1. ユーザー定義コード、カテゴリ・コード、固定情報、自動採番、郵便番号、セルフサービス、補足データ、監査ログを設定します。	第2章、「JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの設定」、5ページ
2. 基本設定カレンダーのユーザー定義コードを設定します。	第6章、「基本設定カレンダーの使い方」、85ページ
3. 親/子関係および組織構造を設定します。	第3章、「親/子関係と組織構造の設定」、25ページ

第 2 章

JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの設定

この章では、JD Edwards住所録システム内の設定要件の概要と、次の方法について説明します。

- ユーザー定義コードの設定
- カテゴリ・コードの設定
- 固定情報の設定
- 監査ログの設定
- 自動採番の設定
- 郵便番号の設定
- 補足データの設定

JD Edwards住所録の設定要件について

JD Edwards住所録システムを使用する前に、処理に使用される情報を設定しておく必要があります。システムは、この情報を基にビジネス・ニーズにあわせてカスタマイズされます。JD Edwards住所録システムの使用開始後に設定情報を変更する場合は、既存のレコードに影響が及ばないことを確認する必要があります。システム設定機能の1つに固定情報があります。固定情報を設定すると、その情報はすべての住所録レコードに適用されます。そのため、固定情報を変更する場合は、既存の住所録レコードに影響が及ばないことを確認する必要があります。

次の表は、JD Edwards住所録システムの設定機能を示しています。

機能	設定タスク
ユーザー定義コード	データの分類とデータ入力の標準化に使用します。
カテゴリ・コード	業務に固有な情報のトラッキングおよびレポートに使用します。
固定情報	次のようなシステムの基本設定に使用します。 <ul style="list-style-type: none">• 住所録番号の形式を識別する記号• 他のユーザーの電子メールの表示制限• 住所録レコードへの有効日付住所の設定の可/不可• 住所録データ・セキュリティの有効化/無効化
国別固定情報	宛名ラベルのフォーマットの決定に使用します。

機能	設定タスク
住所録監査ログ	住所録レコードの追加と変更の記録に使用します。
自動採番	自動採番システムに基づいて、住所録レコードに番号を割り当てる場合、および自動採番の形式にチェック・ディジットを指定するかどうかを指定する場合に使用します。
郵便番号検証	住所録レコードの郵便番号の検証に使用します。

ユーザー定義コードの設定

JD Edwards住所録システムのプログラムの多くや他のJD Edwards EnterpriseOneシステムでは、ユーザー定義コード(UDC)を使用して情報を処理します。JD Edwards住所録システムのほとんどのUDCには、事前に定義されたデータが標準で用意されています。定義済のデータは、ハードコード化されていない場合には、変更や削除が可能です。また、必要に応じて、独自のUDCを追加することも可能です。ただし、JD Edwards住所録システムのUDCの製品コード、コード・タイプおよび記述名は変更しないでください。

次の表では、JD Edwards住所録システムで使用されるUDCについて説明します。

ユーザー定義コード	説明
検索タイプ・コード(01/ST)	<p>検索タイプ・コードにより、住所録レコードを分類し、住所録レコードの検索時に表示されるレコードの数を制限します。次のような例があります。</p> <p>A: 応募者</p> <p>C: 顧客</p> <p>E: 従業員</p>
標準産業分類(01/SC)	<p>住所録レコードには、標準産業分類(SIC)コードを追加できます。SICシステムは、提供している製品やサービスの種類に従って企業を分類する一連の番号コードです。同じ事業に従事する企業には、同じSICコードが割り当てられます。このSICシステムは、米国商務省および米国企業により共同開発されたものです。次のような例があります。</p> <p>0700: 農業サービス</p> <p>1000: 鉄鋼業</p>
与信メッセージ(00/CM)	<p>与信メッセージにより、特定の住所録レコードの与信状況が通知されます。次のような例があります。</p> <p>B: 不良債権の恐れあり</p> <p>1: 与信限度額超過</p> <p>2: 購買オーダー必要</p>

ユーザー定義コード	説明
州/県コード(州)(00/S)	<p>州や都道府県を表すコードで、最大3文字まで使用できます。次のような例があります。</p> <p>BC: ブリティッシュ・コロンビア州</p> <p>CO: コロラド州</p> <p>DC: コロンビア特別区</p> <p>IL: イリノイ州</p>
語句検索特殊語句(H95/SC)	<p>特殊文字をUDCテーブルH95/SCに追加して、語句検索時に特殊文字を無視するよう指示できます。語句検索機能を使用して住所録レコードを検索する場合、このテーブルに登録されているすべての特殊文字は常に無視されます。ただし、語句検索機能では、無視の対象に語句は設定できません。</p> <p>UDCテーブルH95/SCの特殊文字を含むレコードを検索する場合は、まずその特殊文字をUDCから削除してください。次に、語句検索機能以外の方法を使用して各レコードを検索して開き、変更を一切加えずに保存します。名称に含まれた特殊文字が住所録マスター(F0101)に反映されます。これで、語句検索機能使用時に、その特殊文字を検索対象に含めて、住所録レコードを検索できるようになります。</p>
国コード(00/CN)	<p>国コードは最大3文字まで可能です。次のような例があります。</p> <p>AU: オーストラリア</p> <p>BE: ベルギー</p> <p>CN: 中華人民共和国</p>
敬称/役職コード(01/SL)	<p>敬称コードは、個人の役職を表します。敬称は、レポート、宛名ラベルなどに使用できます。次のような例があります。</p> <p>A: Mr.</p> <p>B: Mrs.</p> <p>C: Ms.</p> <p>D: Dr.</p>
電子メール・メッセージ・タイプ・コード(01/MT)	<p>メッセージ・タイプ・コードは、別のユーザーへのスピード・メッセージの送信に使用されます。次のような例があります。</p> <p>1: 折り返し電話をください。</p> <p>2: 後でもう一度電話します。</p> <p>3: 折り返し電話しました。</p>

ユーザー定義コード	説明
使用言語コード (01/LP)	<p>使用言語コードにより、請求書や計算書などの文書またはレポートに使用される言語が指定されます。翻訳を有効にするには、まず、システム・レベルまたはユーザー基本設定のいずれかで言語コードが定義されている必要があります。</p> <p>この言語コードにより、ユーザー定義ラベル (用語一時変更) の言語が指定され、希望の言語でデータが表示されます。次のような例があります。</p> <p>DU: オランダ語</p> <p>E: 英語</p> <p>F: フランス語</p>
Dun & Bradstreet格付コード (01/DB)	<p>Dun & Bradstreet社が提供する信用格付けコードです。次のような例があります。</p> <p>BA1: 優良</p> <p>BA2: 良</p> <p>BA3: 可</p>
Experian格付けコード (01/TR)	<p>Experian社が提供する信用格付けコードです。次のような例があります。</p> <p>AAA: 優良</p> <p>BBB: 良</p> <p>CCC: 可</p>
タイプ・コード (01/W0)	<p>タイプ・コードにより、住所録レコードの人名録データを識別します。次のような例があります。</p> <p>A: 宛名</p> <p>B: 請求先</p> <p>C: 連絡先</p>
連絡先タイプ・コード (01/CT)	<p>連絡先タイプ・コードにより、人名録に入力された連絡先データを、役割または機能別に分類します。次のような例があります。</p> <p>C: 競合他社</p> <p>D: 意思決定者</p> <p>I: 有力者</p>

ユーザー定義コード	説明
関係タイプ・コード (01/RT)	関係タイプ・コードは、人名録レコードと関連先テーブル (F01112) の名前の間の関係を示します。また、関係タイプ・コードを使って、各個人の役割または役職を示すこともできます。
電子メール・アドレス・タイプ・コード (01/ET)	電子メール・アドレス・タイプ・コードは、電子メール・アドレスが個人のアドレス (電子メール・アドレスなど) であるか、またはインターネット・アドレス (URL など) であるかを指定します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide

カテゴリ・コードの設定

カテゴリ・コードはUDCの一種で、各業務の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件にあわせてカスタマイズできます。カテゴリ・コードを使用して、住所録情報を整理し、データ入力を標準化します。

JD Edwards住所録システムには、事前定義されたカテゴリ・コードが標準で用意されています。ハードコード化されていない場合は、事前定義済データを変更、削除できます。また、独自のカテゴリ・コードを追加することも可能です。カテゴリ・コードは、ユーザー定義コード・フォームを使用して設定します。

カテゴリ・コードの記述は変更できますが、製品コードとタイプ・コードは変更できません。たとえば、UDC テーブル01/23の記述を“住所録選択コード23”から“仕入先製品”に変えることができます。また、カテゴリ・コードの特性を変更することもできます。たとえば、桁数(最大10文字)と文字(英字または数字)を変更できます。カテゴリ・コードの記述や特性を変更した場合は、システム管理者は、データ辞書の編集ルールとマッピング方法を変更して、データ入力フォームに変更が反映されるように再設定する必要があります。

住所録の改訂プログラム(P01012)を使用して、住所録レコードにカテゴリ・コードを割り当てます。住所録レコードにカテゴリ・コードを割り当てた後で、レコードのカテゴリ・コードの記述や特性を変更する場合は、既存の住所録レコードを手作業で変更する必要があります。

使用している住所録カテゴリ・コード(01/01から30)について、ユーザー定義テーブルの値を変更する場合は、ユーザー定義コード・フォームを使用して値を変更してから、カテゴリ・コード一括更新プログラム(R01490)を実行して既存のすべての住所録レコードを更新します。

注意: 住所録カテゴリ・コードを設定する際には、ユーザー定義コード・フォームで必ずブランクのレコードを作成してください。このブランクは、住所録レコードにカテゴリ・コードを割り当てる必要がない場合のデフォルトに使用します。

カテゴリ・コード	説明
住所録カテゴリ・コード (01/01から30)	<p>UDCテーブル01/01から30に住所録カテゴリ・コード (最大30種類) を定義することにより、住所録の情報を整理できます。</p> <p>複数の住所録レコードを特定の情報に基づいてトラッキングやレポート作成できるよう、住所録カテゴリ・コードを設定できます。住所録システムには、仕入先のレコードを追跡するために、仕入先の住所録レコードの入力または改訂時に使用できる検索タイプVがあらかじめ提供されています。カテゴリ・コードを設定することで、製品の種類によって仕入先をさらに細かく分類できます。たとえば、住所録カテゴリ・コード23を設定して、仕入先の製品情報を保存すると仮定します。「ユーザー定義コード」フォームを使用して、HDW (ハードウェア)、SFT (ソフトウェア)、ELC (電気工事) などのカテゴリ・コードを設定します。次回から、住所録レコードにカテゴリ・コードを割り当てる場合に、カテゴリ・コード23のHDW、SFT、ELCを割り当てることができます。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでは、1099レポート用にカテゴリ・コード07が予約されています。1099レポートを使用しない場合は、カテゴリ・コード07は他の用途に使用できます。</p>
人名録カテゴリ・コード (01/W0からWT)	<p>UDCテーブル01/W0-WTに最大10種類の人名録カテゴリ・コードを定義できます。</p> <p>人名録とは、住所録レコードに関連付ける個人のリストのことです。たとえば、取引会社の住所録レコードを入力する場合、通常はその会社の従業員を設定します。これらの従業員には住所録番号は直接割り当てず、人名録リストを介して、会社の住所録番号に関連付けます。人名録カテゴリ・コードを設定する場合、必要に応じて、各人名録レコードにカテゴリ・コードを割り当てることができます。</p>
連絡先情報カテゴリ・コード (01/N1からNA)	<p>UDCテーブル01/N1-NAに最大10種類の連絡先情報のカテゴリ・コードを定義できます。</p> <p>連絡先情報は、追加情報として人名録レコードに割り当てることができます。連絡先情報カテゴリ・コードを設定する場合、必要に応じて各連絡先レコードにカテゴリ・コードを割り当てることができます。</p>
関連先カテゴリ・コード (01/P1からP5)	<p>UDCテーブル01/P1-P5に最大5種類の関連先情報のカテゴリ・コードを定義できます。</p> <p>関連先とは、人名録リスト中の個人に関連付けられた個人のことです。たとえば、関連先として、人名録レコードに登録した人物の配偶者を登録する場合などが考えられます。関連先カテゴリ・コードを設定する場合、必要に応じて各関連先レコードにカテゴリ・コードを割り当てることができます。</p>

固定情報の設定

この項では、住所録固定情報と国別固定情報の概要、および次の方法について説明します。

- 住所録固定情報の設定
- 国別固定情報の設定

住所録固定情報について

JD Edwards住所録システムの固定情報を設定する場合、住所録固定情報プログラム(P0000)で次の固定情報を指定します。

- 住所録番号の検索に使用する形式の識別記号
- 同じ住所録レコードに対して有効日付を持つ複数の郵送先住所を許可するかどうか
- システムを経由する電子メールに対してセキュリティを有効にするかどうか
- 個人データ・セキュリティを有効にするかどうか

固定情報はキャッシュされます。固定情報の設定を変更した場合は、システム管理者に連絡して、変更を有効にするために必要な追加設定を確認してください。

重要: 固定情報を変更した場合は、その固定情報を使用するすべての住所録レコードが変更されます。したがって権限を付与されたユーザーのみ住所録固定情報を変更するようにしてください。

住所録レコードの識別記号

JD Edwards買掛管理、JD Edwards売掛管理などの他のJD Edwards EnterpriseOneシステムでは、住所録レコードの検索にデフォルト識別番号や代替識別番号を使用します。他のシステムからデータを変換した場合は、代替識別番号を入力することによって、会社または個人の住所録レコードを検索できます。

固定情報の設定で代替識別番号を定義するには、「住所録固定情報」フォームの次のフィールドに固有の識別記号(*や/など)を入力します。

- 住所録略式No.識別記号
- 住所録代替キー識別記号
- 住所録税ID識別記号

これらの識別番号フィールドの1つをデフォルトに指定するには、そのフィールドをブランクにします。デフォルトに指定できるのは1つのみです。

たとえば、住所録システムによって割り当てられた番号を、住所検索時のデフォルト番号として使用します。この場合、「住所録固定情報」フォームで、「住所録略式No.識別記号」フィールドをブランクにします。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのシステムで、住所録システムによって割り当てられた8桁の番号を入力すると、住所録レコードを検索できます。

また、名前またはJD Edwards住所録システムによって割り当てられた番号以外の住所番号を入力して、住所録レコードを検索することもできます。この場合は、「住所録固定情報」フォームで、「住所録代替キー識別記号」フィールドに「*」(アスタリスク)などの一意の記号を入力します。住所録の改訂プログラムを使用して住所録レコードを入力または更新する際に、「詳細住所No.」フィールドに住所録代替キー(「UNIVERSAL」など)を入力できます。別のJD Edwards EnterpriseOneシステムを使用する場合は、住所録代替キーに識別記号を付けて(*UNIVERSAL)など入力すると、レコードには8桁の住所番号に変換されて表示されます。

有効日付別住所の設定

住所録固定情報プログラムを使用して、住所録レコードに複数の住所を設定できるかどうかを指定します。個人や会社が特定の日付に別の住所に移動する場合に、住所録レコードに複数の住所を設定できると便利です。前の住所情報を残したまま、書類や、請求書、支払、その他の関連情報を最新の住所に送付できます。「有効日付別住所の設定」チェックボックスを選択すると、住所録の改訂プログラムを使用して住所録レコードを入力または改訂する際に、有効日付が表示されます。この住所は日付別住所 (F0116) テーブルに保管されます。この固定情報を有効にした場合、すべての住所録レコードに複数の住所を設定できます。この固定情報を無効にした場合、住所録レコードに割り当てられる住所は1つのみです。

有効日付別住所を有効にした場合は、有効住所更新プログラム (R01840) を定期的に行うことで、すべての住所録レコード現在の日付に対応する住所が使用されているかを確認する必要があります。有効住所更新プログラムを実行しないかぎり、住所録レコードは新しい住所に更新されません。

電子メール・セキュリティ有効

住所録固定情報プログラムを使用して、他のユーザーの電子メールを表示しないよう設定できます。電子メール・セキュリティを設定するには、「電子メール・セキュリティ有効」チェックボックスを選択します。

個人データ・セキュリティ有効

住所録固定情報プログラムを使用して、住所録レコードの検討時に個人データを表示しないように設定できます。住所録データ・セキュリティに必要な設定を実行した後は、不許可ユーザーは、住所録レコードの検討または更新時に保護対象すべてのフィールドに情報を表示できなくなります。各保護フィールドには、フィールド全体にアスタリスクが自動的に割り当てられ、更新は一切できません。

住所録データのプライバシー保護機能では、さらに例示照会プログラム (QBE) 行のセキュリティが設定されます。セキュリティが設定されている場合、ユーザーが保護フィールドに対してQBEで有効な値を入力しても、一致した住所録レコードは表示されません。たとえば、電話番号フィールドが保護対象に設定されていて、有効な従業員を検索するために、QBE行に電話番号を入力したとします。その番号が偶然正しい番号であっても、その番号を持つレコードは表示されません。QBEセキュリティ保護により、従業員情報の表示が制限されているためです。

住所録データのプライバシー保護を設定するには、次の設定を行う必要があります。

- 住所録固定情報の個人データ・セキュリティの有効化
- 許可リストの定義
- 許可リストのリレーションシップ

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Security Administration Guide

国別固定情報について

国別固定情報では、住所録情報のレポート作成や宛名ラベル印刷に使用するフォーマットを定義します。郵送先住所の表記方法は、国によって異なります。複数の国でビジネスを行っている場合、国別に住所フォーマットを定義する必要があります。国別固定情報を設定する際は、国別の住所フォーマットとデフォルトの国のフォーマットを指定します。

国別固定情報は、国別固定情報マスター・ファイル・テーブル (F0070) に保存されます。

住所フォーマット

住所録システムには、16種類の住所フォーマットが用意されています。住所録の改訂プログラムを使用して住所録レコードを入力または改訂する際には、住所録レコードに国コードを指定します。レポートまたはラベルの印刷時に、住所録レコードに割り当てられている国コードと、F0070テーブルに保存されている国コードが照合され、住所フォーマットIDで指定されたフォーマットで住所が印刷されます。住所フォーマットIDは、国別固定情報を設定する際に国コードに割り当てます。

デフォルトの国別フォーマット

国別固定情報を設定する際に、各住所フォーマットIDに次の項目を含めることができます。

- 宛名と宛名の位置
- 敬称と敬称の位置
- 郵便番号記号
- 国コード

設定する各国コードには、同じフォーマット番号が使われている場合でも、前述の項目を自由に組み合わせて設定できます。たとえば、ブラジルとメキシコの両方に住所フォーマットID 08を割り当てると仮定します。ブラジルの住所録レコードに、宛名行を追加するとします。「国別固定情報の設定」フォームで住所フォーマットID 08を設定して、省略型宛名、宛名の挿入位置、肩書きの位置などの宛名行の情報を指定します。ブラジルの住所のレポートとラベルを印刷すると、宛名情報が印刷されます。他の国に対しては、「国別固定情報の設定」フォームでその国に対して宛名情報を指定しないかぎり、住所フォーマットID 08を使用していても宛名情報は印刷されません。

国別固定情報を設定する際は、国コードをブランクにした固定情報を1つ設定します。住所フォーマットID番号など、その国の固定情報の他の情報をすべて入力します。

フォーマットは、国ごとに1つしか設定できません。

重要: 特定の国の住所フォーマットIDを変更すると、その国に関連付けされたすべての住所録レコードが影響を受けます。権限を付与されたユーザーのみが国別固定情報を変更するようにしてください。

事前定義済の住所フォーマット

次の表に、JD Edwards住所録システムに標準で用意されている住所フォーマットと各フォーマットに含まれる項目を示します。フォーマットが16種類以上必要な場合や提供されているフォーマットでは業務上のニーズに対応できない場合は、システムをカスタマイズして新しいフォーマットを設定する必要があります。

この表で任意となっている国コードは、国別固定情報の改訂プログラム(P0070)を使用して入力してください。

住所フォーマット	含まれる項目
フォーマット01	郵送宛名 住所部分 郵便番号/都市名 国(任意)

住所フォーマット	含まれる項目
フォーマット02	郵送宛名 住所部分 都市 県 郵便番号 国(任意)
フォーマット03	郵送宛名 住所部分 都市/郵便番号 県 国(任意)
フォーマット04	郵送宛名 住所部分 市/州/郵便番号 国(任意)
フォーマット05	郵送宛名 住所部分 都市 県 国(任意)
フォーマット06	郵送宛名 住所部分 郵便番号/州/市 国(任意)
フォーマット07	郵送宛名 住所部分 都市 国(任意)

住所フォーマット	含まれる項目
フォーマット08	郵送宛名 住所部分 郵便番号/市/州 国(任意)
フォーマット09	郵送宛名 住所部分 市/州 郵便番号 国(任意)
フォーマット10	郵送宛名 住所部分 都市/郵便番号 国(任意)
フォーマット11	郵送宛名 郵便番号/都市 住所部分 国(任意)
フォーマット12	郵送宛名 住所部分 市/州 郵便番号 国(任意)
フォーマット13	郵便番号 郵送宛名 住所部分 都市 国(任意)

住所フォーマット	含まれる項目
フォーマット14	郵送宛名 住所部分 市 郡 郵便番号 国（任意）
フォーマット15	郵便番号 住所部分 都市 郵送宛名 国（任意）
フォーマット16	郵送宛名 住所部分 郵便番号/市 国（任意）

事前設定

この項で説明するタスクを完了するには、事前にUDCテーブル00/CNで国コードを定義しておく必要があります。1つの国に対し複数の住所フォーマットIDを割り当てる場合は、国コードを別に定義します。

固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
住所録固定情報	W0000F	「住所録のセットアップ」 (G0141)、「住所録固定情報」 「システム・セットアップ」 フォームの「住所録固定情報」 をクリックします。	住所録固定情報を設定します。
国別固定情報の設定	W0070B	「住所録のセットアップ」 (G0141)、「国別固定情報の改訂」 「国別固定情報の処理」 フォームで、「追加」をクリックします。	国の宛名フォーマットとデフォルトの国のフォーマットを指定します。

住所録固定情報の設定

「住所録固定情報」フォームにアクセスします。

「住所録固定情報」フォーム

住所録略式No.識別記号

略式住所録番号の前に指定する記号(ブランク、*、/など)を入力します。
この記号を略式番号の前に付けて入力することにより、住所録レコードを検索できます。

住所録略式番号は、通常、新しい住所録レコードを作成するときに住所録システムによって割り当てられます。略式番号は8桁の番号です。この番号を住所録レコードの検索時に使用する標準形式とする場合は、このフィールドをブランクにします。

ブランクにできるのは、3つの入力形式のうち1つのみです。他の2つには、それぞれ一意の記号を指定する必要があります。指定した記号(*、/、#など)が、システム内で別の目的に使用されていないことを確認してください。

住所録代替キー識別記号

住所録代替キーの前に指定する記号(ブランク、*、/など)を入力します。
この記号を住所録代替キーの前に付けて入力することにより、住所録レコードを検索できます。

住所録代替キーには、別のシステムの住所録番号を使用できます。この番号を住所録レコード検索時の標準形式とする場合は、このフィールドをブランクにします。ブランクにできるのは、3つの入力形式のうち1つのみです。他の2つには、それぞれ一意の記号を指定する必要があります。指定した記号(*、/、#など)が、システム内で別の目的に使用されていないことを確認してください。

住所録税ID識別記号

社会保障番号、連邦または州の法人税ID、売上税番号など、税IDの前に指定する記号(ブランク、*、/など)を入力します。この記号を住所録税IDの前に付けて入力することにより、住所録レコードを検索できます。

税IDを住所録レコード検索時の標準形式とする場合は、このフィールドをブランクにします。ブランクにできるのは、3つの入力形式のうち1つのみです。他の2つには、それぞれ一意の記号を指定する必要があります。指定した記号(*、/、#など)が、システム内で別の目的に使用されていないことを確認してください。

有効日付別住所の設定

1つの住所録レコードに対して有効日付別の住所を複数使用する場合に、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、各住所録レコードに対して複数の住所が保存され、各住所に対して有効日付が指定されます。

電子メール・セキュリティ有効

他のユーザーのワーク・センター・メッセージが表示されないようにする場合に選択します。このチェックボックスを選択すると、従業員ワーク・センター・プログラムの「従業員待ち行列マネージャ」フォームの「ロー」メニューに「メールの表示」が表示されます。

個人データ・セキュリティ有効

住所録個人データのセキュリティ機能を有効にする場合に、このチェックボックスを選択します。この機能は、個人データが特定のユーザーに対して表示されないように保護します。このチェックボックスで有効にできるのは、住所録個人データのセキュリティ機能のみです。この機能を最大限に活用するには、さらに住所録データ保護アプリケーションでアクセス権限を設定する必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Security Administration Guide

国別固定情報の設定

「国別固定情報の設定」フォームにアクセスします。

「国別固定情報の設定」フォーム

国

国を識別するUDC (00/CN)を入力します。国コードは、通貨換算には影響しません。

JD Edwards住所録システムでのデータ選択と住所形式の設定に、この国コードが使用されます。

住所フォーマットID

伝票、レポート、および宛名ラベルに住所を印刷するフォーマットを指定します。

国コード・フィールド

次のフィールドは、国コードに関連付けられているフィールドです。これらのフィールドに入力した値が、その国コードを使用するすべての住所録レコードに表示されます。

省略型宛名

宛名ラベルに印刷される宛先の省略語を入力します。

宛名の挿入位置	<p>郵便住所フォーマット内の宛名行の位置を指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランクまたは0: 住所行1の後に宛名行を挿入</p> <p>1: 住所行2の後に宛名行を挿入</p> <p>2: ブランクでない最終の住所行の後に宛名行を挿入</p> <p>3: 番地の前の先頭行に宛名行を挿入</p>
宛名の前に肩書きを付ける	<p>人名録の宛名の前に肩書きを付ける場合に、このチェックボックスを選択します。</p>
標準敬称	<p>住所に使用する個人の敬称を入力します。このフィールドの値は、「住所フォーマットID」フィールドの値に関連付けられます。</p> <p>標準敬称を設定すると、この住所フォーマットIDを使用するすべての住所レコード上に敬称が表示されます。</p>
標準敬称記述の位置指定	<p>氏名に対する敬称の位置を指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランクまたは0: 氏名の前に標準敬称を印刷する。</p> <p>1: 氏名の後ろに標準敬称を印刷する。</p> <p>2: 標準敬称の位置を次のいずれかにする。</p> <p>宛名がない場合、ブランクでない最終の宛名行の末尾</p> <p>宛名がある場合、宛名の末尾</p>
郵便番号記号	<p>郵便番号の前に付けるプレフィックスを入力します。国によって、このプレフィックスが必要になります。英数字を4文字まで入力できます。プレフィックスを入力する場合は、プレフィックスの後に、ブランク・スペースやハイフンなどの区切りを付けます。プレフィックスと区切りは、郵便番号の前に印刷されます。たとえば、プレフィックス「CH-」と郵便番号「88023」を入力すると、「CH-88023」と印刷されます。このフィールドをブランクにすると、郵便番号のみが印刷されます。</p> <hr/> <p>注意: 日本の郵便システムの場合、このフィールドは必須で、住所の1行目に出力する必要があります。</p> <hr/>
国コードの印刷	<p>郵便住所に国コードを印刷する場合に、このチェックボックスを選択します。</p>

監査ログの設定

この項では、監査ログの概要と住所録監査ログの設定方法について説明します。

監査ログについて

既存の住所録レコードの変更や新しく入力した住所録レコードを記録する場合、住所録監査ログを作成できます。監査ログを作成するには、住所録の改訂プログラム(P01012)の処理オプションに、送信インタオペラビリティが有効な住所録MBF(P010041)プログラムのバージョンを入力します。監査ログ情報は、住所録 - インタオペラビリティ・テーブル(F010122)に保存されます。

既存レコードの変更のみ、または新規レコードの入力と既存レコードの変更の両方を記録するように、住所録監査ログ機能を設定できます。

監査ログの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
対話型バージョンの処理	W9830511	「システム・アドミニストレーション・ツール」(GH9011)、 「対話型バージョン」	住所録監査ログ機能を設定します。

住所録監査ログの設定

「対話型バージョンの処理」フォームにアクセスします。

住所録監査ログ機能を設定するには、次の手順に従います。

1. 「対話型プログラムID」フィールドに「P0100041」を入力して、「検索」をクリックします。
2. 「使用可能なバージョン」で、バージョンを選択します。
3. 「ロー」メニューから「処理オプション」を選択します。
4. 「送信」タブで、次の操作を行います。
 - ・「トランザクション・タイプ」処理オプションに、「JDEAB」と入力します。
 - ・「変更トランザクションの書込み」処理オプションに、次のいずれかの値を指定します。
 - ・ブランク: 変更後トランザクションを書き込む。
 - ・1: 変更前トランザクションと変更後トランザクションを書き込む。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「対話型バージョンの処理」で「閉じる」をクリックして終了します。
7. 「日次処理」メニュー (G01) にアクセスします。
8. 「住所録の改訂」の処理オプションを表示します。
9. 「デフォルトバージョン」タブで、ステップ2で変更した住所録MBFのバージョン名を入力して、「OK」をクリックします。

自動採番の設定

この項では、住所録自動採番の設定方法について説明します。

自動採番の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
システム別自動採番の設定	W0002C	「略式コマンド」フィールドに「NN」と入力します。 「住所録」を選択し、「自動採番の処理」で「選択」をクリックします。	住所録自動採番を設定します。

住所録自動採番の設定

「システム別自動採番の設定」フォームにアクセスします。

システム	住所録
01	

用途	自動採番	チェック・ディジット
Address Number	157147	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>

注意:この画面で番号を変更すると、入力済みレコードが検索できなくなったり、採番が重複する可能性があります。

「システム別自動採番の設定」フォーム

チェック・ディジット

自動採番された各番号の後ろに数字を追加するかどうかを指定します。たとえば、次の番号が「2」で、チェック・ディジットが有効に設定されている場合、7などのチェック・ディジットが追加され、最後の2つの番号が「27」になります。チェック・ディジットを使うと、番号が無作為に増分され、転置された番号の割当を防ぐことができます。この例では、チェック・ディジットが有効な限り、「72」という番号が自動採番で割り当てられることはありません。チェック・ディジットを追加する場合に、このチェックボックスを選択します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「自動採番の設定」

郵便番号の設定

この項では、郵便番号の概要と、住所録郵便番号の設定方法について説明します。

郵便番号について

郵便番号プログラム (P0117) を使用して、郵便番号を設定できます。郵便番号は、郵便番号テーブル (F0017) と郵便番号別住所テーブル (F0118) に保存されます。これらのテーブルのデータにアクセスすることにより、住所録の改訂プログラムで郵便番号を入力すると、自動的に市、都道府県、郡がロードされます。住所録レコードに郵便番号を入力するには、まず住所録の改訂プログラムの処理オプションを設定する必要があります。

郵便番号を改訂するには、「郵便番号の処理」フォームでその郵便番号を削除してから郵便番号を再度追加します。

郵便番号の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
郵便番号の改訂	W0117B	「住所録のセットアップ」 (G0141)、「郵便番号」 「郵便番号の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	住所録システムに郵便番号を追加します。

住所録郵便番号の設定

「郵便番号の改訂」フォームにアクセスします。

郵便番号 郵便物の郵送先を指定します。郵送先が米国の場合はZIPコード、その他の国の場合はその国の形式で郵便番号を入力します。この番号は、郵便番号検索時の範囲の下限値として使用されます。

第2郵便番号 郵送先がいずれの国の場合も、宛先に追加する郵便番号を入力します。この番号は、郵便番号検索時の範囲の上限値として使用されます。

補足データの設定

この項では、事前設定、および住所録の補足データを設定する方法について説明します。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 住所録システムのデータ・タイプを「CIF補足データ」メニュー (G01312) に表示するには、補足データ・プログラム (P00092) の補足データベース・コードの処理オプションに「AB」を入力します。
- 補足データ・プログラムの処理オプションで有効日付を使用するかどうかを指定します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「補足データについて」

補足データの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
補足データベース設定の処理	W00091B	「CIF補足データ」(G01312)、「補足データの設定」	補足データベース・コードのリストを検討します。
補足データベース設定	W00091A	「補足データベース設定の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	補足データベース・コードを追加します。
補足データの処理	W00092D	「CIF補足データ」(G01312)、「補足データ」	特定の住所録レコード用の補足データベース・コードを処理します。

住所録に使用する補足データの設定

「補足データベース設定」フォームにアクセスします。

「補足データベース設定」フォーム

標準マスター・テーブルに含まれていない情報をトラッキング、保存するために、補足データを設定できます。JD Edwards住所録システムでは、必ずしも補足データを設定および使用する必要はありません。

第 3 章

親/子関係と組織構造の設定

この章では、次の方法について説明します。

- 親/子関係の設定
- 親/子組織構造の階層の設定
- 親/子関係(上級)の設定

親/子関係の設定

この項では、親/子関係の概要と、次の方法について説明します。

- 構造の改訂プログラムの処理オプションの設定
- 構造の照会プログラムの処理オプションの設定
- 親/子関係の作成
- 親/子関係の検討

親/子関係について

仕入先、顧客、見込客の住所録レコードの間の親/子関係は、家族関係に似ています。1つの住所録レコードが親になり、1つまたは複数の住所録レコードがその親の子になります。親/子関係を作成することで、業務の効率を高めることができます。たとえば、親/子関係を作成すると、現地オフィスや子会社(子)に対する請求書を本社(親)に送ることができます。

住所録システムでは、まず住所録レコードを作成してから、作成したレコード間に親/子関係を作成します。次の構造に対して親/子関係を作成できます。

- 売掛管理構造
- 買掛管理構造
- 組織報告構造

親/子関係の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
親住所/子住所の改訂	W0150A	「住所録組織構造」 (G01311)、「構造の改訂」 「親/子構造の処理」 フォームで「追加」をクリックします。	仕入先、顧客などの住所録レコード間に親/子関係を作成します。
配布リストの処理	W02150A	「住所録組織構造」 (G01311)、「構造の照会」	子の親、または親のすべての子の関係を検討します。

構造の改訂 (P0150) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

- ワークフロー情報**
 ワークフロー処理情報を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: ワークフロー情報を表示しない。
 1: ワークフロー情報を表示する。
- 階層記述**
 ルート親住所の有効日付に基づいて階層構造の定義を許可するかどうかを指定します。構造のルート親は親/子構造の最上位レベルであり、親を持つことはできません。値は次のとおりです。
 ブランク: 階層構造の定義不可
 1: 階層構造の定義可能

デフォルト

- 日付のデフォルト**
 有効開始日付と有効終了日付がblankの場合、P0150の「親住所/子住所の改訂」フォームにデフォルトの日付をロードするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: デフォルトの日付をロードしない。
 1: デフォルトの日付をロードする。
- デフォルト組織構造タイプ**
 住所録組織構造の表示プログラム (P0150) にアクセスするときに、「組織構造タイプ」フィールドに表示される値を指定します。この処理オプションをblankにすると、組織構造タイプのデフォルト値は設定されません。

構造の照会 (P02150) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

- デフォルトの構造タイプ**
 ユーザー定義コード (UDC) テーブル (01/TS) から有効な構造タイプを指定します。構造タイプによって、JD Edwards住所録システムに独自の階層が設定されている組織構造のタイプ (電子メールなど) が決まります。

JD Edwards売掛管理システムに親/子関係を作成する場合は、この構造タイプをblankにしてください。

2. 組織構造改訂のバージョンを入力してください。blankの場合、ZJDE0001が使用されます。

使用する組織構造の改訂プログラムのバージョンを指定します。このバージョンにより、アプリケーションに使用するデータ選択とデータ順序の設定の組合せが決まります。バージョンには、英数字を組み合わせで名前を付けることができます。

親/子関係の作成

「親住所/子住所の改訂」フォームにアクセスします。

「親住所/子住所の改訂」フォーム

注意: 「エスカレーション時間(時)」と「エスカレーション時間(分)」フィールドは、JD Edwards住所録システムでは使用しません。

親住所No.

親組織(親会社など)の住所録番号を入力します。この番号は、親会社または所在地に特定の住所を関連付けるために使用されます。このフィールドに入力した値はすべて、指定した構造タイプの住所組織構造マスター(F0150)に反映されます。この住所番号は、住所録マスター(F0101)に設定されている必要があります。親番号のある住所録レコードの例を次にあげます。

親会社を持つ子会社

本社を持つ支店

請負業者の作業現場

「親住所/子住所の改訂」フォームで、階層の第1レベルまたは報告系統の上位レベルの住所録番号を入力します。ある階層の親は、別の階層では子になることができます。階層は、ビジネスユニット、従業員、職種に基づいて構成できます。たとえば、従業員と監督者の間の報告系統を示す階層を作成できます。

構造タイプ

JD Edwards住所録システムに独自の階層を持つ組織構造のタイプ(電子メールなど)を指定するUDC(01/TS)を入力します。

JD Edwards売掛管理システムに親/子関係を作成する場合は、この構造タイプをblankにしてください。

「構造タイプ」データ項目では、ワークフロー(WFS)、組織構造(ORG)、電子メール配布(EML)などの配布リストのタイプを指定します。

- 住所No.** 有効な住所録番号を入力します。この番号によって、従業員、応募者、加入者、顧客、仕入先、テナント、所在地など、JD Edwards住所録システムのレコードが特定されます。
- グループ** グループにおける番号を入力します。この番号によって、フォームに表示されるレコードの順番が決定されます。
- 有効開始日付** 有効な日付を入力します。この日付に基づいて住所番号が構造に表示されます。有効開始日付が当日となるまで、その住所番号は構造に表示されません。
- 構造の改訂プログラム (P0150) で「階層記述」処理オプションを設定した場合は、このフィールドに値を入力する必要があります。
- このフィールドをブランクにすると、有効終了日付がある場合を除いて、住所番号は常に構造に表示されます。
- 有効終了日付** 構造に表示する住所録レコードの表示期限を入力します。

親/子関係の検討

「配布リストの処理」フォームにアクセスします。

「配布リストの処理」フォーム

親/子関係を検討するには、次の手順に従います。

1. 必要に応じて、「構造タイプ」フィールドの値を変更します。
デフォルトの組織構造タイプは、処理オプションで指定します。
2. すべての子関係を表示するには、詳細グリッドの名称の左に「+」が表示されているフォルダをクリックします。
3. 子の親を表示するには、次のステップを実行します。
4. 「親」チェックボックスを選択します。
5. 「親住所No.」フィールドに子住所録番号を入力し、「検索」をクリックします。

親/子の組織構造の階層の設定

この項では、親/子の組織構造の階層の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

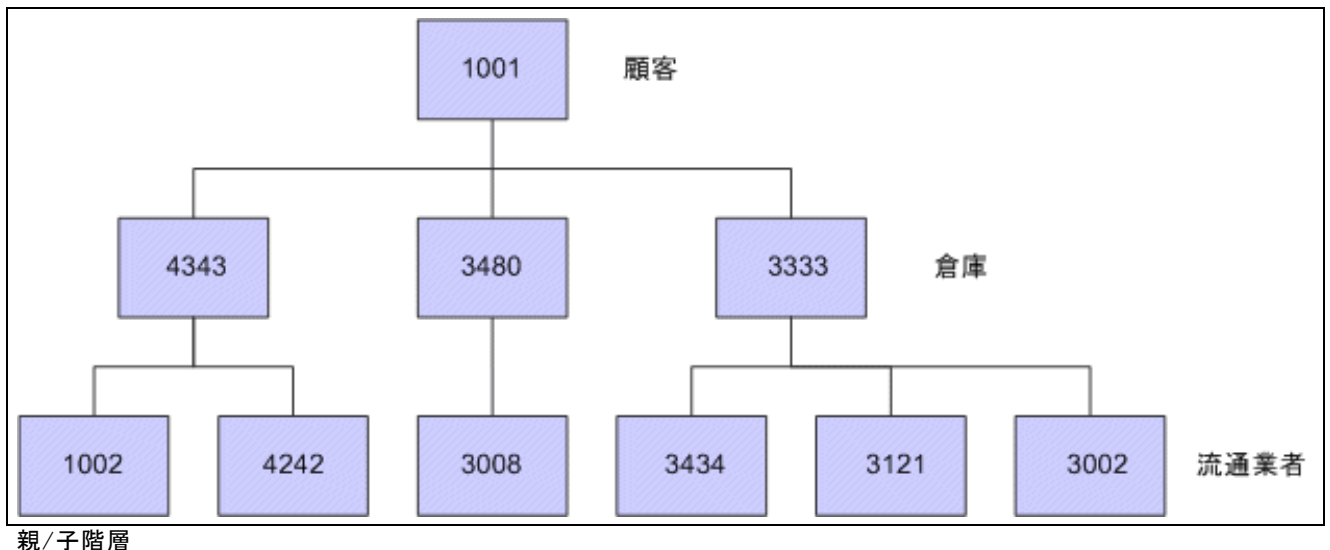
- ・ 階層を使用した組織構造の作成
- ・ 特定の日付の組織構造でルートになる親の特定
- ・ 組織構造の階層記述の入力

親/子の組織構造の階層について

JD Edwards住所録システムでは、親/子関係の構造を管理する方法として階層を使用します。階層の設定時には、次の情報を指定します。

- ・ 子に対して親を1件のみ(常時1件のみ)
- ・ 親と子の関係の有効日付の開始日および終了日
- ・ 組織構造の階層記述(たとえば、CEOはレベル1、副社長はレベル2、マネージャはレベル3など)を指定します。各階層には、有効日付の開始日および終了日を設定できます。)

次の図では、階層を使用して組織構造が設定されています。親(1001)には3つの子(4343、3480、3333)が設定されています。これらの子はそれぞれ、他の子の親になっています。親4343には子が2つ(1002、4242)、親3480には子が1つ(3008)、親3333には子が3つ(3434、3121、3002)設定されています。階層では、それぞれの子に対して親は1つしか設定できません。



重要: 階層の処理オプションを有効にし、階層を使用して親/子の組織構造を作成した後で、処理オプションを無効にすると、潜在的なリスクを伴うことに留意してください。この操作を行った場合、誤って1つの子に複数の親を設定したり、親/子関係または階層構造に対して重複する有効日付が入力される可能性があります。

組織構造タイプは、UDCテーブル01/TS(構造タイプ)で定義します。

事前設定

この項で説明するタスクを完了するには、事前にUDCテーブル01/TSで組織構造タイプを定義しておく必要があります。

親/子組織構造の階層の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
親/子構造の処理	W0150D	「住所録組織構造」(G01311)、「構造の改訂」	仕入先、顧客などの住所録レコード間に親/子関係を作成します。
親住所/子住所の改訂	W0150A	「親/子構造の処理」フォームで「追加」をクリックします。	階層を使用して組織構造を作成します。
有効日付親住所レコードの検索	W0150F	「親/子構造の処理」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューから「階層記述」を選択します。	特定の日付で、組織構造のルート親を特定します。
階層記述の改訂	W0150E	「親住所No.の検索」オプションを選択し、「親/子構造の処理」フォームで「OK」をクリックします。	組織構造の階層記述を入力します。

階層を使用した組織構造の作成

「親住所/子住所の改訂」フォームにアクセスします。

親住所No.

階層の第1レベルまたは報告系統の上位レベルの住所番号を入力します。ある階層の親は、別の階層では子になることができます。階層は、ビジネスユニット、従業員、職種に基づいて構成できます。たとえば、従業員と監督者間の報告系統を示す階層を作成できます。

このフィールドに指定した親に対する子についてそれぞれ、「住所No.」、「有効開始日付」、「有効終了日付」の各フィールドに値を入力します。

住所No.

住所録番号を入力します。この番号によって、従業員、応募者、加入者、顧客、仕入先、テナント、所在地など、JD Edwards住所録システムのレコードが特定されます。

組織構造の作成を続ける場合は、このフィールドに指定した子を親として子を設定し、さらにその子(親)に子を設定する操作を繰り返します。

有効開始日付

住所番号を構造に表示する日付を入力します。有効開始日付が当日となるまで、その住所番号は構造に表示されません。

このフィールドをブランクにすると、有効終了日付がある場合を除いて、住所番号は常に構造に表示されます。

有効終了日付

構造に表示する住所録レコードの表示期限を入力します。

特定の日付の組織構造でルートになる親の特定

「有効日付親住所レコードの検索」フォームにアクセスします。

有効開始日付

親の検索時に使用する有効開始日付を入力します。現在の日付がデフォルト値として使用されます。日付を確認し、必要に応じて変更します。

親住所No.

このフィールドに親住所番号を表示するには、「親住所No.の検索」ボタンをクリックします。

表示される住所録番号は、その日付の親組織の番号です。

組織構造の階層記述の入力

「階層記述の改訂」フォームにアクセスします。

次のフィールドに値を入力します。これらの値は、すべてのルート親ではなく、選択したルート親に対してのみ、適用されます。

階層No.	階層の番号を入力します。この番号は、構造の階層レベルを表しています。このレベル以下の階層に調整が適用されます。この番号は、「集計階層レベル」フィールドに指定した値以下である必要があります。購買構造では、階層レベル1が最上位のレベルを表します。1より大きい数値はそれより低い階層レベルを表します。
有効開始日付	取引、契約、義務、優先情報、ポリシー規則が有効になる日付を入力します。
有効期限	トランザクション、テキスト・メッセージ、契約、制約、優先情報が失効または完了する日付を入力します。

親/子関係(上級)の設定

この項では、親/子関係(上級)の概要、事前設定、および親/子関係(上級)の作成方法について説明します。

親/子関係(上級)について

親/子関係(上級)プログラム(P01501)を使用して、住所録番号と1つまたは複数の人名録レコードの間に組織構造を作成します。この組織構造では、住所録番号1つを親として指定し、人名録レコードに関連付けられている1つまたは複数の住所録番号を子として指定します。たとえば、親/子関係(上級)の組織構造を作成して、プロジェクトを設定できます。1つの住所録番号を親として指定し、個人(人名録レコード)をプロジェクト・メンバーとして指定します。人名録レコードは、親の住所録番号や他の住所録番号に関連付けることができます。

親/子関係(上級)は、親/子関係(上級)テーブル(F01501)に保存されます。

事前設定

この項で説明するタスクを完了するには、事前にUDCテーブル01/TSで親/子関係(上級)構造タイプのコードを設定しておく必要があります。

親/子関係(上級)の設定に使用するフォーム



フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
親/子住所の改訂(上級)	W01501B	<p>「日次処理」(G0110)、「住所録の改訂」</p> <p>「住所の処理」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「人名録」を選択します。</p> <p>「人名録」フォームで「フォーム」メニューの「親/子住所(上級)」を選択します。</p> <p>「親/子住所の処理(上級)」フォームで「追加」をクリックします。</p>	親/子関係(上級)を作成します。

親/子関係(上級)の作成

「親/子住所の改訂(上級)」フォームにアクセスします。


住所録の改訂 - 親/子住所の改訂(上級) ?


OK(O) 取消(L) ツール(T)

構造タイプ 組織構造

親住所No.

レコード 1 - 6 グリッドのカスタマイズ   

	住所 No.	人名録行	郵便宛名	関連タイプ	備考	開始日付	終了日付
<input checked="" type="radio"/>	1001	0					
<input type="radio"/>	1001	1		E			
<input type="radio"/>	1001	2		F			
<input type="radio"/>	3001	1		D			
<input type="radio"/>	3001	2		E			
<input type="radio"/>							

「親/子住所の改訂(上級)」フォーム

- 親住所No.** 親/子関係(上級)の組織構造を作成するために、親会社の住所録番号を入力します。
- 住所No.** 住所録番号を入力します。この番号によって、従業員、応募者、加入者、顧客、仕入先、テナント、所在地など、JD Edwards住所録システムのレコードが特定されます。
- 人名録行** 行番号を入力します。このフィールドは、人名録レコードの行ID番号の識別に使用されます。
- 関連タイプ** 2つの組織(実体)間に作成する関連タイプを指定します。ロールをUDC 01/RTに定義する必要があります。
- 有効値の例は次のとおりです。
- A: 秘書
- B: 重要取引先

C: 子
D: プロジェクト・リーダー
E: 調査員

第 4 章

住所録レコードの入力

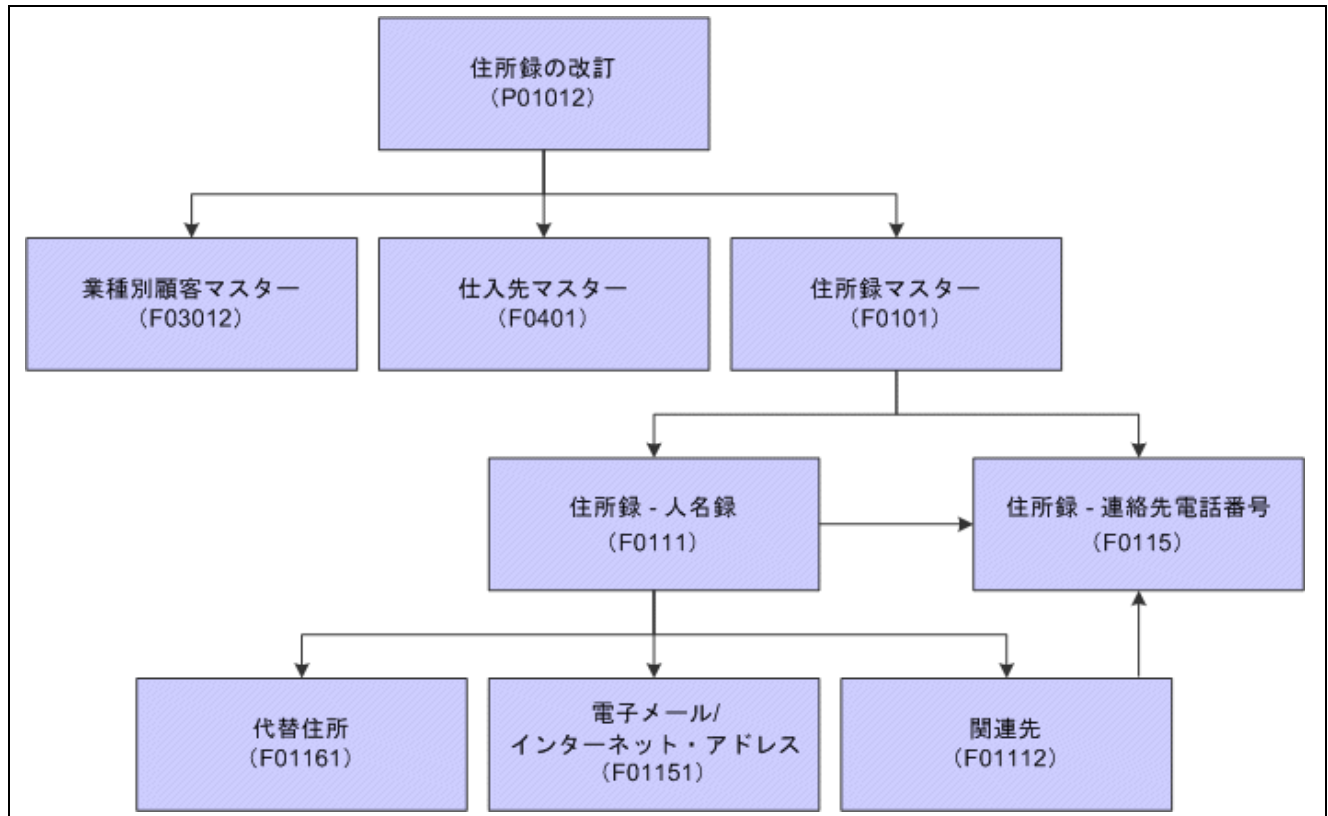
この章では、住所録情報の概要と、次の方法について説明します。

- 住所録レコードの入力
- 住所録レコードへの人名録情報の追加
- (BRA)住所録レコードの税情報の入力
- (CHL)住所録追加情報の入力
- (COL)住所録追加情報の入力
- (ECU)住所録追加情報の入力
- (PER)住所録追加情報の入力
- (POL)住所録追加情報の入力
- (RUS)住所録追加情報の入力
- (VEN)住所録追加情報の入力
- 重複チェック・レポートの印刷
- 住所録語句検索テーブルの作成

住所録情報について

JD Edwards住所録システムを使用して、取引先の企業や担当者に関する情報を管理できます。住所録には、会社名、連絡先名、住所、電話番号、注記およびその他の関連情報が保存され、これらの情報はJD Edwards EnterpriseOneシステム全体で共有されます。

次の図は、住所録の改訂プログラム(P01012)で住所録情報の保管とアクセスのために使用されるテーブルを示しています。これらのテーブルは、他の住所録プログラムでも使用されます。



住所録システムで使用するテーブル

住所録レコードの入力

この項では、住所録レコードの概要と、次の方法について説明します。

- 住所録MBF(P0100041)の処理オプションの設定
- 住所録の改訂(P01012)の処理オプションの設定
- 住所録レコードの追加
- 住所録レコードへの電話番号の追加

住所録レコードについて

他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを使用するには、事前に顧客や仕入先などの住所録情報をJD Edwards住所録システムに入力しておく必要があります。JD Edwards EnterpriseOneシステムでは、住所録システムで設定した住所録の最新の名前や住所情報を取得して使用します。住所録レコードの入力には、住所録の改訂プログラムを使用します。住所録レコードの情報は、住所録マスター(F0101)に保管されます。

基本情報である住所に加え、各住所録レコードには必要な数だけ電話番号を入力できます。また、各電話番号を会社、携帯電話、ファックスなどと識別して保管できます。電話番号は、住所録 - 連絡先電話番号テーブル(F0115)に保管されます。

「住所の処理」フォームで住所録レコードを検索するには、名前や名称またはそれらの一部、住所番号などを入力します。名前や名称の一部を入力する場合は、入力する語句の前か末尾に「*」(アスタリスク)を付ける必要があります。一部入力の場合、名称の最初の単語のみが検索対象になります。たとえば、Corporate Center、Continental Services、および Services Continental という名称の住所録番号がある場合、「*CO」または「CO*」と入力して検索すると Corporate Center と Continental Services が検出されます。

重複入力の検証

住所録レコードの入力、改訂またはアップロード時に起こり得る重複入力を避けるために、JD Edwards 住所録システムで重複入力の検証機能を有効にします。また、表記が重複する名称、市町村、郵便番号、税IDが検出された場合に警告またはエラー・メッセージを表示するかどうかを指定します。

住所録MBFプログラム(P0100041)には、重複レコードを検索するかどうかを指定する2つの処理オプションがあります。

• 入力データの重複チェック

表記が同一の名称、市町村、郵便番号が検出されます。略語を含むレコードは検出されません。たとえば、Saint Petersburg と St. Petersburg は重複とはみなされません。

• 税IDの重複チェック

所在国が同じで、同一の税IDを持つレコードが検出されます。税IDがブランクのレコードは検出されません。

これらの処理オプションの一方または両方について、それぞれ表示するメッセージのタイプ(警告またはエラー)を指定できます。警告メッセージの場合はデータを入力して保存できますが、エラー・メッセージが表示された場合はデータの保存はできません。

入力データの重複チェックでは、F0101テーブルとF0116テーブルで、表記が一致する名称、市町村、および郵便番号が検索されます。税IDの重複チェックでは、F0101テーブルで同一の税IDが検索され、所在国はF0116テーブルで検証されます。

モバイル・セールスでの住所録の利用

JD Edwards EnterpriseOne セールス・フォース・オートメーションを使用している場合、JD Edwards EnterpriseOne システムに接続していないときでも、顧客の住所録レコードの入力と修正ができます。JD Edwards EnterpriseOne モバイル・セールスは、販売担当者向けに、会社のサーバーから切断されているときに顧客情報や受注オーダーをラップトップ・コンピュータで作成できるよう設計された製品です。たとえば、飛行機内や滞在先、あるいは取引先の現場で、オーダー情報や顧客情報、引合情報、契約情報を入力または更新し、サーバーに接続できる状態になったときにこれらの入力したデータを同期化できます。

データの転送は双方向で行われます。つまり、同期化を実行すると、作業を行ったラップトップ・コンピュータでは、サーバーに変更情報を送信し、サーバーから更新情報を受信します。

住所録レコードの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
住所の処理	W01012B	「日次処理」(G0110)、「住所録の改訂」	既存の住所録レコードの検索と検討を行います。
住所録の改訂	W01012A	「住所の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	住所録レコードの基本情報である住所(郵送情報を含む)を追加または変更します。
電話番号	W0115A	「住所の処理」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「電話番号」を選択します。	電話番号を追加し、電話の種類を指定します。
住所フォーマット	W01012C	「住所の処理」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「住所録の改訂」を選択します。「住所録の改訂」フォームで「フォーム」メニューの「住所フォーマット」を選択します。	宛名ラベルの作成前に郵送先住所を確認します。住所フォーマットは、国別固定情報マスター・ファイル・テーブル(F0070)の住所フォーマットIDに相応します。

住所録MBF(P0100041)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

送信

この処理オプションを使用して、送信トランザクションの作成時のトランザクション・タイプとトランザクション・イメージを指定します。インタオペラビリティ機能を使用する場合は、この処理オプションでトランザクション・タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、送信インタオペラビリティ処理は実行されません。トランザクション・タイプ・コードを検索するには、検索ボタンをクリックします。

- 1. トランザクション・タイプ** インタオペラビリティ機能を使用する際のトランザクション・タイプを指定します。このフィールドをブランクにすると、送信インタオペラビリティ処理は実行されません。トランザクション・タイプ・コードを検索するには、検索ボタンをクリックします。
- 2. 変更トランザクションの書込み** レコード変更前後のトランザクションを書き込むかどうかを指定します。変更前トランザクションとは変更前のレコードのことです。変更後トランザクションとは変更後のレコードのことです。値は次のとおりです。
ブランク: 変更後トランザクションを書き込む。
1: 変更前トランザクションと変更後トランザクションを書き込む。

デフォルト

住所録レコード作成時のデフォルトのビジネスユニットを指定します。

- 1. デフォルトのビジネスユニット** 住所録の改訂プログラムでビジネスユニットが指定されていない場合に使用するビジネスユニットを指定します。この処理オプションでビジネスユニットを指定せず、住所録の改訂プログラムでも指定されていない場合、住所録レコードの「ビジネスユニット」フィールドには「1」が自動入力されます。

検証

重複する住所録レコードを検索するかどうかを指定します。

1. 税IDの重複チェック

税IDフィールドと国フィールドの重複する値を検索するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 重複するレコードを検索しない。

1: 重複するレコードを検索し、検出された場合には警告メッセージを表示する。

2: 重複するレコードを検索し、検出された場合にはエラー・メッセージを表示する。

2. 入力データの重複チェック

「名称」、「郵便番号」および「市町村」フィールドに入力された値について、重複するレコードを検索するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 重複するレコードを検索しない。

1: 重複するレコードを検索し、検出された場合には警告メッセージを表示する。

2: 重複するレコードを検索し、検出された場合にはエラー・メッセージを表示する。

住所録の改訂 (P01012) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

入力オプション

この処理オプションを使用して、住所録の改訂プログラムの使用時に表示するフォームとフィールドを指定します。税IDフィールドを表示することで、住所録レコードに税IDを入力できるようになります。

1. 仕入先マスターフォーム

住所録レコードの追加時に、仕入先マスター情報のフォームを表示するかどうかを指定します。「仕入先マスター情報」フォームを表示するには、この処理オプションを有効にして、「仕入先」フィールドに「Y」を入力します。「仕入先」フィールドは、「住所録の改訂」フォームの「追加情報1」タブに表示されます。値は次のとおりです。

ブランク: 「仕入先マスター」フォームを表示しない。

1: 「仕入先マスター」フォームを表示する。

2. 顧客マスターフォーム

住所録レコードの追加時に、顧客マスター情報のフォームを表示するかどうかを指定します。「顧客マスター情報」フォームを表示するには、この処理オプションを有効にして、「住所録の改訂」フォームの「追加情報1」タブを選択し、「売掛金」チェックボックスを選択します。値は次のとおりです。

ブランク: 「顧客マスター情報」フォームを表示しない。

1: 「顧客マスター情報」フォームを表示する。

3. サービス/ワランティ管理フォーム

住所録レコードの追加時に、カスタマ・サービス管理システム (CSMS) のフォームを表示するかどうかを指定します。CSMSフォームを表示するには、この処理オプションを有効にし、サービス/保証固定情報テーブル (F17001) のCSFフラグを有効にする必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: CSMSフォームを表示しない。

4. 税IDフィールド

1: CSMSフォームを表示する。

「住所録の改訂」フォームに「税ID」フィールドを表示するかどうか、または使用不可にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「税ID」フィールドを表示する。

1: 「税ID」フィールドを表示しない。

2: 「税ID」フィールドをグレー表示する。

デフォルト値

この処理オプションを使用して、住所録レコードにロードされるデフォルトの検索タイプとタイプ・コードを指定します。

1. 検索タイプ

「住所の処理」フォームの「検索タイプ」フィールドで使用されるデフォルト値を指定します。検索ボタンを使用して有効な検索タイプを一覧表示します。この処理オプションをブランクにすると、「*」（アスタリスク）がデフォルト値として使用されます。「*」を使用すると、すべての住所録レコードを対象に検索が実行されます。

2. タイプコード

住所録 - 人名録テーブル (F0111) への入力時に「タイプコード」フィールドのデフォルトとして使用されるコードを、ユーザー定義コード (UDC) 01/W0 から指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 郵送先住所に宛名行を表示しない。

A: 他のタイプ・コードを使用している箇所を除き、郵送先住所の宛名行に宛名を表示する。

B: 請求書の送付時に住所の宛名行に請求先を表示する。

C: 連絡先。1099処理で使用するInternal Revenue Service (IRS) 連絡先の名前 (米国)。

E: 緊急連絡先。住所録レコードに登録されている個人または会社の緊急時に連絡を受ける担当者。

O: その他。その他、すべての場合に使用するコード。

T: 1099用会社名 (米国)。正式名がF0101テーブルの郵送宛名と異なる場合に、1099還付処理に使用する名称。

デフォルトバージョン

この処理オプションを使用して、住所録レコードの入力時に使用する住所録MBF、仕入先マスターおよび顧客マスター・プログラムのデフォルトのバージョンを指定します。

1. 住所録MBF (P0100041) のバージョン

使用する住所録MBFプログラム (P0100041) のバージョンを指定します。このフィールドをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

2. 顧客マスター (P03013) バージョン

住所録情報を追加または変更する際に使用する顧客マスター・プログラム (P03013) のバージョンを指定します。このフィールドをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

3. 仕入先マスター (P04012) バージョン

住所録情報を追加または改訂する際に使用する仕入先マスター・プログラム (P04012) のバージョンを指定します。ブランクの場合、デフォルト・バージョンZJDE0001が使用されます。

処理

この処理オプションを使用して、「住所録の改訂」フォームで有効にする機能を指定します。

1. セルフサービス

JAVA/HTML形式によるセルフサービス機能を有効化するかどうかを指定します。これは、顧客と仕入先がインターネットを使用して本人/本社の住所や郵送先住所を変更できる機能です。値は次のとおりです。

ブランク: セルフサービスを有効にしない。

1: 顧客に対して有効にする。

2: 仕入先に対して有効にする。

2. 郵便番号チェック

郵便番号チェック機能を有効化するかどうかを指定します。郵便番号チェックでは、入力した郵便番号がF0117テーブルに存在するかどうかを検証します。郵便番号がF0117テーブルに存在し、「市町村」、「郡」、「国」および「都道府県」フィールドがブランクの場合、F0117テーブルの情報が使用されます。郵便番号がF0117テーブルに存在しない場合、警告メッセージが表示されます。値は次のとおりです。

ブランクまたは0: 郵便番号チェック機能を無効にする。

1: 郵便番号チェック機能を有効にする。

3. 郵便番号による住所の自動取込み

入力した郵便番号から住所情報を自動的に取り込むかどうかを指定します。有効な郵便番号を入力して住所行1から4をブランクにした場合、F0118テーブルから住所情報が自動的に取り込まれます。この機能を有効にする場合、「郵便番号チェック」処理オプションを1に設定して郵便番号チェックを有効にする必要があります。値は次のとおりです。

ブランクまたは0: 郵便番号から住所を取り込まない。

1: 郵便番号から住所を自動的に取り込み、複数の住所がある場合は「郵便番号の検索/選択」ウィンドウを表示する。入力した郵便番号に該当するすべての住所が表示されます。

2: 郵便番号による住所の自動取込みを有効化し、1つの住所を取り込む。

住所録レコードの追加

「住所録の改訂」フォームにアクセスします。

住所録の改訂 - 住所録の改訂

住所の処理 住所録の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

住所番号 3480

タブを選択: 1-住所録

名称 * Digger Enterprises

詳細住所No.

フリガナ DIGGERINCORPORATED

税ID 225985471

検索タイプ * V 仕入先

ビジネスユニット 1 Financial/Distribution Company

「住所録の改訂」フォーム

住所番号

住所録システムで、従業員、応募者、加入者、顧客、仕入先、テナント、所在地などの項目を識別する番号を入力します。このフィールドをブランクにすると、自動採番により住所録番号が割り当てられます。

住所録

「住所録」タブを選択します。

名称

名前または住所を表す文字列を入力します。この40文字（半角英数字）まで入力可能なフィールドは、複数のフォームおよびレポートに表示されます。入力にはダッシュ、カンマ、およびその他の特殊文字を使用できますが、このフィールドを使用して名前を検索する際は、これらの記号や特殊文字は検索対象にはなりません。

このフィールドをブランクにすると、「郵送宛名」フィールドに入力した値が自動入力されます。

入力データの重複チェックを有効にし、同一の名称、市町村、および郵便番号を持つ別のレコードが検出された場合、この名前フィールドがハイライトされ、エラーまたは警告メッセージが表示されます。

注意: 入力データの重複チェックは、人名録レコード0に対してのみ実行されます。

詳細住所No.

住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号を入力します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。詳細住所や税IDなど、住所録番号(AN8)以外の値を入力した場合は、住所録固定情報で定義した特殊文字を前に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。

たとえば、住所録番号4100(Total Solutions)の詳細住所がTOTALで、住所録固定情報で定義した詳細住所を区別する記号が*(アスタリスク)の場合、このフィールドに「*TOTAL」と入力して検索すると、4100が表示されます。

税ID

各種の納税先により指定されている識別コードを入力します。社会保障番号、連邦または州の法人税ID、売上税番号などがこれに該当します。TAXC(個人/法人コード)の値に応じて、番号が検証され、区切り文字が適切なフォーマットで印刷されます。TAXCの値が存在しない場合は、法人が使用されます。

税IDの重複チェックを有効にし、同一の税IDおよび国を持つ別のレコードが検出された場合、この「税ID」フィールドがハイライトされ、エラーまたは警告メッセージが表示されます。

税ID情報は、国ごとに異なります。

検索タイプ

UDCテーブル01/STで、検索する住所録レコードの種類を指定するコードを選択します。次のような例があります。

C: 顧客

E: 従業員

O: 会社

TAX: 納税先

V: 仕入先

ビジネスユニット

原価のトラッキング用の事業単位を表す英数字のコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。

ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。

ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。

「ビジネスユニット」フィールドをブランクにすると、住所録MBFでデフォルトとして設定したビジネスユニットが使用されます。MBFの処理オプションでデフォルトのビジネスユニットを入力していない場合は、デフォルト値として1が使用されます。入力するビジネスユニットは、デフォルト値1も含め、ビジネスユニット・マスター(F0006)で設定しておく必要があります。

郵送

「郵送」タブを選択します。

住所行1

従業員、顧客または仕入先の郵送先住所の第1行目を住所録に入力します。IRSは、従業員の年度末確定申告フォームに印刷する住所の長さを制

限しています。IRS規定に対応するため、システムでは次のような制限が設けられています。

W-2フォームには、空白ではない住所行の最後の3行および市町村、都道府県(州)、郵便番号のみが印刷されます。

1099フォームには、空白ではない最後の住所行および市町村、都道府県(州)、郵便番号のみ印刷されます。

他の米国連邦政府指定の磁気メディアには、空白ではない最後の住所行および市町村、都道府県(州)、郵便番号のみ印刷されます。

市町村

住所の市町村名を入力します。

都道府県

UDC00/から都道府県(州)を選択します。米国では、郵便で通常使用される略語がこのコードになります。

郵便番号

米国のZIPコード、または郵送先を示す郵便コードを入力します。このコードは、国外の郵送宛先に添付されます。郵便番号の照会時に、このコードが終了値として使用されます。

郵便番号の自動取得機能を使用する場合は、住所行と郵便番号のみを入力します。市町村、都道府県(州)、国、および郡は、F0117テーブルとF0118テーブルから自動的に読み込まれます。

国

UDC 00/CNから国を選択します。国コードは、通貨換算には影響しません。

住所録システムでのデータ選択および住所形式の設定に、この国コードが使用されます。

郡

住所や税処理に必要な郡や行政区、地方行政区の名前を入力します。

追加情報1

「追加情報1」タブを選択します。

仕入先(Y/N/M)

住所録レコードが仕入先かどうかを指定します。値は次のとおりです。

Y: 仕入先。住所の追加後に仕入先マスター・レコードを自動的に表示するかどうかは、処理オプションで指定します。

N: 仕入先ではない。このコードを指定しても、住所の伝票入力には影響しません。

M: その他、単発取引の仕入先。このコードを指定しても、住所の複数伝票入力には影響しません。

F: 国外の住所を持つ仕入先。IRSの規定により、1099レポートでは、米国の会社は国外の住所を持つ仕入先を識別する必要があります。

納税先は仕入先として割り当ててください。納税先に対して、税の支払処理を行うためです。

コードNは、処理オプションを設定しないかぎり、参考用のコードとみなされます。「仕入先」フィールドと「売掛金」フィールドの両方に「N」を入力すると、警告メッセージが表示されます。

従業員グループ承認

従業員を割り当てるグループを入力します。この値はワークフローの承認プロセスに使用されます。

売掛金/買掛金相殺

顧客または仕入先が売掛金/買掛金相殺の対象である場合、このオプションを選択します。このフィールドに「Y」を入力すると、この住所番号の請求

	<p>書や伝票に表示される「相殺状況」フィールドに1(相殺処理済)が設定されます。「N」を入力した場合は、この住所番号の請求書や伝票に表示される「相殺状況」フィールドに0(相殺無効)が設定されます。</p>
税申告者ID(個人)	<p>基本の税ID番号(TX1)の他に納税先から個人納税者に割り当てられたID番号を入力します。</p>
免税証書	<p>免税対象の個人または法人に対して課税当局が発行した、免税状況を識別する番号を入力します。</p>
個人/法人コード	<p>納税者のタイプを指定します。米国やその他の国外の仕入先用の1099レポートについては、コードがPまたはNに指定されているレコードのみが選択されます。米国の事業体に指定できる値は、次のとおりです。</p> <p>ブランクまたはC: 法人(税IDが12-3456789の形式で印刷されます。)</p> <p>P: 個人(税IDが123-45-6789の形式で印刷されます。)</p> <p>N: 自営業(税IDが12-3456789の形式で印刷されます。)</p> <p>米国以外の事業体に指定できる値は、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none">1: 個人2: 法人3: 個人/法人4: 自営業5: 税務署
与信メッセージ	<p>UDCテーブル00/CMで、顧客または仕入先の与信状況を表すコードを選択します。次に例を示します。</p> <ol style="list-style-type: none">1: 与信限度額超過2: 購買オーダー必要3: 契約管理対象外 <p>この与信メッセージは、JD Edwards買掛管理、受注管理、調達管理の各システムの照会フォームと取引入力フォームに表示されます。JD Edwards売掛管理システムでは、一時与信メッセージが表示されます。</p>
言語	<p>UDCテーブル01/LPから、フォームの表示とレポートの出力時に使用する言語を指定します。言語を指定する前に、選択する言語コードが、システム・レベルとユーザー設定のどちらか一方で定義済である必要があります。</p>
産業分類コード	<p>商品やサービスを分類するコードを指定します。このコードには、次の分類体系のいずれかの形式を適用できます。</p> <p>標準産業分類(SIC)または北米産業分類(NAICS): 米国で商品やサービスの分類に使用される数値による分類体系です。SICは4桁でNAICSは6桁のコードです。</p> <p>国際統一商品分類(HS): 商品分類の国際的な方法です。50か国以上がこのコードを使用しています。最大桁数は10桁です。</p> <p>標準国際貿易分類(SITC): 国連が開発した数値によるコード体系で、国際貿易で使用される商品の分類法です。グローバルな団体や企業などがこのコードを使用しています。最大桁数は6桁です。</p>

売掛金 (Y/N)	住所録レコードの会社/個人が顧客であるかどうかを指定します。住所の追加後に仕入先マスター・レコードを自動的に表示するかどうかは、処理オプションで指定します。
ユーザー・コード	ユーザーの業務の関連情報を入力します。このオプションに対する既存の定義はありません。
補助元帳無効コード	<p>JD Edwards 一般会計システムの補助元帳として住所録レコードを使用する場合に指定します。ブランク以外の値は、補助元帳が無効であることを示します。</p> <p>たとえば、完了した作業、退職した従業員、処分した資産などに対して無効に設定します。補助元帳が再度使用可能になった場合は、このフィールドを再びブランクにしてください。</p> <p>テーブル内の補助元帳の情報をレポートに使用する一方で、取引を勘定残高テーブル (F0902) のレコードへ転記されないようにするには、このチェックボックスを選択してください。</p>
従業員 (Y/N)	従業員の住所録レコードの場合は、このチェックボックスを選択します。このフィールドは参照専用です。

追加情報2

「追加情報2」タブを選択します。

分類コード01 から 分類コード05	これらのフィールドを使用して、住所録レコードを細分類します。たとえば、ビジネスを分類するのであれば、マイノリティ経営、女性経営、または小規模ビジネス運営などと分類できます。各フィールドの値は、UDCテーブル 01/CA から 01/CE で設定します。
銘柄コード	顧客または仕入先の銘柄コードを入力します。
株式取引	顧客や仕入先の証券取引所を入力します。
開始年度	取引先会社が顧客となった年度を入力します。
収益範囲	UDCテーブル 01/RR で、顧客または仕入先の収益高を指定するコードを選択します。
増加率	顧客または仕入先の増加率を入力します。増加率を表す10桁以内の数字を半角で入力します。
従業員数	顧客または仕入先の従業員数を入力します。
D-U-N-S No.	顧客または仕入先のDUNSナンバーを入力します。

関連住所

「関連住所」タブを選択します。

親住所No.	親会社の住所録番号を入力します。この番号は、特定の住所を親会社または所在地と関連付けるために使用されます。このフィールドに入力した値で、住所録組織構造マスター (F0150) 内の構造タイプがブランクになっているレコードが更新されます。検証の必要があるため、F0101テーブルにある住所番号を指定する必要があります。親番号のある住所録レコードの例を次にあげます。
---------------	---

- 親会社のある子会社
- 本社のある支店
- 請負業者の作業現場

基本住所とその他の関連住所の関係を指定するには、このフィールドに親会社の住所番号を入力します。

第1住所No.

JD Edwards住所録システムに代替住所番号を入力します。このフィールドには、基本住所に関連する業者や個人の住所を補足的な住所として入力できます。次に例を示します。

- 販売担当者
- 法律事務所
- 会計士
- 証券会社
- 担保会社

入力フォームでこのフィールドをブランクにすると、「住所番号」フィールドの基本住所が使用されます。

基本住所とその他の関連住所の関係を指定するには、このフィールドに親会社の住所番号を入力します。

ファクタ/代替受取人

買掛金元帳で使用する代替支払先の住所録番号を入力します。

認証の必要があるため、F0101テーブルにある番号を指定する必要があります。入力フォームでこのフィールドをブランクにすると、「住所番号」フィールドの基本住所が使用されます。

カテゴリ・コード1から10、カテゴリ・コード11から30

「カテゴリ・コード01-10」タブまたは「カテゴリ・コード11-30」タブを選択します。

カテゴリ・コード01

これらのコードは、各種レポートや宛名ラベルの作成用などに住所録レコードをグループ化するために使用します。カテゴリ・コードは、ユーザー定義コード(システム01、タイプ01から30)です。次のようなカテゴリ・コードがあります。

- カテゴリ・コード01
- 保管場所または事業所
- カテゴリ・コード02
- 販売担当者
- カテゴリ・コード03
- 製品
- カテゴリ・コード04
- 信用調査官

これらのフィールドに入力する値は、対応するUDCテーブルに存在している必要があります。

住所録レコードへの電話番号の追加

「電話番号」フォームにアクセスします。

住所録の改訂 - 電話番号

住所の処理 電話番号

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) 前 次 ツール(T)

住所番号 3480 Digger Enterprises

人名録行 0 Digger Enterprises

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

	市外局番	電話番号	電話タイプ	電話タイプ記述	行 No.
<input checked="" type="radio"/>	916	484-4055		職場	1
<input type="radio"/>					

「電話番号」フォーム

市外局番

電話番号の最初の部分を入力します。米国の場合は3桁のエリア・コードを使用します。

電話番号

市外局番およびハイフンやピリオドなどの特殊文字を含めずに、登録する連絡先の電話番号を入力します。どの国の電話番号形式でも入力できます。このフィールドは、電話番号の最初の部分(米国ではエリア・コード)を入力する市外局番フィールド(AR1)と組み合わせて使用されます。

電話番号から住所を検索するには、JD Edwards住所録システムの登録時に使用した特殊文字も含め、登録時と完全に一致する形で番号を入力する必要があります。

電話タイプ

UDCテーブル(01/PH)で、電話番号のタイプまたは使用目的を示すコードを選択します。「職場」、「ファックス」、「携帯電話」などがあります。

住所録レコードへの人名録情報の追加

この項では、人名録情報の概要と次の方法について説明します。

- 人名録MBF PO (P0100087) の処理オプションの設定
- 人名録レコードの追加
- 人名録レコードへの電話番号の追加
- 人名録レコードへの電子メール/インターネット・アドレスの追加
- 人名録レコードへの関連先情報の追加
- 人名録レコードへの代替住所情報の追加

人名録情報について

住所録レコードの入力後、そのレコードの住所番号に関連する個人の名前を人名録に入力できます。各人名録レコードには、業務関係や個人情報、郵送先の情報、およびレコードの種類を区別するためのタイプ・コードを登録できます。この情報は、住所録 - 人名録テーブルに保管されます。

人名録レコードごとに、当人と住所の関係を示すタイプ・コードを指定します。たとえば、請求に関する担当者を入力する場合は、タイプ・コードに「B」(請求先)を入力します。タイプ・コードを使用して、人名録のどの項目をラベル印刷に使用するか、また郵送先住所に表示するかを指定できます。

人名録レコードに情報を入力する際には、住所録番号と人名録レコードの関係を示す組織構造を作成することもできます。

人名録レコードの作成後に、次の追加情報を各レコードに設定できます。

- 電話番号
- 電子メール/インターネット・アドレス
- 関連先情報
- 代替住所情報

注意: JD Edwards EnterpriseOneでは、サード・パーティの個人情報管理(PIM)システムとJD Edwards EnterpriseOneシステム間でユーザーのデータを同期化できます。この同期化機能により、IBM DominoやMicrosoft ExchangeのPIMシステムに保管されている連絡先などの個人情報を共有し、管理できます。たとえば、JD Edwards住所録システムに人名録レコードを作成すると、PIMシステムのデータベースにも該当するオブジェクトが作成されます。JD Edwards住所録システムかPIMシステムのいずれか一方で項目を更新または削除した場合、この変更内容はもう一方のシステムで同期化されます。

JD Edwards EnterpriseOneシステムとPIMシステムのデータの同期化を実行するには、サード・パーティのソフトウェア製品であるIntellisync Serverを使用します。Intellisync Serverでは、PIMデータの同期をとる際にCSVファイルと同期化テンプレートが使用されます。CSVファイルには、PIMの同期化用に登録したJD Edwards EnterpriseOneの各ユーザーのPIMサーバー・レコードが保管されます。CSVファイルは、PIM同期化のユーザーの設定後にJD Edwards EnterpriseOneで生成します。同期化テンプレートは、JD Edwards EnterpriseOneシステムとPIMシステム間で同期をとる情報の種類を決定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 System Administration Guide

人名録レコード用の電話番号

各人名録レコードに、1つまたは複数の電話番号を入力できます。電話情報を入力すると、人名録の行IDが該当する住所録番号に割り当てられます。人名録エントリの電話情報は、住所録 - 連絡先電話番号テーブルに保管されます。

人名録レコード用の電子メール/インターネット・アドレス

各人名録レコードに、1つまたは複数の電子メール・アドレスおよびインターネット・アドレスを登録できます。電子メール/インターネット・アドレスは、ワークフロー管理システムやサービス管理システムなどの他のJD Edwards EnterpriseOneシステムでも使用されます。人名録エントリの電子メール情報は、電子メール/インターネット・アドレス・テーブル(F01151)に保管されます。

人名録レコード用の関連先情報

各人名録レコードに、担当者の一覧を作成できます。たとえば、人名録レコードに秘書の名前を入力できます。各関連先レコードに連絡先の電話番号を入力することもできます。関連先情報は、関連先テーブル(F01112)に保管されます。

連絡先情報を入力する際に、住所録番号と人名録レコードの関係を示す組織構造を作成することもできます。

人名録レコード用の代替住所情報

各人名録レコードに、複数の住所を入力できます。代替住所の一覧で、基本住所の指定もできます。代替住所情報は、代替住所テーブル(F01161)に保管されます。

住所録レコードへの人名録情報の追加に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
住所の処理	W01012B	「日次処理」(G0110)、「住所録の改訂」	既存の住所録レコードの検索と検討を行います。
人名録	W0111A	「住所の処理」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「人名録」を選択します。	登録した住所に関係する個人の名前を入力します。
人名録詳細	W0111B	「住所の処理」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「人名録」を選択します。「人名録」フォームの詳細グリッドでレコードを選択して、「ロー」メニューの「詳細」を選択します。	人名録レコードの特定の行について、住所の詳細情報を追加します。
電話番号	W0115A	<ul style="list-style-type: none"> 「人名録」フォームの詳細グリッドでレコードを選択して、「ロー」メニューの「電話番号」を選択します。 「関連先」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューの「電話番号」を選択します。 	人名録レコードまたは関連先レコードに電話番号を追加します。
電子メール/インターネットの改訂	W01111I	「人名録」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューの「電子メール/インターネット」を選択します。	人名録レコードに電子メール/インターネット・アドレスを追加します。
関連先	W01111F	「人名録」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューの「関連先」を選択します。	人名録レコードに関連先情報を追加します。
関連先詳細	W01111H	「関連先」フォームで関連先レコードを選択して、「ロー」メニューの「詳細」を選択します。	関連先レコードに詳細情報を入力します。
代替住所	W01111E	「人名録」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューの「代替住所」を選択します。	<p>人名録レコードに代替住所を追加します。</p> <p>住所情報の入力に「代替住所詳細」フォームを使用する前に、「開始日付」および「住所タイプ」フィールドを入力します。</p>
代替住所詳細	W01111D	「代替住所」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューの「詳細」を選択します。	代替住所の詳細情報を入力します。

人名録MBF PO (P0100087) の処理オプションの設定

次の処理オプションにアクセスするには、対話型バージョン・プログラムを使用します。

インタオペラビリティ

1. **トランザクション・タイプ** 人名録情報のトランザクション・タイプを指定します。
2. **イメージ処理(送信のみ)** 変更後のレコードの書込みに加えて、変更前の人名録情報レコードを書き込むかどうかを指定します。これらのレコードは、送信インタオペラビリティ処理を有効にした場合にバッチ - 人名録情報テーブル (F0111Z1) に書き込まれます。値は次のとおりです。
 ブランク: 変更後トランザクションのみ書き込む。(変更後の人名録レコードのみが書き込まれ、変更前のレコードは書き込まれません。)
 1: 変更前後両方のトランザクションを書き込む。(情報の変更前のレコードと変更後のレコードの計2件の人名録レコードが書き込まれます。)

人名録レコードの追加

「人名録詳細」フォームにアクセスします。

住所録の改訂 - 人名録

住所の処理 人名録

OK(O) 検索(O) 削除(O) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) 前 次 ツール(T)

住所番号 3480 Digger Enterprises

☐ 電話番号の表示
☐ 住所の表示

レコード 1-3 グリッドのカスタマイズ

行 ID	名称(漢字)	フリガナ	郵便宛名	第2郵便
0	Digger Enterprises	DIGGERINCORPORATED	Digger Enterprises	
	John Smith	John Smith		

「人名録詳細」フォーム

詳細

「詳細」タブを選択します。JD Edwards住所録システムでは、各人名録レコードに行IDが割り当てられます。住所録番号の最初の人録レコードには、行ID「0」(ゼロ)が割り当てられます。

郵便宛名

連絡先との通信文に印刷する名前を入力します。

名称

名前または住所を表す文字列を入力します。この40文字(半角英数字)まで入力可能なフィールドは、複数のフォームおよびレポートに表示されます。入力にはダッシュ、カンマ、およびその他の特殊文字を使用できます

が、このフィールドを使用して名前を検索する際は、これらの記号や特殊文字は検索対象にはなりません。

このフィールドをブランクにすると、「郵送宛名」フィールドに入力した値が自動入力されます。

入力データの重複チェックを有効にし、同一の名称、市町村、および郵便番号が検出された場合は、重複するフィールドがハイライトされ、エラーまたは警告メッセージが表示されます。

役職

人名録の個人の肩書きを入力します。

タイプ・コード

UDCテーブル01/W0で、人名録レコードを識別するコードを選択します。次のような例があります。

- A: 宛名
- B: 請求先
- C: 連絡先
- E: 緊急連絡先
- O: その他
- T: 1099用会社名(米国)

連絡先タイプ

UDCテーブル01/CTで、人名録レコードを記述するコードを選択します。次のような例があります。

- C: 競合他社
- D: 意思決定者
- I: 有力者
- R: 推薦者

職務コード

UDCテーブル01/FCで、人名録レコードに登録する個人の会社での役割を表すコードを選択します。次のような例があります。

- CO: 最高責任者
- CON: コンサルタント
- DIR: ディレクタ
- MGR: 管理者
- STAF: 担当者
- SUPR: スーパーバイザ

指定連絡方法

UDCテーブル01/CQで、先方が指定する連絡方法を表すコードを選択します。次のような例があります。

- E: 電子メール
- F: ファックス
- C: 電話
- W: 住所
- P: ポケベル

主連絡先 登録する個人が主要連絡先であることを示すには、このチェックボックスを選択します。主要連絡先は、連絡先タイプ当たり1件のみです。

追加情報

「追加情報」タブを選択します。

名前、ミドル・ネーム、名字 登録する個人の名前、ミドル・ネーム、および名字を入力します。これらのフィールドは参照用であり、どのレポートにも表示されません。ミドル・ネームのフィールドに名前やイニシャルを入力することもできます。

敬称 書面で連絡をとる際に、送付先として指定する名前と敬称を入力します。たとえば、Ms. Green、Dr. Strasheim、Herr Obermeyerなどのように入力します。このフィールドは参照用であり、どのレポートにも使用されません。

ニックネーム 登録する個人のニックネームを入力します。このフィールドは、住所録番号の人名録行に設定されます。

性別 登録する個人の性別を指定します。値は次のとおりです。

- 1: 男
- 2: 女
- 3: 不明

備考 人名録レコードに追加する補足情報がある場合、半角英数40文字以内で入力します。

表示順序 フォーム上での表示順序を指定する数字を入力します。

生年月日 登録する個人の生年月日を入力します。

カテゴリ・コード

カテゴリ・コードのタブを選択します。

カテゴリ・コード001 から カテゴリ・コード20 最大で20件登録できるカテゴリ・コードの中から、1つまたは複数のコードを人名録リストの名前に割り当てます。これらのコードを使用して、特定の送付先リストや電話番号リストなどに人名録レコードを含められます。カテゴリ・コードは、UDCです。次のような例があります。

- 01: 新規連絡先または従業員
- 02: グリーティング・カード送付リスト
- 03: 同窓会リスト
- 04: 信用調査官

人名録レコードへの電話番号の追加

「電話番号」フォームにアクセスします。

市外局番 電話番号の最初の部分を入力します。米国の場合は3桁のエリア・コードを使用します。

電話番号 市外局番およびハイフンやピリオドなどの特殊文字を含めずに、登録する連絡先の電話番号を入力します。どの国の電話番号形式でも入力できま

す。このフィールドは、電話番号の最初の部分(米国ではエリア・コード)を入力する市外局番フィールド(AR1)と組み合わせて使用されます。

電話番号から住所を検索するには、住所録への登録時に使用した特殊文字も含め、登録時と完全に一致する形で番号を入力する必要があります。

電話タイプ

UDCテーブル01/PHで、電話番号のタイプまたは使用目的を示す電話タイプのコードを選択します。次のような例があります。

ブランク: 職場の電話番号

FAX: ファックス番号

HOM: 自宅の電話番号

人名録レコードへの電子メール/インターネット・アドレス情報の追加

「電子メール/インターネットの改訂」フォームにアクセスします。

「電子メール/インターネットの改訂」フォーム

電子メール・アドレス・タイプ 有効な電子メール/インターネット・アドレスのタイプを選択します。「インターネット・アドレス」、「内部アドレス」などがあります。

電子メール・アドレス・タイプの有効コードはハードコード化されており、UDCテーブル01/ETに保管されています。

電子メールアドレス

個人または部署/部門の電子メール・アドレスまたはURLを入力します。

メッセージ処理インディケータ

UDCテーブル01/HIから値を選択します。メッセージ・システムでは、ここで選択するコードが使用され、指定した電子メール・アドレスにメッセージを送信するかどうかが決まります。値は次のとおりです。

00: 指定した電子メール・アドレスに電子メールを送信しない。

01: 指定した電子メール・アドレスに電子メールを送信する。

電子メール・アドレス・カテゴリ






電子メール/インターネット・アドレスの使用目的を指定します。このフィールドは、将来使用のために予約されています。

人名録レコードへの関連先情報の追加

「関連先」フォームにアクセスします。

住所録の改訂 - 関連先

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロール(R) ツール(T)



住所番号

3480

Digger Enterprises

人名録行

0

Digger Enterprises

レコード 1 - 2

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	関連 ID	関連タイプ	関連先 *	生年月日 - 日	生年月日 - 月	生年月日 - 年	カテゴリ 01	カテゴリ 02	カテゴリ 03
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		A	Dominique Abbott						
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

「関連先」フォーム

個人

「個人」タブを選択します。

関連先

関連先テーブル (F01112) に登録する個人の名前を入力します。このテーブルは人名録レコードに関連付けられています。

関連タイプ

UDCテーブル01/RTで、連絡先とF01112テーブルの名前の関係を表すコードを選択します。次の値があります。

- A: 秘書
- B: 重要取引先
- C: 子
- D: プロジェクト・リーダー
- E: 調査員

生年月日 - 日

「生年月日」フィールドの日に当たる数字を入力します。たとえば、誕生日が1973年2月5日の場合、このフィールドには「05」と入力します。

生年月日 - 月

「生年月日」フィールドの月に当たる数字を入力します。たとえば、誕生日が1973年2月5日の場合、このフィールドには「02」と入力します。

生年月日 - 年

「生年月日」フィールドの年に当たる数字を入力します。たとえば、誕生日が1973年2月5日の場合、このフィールドには「1973」と入力します。

カテゴリ・コード

「カテゴリ・コード」タブを選択します。

カテゴリ・コード1 から カテゴリ・コード5

UDCテーブル01/P1から01/P5で、レポート作成用のコードを選択して入力します。たとえば、関連先カテゴリ・コードで、販売部門や地域などを設定できます。

人名録レコードへの代替住所情報の追加

「代替住所」フォームにアクセスします。

「代替住所」フォーム

- 開始日付、住所タイプ** 「代替住所」フォームのこれらのフィールドに値を入力します。これらのフィールドへの値の入力は必須ではありません。
- 主住所フラグ** 住所が連絡先の主住所であることを示す場合は、このチェックボックスを選択します。このオプションは、1つの住所に対してのみ設定できます。
- 住所行1 から 住所行4** 連絡先の関連住所を入力します。

(BRA) 住所録レコードの税情報の入力

この項では、事前設定、および住所録レコードに税情報を追加する方法について説明します。この項は、ブラジルを対象としています。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- ユーザー表示設定でブラジル(BR)が設定されていることを確認します。
- 設定した住所録の改訂プログラムとAddress Book Additional Info - Brazil(P01012BR)のバージョンが一致していることを確認します。
- 次のUDCが設定されていることを確認します。
 - コード - 納税者(76/CC)
 - カテゴリ・コード名/コードBR(76/CN)
 - 個人/法人コード(H00/TA)
 - 都道府県コード(州)(00/S)
 - フラグ - 自由港区(76/FR)
 - ICMSコード - 会計値(76/II)
 - IPIコード - 会計値(76/IP)
- Address Book Additional Info - Brazilの処理オプションを設定します。

住所録レコードへの税情報の入力に使用するフォーム(ブラジル)

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
住所の処理	W01012B	「Address Book – Brazil」(G76B01)、「Address Book Revisions」	住所録レコードのリストを確認します。
住所録の改訂	W01012A	「住所の処理」フォームで「追加」ボタンをクリックするか、レコードを選択して「選択」をクリックします。	住所録レコードを追加または改訂します。
Address Book Additional Info – Brazil	W01012BRA	「住所録の改訂」フォームで「フォーム」メニューの「地域情報」を選択します。	住所録レコードにブラジル固有の税情報を追加します。
顧客マスターの処理	W03013A	「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「顧客マスター情報」	顧客レコードのリストを確認します。
顧客マスターの改訂	W03013B	「顧客マスターの処理」フォームで「追加」ボタンをクリックするか、レコードを選択して「選択」をクリックします。	顧客マスター・レコードを追加または改訂します。
仕入先マスターの処理	W04012D	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「仕入先マスター情報」	仕入先レコードのリストを確認します。
仕入先マスターの改訂	W04012A	「仕入先マスターの処理」フォームで「追加」ボタンをクリックするか、レコードを選択して「選択」をクリックします。	仕入先マスター・レコードを追加または改訂します。

住所録レコードへの税情報の追加

「Address Book Additional Info – Brazil」フォームにアクセスします。

The screenshot shows a web form titled "Address Book Additional Information - Brazil". At the top, there are buttons for "OK(O)", "取消(L)", and "ツール(T)". Below these are icons for save, delete, and print. The form is divided into sections. The first section contains "住所No." with the value "8503" and "Port of Brazil". The second section contains "個人/法人コード" and "法人". Below these are four tabs: "Person", "Corporation" (which is selected), "Fiscal Information", and "Tax Information". Under the "Corporation" tab, there are three input fields labeled "CGC Tax ID", "State Tax ID", and "City Tax ID".

「Address Book Additional Info - Brazil」フォーム

Person

「Person」タブを選択します。

Federal Tax ID

連邦税当局が個人を識別するために使用する、一意の税ID番号を入力します。XXX.XXX.XXX-YYの書式を使用します。この書式のXXX.XXX.XXXは税ID番号、YYはチェック・ディジットを表しています。

Individual ID

州警察が個人を識別するために使用する、一意の番号を入力します。このID番号は、住所録ABTX2テーブルに保管されます。この番号を編集するには、XX.XXX.XXX-Yの書式でID番号を入力する必要があります。この書式のXX.XXX.XXXはID番号、Yはチェック・ディジットを表しています。

Issuer Code

IDカードの発行元の略称を入力します。

Issuer State

州を示すUDCテーブル00/Sの値を指定します。米国では郵便で通常使用される略語がこのコードになります。

Issue Date

伝票の発行日付を入力します。

Taxpayer Number

郡の請負業者の納税者番号(ID)を入力します。このフィールドは、住所録レコードが請負業者に対するものである場合に必要になります。

市町村

住所に関連する市町村の名前を入力します。このフィールドは、住所録レコードが請負業者に対するものである場合に必要になります。

State

州名を表す2文字の略語を入力します。このフィールドは、住所録レコードが請負業者に対するものである場合に必要になります。

Corporation

「Corporation」タブを選択します。

CGC (Cadastro Geral de Contribuintes) Tax ID

法人のCGC税番号を入力します。このフィールドは、XXX.XXX.XXX/YYYY-WWの書式でフォーマットされています。

この書式の変数の定義は、次のとおりです。

XXX.XXX.XXX = 法人コード

YYYY = 本社または事業所コード

WW = チェック・ディジット

State Tax ID

法人が所在する州によって発行された追加のID番号を入力します。「Duplicate CGC Number」処理オプションをブランクにすると、そのCGC番号が同じ州の別のレコードで使用されていないことを確認するためにCGC番号が検証されます。

State Tax ID

納税者を識別するために郡によって使用されるID番号を入力します。ブラジルでは、この情報は、Notas Fiscaisおよびすべての法定レポートで必須です。

Fiscal Information

「Fiscal Information」タブを選択します。

Taxpayer Class

UDCテーブル76/CCで、処理の対象となるエンティティの税状況を表すコードを選択します。値は次のとおりです。

- 1: 納税者
- 2: 消費者
- 3: 納税者/消費者

ICMS (Imposto sobre Circulação de Mercadorias e Serviços) Repasse

仕入先がRepasse割引を提供するかどうかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

- N: しない。この値がデフォルト値です。
- Y: する。

IPI (Imposto sobre Produtos Industrializados) Code

UDCテーブル76/IPで、IPI税の評価方法を示すコードを選択します。このコードにより、IPI税額が入出金帳簿のどのカラムに印刷されるかが決まります。値は次のとおりです。

- 1: 課税
- 2: 免税または非課税
- 3: その他

Free Port Zone

UDCテーブル76/FRで、会社が自由港区に所在するかどうかを示すコードを選択します。

Complementary ID

代替ID番号を入力します。このフィールドは、連邦税ID番号または州税ID番号以外のID番号を使用する場合に入力します。この代替ID番号は、会計処理のためにNota Fiscalに印刷する必要があります。

「Complementary ID」フィールドにCodigo Brasileiro de Operações (CBO)コードを入力します。このコードは、INSSレポート(R76B04001)に印刷されます。

ICMS (Imposto sobre Circulao de Mercadorias e Servios) Substitution

顧客または製品が税代替の対象であるかどうかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

- Y: 表示価格を使用する。

Z: 正味価格を使用する。

N: 対象でない。

ICMS (Imposto sobre Circulao de Mercadorias e Servios) Code

ICMS税の適用方法を示すコードを入力します。ICMSコード – 会計値UDC (76/II) で、必要なコードを設定します。このコードは、ICMS税の計算時と帳簿の印刷時に使用されます。

Tax Information

「Tax Information」タブを選択します。

Brazil Tax Information 1

従業員、仕入先または顧客に適用される税のタイプを入力します。税コード・テーブル(F76B0401)に設定されている値を入力する必要があります。次の税の税率を検索するために使用されるコードを指定します。

- IR
- ISS
- INSS
- FUNRURAL
- PIS/PASEP源泉徴収
- PIS/PASEP控除
- COFINS源泉徴収
- COFINS控除
- CSLL源泉徴収
- PIS/PASEP控除

仕入先がINSS税の保留と集計の両方の対象である場合は、それぞれについてコードを入力する必要があります。

Registration INSS (Imposto Nacional Seguro Social)

仕入先のINSSの登録番号を入力します。

(CHL) 住所録追加情報の入力

この項では、事前設定、および住所録の追加情報を入力する方法について説明します。この項は、チリを対象としています。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- チリ向けの住所録UDCを設定します。
- 住所録地域情報 – CHI-01 (P76H101) の処理オプションを設定します。

住所録追加情報の入力に使用するフォーム(チリ)

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
A/B Regional Information Revision	W76H101B	「Address Book」 (G76H01)、「Chilean Address Book Set Up」 「住所の処理」フォームで住所録レコードを選択し、「ロー」メニューの「地域情報」を選択します。新しい住所録レコードを入力している場合は、「住所録の改訂」フォームで「OK」をクリックします。	チリ向けの住所録の追加情報を入力します。

住所録追加情報の入力(チリ)

「A/B Regional Information Revision」フォームにアクセスします。

「A/B Regional Information Revision」フォーム

General

AB Legal Document Type 住所税ID番号を分類するための有効な伝票タイプをUDC 76H/DAから選択します。

税ID 税ID番号を入力します。

Check - Pay to Order 仕入先への支払に表示する名前を入力します。

Withholding Information

Professional Fee Constance このオプションは、仕入先が源泉徴収の不適用の証明書を提示した場合に選択します。この証明書は財務当局によって発行され、職業報酬の源泉徴収にのみ適用されます。

Professional Fee Due Date 仕入先が提示した源泉徴収の不適用の証明書の期日を入力します。これは、職業報酬の源泉徴収にのみ適用されます。このフィールドを空白にすると、免除は有効なままになります。

Category Codes

**Category Code 01、
Category Codes 03から10** 住所録レコードに関する任意の追加情報を入力します。これらのフィールドは任意です。

Registered for Taxes 顧客または仕入先が税に対して登録されているかどうかを指定します。UDC 76H/02から値を選択します。

(COL) 住所録追加情報の入力

この項では、事前設定、および住所録の追加情報を入力する方法について説明します。この項は、コロンビアを対象としています。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- コロンビア向けの住所録UDCを設定します。
- 住所録の追加情報 - コロンビア (P76C0101) の処理オプションを設定します。

住所録追加情報の入力に使用するフォーム(コロンビア)

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
Colombian Additional Information Revisions	W76C0101B	「Address Book」(G76C11)、「Address Book」 「住所の処理」フォームで「地域情報」をクリックし、「Colombian Additional Information」フォームで「追加」をクリックします。新しい住所録レコードを入力したら、「住所録の改訂」フォームで「OK」をクリックします。	コロンビアで必要とされる住所録の追加情報を入力します。

住所録の追加情報の入力(コロンビア)

「Colombian Additional Information Revisions」フォームにアクセスします。

「Colombian Additional Information Revisions」フォーム

有効開始日付	このレコードの住所録情報が有効になる日付を入力します。
有効期限	このレコードの住所録情報が無効になる日付を入力します。
Tax Payer Type- Colombia	UDC 76C/TCから、有効なタイプを入力します。このコードは、VATと源泉徴収がサード・パーティによって決済されるかどうかを指定します。このフィールドは、伝票入力中に自動税決済を作成するときに使用されます。
Economic Activity Colombia	UDC 01/07から、有効なコードを入力します。このコードは、仕入先の経済活動を識別します。
Ciiu (統一産業コード) Code Colombia	UDC 76C/CIから有効なコードを入力します。このコードは、磁気メディアを使用して行政区に報告するときに使用されます。
Person/Corporation Code Colombia	個人/法人コード(76C/PC)UDCから、入力中の住所録レコード・タイプのサード・パーティ・クラスを示す有効なコードを入力します。コードは次のとおりです。 A: 法人 C: 個人事業主 E: 外国籍を持つ個人事業主 このコードは税ID番号(NIT)を識別および検証し、IDタイプを表す略語(NIT、CCまたはEXT)を法定レポートに印刷するかどうかを指定します。
Tax ID-Colombia	住所録レコードを入力している事業体の税ID番号を入力します。この番号は「Person/Corporation Code Colombia」フィールドに指定された値に基づいて編集され、チェック・ディジットが計算されます。この情報は、住所録タグ・ファイル - COL - 76Cテーブル(F76C0101)に保管されます。 税ID番号は、JD Edwards EnterpriseOneの任意のプログラムで住所録番号フィールドを使用して住所録番号を検索するときに入力できます。たとえば、「仕入先元帳の照会」フォームの「仕入先名」フィールドに税ID番号を入力できます。この機能は、住所録レコードの税ID番号がわかっており、使用しているフォームに「税ID」フィールドが含まれていない場合に使用できます。

税ID番号がN.I.T.番号 (Número de Identificación Tributaria (NIT)) である場合は、番号の最後に「-」を入力します。重複するN.I.T.番号が見つかった場合は、「Address Number by NIT Inquire」フォームが表示され、すべての住所番号と関連する税ID番号がリスト表示されます。

(ECU) 住所録追加情報の入力

この項では、事前設定、および住所録の追加情報を入力する方法について説明します。この項は、エクアドルを対象としています。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、エクアドル向けの住所録UDCを設定する必要があります。

住所録追加情報の入力に使用するフォーム(エクアドル)

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
Tax Person Code	W76E0001A	「Address Book」(G76C11)、「Address Book」 「住所の処理」フォームで住所録レコードを選択し、「ロー」メニューの「地域情報」を選択します。新しい住所録レコードを入力後、「住所録の改訂」フォームで「OK」をクリックします。	エクアドル向けの必須情報を入力します。

住所録情報の追加(エクアドル)

「Tax Person Code」フォームにアクセスします。

Tax Person Code

OK(O) 取消(L) ツール(T)

Person Code

住所番号 33793

税ID

Tax Person Code *

「Tax Person Code」フォーム

Tax Person Code

UDC 76C/PCから有効な担当者コードを選択します。

(PER) 住所録追加情報の入力

この項では、事前設定、および住所録の追加情報を入力する方法について説明します。この項は、ペルーを対象としています。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、住所録地域情報 - PER - 01 (P76P101) の処理オプションを設定する必要があります。

住所録情報の入力に使用するフォーム(ペルー)

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
A/B Regional Information Revision	W76P101B	「日次処理」(G0110)、「住所録の改訂」 「住所の処理」フォームで住所録レコードを選択し、「ロー」メニューの「地域情報」を選択します。新しい住所録レコードを入力後、「住所録の改訂」フォームで「OK」をクリックします。	ペルーで必須の住所録情報を入力します。

住所録情報の追加(ペルー)

「A/B Regional Information Revision」フォームにアクセスします。

「A/B Regional Information Revision」フォーム

General

- AB Legal Document Type** N.I.T番号を検証するかどうかを指定するUDC 76H/DAの値を選択します。
- 税ID** 税ID番号を入力します。
- Check - Pay to Order** 仕入先への支払に表示する名前を入力します。

Withholding Information

- Professional Fee Constance** このオプションは、仕入先が源泉徴収の不適用の証明書を提示した場合に選択します。この証明書は財務当局によって発行され、職業報酬の源泉徴収にのみ適用されます。
- Professional Fee Due Date** 仕入先が提示した源泉徴収の不適用の証明書の期日を入力します。これは、職業報酬の源泉徴収にのみ適用されます。このフィールドを空白にすると、免除は有効なままになります。
- Presented Sol Exemption Constance** 仕入先がSolidaridad源泉徴収免除を提示した場合に選択します。
- Sol Exemption Constance Due Date** Solidaridad源泉徴収免除の期日を入力します。

Category Codes

- IGV Withholding Concept** UDC 76P/01から値を選択します。これは、一般売上税(IGV)源泉徴収概念です。この概念は、源泉徴収率に関連付けられています。この仕入先に対する伝票を支払うときに、この源泉徴収概念と対応する率に従って源泉徴収額が計算されます。

SPOT Concept	UDC 76P/02から値を選択します。この値により、SPOT概念が決定されます。
Registered for Taxes	顧客または仕入先が税に対して登録されているかどうかを指定します。UDC 76H/02から値を選択します。
Category Codes 03から05、 Category Codes 06から10	住所録レコードに関する追加情報を入力します。これらのフィールドは任意で、レポートのために使用されます。

(POL) 住所録追加情報の入力

この項では、住所録の追加情報を入力する方法について説明します。この項は、ポーランドを対象としています。

住所録情報の入力に使用するフォーム(ポーランド)

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
住所録の改訂	W01012A	「日次処理」(G0110)、「住所録の改訂」 「住所の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	住所録レコードを設定します。
Address Book Localization Data	W7411012A	新しいレコードに情報を追加するには、「住所録の改訂」フォームで「OK」をクリックします。 「住所録の改訂」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「地域情報」を選択します。	ポーランド向けの住所録追加情報を入力または改訂します。

住所録追加情報の入力(ポーランド)

「Address Book Localization Data」フォームにアクセスします。

「Address Book Localization Data」フォーム

VAT Condition	VAT条件(74/VC)UDCテーブルの値を入力して、住所録レコードの事業体がVATの課税対象であるかどうかを指定します。
----------------------	---

(RUS) 住所録追加情報の入力

この項では、住所録の追加情報を入力する方法について説明します。この項は、ロシアを対象としています。

住所録追加情報の入力に使用するフォーム(ロシア)

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
住所録の改訂	W01012A	「日次処理」(G0110)、「住所録の改訂」	住所録レコードを追加または選択します。
Address Book Localization Data	W74R1012A	「住所録の改訂」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「地域情報」を選択します。 新しい住所録レコードを入力後、「住所録の改訂」フォームで「OK」をクリックします。	ロシア固有の情報を追加します。

住所録追加情報の入力(ロシア)

「Address Book Localization Data」フォームにアクセスします。

「Address Book Localization Data」フォーム

Russian Long Address	住所録レコードを検索するための詳細住所番号を入力します。たとえば、税ID番号や住所録レコードに対して一意の他の番号を入力できます。100文字まで入力できます。 入力した値は、法定レポートで名前として使用されます。
Long Mailing Name	請求書または通信文の送り先の人物の名前を入力します。100文字まで入力できます。 入力した値は、法定レポートで郵送先住所として使用されます。
Long Address Line 1	代替郵送先住所を入力します。4行それぞれに100文字まで入力できます。 入力した値は、法定レポートで郵送先住所として使用されます。
KPP Code	税条件を識別するコードを入力します。
OKDP Code	税条件を識別するコードを入力します。
OKPO Code	税条件を識別するコードを入力します。
VAT (付加価値税) Condition	住所録の事業体にVATが適用されるかどうかを識別するコードを入力します。VAT条件 (74/VC) UDCテーブルにあるコードを入力する必要があります。

(VEN) 住所録追加情報の入力

この項では、住所録の追加情報を入力する方法について説明します。この項は、ベネズエラを対象としています。

住所録情報の入力に使用するフォーム (ベネズエラ)

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
A/B Regional Information Revision	W76V1001A	「日次処理」(G0110)、「住所録の改訂」 「住所録の改訂」フォームで、「OK」をクリックします。 または、「住所録の改訂」フォームで「フォーム」メニューの「地域情報」を選択します。	ISLR、IM、VATおよび仕入先料金タイプのコードを入力します。

住所録情報の入力 (ベネズエラ)

「A/B Regional Information Revision」フォームにアクセスします。

A/B Regional Information Revision

OK(O) 取消(L) ツール(T)

ISLR Withholding Concept

IM Concept

VAT Concept

Fee Code Type

「A/B Regional Information Revision」フォーム

ISLR Withholding Concept (Impuesto sobre la Renta概念)	ISLR源泉徴収概念 (76V/IS) UDCテーブルにある値を入力して、所得税のタイプを指定します。
IM Concept (市民税概念)	IM.源泉徴収概念 (76V/IM) UDCテーブルにある値を入力して、市民税のタイプを指定します。
VAT Concept (付加価値税概念)	VAT法定概念 (76V/LC) UDCテーブルにある値を入力して、付加価値税のタイプを指定します。
Fee Code Type	手数料コード (76V/CT) UDCテーブルにある値を入力して、ISLR源泉徴収の手数料コードを指定します。

重複チェック・レポートの印刷

この項では、重複チェック・レポートの概要と次の方法について説明します。

- 重複チェック・レポートの実行
- 重複チェック・レポートのデータ選択の設定
- 住所録 - 重複チェック・レポート (R014052) の処理オプションの設定

重複チェック・レポートについて

JD Edwards住所録システムに重複した情報が含まれていないことを検証するには、重複チェック・レポート (R014052) を印刷します。JD Edwards EnterpriseOneを最近導入した場合は、このレポートを印刷して、JD Edwards住所録システムの初期設定時に重複レコードが作成されていないかどうかを検証します。このレポートを確認して、重複する住所録レコードがあれば削除します。ただし、取引明細のあるレコードは削除できません。

処理オプションを設定して、重複する名称のみ、または同一の名称で重複する郵便番号を印刷できます。
このレポートでは、次のテーブルの情報が使用されます。

- 住所録マスター (F0101)
- 日付別住所 (F0116)

重複チェック・レポートの実行

「定期処理」(G0121)、「重複チェック」を選択します。

重複チェック・レポートのデータ順序の設定

名称によるデータの順序設定では、大文字と小文字が区別されます。重複がないかどうか確認するには、次のいずれかの順序で比較してください。

順序	カラムの記述
名称のみの場合	圧縮記述
名称と郵便番号の場合	圧縮記述 郵便番号

重複チェック・レポートのデータ順序の設定機能は、JD Edwards EnterpriseOneのWindows環境でのみ提供されています。

住所録 - 重複チェック (R014052) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

- 1. 重複する名称**

重複する名称の検索に使用する文字数(最大25文字)を指定します。このフィールドを空白にすると、最初の5文字がデフォルト値として使用されます。
- 2. 重複する郵便番号**

同一の名称に対し、重複する郵便番号を検索するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 重複する郵便番号を検索しない。

1: 重複する郵便番号を検索する。
- 3. 連絡先情報**

人名録の連絡先の肩書きをレポートに印刷するかどうか指定します。値は次のとおりです。

空白: 連絡先の肩書きを印刷しない。

1: 連絡先の肩書きを印刷する。

住所録語句検索テーブルの作成

この項では、語句検索の概要と次の方法について説明します。

- 語句検索の作成プログラムの実行
- 語句検索の作成 (R01BDWRD) の処理オプションの設定
- 住所録語句検索の使い方

語句検索について

住所録語句検索マスター (F01815) の作成後、語句検索プログラム (P01BDWRD) を使用して住所録レコードを検索できます。F01815 テーブルを作成することで、名前、市町村、都道府県 (州)、または郵便番号などの文字列を使用して住所録レコードや人名録情報を検索できます。

この住所録検索の機能は、JD Edwards EnterpriseOne のその他のシステムで住所録レコード内の特定のフィールドを検索することにより住所録番号を検出する際に便利です。たとえば、「Capital」の住所録番号を検索する場合、検索文字列として「C」、「Capital」、または「Cap*」のように文字列の一部にワイルドカードとして「*」(アスタリスク) を付けて入力し検索できます。

語句検索に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
住所録の語句検索	W01BDWRDA	「日次処理」(G0110)、「語句検索」	文字列を使用して、住所録と人名録情報を検索します。

語句検索の作成プログラムの実行

「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「語句検索の作成」を選択します。

語句検索の作成 (R01BDWRD) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

- カテゴリ・コード**

F01815 テーブルを作成する際に、住所録カテゴリ・コード1から30を検索可能な項目として含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 住所録カテゴリ・コード1から30を含めない。

1: 住所録カテゴリ・コード1から30を含める。
- 人名録と電話番号**

F01815 テーブルを作成する際に、人名録と電話番号の情報を検索可能な項目として含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 人名録と電話番号の情報を含めない。

1: 人名録と電話番号の情報を含める。

3. 親/子

F01815テーブルを作成する際に、親/子情報を検索可能な項目として含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 親/子情報を含めない。

1: 親/子情報を含める。

住所録語句検索の使い方

「住所録の語句検索」フォームにアクセスします。

住所番号	名称	市外局番	電話番号	住所行1	市町村	都道府県	郵便番号
3334	Lewis Enterp...	303	555-4100	505 Main Avenue	Vermillion	SD	57069

「住所録の語句検索」フォーム

検索する語句

検索に使用する1つまたは複数の語句を入力します。連語を使用する場合は、検出する語句の語順どおりに入力する必要があります。または、ワイルドカードと文字列の一部を使用することもできます。

人名録情報の表示

人名録情報を表示するには、このチェックボックスを選択します。

第 5 章

住所録レコードと個人情報管理システムの同期化

この章では、個人情報管理同期化（PIM同期化）の概要、事前設定、および次の作業を行う方法について説明します。

- PIMシステムからの連絡先情報のアップロード
- 顧客レコードと連絡先レコードへのサブスクライブ
- アクティビティの同期化

PIM同期化について

PIM同期化を使用して、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムと使用している個人情報管理（PIM）システム（Microsoft Outlook、Lotus Notesなど）との間で顧客、連絡先およびアクティビティに関する情報をやり取りします。PIM同期化により、システム間での双方向のデータ共有が可能になります。すなわち、PIMシステムに連絡先レコードを入力すると、その情報が処理されてJD Edwards EnterpriseOneシステムにインポートされます。同様に、JD Edwards EnterpriseOneシステムでレコードを更新すると、PIM同期化によってPIMシステムのレコードが更新されます。

JD Edwards EnterpriseOneシステムに顧客レコードと連絡先レコードを入力すると、ユーザーはこれらのレコードにサブスクライブすることが可能になります。サブスクライブの設定が完了すると、それらのレコードの情報が自動的にPIMシステムに反映されます。その後、PIMシステムまたはJD Edwards EnterpriseOneシステムのいずれか一方で変更が行われると、双方向での更新が行われます。

注意: PIM同期化ユーザーとして設定されたユーザーは、自分が入力したすべての顧客レコードまたは連絡先レコードに自動的にサブスクライブされます。顧客レコードまたは連絡先レコードを手動でサブスクライブする必要があるのは、PIM同期化ユーザーとして設定される前にその顧客または連絡先がシステムに入力されていた場合、または、システムまたは別のユーザーによって入力された顧客または連絡先レコードにサブスクライブする場合のみです。

また、最初にPIMシステムに連絡先レコードを入力して、そのレコードをJD Edwards EnterpriseOneシステムにインポートすることもできます。EnterpriseOneシステムと同期化する連絡先レコードを指定すると、同期化プロセスによってそのレコードがEnterpriseOneシステムの一時テーブルにインポートされます。連絡先レコードがJD Edwards EnterpriseOneシステムにインポートされた後、そのレコードを既存の住所録レコードに関連付け、人名録バッチのアップロード・プログラム（R011110Z）を使用してアップロード・プロセスを完了します。

注意: 人名録バッチのアップロード・プログラムは、連絡先レコードのインポートにのみ使用されます。このプログラムでは、顧客レコードはJD Edwards EnterpriseOneシステムにインポートされません。顧客住所情報の双方向同期を実現するには、顧客レコードをJD Edwards EnterpriseOneシステムに入力する必要があります。

たとえば、PIMシステムに顧客レコードを入力し、その顧客がまだJD Edwards EnterpriseOneシステムに存在しない場合、同期化プロセスではEnterpriseOneシステムに新しい顧客レコードが作成されません。EnterpriseOneに顧客レコードが存在する場合は、PIMシステムで行われた更新がEnterpriseOneの顧客レコードに同期化されます。

また、PIM同期化を使用して、会議、予定、タスクなどのアクティビティに関する情報を同期化することもできます。たとえば、MicroSoft OutlookなどのPIMのカレンダーに会議を入力すると、その情報をJD Edwards EnterpriseOneのカレンダーと同期化することを指定できます。同期化プロセスによってJD Edwards EnterpriseOneシステムのカレンダーが会議情報とともに更新されます。同様に、ユーザーがPIM同期化ユーザーとして設定されている場合、EnterpriseOneカレンダーに入力したすべてのアクティビティとPIMシステム・カレンダーとの同期化が自動的に設定されます。

事前設定

PIM同期化機能を使用する前に、次の作業を行う必要があります。

- Intellisyncサーバーのインストールと設定
- PIM同期化サーバーのインストールと設定
- PIMシステムのインストールと設定
- PIM同期化機能を使用するためのJD Edwards EnterpriseOneユーザーの設定

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 System Administration Guide

PIMシステムからの連絡先情報のアップロード

この項では、受信連絡先レコードの概要と、次の方法について説明します。

- 受信連絡先レコードへの住所録番号の割当
- 人名録バッチのアップロード・プログラムの処理オプションの設定
- 人名録バッチのアップロード・プログラムの実行

受信連絡先レコードについて

JD Edwards EnterpriseOneシステムに連絡先レコードを入力すると、その連絡先は人名録レコードとしてF0111テーブルに格納されます。そのレコードは、住所録レコードと関連付けられている必要があります。たとえば、住所録番号が123456である顧客レコードがあるとします。その顧客に関して複数の連絡先レコードを作成できます。その顧客に関する各連絡先レコードはF0111テーブルに格納され、住所録番号123456に関連付けられます。

PIMシステムで新しい連絡先レコードを作成する際、そのレコードとJD Edwards EnterpriseOneシステムとの同期化を指定できます。連絡先レコードをEnterpriseOneシステムとの同期化の対象として設定するには、PIMシステムの「カテゴリ」フィールドに適切な値を入力します。この値は、UDCテーブル01/SGの項目「PIMSG」の「記述1」の値と同じでなければなりません。通常は、このフィールドに指定される値の設定は、システム管理者が担当します。このため、同期化のために入力が必要なフィールドと値に関する情報については、社内のシステム管理者にお問い合わせください。

IntellisyncサーバーとPIM同期化サーバーによって、同期化が設定されたすべてのレコードがJD Edwards EnterpriseOneシステムに転送されます。これらのレコードは、最初に一時テーブルであるF0111Z1テーブルに格納されます。このテーブルにレコードが格納されるのは、EnterpriseOneシステムに転送された時点ではこれらのレコードが不完全なためです。これらのレコードを完全なものにするには、人名録バッチの改訂プログラム(P0111Z1)を使用して各連絡先レコードに住所録番号を関連付けます。

各レコードに住所録番号を関連付けた後、人名録バッチのアップロード・プログラム(R011110Z)を実行できます。このプログラムによって、完全な連絡先レコードがF0111Z1テーブルからF0111テーブルに移されます。

事前設定

受信連絡先レコードを正常に処理するには、連絡先レコードに関連付ける住所録番号をJD Edwardsシステムに入力する必要があります。

PIMシステムからの連絡先情報のアップロードに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
人名録バッチ情報の処理	W0111Z1A	「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「人名録バッチの改訂」	フォームにアクセスして、受信連絡先レコードに住所録番号を割り当てます。
人名録 - 住所録番号割当ての改訂	W0111Z1AC	「人名録バッチ情報の処理」フォームで、「フォーム」メニューの「住所録の割当て」を選択します。	受信連絡先レコードに住所録番号を割り当てます。

受信連絡先レコードへの住所録番号の割当

「人名録 - 住所録番号割当ての改訂」フォームにアクセスします。

住所番号

各連絡先レコードが関連付けられている事業体の住所録番号を入力します。たとえば、顧客ABCの連絡先を処理する場合は、このフィールドに顧客ABCの住所録番号を入力します。フォームにすべての連絡先の住所録番号を入力後、「OK」をクリックします。

人名録バッチのアップロード・プログラム(R011110Z)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、受信連絡先レコードの処理時のデフォルト情報を設定します。

オプション

1. 子テーブルのアップロード

この処理オプションを使用して、PIMシステムのレコードを子テーブルにアップロードするかどうかを指定します。対象となるのは次のテーブルです。

バッチ - 代替住所 (F01161Z1)

バッチ - 関連先 (F01112Z1)

バッチ - 電子メール・アドレス (F01151Z1)

電話番号 - インタオペラビリティ (F0115Z1)

子テーブルをアップロードしない場合は、F0111Z1およびF0111テーブルのみが更新されます。値は次のとおりです。

ブランク: 子テーブルをアップロードしない。

1: 子テーブルをアップロードする。

2. 住所の同期化(将来使用)

この処理オプションはブランクにします。この処理オプションは将来使用するために用意されています。

人名録バッチのアップロード・プログラム (R011110Z) の実行

「人名録 - 住所録番号割当ての改訂」フォームにアクセスして、「フォーム」メニューの「バッチのアップロード」を選択します。

または、「住所録上級/技術的操作」メニュー (G0131) から「人名録バッチのアップロード」を選択します。

顧客レコードと連絡先レコードへのサブスクライブ

この項では、顧客および連絡先レコードのサブスクライブの概要と、次の方法について説明します。

- 単一顧客へのサブスクライブ
- 複数の顧客および連絡先へのサブスクライブ
- 関連連絡先へのサブスクライブ
- サブスクライブの削除

顧客および連絡先のサブスクライブについて

JD Edwards EnterpriseOne住所録に存在する顧客と連絡先にサブスクライブして、その連絡先情報をPIMシステムに追加できます。

JD Edwards EnterpriseOneでは、サード・パーティのPIMシステムとJD Edwards EnterpriseOne住所録システム間でデータを同期化できます。この同期化により、IBM DominoやMicrosoft ExchangeのPIMシステム・サーバーに保管されている顧客情報や連絡先情報などの個人情報を共有し、管理できます。

「PIMサブスクリプション」オプションを使用して、顧客レコードをLotus NotesやMicrosoft Outlookの個人の連絡先に自動的に追加できます。顧客にサブスクライブすると、対応するオブジェクトがPIMシステムのデータベースに作成されます。ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneシステムまたはPIMシステムのいずれかで項目を更新または削除すると、この変更は両方のシステムで同期化されます。たとえば、PIMシステムで顧客の電話番号や住所を変更する場合、その変更はJD Edwards EnterpriseOneの顧客レコードに反映されます。対応する顧客の変更は、F01161テーブルに加えられます。

顧客レコードまたは連絡先レコードにサブスクライブするには、PIMユーザーとして設定されている必要があります。各PIMユーザーは、JD Edwards EnterpriseOneシステム内の任意の顧客レコードにサブスクライブできます。「PIMサブスクリプション」オプションは、顧客レコードを表示しているログイン・ユーザーに応じて選択または選択が解除されます。たとえば、ユーザーAが顧客123にサブスクライブしている場合、ユーザーAが顧客123のレコードを表示するたびに「PIMサブスクリプション」オプションが選択されます。これに対し、ユーザーBが顧客123にサブスクライブしていない場合には、ユーザーBが顧客123のレコードを表示すると「PIMサブスクリプション」オプションの選択は解除されます。ユーザーBは、このオプションを選択して顧客123にサブスクライブできます。

住所録システムのサブスクリプションの管理プログラム(P011901)を使用して、サブスクリプションを管理できます。また、Customer Relationship Management (CRM)システムに保存されている顧客レコードと連絡先レコードからサブスクリプション情報にアクセスすることもできます。どちらのシステムを使用してサブスクリプションを管理するかに関係なく、データの同期化は同じ方法で処理されます。

注意: PIM同期化ユーザーとして設定されたユーザーは、そのユーザーが入力したすべての顧客レコードまたは連絡先レコードに自動的にサブスクライブされます。PIM同期化ユーザーとして設定される前にシステムに存在していた顧客レコードと連絡先レコードにサブスクライブする場合や、他のEnterpriseOneユーザーによって入力された顧客または連絡先にサブスクライブする場合は、手動サブスクリプション・プロセスを使用します。

顧客のサブスクライブ

データ転送は双方向で行われますが、双方向の同期化を行うには、事前に顧客がJD Edwards EnterpriseOneシステムに保存されている必要があります。PIMシステムに顧客を追加して、その顧客レコードをJD Edwards EnterpriseOneシステムに同期化することはできません。双方向の同期化は、JD Edwards EnterpriseOneシステムに顧客が作成された後でのみサポートされます。

注意: PIMシステムの顧客住所情報は、F0116テーブル(基本住所テーブル)ではなく、F01161テーブル(代替住所テーブル)に反映されます。JD Edwards EnterpriseOneのほとんどのプロセスでは、F0116テーブル内の住所が使用されます。このため、PIMシステムで顧客住所に対して行った変更がF0116テーブルにも反映される必要があることに注意してください。

次の2つの方法を使用して、顧客にサブスクライブできます。

- 単一顧客へのサブスクライブ

ユーザーは、「顧客 - 管理 <顧客名>」フォームで「PIMサブスクリプション」オプションを選択できます。PIM同期化ユーザーが新しい顧客レコードを入力すると、このオプションが自動的に選択されます。

- 複数の顧客への同時サブスクライブ

ユーザーは、「顧客の検索」フォームにある「PIMサブスクリプション」リンクをクリックして、顧客と関連連絡先のリストから顧客を選択できます。リスト内にある任意の顧客またはすべての顧客にサブスクライブできます。

連絡先へのサブスクライブ

次の方法を使用して、連絡先にサブスクライブできます。

- PIMユーザーとして設定された後に新しい連絡先レコードを入力

PIMユーザーは、自分がシステムに入力した連絡先レコードに自動的にサブスクライブされます。

- 単一顧客からの連絡先へのサブスクライブ

ユーザーは、「顧客 - 管理〈顧客名〉」フォームで「PIMサブスクリプション」オプションを選択できます。この方法を使用して、関連付けられていない顧客にサブスクライブできます。また、その顧客に関連付けられている各連絡先にサブスクライブすることもできます。

- 複数の関連連絡先への同時サブスクライブ

ユーザーは、「連絡先の検索」フォームにある「PIMサブスクリプション」リンクをクリックして、関連付けられている顧客の関連連絡先のリストから連絡先を選択できます。たとえば、販売担当者が「PIMサブスクリプション」リンクをクリックすると、その販売担当者が販売チームのアクティブなメンバーとして含まれているすべての顧客レコードが表示されます。この販売担当者は、これらの顧客に関連付けられている任意の連絡先またはすべての連絡先にサブスクライブできます。

- 複数の連絡先への同時サブスクライブ（関連付けは関係なし）

ユーザーは、「顧客の検索」フォームにある「PIMサブスクリプション」リンクをクリックして、顧客と関連連絡先のリストから顧客を選択できます。リスト内にある任意の連絡先またはすべての連絡先にサブスクライブできます。また、サブスクリプションの管理プログラム（P011901）を使用して、この方法で連絡先にサブスクライブすることもできます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Customer Relationship Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「連絡先の管理」および「顧客情報の管理」

顧客レコードと連絡先レコードのサブスクライブに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
顧客の検索	W90CA080D	「CRMファンデーション日次処理」(G90C01)、「顧客」	顧客を選択します。
顧客 - 管理〈顧客名〉	W90CA08AA	「顧客の検索」フォームで顧客を選択します。	単一顧客にサブスクライブします。
連絡先の検索	W90CA070C	「CRMファンデーション日次処理」(G90C01)、「連絡先」	フォームにアクセスして、複数の連絡先にサブスクライブします。
PIMサブスクリプション	W90CA070E	「連絡先 - 連絡先の検索」で「PIMサブスクリプション」リンクをクリックします。	すでに関連付けられている連絡先レコードのサブスクリプションを追加または削除します。
サブスクリプションの処理	W011901A	次のいずれかの方法を使用してフォームにアクセスします。 <ul style="list-style-type: none"> • 「略式コマンド」フィールドに「P011901」と入力します。 • 「顧客の検索」フォームで「PIMサブスクリプション」をクリックします。 	サブスクリプションを削除し、フォームにアクセスして複数の顧客と連絡先にサブスクライブします。
連絡先へのサブスクライブ	W011901C	「サブスクリプションの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	複数の顧客および連絡先にサブスクライブします。

単一顧客へのサブスクライブ

「顧客 - 管理 <顧客名>」フォームにアクセスします。

PIMサブスクリプション（個人情報管理サブスクリプション）

このオプションは、顧客レコードを個人情報管理(PIM)システムの住所録に追加するときに選択します。PIMシステムには、Microsoft Outlook(Exchangeサーバー)やLotus Notes(Dominoサーバー)があります。このオプションは、ログインしているユーザーがPIMユーザーとして設定されている場合にのみ表示されます。このオプションを選択すると、顧客が自動的にPIMシステムの連絡先に追加されます。

PIMユーザーが新しい顧客レコードを入力すると、このオプションが自動的に選択されます。

注意: 関連のない顧客にサブスクライブするには、この方法を使用するか、サブスクリプションの管理プログラム(P011901)を使用する必要があります。

複数の顧客および連絡先へのサブスクライブ

「連絡先のサブスクライブ」フォームにアクセスします。

検索を絞り込むには、これらのフィールドに値を入力して「検索」をクリックします。サブスクライブするレコードを選択して、「OK」をクリックします。

住所番号

サブスクライブする顧客のID番号を指定します。連絡先にサブスクライブしている場合でも、その連絡先が関連付けられている顧客の住所録番号を指定できます。

人名録行

顧客レコードのみを検索する場合は、「0」(ゼロ)を入力します。連絡先レコードを検索してサブスクライブする場合は、このフィールドを空白にします。連絡先レコードの人名録行には、常にゼロより大きい値が割り当てられています。たとえば、顧客123456にサブスクライブし、この顧客に関連付けられている連絡先にはサブスクライブしない場合は、「住所録」フィールドに「123456」を入力し、このフィールドに「0」を入力して「検索」をクリックします。これにより、人名録行の値が0の、顧客12345のメイン顧客レコードのみが表示されます。このフィールドを空白にすると、メイン顧客レコードとすべての関連連絡先レコードが表示されます。

関連連絡先へのサブスクライブ

「PIMサブスクリプション」フォームにアクセスします。

注意: この方法では、ログオン・ユーザーが関連付けられている連絡先レコードのみが表示されます。

1. 次のいずれかのオプションを選択して、表示する顧客を指定します。
 - すべて表示
 - サブスクライブ済のみ表示
 - 非サブスクライブのみ表示
2. サブスクライブする顧客を選択するか、サブスクライブを解除する顧客の選択を解除します。
3. サブスクリプションの変更を保存するには「OK」をクリックし、「連絡先の検索」フォームに戻るには「取消」をクリックします。

サブスクライブの削除

「サブスクリプションの処理」フォームにアクセスします。

削除するサブスクリプションを検索して選択し、「削除」ボタンをクリックします。

アクティビティの同期化

この項では、アクティビティの同期化の概要、事前設定、およびアクティビティの同期化の設定方法について説明します。

アクティビティの同期化について

JD Edwards EnterpriseOne住所録システムを使用して、EnterpriseOneシステムのタスク、イベントおよびカレンダーを管理できます。ただし、多くのユーザーは、MicroSoft OutlookやLotus NotesなどのPIMシステムでもカレンダー情報を管理しています。PIM同期化機能を使用して、JD Edwards EnterpriseOneシステムとPIMシステム間でカレンダー情報を同期化できます。

EnterpriseOneシステムでは、タスクとイベントはアクティビティとして保存されます。EnterpriseOneシステムでアクティビティを作成するときに、そのアクティビティをPIMシステムと同期化するかどうかを指定できます。PIM同期化プロセスにより、PIMシステム・カレンダーでそのアクティビティのレコードが作成されます。アクティビティをPIMシステムと同期化することを指定するには、「アクティビティの編集」フォームで「PIMサーバーと同期」オプションを選択する必要があります。

注意: PIMに同期するユーザーがEnterpriseOneでアクティビティ・レコードを作成すると、「PIMサーバーと同期」オプションが自動的に選択されます。PIMに同期するユーザーとして設定される前にシステムに入力されていたアクティビティを同期化する場合、または他のEnterpriseOneユーザーによって入力されたアクティビティ・レコードを同期化する場合は、このオプションを手動で選択します。

また、PIMシステムでアクティビティを作成して、そのアクティビティをEnterpriseOneシステムと同期化することを指定できます。PIMシステムのアクティビティをEnterpriseOneシステムと同期化することを指定するには、PIMシステムの「カテゴリ・コード」フィールドに適切な値を入力する必要があります。この値は、UDC 01/SGの項目「PIMSG」の「記述1」の値と同じでなければなりません。通常、この情報はシステム管理者によって設定されます。このため、PIM同期化機能を正しく使用するために入力する値については、システム管理者にお問い合わせください。

注意: PIMシステムでアクティビティを作成し、そのアクティビティをEnterpriseOneシステムと同期化することを指定すると、EnterpriseOneカレンダーにレコードが作成されます。EnterpriseOneシステムにカレンダーが存在しない場合は、デフォルトのカレンダー・タイプを使用して自動的にカレンダーが作成されます。デフォルトのカレンダー・タイプは、UDC 01/SGの「記述1」(値CALTY)に指定されています。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 8.98 System Administration Guide

事前設定

JD Edwards EnterpriseOneシステムとPIMシステム間でアクティビティ情報を同期化する前に、カレンダーとアクティビティ情報を設定する必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「基本設定カレンダーの使い方」

アクティビティの同期化に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
アクティビティ・ビュー	W01300A	「基本設定カレンダー」(G01A)、「アクティビティ・ビュー」	アクティビティを選択します。
アクティビティの編集	W01301D	<p>このフォームには、次のいずれかのナビゲーションを使用してアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「アクティビティの検索」でアクティビティを選択します。 「基本設定カレンダー」(G01A)から「カレンダー・ビュー」を選択して、アクティビティをダブルクリックします。 「基本設定カレンダー」(G01A)から「アクティビティ・ホームページ」を選択して、アクティビティをダブルクリックします。 	アクティビティの同期化を設定します。

アクティビティの同期化の設定

「アクティビティの編集」フォームにアクセスして、「設定」タブを選択します。

PIMサーバーと同期（個人情報管理サーバーと同期）

このオプションは、このアクティビティをMicroSoft OutlookやLotus NotesなどのPIMシステムと同期化する場合に選択します。このオプションを選択してアクティビティが同期化されると、それ以降にそのアクティビティに対して行うすべての変更は、PIMシステムまたはJD Edwardsシステムのいずれで変更を行ったかに関係なく、双方向で同期化されます。

PIMユーザーが新しいアクティビティ・レコードを作成すると、このオプションが自動的に選択されます。PIM同期化ユーザーとして設定される前にシステムに入力されていたアクティビティを同期化する場合、または他のユーザーによって入力されたアクティビティを同期化する場合は、このオプションを手動で選択する必要があります。

第 6 章

基本設定カレンダーの使い方

この章では、基本設定カレンダーの概要と設定要件、および次の方法について説明します。

- カレンダーの管理
- アクティビティの管理
- アクション・プランの作成

基本設定カレンダーについて

基本設定カレンダー・アプリケーションは、従業員、販売担当者、取引先、顧客、リソースなど、様々な事業体に関するカレンダーを作成できるシステムです。アクティビティ(イベントまたはタスク)を作成し、カレンダーに追加できます。イベントには、ミーティングやスケジュール済の顧客への電話連絡などの項目が含まれます。ミーティングの準備や潜在顧客のリサーチなどの項目をタスクとして含めることができます。イベントは、複数のカレンダーに割り当てることができます。たとえば、1つのミーティングを複数の従業員に割り当てることができます。

基本設定カレンダーでは世界標準時が適用されているため、異なる地域で活動するユーザーも、各自のローカル時間でカレンダーを確認できます。

注意: JD Edwards EnterpriseOneでは、サード・パーティの個人情報管理(PIM)システムとJD Edwards EnterpriseOne間でユーザーのデータを同期化できます。この同期化機能により、IBM DominoやMicrosoft ExchangeのPIMシステムに保管されている連絡先などの個人情報を共有し、管理できます。たとえば、基本設定カレンダー・システムにイベントやタスクを作成すると、サード・パーティのPIMシステムのデータベースにも対応するオブジェクトが作成されます。JD Edwards EnterpriseOneシステムかPIMシステムのいずれか一方で項目を更新または削除した場合、この変更内容はもう一方のシステムで同期化されます。

JD Edwards EnterpriseOneシステムとPIMシステムのデータの同期化を実行するには、サード・パーティのソフトウェア製品であるIntellisync Serverを使用します。Intellisync Serverでは、PIMデータの同期をとる際にCSVファイルと同期化テンプレートが使用されます。CSVファイルには、PIMの同期化用に登録したJD Edwards EnterpriseOneの各ユーザーのPIMサーバー・レコードが保管されます。CSVファイルは、PIM同期化のユーザーの設定後にJD Edwards EnterpriseOneで生成します。同期化テンプレートは、JD Edwards EnterpriseOneシステムとPIMシステム間で同期をとる情報の種類を決定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 System Administration Guide

他のシステムとの統合

基本設定カレンダー・プログラムとアクティビティ・プログラムは、次のJD Edwards EnterpriseOne製品ファミリーと緊密に統合されます。

- JD Edwards EnterpriseOne Customer Relationship Management (CRM)

- JD Edwards EnterpriseOne Human Capital Management (HCM)

CRM製品と統合すると、カレンダー・プログラムとアクティビティ・プログラムを使用して、販売部門の作業負荷の管理、顧客、パートナーおよび連絡先とのミーティングのスケジュール、販売リードとオポチュニティに関連付けられたタスクとイベントのスケジュールを行うことができます。また、カレンダー・プログラムとアクティビティ・プログラムを使用して、カスタマ・サービス担当者の作業負荷の管理やケースに関連付けられたタスクとイベントのスケジュールもできます。

HCM製品と統合すると、カレンダー・プログラムとアクティビティ・プログラムを使用して、従業員の勤務日、祝日および休暇のスケジュールを管理できます。カレンダーを作成して、会社、ビジネスユニット、都道府県、組合または場所の作業スケジュールを記録できます。また、個人従業員用のカレンダーを作成して、病欠や休暇などの個人の欠勤を追跡することもできます。

基本設定カレンダーの設定要件について

基本設定カレンダーを使用する前に、システムが正しく設定されていること、およびシステムで使用されるユーザー定義コード(UDC)テーブルに適切な値が含まれていることを確認する必要があります。次の表は、基本設定カレンダーに必要な設定を示しています。

設定タスク	説明
UDCの設定	<p>基本設定カレンダー処理には、次のUDCが必要です。</p> <p>01/CY</p> <p>01/TM</p> <p>01/AC</p> <p>01/PL</p> <p>01/AD</p> <p>01/AE</p> <p>01/AF</p> <p>01/AG</p> <p>01/AH</p> <p>01/C1</p> <p>01/C2</p> <p>01/C3</p> <p>01/C4</p> <p>01/C5</p> <p>01/DV</p> <p>01/PT</p> <p>01/IT</p> <p>01/LT</p> <p>01/WD</p> <p>01/DY</p> <p>01/WK</p> <p>01/MN</p> <p>01/CG</p> <p>01/TL</p>
CRM固定情報の設定	<p>CRM用に基本設定カレンダーを使用する場合、基本設定カレンダーのCRM固定情報を設定する必要があります。この固定情報でデフォルトのカレンダー・タイプを指定することで、CRMプログラムからカレンダーにアクセスする際に、指定したデフォルトのカレンダー・タイプが自動的に表示されるようになります。</p>

次の表は、カレンダーの管理のために使用されるUDCテーブルを示しています。

UDCテーブル	説明
01/CY	<p>このUDCテーブルでは、有効なカレンダー・タイプを定義します。このテーブルの特殊取扱コードを使用して、カレンダーを開くときに使用するプログラムが決定されます。このテーブルの「特殊取扱」カラムの、P01301またはP01302を指定できます。「特殊取扱」フィールドを空白にすると、そのカレンダー・タイプの未処理のアクティビティにP01301が使用されます。ビジネス・ニーズを満たす値を作成するか、既存の値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 銀行 運送業者 CRM 顧客 祝日 個人 リソース 経路 仕入先 WRKEXC (従業員勤務スケジュール)
01/TM	<p>このUDCテーブルでは、作業日の有効な開始時刻と終了時刻を定義します。提供されている1時間単位を使用するか、または30分単位で独自の時刻を作成します。hh:mmの形式で値を入力します。hhは時間、mmは分を表します。時間の入力には、2桁を使用してください。たとえば、午前8時30分は「08:30」と入力します。</p>
01/AC	<p>このUDCテーブルは、有効なアクティビティ・タイプを定義します。タスクとイベントを区別するために、タスクの各タイプには、「特殊取扱」フィールドに「1」を入力します。タスクは時間に依存しないため、タスクの開始時間または終了時間を入力することはできません。カレンダーにはイベントのみが表示されます。標準で提供されているアクティビティ・タイプを使用するか、または独自のタイプを作成できます。</p>
01/PL	<p>このUDCテーブルでは、アクション・プランからアクティビティ式を作成する際に使用するプラン・タイプを定義します。標準のプラン・タイプを使用するか、または独自のタイプを作成できます。</p>
01/AD、01/AE、01/AF、01/AG、01/AH	<p>これらのUDCテーブルを設定して、カレンダーを分類するためのカテゴリ・コードを作成します。</p>
01/C1、01/C2、01/C3、01/C4、01/C5	<p>これらのUDCテーブルを設定して、アクティビティとタスクを分類するためのカテゴリ・コードを作成します。</p>

UDCテーブル	説明
01/DV	<p>このテーブルはカレンダー用のデフォルト・ビューを定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • D: 日 • W: 週 • M: 月 <p>このテーブルの値はハードコード化されているため、変更しないでください。</p>
01/PT	<p>このUDCテーブルは、アクティビティに有効な優先レベルとコミットメント・レベルを定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1: 低優先度 • 2: 中優先度 • 3: 高優先度 <p>このテーブルの値はハードコード化されているため、変更しないでください。</p>
01/IT	<p>このUDCテーブルは、基本設定カレンダー・システム内でカレンダーを作成する事業体のタイプを定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ADDS: 州/地域 • AN8: 住所録番号 • CO: 会社 • MCU: 事業所 • UN: 組合 • WRKSCH: 勤務スケジュール <p>このテーブルの値はハードコード化されているため、変更しないでください。</p>
01/LT	<p>このUDCテーブルは、アクティビティおよびタスクの通知メッセージの有効なリードタイム単位を定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • D: 日数 • H: 時間 • M: 分 <p>このテーブルの値はハードコード化されているため、変更しないでください。</p>

UDCテーブル	説明
01/WD	<p>このUDCテーブルは、作業週の有効な開始日と終了日を定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1: 日曜日 • 2: 月曜日 • 3: 火曜日 • 4: 水曜日 • 5: 木曜日 • 6: 金曜日 • 7: 土曜日 <p>このテーブルの値はハードコード化されているため、変更しないでください。</p>
01/MD	<p>このUDCテーブルは、午前と午後を示す有効値を定義します。値は、AMとPMです。</p> <p>このテーブルの値はハードコード化されているため、変更しないでください。</p>
01/DY	<p>このUDCテーブルは、アクティビティおよびタスクの定期処理パターン用の曜日を定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日曜日 • 月曜日 • 火曜日 • 水曜日 • 木曜日 • 金曜日 • 土曜日 <p>このテーブルの値はハードコード化されているため、変更しないでください。</p>

UDCテーブル	説明
01/WK	<p>このUDCテーブルは、アクティビティおよびタスクの定期処理パターン用の週を定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 第1週 • 第2週 • 第3週 • 第4週 • 最終週 <p>このテーブルの値はハードコード化されているため、変更しないでください。</p>
01/MN	<p>このUDCテーブルは、アクティビティおよびタスクの定期処理パターン用の月を定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1月 • 2月 • 3月 • 4月 • 5月 • 6月 • 7月 • 8月 • 9月 • 10月 • 11月 • 12月 <p>このテーブルの値はハードコード化されているため、変更しないでください。</p>

カレンダーの管理

この項では、カレンダーの概要と、次の方法について説明します。

- カレンダー管理 (P01311) の処理オプションの設定
- カレンダーの追加
- カレンダーの関連付け

カレンダーについて

カレンダー管理プログラム(P01311)は、従業員、顧客、仕入先、リソースなどの様々な事業体に関するカレンダーを作成および管理するシステムです。カレンダー作成時に、カレンダー・ビューやデフォルトの表示モード、作業日の開始および終了時刻や、作業週の開始および終了する曜日などの情報を特定します。

また、IDタイプとIDも定義します。この情報は、カレンダーを関連付ける事業体の決定に使用されます。たとえば、特定の顧客用のカレンダーを作成する場合は、「IDタイプ」フィールドに「AN8」(住所録番号)を入力し、「ID」フィールドにその顧客の住所録番号を入力します。

また、カレンダーにカテゴリ・コードを割り当てることもできます。各カテゴリ・コードは、UDCテーブルに関連付けられており、それぞれのUDCテーブルにカレンダーを細分化するコードの値を複数追加できます。カテゴリ・コードを使用することにより、カレンダーを作成および管理するときに組織に固有のデータを使用できます。

カレンダーの関連付け

指定した期間のカレンダーを関連付けて、事業体を複数のカレンダーに関連付けることができます。その事業体のカレンダー全体を表示するときに、その事業体に関連付けられているすべてのカレンダーのデータが使用されます。関連カレンダー・プログラム(P01315)を使用してカレンダーを関連付けます。関連カレンダーの情報は、関連カレンダー・テーブル(F01315)に保存されます。

注意: 任意のタイプのカレンダーを関連付けることができますが、関連カレンダーのデータを表示するには、HCMシステムで従業員スケジュール・プログラム(P07311)を使用する必要があります。このため、複数のCRMカレンダーを関連付けた場合、それらのカレンダーの複合情報を表示するプログラムは現時点では提供されていません。

たとえば、従業員のリソース・スケジュールに役立つカレンダーを使用する場合、次のカレンダーを1人の従業員にリンクして、その従業員のスケジュール全体を表示します。

- シフト・カレンダー

このカレンダーは、シフト勤務するすべての従業員に影響するスケジュールを定義し、アクティビティを記録するために使用します。

- 会社祝日カレンダー

このカレンダーは、会社内のすべての従業員に関連する祝日をスケジュールするために使用します。

- 従業員別カレンダー

このカレンダーは、個々の従業員にのみ関連するイベントを記録およびスケジュールするために使用します。たとえば、このカレンダーには従業員の休暇を入力できます。

この例では、従業員のカレンダーを表示すると、前述の3つのカレンダーすべてのアクティビティとタスクが表示され、その従業員のスケジュール全体を把握できます。このため、従業員のカレンダーを表示すると、シフト・カレンダー、会社祝日カレンダーおよび従業員別カレンダーに含まれるイベント、タスクおよびスケジュール情報がすべて表示されます。従業員用の週間カレンダーには、そのシフトで勤務する全従業員のミーティング、会社内のすべての従業員を対象とした会社の祝日、その従業員がスケジュールした休暇日などが表示されます。

従業員が関連付けられている各カレンダーリンクする必要があります。たとえば、会社祝日カレンダー、シフト・カレンダーおよび従業員の個人情報を表示するには、従業員別にこれらの各カレンダーにリンクする必要があります。

カレンダーの管理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
カレンダーの検索	W01311A	「基本設定カレンダー」(G01A)、「カレンダー管理」	既存のカレンダーを検索します。
カレンダー	W01311D	「基本設定カレンダー」フォームで「追加」ボタンをクリックします。	カレンダーを追加するか、既存カレンダーを確認または改訂します。
関連カレンダーの編集	W01315C	「カレンダーの検索」フォームで、確認、追加または更新するカレンダーを選択して、「関連カレンダー」ボタンをクリックします。	カレンダーを関連付けます。

カレンダー管理(P01311)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、カレンダー作成時のデフォルト情報を設定します。

デフォルト

1. カレンダー・ビューでデフォルトに使用するカレンダー・タイプ(カレンダー・ビューを直接起動する場合のみ使用します)。
 カレンダー・ビュー・アプリケーションをメニューから直接起動したときに表示されるデフォルトのカレンダー・タイプを指定します。
2. 追加するアクティビティ・タイプ
 アクティビティを入力するときに使用するデフォルトのアクティビティ・タイプを指定します。値はUDC 01/ACに保存されています。

処理

1. ユーザー・タイプ
 カレンダーにアクセスするユーザーのタイプを指定します。この処理オプションにより、アクティビティ・プログラムの構成が決定されます。値は次のとおりです。
 CRM: CRMユーザーに設定
 FINまたはブランク: 他のユーザーに設定

バージョン

1. 共通処理オプション(P01350)のバージョン
 カレンダーにアクセスするときに使用される共通処理オプション・プログラム(P01350)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

カレンダーの追加

「カレンダー」フォームにアクセスします。

カレンダー管理 - カレンダー

新規カレンダーの追加

カレンダー名 ★
 カレンダー・タイプ ★
 IDタイプ ★ Walters, Annette
 ID ★

カレンダー表示形式

☒ 日 ☒ 週 ☒ 月 デフォルトの表示モード ★

勤務スケジュール

勤務開始時刻 勤務終了時刻 勤務開始曜日 勤務終了曜日

カテゴリ・コード

カレンダー分類コード1
 カレンダー分類コード2
 カレンダー分類コード3
 カレンダー分類コード4
 カレンダー分類コード5

「カレンダー」フォーム

カレンダー名

半角の英数字30文字以内でカレンダー名を入力します。

カレンダー・タイプ

有効なカレンダー・タイプを選択します。有効なカレンダー・タイプは、UDC 01/CYに保存されています。

IDタイプ

有効なIDタイプを選択します。有効なIDタイプは、UDC 01/ITに保存されています。これらの値はハードコード化されており、次のものが含まれます。

- 住所番号
- 会社
- 事業所
- 組合
- 州/地域

ID

「IDタイプ」フィールドで選択した値に基づいて、有効なIDを入力します。「住所番号」を選択した場合は、有効な住所録番号を入力する必要があります。「事業所」を選択した場合は、有効なビジネスユニットまたは事業所を入力する必要があります。

住所録番号が不明な場合は、住所録レコードにある名前を入力すると、該当する番号が自動的に入力されます。たとえば、「Global Enterprises」と入力すると、Global Enterprisesの住所録番号が「ID」フィールドに自動的に入力されます。

語句を入力して検索した結果、住所録に複数のレコードが検出された場合は、「詳細住所番号の検索」フォームが表示され、そのフォームで該当する住所録レコードを選択します。

日 カレンダを日次フォーマットで表示する場合に選択します。

週 カレンダを週次フォーマットで表示する場合に選択します。

月 カレンダを月次フォーマットで表示する場合に選択します。

デフォルトの表示モード カレンダのデフォルトの表示形式を選択します。デフォルトの表示形式はUDC 01/DVに保管されます。

勤務開始時刻 作業日の開始時刻を選択します。開始時刻の有効値は、UDC 01/TMに保管されています。

勤務終了時刻 作業日の終了作業時刻を選択します。終了時刻の有効値は、UDC 01/TMに保管されています。

勤務開始曜日 作業週の勤務開始日を選択します。勤務開始日の有効値は、UDC 01/WDに保管されています。これらの値はハードコード化されています。

勤務終了曜日 作業週の勤務終了日を選択します。勤務終了日の有効な値は、UDC 01/WDに保管されています。

カレンダー分類コード1 から UDC 01/C1、01/C2、01/C3、01/C4、01/C5からカテゴリ・コードを選択します。
 カレンダー分類コード5

カレンダーの関連付け

「**関連カレンダーの編集**」フォームにアクセスします。

カレンダー管理 - 関連カレンダーの編集

カレンダー名

PERSONAL

カレンダー・タイプ *

個人カレンダー

IDタイプ *

住所番号

ID *

1001

AB Common

レコード 1 - 3

[グリッドのカスタマイズ](#)

<input type="checkbox"/>	関連カレンダー * タイプ	関連ID * タイプ	関連 * ID	関連カレンダー 名	有効 * 日付	失効 日付
<input type="checkbox"/>	WRKEXC	AN8	211101	Aaron Beales Work Schedule	2005/01/01	2020/12/31
<input type="checkbox"/>	HOLIDAYS	CO	00001	Company 0001 Holidays	2005/01/01	2020/12/31
<input type="checkbox"/>						

保存(Y)

削除(D)

取消(L)

[「関連カレンダーの編集」フォーム](#)

1. 「関連カレンダータイプ」フィールドで「検索」ボタンをクリックします。
2. 「カレンダーの検索」フォームで、メイン・カレンダーにリンクするカレンダーを検索して「選択」をクリックします。
3. 「関連カレンダーの編集」フォームで、次のフィールドに値を入力して、カレンダーをリンクする期間を指定します。

- 有効日付
- 失効日付

4. カレンダーのリンクが完了するまで手順1から3を繰り返して、「保存」をクリックします。

アクティビティの管理

この項では、アクティビティの概要と、次の方法について説明します。

- アクティビティ・ビュー (P01301) の処理オプションの設定
- アクティビティ検索 (P01300) の処理オプションの設定
- アクティビティ共通処理オプション (P01350) の処理オプションの設定
- 基本アクティビティの管理 (P01302) の処理オプションの設定
- アクティビティ・ホームページ (P01312) の処理オプションの設定
- アクティビティの作成
- アクティビティの定期処理情報の入力
- アクティビティの担当者の管理
- スピード追加を使用したタスクの追加
- アクティビティの検索
- 別のユーザーのアクティビティの表示
- アクティビティの状況の更新

アクティビティについて

アクティビティを作成することで、日常の業務を管理します。次の2タイプのアクティビティを作成できます。

- イベント
- タスク

イベントは、ミーティングや顧客への電話連絡、アポイントメントなどの予定を記録するために作成します。イベントはカレンダーに表示されます。リサーチやミーティングの準備など、時間に依存しない業務を記録する際は、タスクを作成します。タスクはカレンダーには表示されません。イベントとタスクは、いずれもアクティビティ・ビュー・プログラム (P01301) を使用して入力しますが、それぞれの処理は異なる形で行われます。イベントとタスクは、アクティビティのUDCテーブル (01/AC) の「特殊取扱」フィールドの設定に基づいて識別されます。UDC 01/AC の特殊取扱フィールドに値「1」が入力されている項目は、タスクと認識されます。

イベントを作成するには、開始および終了日、開始および終了時刻、アクティビティの内容やタイプ、また優先順位などの情報を入力します。作成したイベントは、指定したカレンダーに表示されます。タスクの作成には、イベントの作成時とほぼ同様の情報を入力しますが、開始時刻と終了時刻は入力しません。また、タスクはカレンダー・ビューには表示されません。「アクティビティの検索」フォーム、または「アクティビティ・ホームページ」フォームの「タスク」セクションにのみ表示されます。

担当者

作成したアクティビティに対して、他の事業体を割り当てることができます。たとえば、所属外の事業体をミーティングに招集できます。イベントまたはタスクを他の事業体に割り当てた場合、イベントはその事業体のカレンダーに表示され、タスクはその事業体のタスク・リストに表示されます。イベントの割当の入力時に、割当先の事業体のカレンダーが未作成の場合は、自動的にカレンダーが作成されます。

他の参加者に割り当てられているアクティビティを更新する際には、次の規則が適用されます。

- 所有者のイベント・レコードを変更または削除すると、他のすべての参加者のカレンダーも同様に更新されます。
- 割当先のアクティビティ・レコードを変更または削除する場合は、変更する割当先のレコードにのみ変更が反映されます。アクティビティの所有者や他の割当先のレコードには反映されません。
- 各割当先のアクティビティを完了済に設定できます。ただし、すべての割当先のアクティビティを完了済に設定しても、作成者のアクティビティは自動的に完了済には設定されません。アクティビティの所有者がアクティビティを完了済に指定する必要があります。

関連

タスクとカレンダー・イベントの関連付けを入力できます。関連付けは、アクティビティの作成対象となる事業体と対応する連絡先を表します。アクティビティを次の事業体に関連付けて、その事業体の連絡先を指定できます。

- 住所録レコード
- 顧客
- パートナ
- リード
- オポチュニティ
- ケース

注意: 「パートナ」、「リード」、「オポチュニティ」および「ケース」フィールドは、システムがCRMモードに設定されている場合にのみ表示されます。

CRMアプリケーションに関する関連付けを入力してアクティビティ・レコードを保存すると、対応する事業体レコードのアクティビティを表示できます。たとえば、アクティビティを顧客に関連付けると、顧客レコードの照会時にその顧客に関するすべてのアクティビティを表示できます。

定期アクティビティ

イベントとタスクは、いずれも定期エントリとして設定できます。定期処理設定する場合は、表示頻度や定期パターンの終了日を指定します。イベントまたはタスクを検索すると、検索条件を満たす定期アクティビティの各インスタンスが一覧表示されます。たとえば、1週間毎日繰り返されるタスクを設定し、その週のすべてのタスクを検索すると、タスクが発生する日別にタスク・レコードが表示されます。

所有者と割当先の担当者が定期タスクまたはイベントの個別インスタンスを変更できます。また、マスター・タスクまたはマスター・イベントが変更された場合も、その変更内容が更新されます。この機能により、アクティビティ・レコード内の重要な情報を追跡する割当先のデータの損失を最小限に抑えることができます。作成者レコードが変更されると、その変更は各割当先のレコードに送信されます。変更されたフィールドのみ更新されます。ただし、割当先の担当者がアクティビティ・レコードの情報を更新し、所有者がマスター・レコード内の同一フィールドを変更した場合、割当先の担当者の更新は、更新されたマスター・レコードの情報で上書きされます。

割当先の担当者が定期タスクまたはイベントの特定のインスタンスを削除することもできます。たとえば、割当先の担当者はすべてのインスタンス中の週次ミーティングに参加しますが、休暇中のミーティングには参加しない場合があります。この場合、割当先の担当者は休暇中に発生するインスタンスを削除して、その他すべてのインスタンスを管理できます。

他者に割り当てた定期アクティビティを更新または削除する際には、次のとおり複数の規則が適用されます。次の表は、所有者レコードと割当先レコードに対して行われた変更の処理方法と、変更が定期アクティビティの単一インスタンスまたはすべてのインスタンスのいずれに反映されるかを示しています。

所有者レコードまたは割当先レコードのいずれを変更するか	単一インスタンスまたはすべてのインスタンスのいずれを変更するか	処理情報
アクティビティの所有者レコード	アクティビティのすべてのインスタンス	<p>アクティビティのユーザーがマスター・レコードでアクティビティのすべてのインスタンスに影響を与える変更を行うと、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザーは、コール・プランを除き(割り当てられている場合)、「詳細」、「カテゴリ」および「上級」タブに表示されているすべてのアクティビティ詳細を変更できます。 ユーザーは、アクティビティの開始日付は変更できません。この情報は定期パターンの一部であるためです。 ユーザーは、定期パターンの終了日付または発生回数を変更できます。 <hr/> <p>警告: PIM同期化機能を使用している場合は、ユーザーはPIMシステムで定期アクティビティの開始日付を変更できます。変更した場合、データが同期化されたときに変更が認識されます。所有者と割当先の両方について、そのアクティビティのすべてのレコード(変則と除外を含む)が削除され、変則または除外のないアクティビティ・レコードが再作成されます。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ユーザーは、割当先の削除または新しい割当先の追加を行うことができます。 ユーザーは、マスター・レコードを削除できます。削除した場合、すべての割当先レコードも削除されます。

所有者レコードまたは 割当先レコードのい ずれを変更するか	単一インスタンスまたは すべてのインスタンスのい ずれを変更するか	処理情報
アクティビティの所有者 レコード	アクティビティの単一イン スタンス	<p>アクティビティのユーザーがアクティビティの単一インスタンスを変更すると、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 変更を記録するために変則レコードが作成されます。すべての割当先のインスタンスに対して変更が更新されます。 • ユーザーは、次の項目を変更できません。 <ul style="list-style-type: none"> - 単一インスタンスの開始日付 - 単一インスタンスの定期属性（終了日付や発生回数など） - アクティビティの所有者 • ユーザーは、割当先の削除、またはインスタンスへの新しい割当先の追加を行うことができます。 • インスタンスに対する変更のみ記録され、そのインスタンスの対応する割当先レコードに変更内容が伝播されます。 • ユーザーは、単一インスタンスを削除できます。削除した場合、割当先のインスタンスも削除され、そのインスタンスに対する除外レコードが作成されます。除外レコードは、同期プロセス中にPIMシステムのインスタンスを削除するために使用されます。

所有者レコードまたは 割当先レコードのい ずれを変更するか	単一インスタンスまたは すべてのインスタンスのい ずれを変更するか	処理情報
割当先レコード	アクティビティのすべての インスタンス	<p>ユーザーが割当先レコードでその割当先のためのアクティビティのすべてのインスタンスに影響を与える変更を行うと、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザーは、次の項目を変更できません。 <ul style="list-style-type: none"> - 開始日付または開始時刻 - 終了日付または終了時刻 - アクティビティ・タイプ - 顧客または顧客の連絡先 - パートナまたはパートナーの連絡先 - リード、オポチュニティ、ケース - 発生回数などの定期属性 <hr/> <p>警告: PIM同期化機能を使用している場合、割当先ではPIMシステムで定期属性を変更できます。変更した場合、その変更はデータの同期中は無視され、EnterpriseOneデータには反映されません。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザーは、アクティビティに新しい割当先を追加できます。新しい割当先に対するすべてのアクティビティが生成されます。 • ユーザーは、アクティビティから割当先を削除できます。ただし、アクティビティの所有者は削除できません。 • 変更が記録され、その割当先のためのすべてのインスタンスに変更内容が伝播されます。所有者または他者の割当先レコードは更新されません。 • ユーザーは、アクティビティを削除できます。そのアクティビティのすべてのインスタンスはその割当先からのみ削除され、所有者または他者の割当先のレコードは削除されません。

所有者レコードまたは 割当先レコードのい ずれを変更するか	単一インスタンスまたは すべてのインスタンスのい ずれを変更するか	処理情報
割当先レコード	アクティビティの単一 インスタンス	<p>ユーザーがアクティビティの単一インスタンスの割当先レコードを変更すると、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 変更を記録するために変則レコードが作成されます。割当先のみに対して変更が更新されます。 • ユーザーは、開始時刻と終了時刻を変更できます。 • 割当先では、開始日付または終了日付、顧客、連絡先、パートナ、リード、オポチュニティまたはケースを削除することはできません。 • 割当先では、発生回数などの定期情報を変更できません。 • ユーザーは、このインスタンスに新しい割当先を追加できます。変更されたインスタンスのクローンが新しい割当先に送信されます。 • ユーザーは、インスタンスから割当先を削除できます。ただし、所有者は削除できません。 • ユーザーは、インスタンスを削除できます。割当先の単一インスタンスのみが削除されます。

次の表は、定期エントリ情報を保存するテーブルを示しています。

テーブル	説明
アクティビティ・マスター (F01301)	<p>すべてのイベントとタスクの情報を保管します。保管内容の例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IDとIDタイプ • カレンダー・タイプ • アクティビティ・タイプ • 件名 • 場所 • 開始および終了時刻 • 開始および終了日付 • 定期ID (定期設定にのみ適用)

テーブル	説明
定期マスター (F01321)	<p>定期イベントとタスクの情報を保管します。保管内容の例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期ID (F01301テーブルから複製) 定期頻度 開始および終了日付 定期項目を設定する曜日 定期項目を設定する週
定期除外 (F01331)	<p>定期イベントとタスクの除外情報を保管します。保管内容の例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期除外ID 定期ID (F01301テーブルから複製) 除外日付
モバイル・クライアントの削除済アクティビティ (F01301W)	<p>接続解除モードで削除されたアクティビティを一時的に保存します。このテーブルは、モバイル・クライアントが Enterprise サーバーと同期化されるとリセットされます。</p>

通知

イベントの通知メッセージを自動表示するように設定できます。「通知」チェックボックスを選択すると、通知メッセージを送信するタイミングを指定するフィールドが表示されます。イベントが複数の割当先に割り当てられている場合、割当先で自身のアクティビティ・レコードを更新して、自身宛ての通知メッセージの送信設定をすることができます。割当先で自身のアクティビティ・レコードを更新しない場合は、作成者のアクティビティ・レコードの通知設定が適用されます。

また、「担当者にすぐに通知」ボタンをクリックすると、間近のアクティビティを割当先全員に通知できます。このボタンをクリックすると、即座に割当先全員にイベントの期日が通知されます。たとえば、ミーティングの開始時刻まで間もないことを出席者全員に通知できます。住所録レコードで設定した電子メール / インターネット・アドレス情報の定義に基づき、ワーク・センターまたは電子メールを使って割当先に通知メッセージが送信されます。

割当先への通知に使用されるメッセージ・テンプレートには次の項目が含まれています。

- 住所録1
- 住所録1連絡先
- 住所録1連絡先電話番号
- 住所録2
- 住所録2連絡先
- 住所録2連絡先電話番号
- アクティビティ件名
- アクティビティ・タイプ
- 開始および終了時刻
- 開始および終了日付

通知メッセージとアラームの送信には、ワークフロー・プロセスK0130040が適用されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

参照: 付録 C、「JD Edwards EnterpriseOne住所録の標準ワークフロー、」275ページ

アクティビティ・ホームページ

アクティビティ・ホームページを使用して、指定した事業体に関するすべてのイベントとタスクを管理できます。アクティビティ・ホームページには、すべてのスケジュール済イベントのカレンダー・ビューが表示され、該当期間にスケジュールされているすべてのタスクが一覧表示されます。タスクとカレンダー・イベントの期間は、アクティビティ・ホームページで個別に変更できます。たとえば、現在の作業週のカレンダー・イベントを表示し、現在日付に対してスケジュールされているタスクを一覧表示できます。

アクティビティ・ホームページ・プログラム (P01312) を使用して、次のことが行えます。

- 自身のカレンダーの表示と、他のユーザーまたは事業体のカレンダーの表示
日、週、または月別にカレンダーを表示できます。
- 期日超過タスクの表示
- スピード追加機能を使用したタスクの追加
- カレンダーへのイベントの追加
- タスクまたはイベントの削除
- タスクを完了済に設定

「アクティビティ・ホームページ」フォームにアクセスすると、処理オプションで設定したサインイン・ユーザーのデフォルトのカレンダー・タイプが表示されます。表示されるカレンダー・タイプを変更するには、このフォームの「アクティビティの表示」セクションに別のカレンダー・タイプを入力して「検索」をクリックします。また、フォームのこのセクションを使用して、別のユーザーのカレンダー情報を表示することもできます。

また、「アクティビティ・ホームページ」フォームを使用して、カレンダーの即時確認と更新、カレンダーへのイベントの追加、またはユーザーへのタスクの追加を行うこともできます。このフォームの下部には、選択したクエリーの検索条件を満たすタスクが表示されます。次のクエリーを使用できます。

- すべてのタスク
- 過去7日以内に期日になったすべてのタスク
- 今後7日以内に期日になるすべてのタスク
- 本日が期日のすべてのタスク (未完了と完了の両方)
- すべての未完了タスク
- すべての期日超過タスクと本日が期日のタスク

また、フォームのタスク部分の見出しに期日超過タスクの数が赤色で表示されます。このフォームから、タスクを選択して、必要に応じて状況や期日を更新できます。また、タスクのスピード追加機能を使用して、ユーザーにタスクを追加することもできます。タスクのスピード追加機能を使用すると、次のフィールドのみ指定して、すばやくタスクを作成できます。

- 件名
- 住所録 (任意)
- タスク・タイプ
- 終了日付

最後に、「アクティビティ・ホームページ」フォームを使用して、自身のカレンダーまたは他のユーザーのカレンダーにイベントを追加できます。また、自身または他のユーザーのタスクを作成することもできます。ホームページからアクティビティを追加できるため、自身のカレンダーを確認し、それに応じてタスクまたはイベントをスケジュールすることが可能です。

注意: 他のユーザーのCRMカレンダーにイベントを追加する、または別のCRMユーザーのタスクを作成すると、自身のカレンダーまたはタスク・リストと他のユーザーのカレンダーまたはタスク・リストにアクティビティが追加されますが、ユーザーは割当先として表示され、他のユーザーが所有者として表示されます。CRMモードで作業していない場合は、他のユーザーにのみアクティビティが追加され、自身は割当先として追加されません。

基本および上級アクティビティ検索

アクティビティを検索するには、次の方法を使用できます。

- 基本検索
- 上級検索

基本検索機能では、次のような基本検索条件を使用してタスクとイベントを検索できます。

- 件名
- アクティビティ・タイプ
- 所有者タイプ
- 所有者
- 終了日付
- 住所録

場合によっては、より詳細な検索条件を使用してアクティビティを検索する必要があります。上級検索機能を使用すると、次のような追加の検索条件を使用してアクティビティを検索できます。

- カレンダー・タイプ
- アクティビティ状況
- 優先度
- 開始日付
- IDタイプ
- ID
- 関連

また、上級検索を使用して、定期情報を含むアクティビティのみを検索したり、アクティビティのマスター・レコードに関連付けられているすべての割当先レコードを検索したりすることもできます。「すべての担当者」オプションを使用して、マスター・レコードに関連付けられているすべての担当者レコードを検索できますが、このオプションを選択する前に「ID」フィールドの選択が解除されていることを確認する必要があります。

基本検索または上級検索のいずれを使用する場合でも、保存済のクエリーを使用してアクティビティを検索できます。たとえば、特定のユーザーの優先度3のタスクを頻繁に検索する場合、この条件を満たすアクティビティを検索するクエリーを作成して保存できます。検索に使用する条件を入力後、「クエリーの保存」リンクをクリックしてクエリーの名前を指定します。クエリーに名前を付けると、「クエリーの選択」フィールドの使用可能な選択肢のリストにクエリーが表示されます。クエリーを選択して「検索」をクリックし、指定した条件を満たすアクティビティを検索します。

アクティビティの管理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
アクティビティ・ビュー	W01300A	「基本設定カレンダー」(G01A)、「アクティビティ・ビュー」	イベントとタスクを検索します。
アクティビティの追加	W01301D	「アクティビティの検索」フォームで「アクティビティの追加」をクリックします。	「アクティビティの追加」フォームにアクセスして、次の処理を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティの追加 ・アクティビティの担当者に関連の入力 ・アクティビティの定期処理情報の入力 ・アクティビティに関する添付情報の追加
アクティビティの編集	W01301D	「アクティビティの検索」フォームで、アクティビティを選択します。	既存アクティビティの確認または更新、定期処理情報の入力または担当者の管理を行います。
アクティビティ・ホームページ	W01312A	「基本設定カレンダー」(G01A)、「アクティビティ・ホームページ」	アクティビティ・ホームページを使用して、次の処理を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・指定した事業体に関するカレンダー・イベントとタスク(期日が超過したものも含む)の表示 ・カレンダーへのイベントの追加 ・スピード追加機能を使用したタスクの作成 ・タスクとイベントの完了済の設定 ・カレンダーからのタスクまたはイベントの削除

アクティビティ・ビュー(P01301)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、イベントとタスクの処理に使用するデフォルト値を指定します。

表示

1. IDタイプをフォームに表示する。

「アクティビティの追加」フォームに「IDタイプ」フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: フィールドを表示しない。

1: フィールドを表示する。

- 2. IDタイプを割当グリッドに表示する。** 「アクティビティの追加」の「担当者」サブフォームに「IDタイプ」フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: フィールドを表示しない。
 1: フィールドを表示する。
- 3. カレンダー・タイプを割当グリッドに表示する。** 「アクティビティの追加」フォームに「カレンダー・タイプ」フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: フィールドを表示しない。
 1: フィールドを表示する。

デフォルト

- 1. 開始日時にシステム日付を使用する。** この処理オプションを使用して、イベントの開始日時として今日の日時を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 今日の日時を使用しない。
 1: イベントの作成時に今日の日付を使用する。
- 2. 割当の通知に電話番号タイプを使用する。** この処理オプションを使用して、割当の通知に使用するデフォルトの電話番号タイプを指定します。指定した電話タイプを使用して、ワーク・センターにメッセージがパブリッシュされます。この処理オプションをブランクにすると、電話タイプは入力されません。

処理

- 1. 担当者検索用のUDC** この処理オプションの最初のブランク・フィールドには、UDCテーブルのシステム・コード(01など)を入力します。この処理オプションの2番目のブランク・フィールドには、テーブル・コード(SAなど)を入力します。これらのフィールドのいずれかをブランクにすると、UDC 01/SAが使用されます。
- 2. アクティビティが追加または変更された場合、担当者に自動通知する。** アクティビティが追加または変更された場合に担当者に自動的に通知するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 自動通知しない。
 1: 通知する。

アクティビティ検索(P01300)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、アクティビティ情報の処理時に使用されるデフォルト・バージョンを指定します。

注意: アクティビティ・ホームページ・プログラムからアクティビティ・プログラムにアクセスする場合、ここで指定するオプションによって、アクティビティ・ホームページ・プログラムで指定したオプションが一時変更されます。ただし、次の処理オプションのいずれかをブランクにして、アクティビティ・ホームページ・プログラムでデフォルト情報を指定した場合は、アクティビティ・ホームページ・プログラムの処理オプションの情報が使用されます。

基本デフォルト

- 1. アクティビティ・タイプ** 新しいアクティビティの作成時に使用されるデフォルトのアクティビティ・タイプを指定します。通常、組織で最も頻繁に使用されるイベントまたはタスクのタイプを入力します。新しいイベントまたはタスクを作成すると、この処

理オプションに入力した値が自動的に「アクティビティ・タイプ」フィールドに入力されます。この値は、アクティビティ作成時に一時変更できます。

2. 所有者ID

新しいアクティビティを作成するときの「所有者ID」フィールドの表示方法を指定します。この処理オプションをブランクにすると、このフィールドには値が表示されず、アクティビティの所有者を手動で指定する必要があります。「1」を入力すると、このフィールドにアクティビティの入力者のユーザーIDが表示されます。必要に応じて値を一時変更できます。

上級デフォルト

1. 検索するカレンダー・タイプ

アクティビティを検索するときに使用するデフォルトのカレンダー・タイプを指定します。たとえば、他のどのタイプのカレンダーよりも個人カレンダーを検索することが多い場合は、このフィールドに「PERSONAL」と入力します。このフィールドの値はUDC 01/CYに保存されています。

2. 競合するアクティビティ

「上級」タブのアクティビティ状況のデフォルトを指定します。「1」を入力すると、完了済のアクティビティのみが表示されます。「0」を入力すると、未処理のアクティビティのみが表示されます。この処理オプションをブランクにすると、すべてのアクティビティが表示されます。

3. 優先度

アクティビティを検索するときに使用するデフォルトの優先度コードを指定します。この処理オプションをブランクにすると、優先度に関係なく、すべてのアクティビティが検索されます。値は次のとおりです。

- 1: 低
- 2: 中
- 3: 高

4. ID

アクティビティを検索するときに、「上級」タブの「ID」フィールドにユーザーIDを表示するかどうかを指定します。この処理オプションをブランクにすると、「ID」フィールドに値は表示されません。「1」を入力すると、このフィールドにユーザーIDが表示されます。

処理

この処理オプションを使用して、アクティビティ情報の処理時に使用されるデフォルト情報を指定します。

注意: アクティビティ・ホームページからこのプログラムにアクセスすると、アクティビティ・ホームページ・プログラムの処理オプションのデフォルト情報が使用されます。アクティビティ・ホームページ・プログラムの処理オプションがブランクではない場合は、次の処理オプションで設定したデフォルト情報は無視されます。

1. ユーザー・タイプ

CRMユーザーの場合は「CRM」と入力し、他のユーザーの場合はブランクにします。

2. 追加するアクティビティ のカレンダー・タイプ

アクティビティの作成時にアクティビティが関連付けられる、デフォルトのカレンダー・タイプを指定します。たとえば、個人カレンダーにアクティビティを追加することが多い場合は、「PERSONAL」と入力します。この値は、アクティビティの追加時に一時変更できます。

3. 追加するアクティビティ のデフォルトのタイプ

アクティビティを作成するときに使用するデフォルトのアクティビティ・タイプを指定します。値はUDC 01/ACに保存されています。

バージョン

1. 共通処理オプション (P01350) のバージョン アクティビティを検索または追加するときに使用される、アクティビティ共通処理オプション・プログラム (P01350) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

アクティビティ共通処理オプション (P01350) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、アクティビティ情報の処理時に使用されるデフォルト・バージョンを指定します。

バージョン

このタブには、各プログラムのバージョンを入力します。パートナ・プログラムの処理オプションを除き、次の処理オプションのいずれかを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。パートナ・プログラムのデフォルト・バージョンは ZJDE0009 です。次のプログラムのバージョンを指定できます。

- アクティビティ (P01301)
- 基本アクティビティ (P01302)
- リード管理 (P90CB010)
- オポチュニティ管理 (P90CB020)
- ケース管理 (P90CG501)
- CRM顧客マスター (P90CA080)
- CRM顧客連絡先 (P90CA08T)
- パートナ (P01012)

注意: この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0009 が使用されます。

- パートナ検索/選択 (P90CA050)
- 住所録1 (CRM以外) (P01012)
- 住所録2 (CRM以外) (P01012)

基本アクティビティの管理 (P01302) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、基本アクティビティの処理方法に関するデフォルト情報を指定します。

表示

1. IDタイプをフォームに表示する。 「アクティビティの編集」フォームに「IDタイプ」フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 表示しない。
 - 1: 表示する。
2. カレンダー・タイプをフォームに表示する。 「アクティビティの編集」フォームに「カレンダー・タイプ」フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 表示しない。

3. アクティビティ・タイプをフォームに表示する。

- 1: 表示する。

「アクティビティの編集」フォームに「アクティビティ・タイプ」フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

- ブランク: 表示しない。
- 1: 表示する。

デフォルト

1. 開始日時にシステム日付を使用する。

開始日付と終了日付のフィールドに現在のシステム日付を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

- ブランク: 表示しない。
- 1: 表示する。

アクティビティ・ホームページ(P01312)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、アクティビティ情報の処理方法に関するデフォルト情報を設定します。

バージョン

1. 共通処理オプション(P01350)のバージョン

アクティビティ・ホームページ・プログラムから情報にアクセスするときに使用する、アクティビティ共通処理オプション・プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

2. アクティビティ検索(P01300)のバージョン

アクティビティ・ホームページ・プログラムから情報にアクセスするときに使用する、アクティビティ検索プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

デフォルト

1. デフォルトのカレンダー・タイプ

この処理オプションを使用して、基本設定カレンダー・アプリケーションをメニューから直接起動したときに表示されるカレンダー・タイプを指定します。たとえば、デフォルト値PERSONALを使用できます。この場合、基本設定カレンダー・アプリケーションをメニューから直接起動すると、サインイン・ユーザーの個人カレンダーが表示されます。ただし、オポチュニティ・アプリケーションなどのCRMプログラムからカレンダーにアクセスする場合は、CRMシステムで設定されている値を使用して表示するカレンダー・タイプが決定されます。値はUDC 01/CYに保存されています。

2. イベント追加時のデフォルトのアクティビティ・タイプ

この処理オプションを使用して、カレンダーにイベントを追加するときに使用されるデフォルトのアクティビティ・タイプを指定します。通常、最も頻繁に作成するイベントのタイプを入力します。たとえば、組織が顧客への電話連絡を頻繁にスケジュールする場合は、この処理オプションに「CALL」と入力します。必要に応じてイベントの作成時にこの値を一時変更できます。値はUDC 01/ACに保存されています。

3. タスク追加時のデフォルトのアクティビティ・タイプ

この処理オプションを使用して、タスクの作成時に使用されるデフォルトのアクティビティ・タイプを指定します。通常、最も頻繁に作成するタスクのタイプを入力します。たとえば、組織がカレンダー機能を使用して完了する必要がある項目の通知を設定する場合は、この処理オプションに「TODO」と入

カして必須タスクを指定します。必要に応じてタスクの作成時にこの値を一時変更できます。値はUDC 01/ACに保存されています。

処理

1. ユーザー・タイプ

この処理オプションを使用して、通常カレンダーにアクセスするユーザーのタイプを指定します。この処理オプションを使用して、アクティビティ・ホームページでの情報の表示方法が決定されます。値は次のとおりです。

CRM: CRMユーザー

ブランク: CRM以外のユーザー

アクティビティの作成

「アクティビティの追加」フォームにアクセスします。

アクティビティ・ビュー - アクティビティの追加

保存して閉じる(O) 保存して新規追加(N) 変更を元に戻す(U) 取消(L)

詳細 定期処理 添付 設定 カテゴリ・コード

件名 * Meeting with SVM Inc.

アクティビティ・タイプ ミーティング

開始日付 * 2006/06/05 開始時刻 12:00 午後 終日

終了日付 * 2006/06/05 終了時刻 01:00 午後

場所 123 Main St. Suite 300 作成者 1001 AB Common

優先度 3 - 高 所有者

☐ 完了 完了日付

☒ 通知 1 日数 アクティビティ結果

関連

住所録1 4242 Capital System 連絡先1 Capital System

住所録2 連絡先2

記述

Meeting with SVM Purchasing Manager, Joe Smith, to discuss office supplies contract.

「アクティビティの追加」フォーム

または、「アクティビティ・ホームページ」フォームにアクセスして「アクティビティの追加」ボタンをクリックするか、カレンダー・グリッドをダブルクリックして「アクティビティの追加」フォームにアクセスします。

詳細

「詳細」タブを選択します。

件名

アクティビティについての説明を入力します。半角の英数字で31文字まで入力できます。これは必須フィールドです。

アクティビティ・タイプ

アクティビティのタイプを入力します。UDC 01/ACでアクティビティ・タイプの有効な値を設定します。これは必須フィールドです。

開始日付	アクティビティの開始日を入力します。
終了日付	アクティビティの終了日付を入力します。これは必須フィールドです。
場所	アクティビティを実施する場所を入力します。たとえば、ミーティングを行う会議室の部屋番号などを入力します。
開始時刻	開始時刻を入力して、「午前」または「午後」を選択します。24時間制のフォーマットで時刻を入力しても、認識されます。たとえば、「14:30」と入力した場合、照会時には「午後2:30」と再フォーマットされた形で表示されます。タスクや終日継続するアクティビティを入力する際は、このフィールドへの入力はありません。
終了時刻	アクティビティの終了時刻を入力して、「午前」または「午後」を選択します。24時間制のフォーマットも認識されます。タスクや終日継続するアクティビティを入力する際は、このフィールドへの入力はありません。
終日	終日継続するアクティビティであることを示す場合に選択します。
優先度	<p>アクティビティの優先度を入力します。優先度はハードコード化され、UDC 01/PTに保管されています。有効値は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 優先度 - 低 2: 優先度 - 中 3: 優先度 - 高
住所録1、顧客	アクティビティを割り当てた事業体の住所録番号を入力します。アクティビティ・アプリケーションの表示設定の処理オプションをブランクにすると、「住所録1」フィールドが表示されます。ここには、住所録マスター (F0101) に存在する住所録番号を入力する必要があります。この処理オプションの設定時に「CRM」を入力すると、「顧客」フィールドが表示されます。ここには、顧客テーブル (F90CA080) に存在する番号を入力する必要があります。
連絡先1、顧客連絡先	アクティビティを割り当てた連絡先の人名録番号を入力します。ここに指定するのは、「住所録1」または「顧客」フィールドに指定した住所録番号に登録されている有効な連絡先番号である必要があります。人名録番号0は、有効な連絡先として認識されません。アクティビティ・アプリケーションの表示設定の処理オプションをブランクにすると、「連絡先1」フィールドが表示されます。この処理オプションの設定時に「CRM」を入力すると、「顧客連絡先」フィールドが表示されます。
住所録2、パートナ	アクティビティを割り当てた追加の事業体の住所録番号を入力します。アクティビティ・アプリケーションの表示設定の処理オプションをブランクにすると、「住所録2」フィールドが表示されます。この処理オプションの設定時に「CRM」を入力すると、「パートナ」フィールドが表示されます。ここには、パートナ・テーブル (F90CA050) に存在する番号を入力する必要があります。
連絡先2、パートナ連絡先	アクティビティを割り当てた連絡先の人名録番号を入力します。人名録レコード番号0は、有効な連絡先として認識されません。ここに入力するのは、「住所録2」または「パートナ」フィールドに入力した住所録番号に登録された有効な連絡先番号である必要があります。アクティビティ・アプリケーションの表示設定の処理オプションをブランクにすると、「連絡先2」フィールドが表示されます。この処理オプションの設定時に「CRM」を入力すると、「パートナ連絡先」フィールドが表示されます。
完了	アクティビティを完了したことを示す場合に選択します。

通知 アクティビティについての通知を送信する場合に選択します。次に、通知を送る日時を指定する関連フィールドに値を入力します。

記述 アクティビティを説明する追加テキストを入力します。1,999文字まで入力できます。

添付

「添付」タブを選択します。

このフォームを使用してアクティビティに関連するテキスト、URL、ファイル、その他の添付書類を追加します。

設定

「設定」タブを選択します。

IDタイプ アクティビティのIDタイプを指定します。

カレンダー・タイプ アクティビティを追加するカレンダー・タイプを指定します。

ID 識別子を指定します。この値と「IDタイプ」および「カレンダー・タイプ」フィールドの値を使用して、アクティビティが属するカレンダーが決定されます。たとえば、従業員の個人カレンダーにアクティビティを追加するには、「IDタイプ」フィールドに「住所録」と入力し、「カレンダー・タイプ」フィールドに「個人」と入力して、このフィールドにその従業員の住所録番号を指定します。

カレンダーにアクティビティを表示 カレンダーにアクティビティを表示する場合に選択します。カレンダーにはイベントのみが表示されます。このオプションを選択すると、アクティビティがカレンダー・ビューに表示されます。

PIMサーバーと同期 アクティビティとPIMサーバーの同期を取る場合に選択します。Microsoft ExchangeまたはLotus Notesのいずれかのシステムと同期化できます。

カテゴリ・コード

「カテゴリ・コード」タブを選択します。

カテゴリ・コード1 から カテゴリ・コード5 UDC 01/AD、01/AE、01/AF、01AG、01/AHから有効なカテゴリ・コードを入力します。カテゴリ・コードを使用して、アクティビティ・レコードの情報をさらに定義できます。カテゴリ・コードはユーザー定義コードで、ビジネス・ニーズに合った情報を保存できます。

定期処理および担当者情報

これらの詳細情報は、この項の次のタスクを参照してください。

アクティビティの定期処理情報の入力

新しいアクティビティの作成時に定期処理情報を入力する場合は「アクティビティの追加」フォームにアクセスし、既存のアクティビティに定期処理情報を追加する場合は「アクティビティの編集」フォームにアクセスします。

アクティビティビュー - アクティビティの編集

保存して閉じる(O) 変更を元に戻す(U) 削除(D) 取消(L)

詳細 定期処理 添付 設定 カテゴリ・コード

定期パターン

☐ なし ☐ 毎 0 月数

☐ 日次

☐ 週次

☒ 月次

☐ 年次

☒ The 1 - 第1週 3 - 水曜 /

毎 1 月

定期処理の範囲

開始日付 2008/08/29 ☐ 終了(回数) 0 回発生後

☒ 終了(日付) 2009/06/03

「アクティビティの編集」フォーム: 「定期処理」タブ

定期処理

「定期処理」タブを選択します。



日次、週次、月次、年次 これらのオプションのうちいずれか1つを選択し、アクティビティを実行する頻度を指定します。次に、定期パターンの詳細を定義する関連フィールドに値を入力します。

終了(回数)、終了(日付) これらのオプションのうちいずれか1つを選択し、定期パターンを終了するタイミングを指定します。

アクティビティの担当者の管理

新しいアクティビティの作成時に担当者を入力する場合は「アクティビティの追加」フォームにアクセスし、既存のアクティビティの担当者を管理する場合は「アクティビティの編集」フォームにアクセスします。フォームの「担当者」セクションにスクロールします。

担当者

レコード 1 - 3 [グリッドのカスタマイズ](#)   

ID *	IDタイプ *	担当者 *	担当者名	電子メール アドレス	市外局番	電話番号
<input type="radio"/>	住所番号	6002	Abbott, Dominique	DAbbott@foundation.com		
<input checked="" type="radio"/>	住所番号	6001	Allen, Ray		303	3346067
<input type="radio"/>	住所番号					

「アクティビティの編集」フォーム: 「担当者」セクション

注意: CRMプログラムからこのフォームにアクセスした場合、または呼出し側のプログラム(エントリ・ポイント)の処理オプションでユーザー・タイプがCRMに設定されている場合には、次のフィールドの一部は表示されません。

IDタイプ アクティビティを割り当てる事業体のIDタイプを選択します。

ID アクティビティを割り当てる先のIDを入力します。

カレンダー・タイプ 「ID」フィールドで指定した値のカレンダー・タイプを入力します。

担当者にすぐに通知 担当者にタスクまたはイベントを通知する場合にクリックします。

担当者削除

グリッドで担当者を選択してこのオプションをクリックすると、その担当者がアクティビティから削除されます。

スピード追加を使用したタスクの追加

「アクティビティ・ホームページ」フォームにアクセスします。フォームの「タスクのスピード追加」セクションにスクロールします。

アクティビティ・ホームページ - アクティビティ・ホームページ 個人カレンダー - AB Common

閉じる(L)

アクティビティの検索

日 週 月

アクティビティの追加

3月 2 - 6, 2009

次

終日	月 2	火 3	水 4	木 5	金 6
8 午前					
9 午前					
10 午前					
11 午前					
12 午後					
1 午後					
2 午後					

タスク

タスク (0 期日超過)

タスクの追加(D)

タスク表示

期日 - 超過/本日(未完了)

レコードが取込まれていません。

グリッドのカスタマイズ

完了済 アクティビ ティ	件名	終了日 付	顧客名	Number 客
--------------------	----	----------	-----	-------------

タスクのスピード追加

件名

Get pricing sheet ready

顧客

4242

タスク・タイプ

To-Do or Task

終了日付

2009/03/02

タスクの追加

「アクティビティ・ホームページ」フォーム

このセクションのフィールドに値を入力して、「タスクの追加」をクリックします。ユーザーのカレンダーと指定した顧客または住所録番号のカレンダーにタスクが自動的に追加されます。事業体のカレンダーが存在しない場合はカレンダーが作成され、そのカレンダーにタスクが追加されます。

アクティビティの検索

「アクティビティの検索」フォームにアクセスします。

アクティビティ・ビュー - アクティビティの検索

閉じる(L)

基準 上級

件名 *

終了日付 *

アクティビティ・タイプ ミーティング

住所録1

所有者タイプ -- 1つ選択 --

所有者 *

クエリーの選択 クエリーの保存 クエリーの編集

検索(I) クリア(L)

追加 (D)

レコード 1 - 5 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	件名	アクティビティ タイプ	タスク	開始日付	終了日付	終日	定期	住所録1 記述
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Meeting with SMVW Inc.	MEETING	<input type="checkbox"/>	2006/07/06 13:00:00	2006/07/06 13:30:00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	AB Comm
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	UE Review Review	MEETING	<input type="checkbox"/>	2008/09/01 15:00:00	2008/09/01 16:00:00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Eastern A
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Lunch with Joe	MEETING	<input type="checkbox"/>	2008/09/05 12:00:00	2008/09/05 13:00:00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Eastern A
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	meeting	MEETING	<input type="checkbox"/>	2008/09/08 11:00:00	2008/09/08 12:00:00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Eastern A
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Recurring	MEETING	<input type="checkbox"/>	2008/09/08 13:00:00	2008/09/08 14:00:00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Eastern A

削除(D)

「アクティビティの検索」フォーム

「ID」フィールドに従業員を指定せずに、複数の割当先に割り当てたアクティビティを検索する場合は、所有者のアクティビティ・レコードのみが表示され、割当先のレコードは表示されません。

基本

「基本」タブを選択します。

アクティビティ・タイプ

検索するアクティビティのタイプを指定します。値はUDC 01/ACに保存されています。

所有者タイプ

検索するアクティビティの所有者タイプを指定します。次の値があります。

- 住所番号
- 事業所
- 会社
- 州/地域
- 組合
- 勤務スケジュール

所有者

検索するアクティビティの所有者を指定します。このフィールドの値は、「所有者タイプ」フィールドの値とともに使用されます。たとえば、「所有者タイプ」フィールドに「会社」と入力した場合は、このフィールドに有効な会社番号を入力します。

終了日付

アクティビティを表示する日付範囲の終了日付を入力します。入力した日付またはそれ以前に終了するすべてのアクティビティが表示されます。

顧客

アクティビティに関連付けられている顧客の住所録番号を入力します。

上級

「上級」タブを選択します。

カレンダー・タイプ

アクティビティが存在するカレンダーのタイプを指定します。たとえば、顧客に関するアクティビティを検索する場合は「CRM」と入力して、CRMカレンダーのみを検索します。

アクティビティ状況

検索するアクティビティの状況を指定します。完了済または未処理のアクティビティを検索できます。

優先度

検索するアクティビティの優先度レベルを指定します。

開始日付

イベントおよびタスクを表示する日付範囲の開始日付を入力します。入力した日付またはそれ以降に終了するすべてのイベントとタスクが表示されます。

IDを特定しない場合、日付範囲は最大で62日間に制限されます。

終了日付

イベントおよびタスクを表示する日付範囲の終了日付を入力します。定期イベントおよびタスクを表示するには、このフィールドに日付を入力する必要があります。入力した日付またはそれ以前に開始されるすべてのイベントとタスクが表示されます。

所有者タイプ

検索するアクティビティの所有者タイプを指定します。次の値があります。

- 住所番号
- 事業所
- 会社
- 州/地域
- 組合
- 勤務スケジュール

所有者

検索するアクティビティの所有者を指定します。このフィールドの値は、「所有者タイプ」フィールドの値とともに使用されます。たとえば、「所有者タイプ」フィールドに「会社」と入力した場合は、このフィールドに有効な会社番号を入力します。

IDタイプ

検索するアクティビティに関連付けられているIDタイプを指定します。次の値があります。

- 住所番号
- 事業所
- 会社
- 州/地域
- 組合
- 勤務スケジュール

IDタイプ

検索するアクティビティに関連付けられているIDのタイプを指定します。

ID

検索するIDを入力します。このフィールドの値と「IDタイプ」フィールドの値を使用して、表示するアクティビティが決定されます。たとえば、「IDタイプ」フィールドに「住所録」と入力した場合は、このフィールドに有効な住所録

番号を入力します。入力した住所録番号に関連付けられているアクティビティが検索されます。

関連

次のいずれかのフィールドに値を入力して、次の事業体に関連付けられているアクティビティを検索します。

- 顧客
- 顧客連絡先
- パートナ
- パートナ連絡先
- リード
- オポチュニティ
- ケース

定期アクティビティのみ

定期アクティビティのみを検索する場合に選択します。

別のユーザーのアクティビティの表示

「アクティビティ・ホームページ」フォームにアクセスします。フォームの「アクティビティの表示」セクションにスクロールします。

「アクティビティ・ホームページ」フォーム

表示するユーザーとカレンダー・タイプを指定して「検索」をクリックします。指定した条件を満たすカレンダーが存在しない場合は、空のカレンダーとタスク・グリッドが表示されます。

アクティビティの状況の更新

「アクティビティの編集」フォームまたは「アクティビティ・ホームページ」フォームにアクセスします。

アクティビティ・ビュー - アクティビティの編集

保存して閉じる(O) 変更を元に戻す(U) 削除(D) 取消(L)

詳細 定期処理 添付 設定 カテゴリ・コード

件名 *	Meeting with SWM Inc.		
アクティビティ・タイプ	ミーティング		
開始日付 *	2006/06/07	開始時刻	12:00 午後 <input type="checkbox"/> 終日
終了日付 *	2006/06/07	終了時刻	01:00 午後
場所	123 Main St Suite 300		
優先度	3 - 高		
<input checked="" type="checkbox"/> 完了			
<input checked="" type="checkbox"/> 通知	1	日数	
作成者	1001	AB Common	
所有者	1001	AB Common	
完了日付	2006/01/11		
アクティビティ結果	.		

「アクティビティの編集」フォーム

「アクティビティの編集」フォームの「完了」オプションを選択して、アクティビティの状況を更新できます。また、「アクティビティ・ホームページ」フォームを使用してタスクの状況も更新できます。「タスク」セクションで更新するタスクを検索し、グリッドで「完了」オプションを選択して、「完了」をクリックします。

注意: アクティビティを再び未処理にするには、「アクティビティの編集」フォームにアクセスします。

アクション・プランの作成

この項では、アクション・プランの概要と、次の方法について説明します。

- アクション・プランの設定
- アクション・プランへのアクティビティの追加

アクション・プランについて

アクション・プラン・プログラム(P01401)を使用して、テンプレートとして使用する関連アクティビティをグループ化できます。たとえば、新規顧客の取得時に、フォローアップ電話連絡をしたり先方の情報をシステムに入力するなどの一連のアクティビティをアクション・プランに設定できます。アクション・プランは、同じイベントやタスクのセットを使用する場合に何度でも使い回しできます。

アクション・プランの作成後、複数のJD Edwards EnterpriseOne CRMプログラムを使用して、住所録番号やCRMケースなどの様々な事業体に関連するアクティビティをアクション・プランを使用して作成できます。アクション・プランを特定の事業体に関連付けると、担当者のカレンダーに関連するイベントが表示されます。アクション・プランの一部として作成したイベントとタスクは、アクション・プランの関連付けを行うまではF01301テーブルには作成されません。

アクション・プランの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
アクション・プランの検索	W01401C	「基本設定カレンダー」(G01A)、「アクション・プラン」	既存のアクション・プランを検索します。
アクション・プランの追加	W01401D	「アクション・プランの検索」フォームで「追加」をクリックします。	新規のアクション・プランを作成します。
アクション・プラン - 編集	W01401B	<ul style="list-style-type: none"> 「アクション・プランの検索」フォームで「編集」をクリックします。 「アクション・プランの追加」フォームで「変更の保存」をクリックします。 	既存のアクション・プランを編集します。 新規のプランにアクティビティを追加します。
アクティビティ・テンプレートの追加	W01401E	「アクション・プラン - 編集」フォームの「アクティビティ・テンプレート」タブで、「追加」をクリックします。	アクション・プランにアクティビティを追加します。

アクション・プランの設定

「アクション・プランの追加」フォームにアクセスします。

アクション・プラン - アクション・プランの追加

変更の保存(V) 変更を元に戻す(U) 閉じる(L)

アクション・プラン名 * New customer

記述
Tasks and activities required for a new customer.

入力者 1001 AB Common

変更の保存(V) 変更を元に戻す(U) 閉じる(L)

「アクション・プランの追加」フォーム

アクション・プラン名 半角の英数字80文字以内のアクション・プラン名を入力します。

記述 半角の英数字1,999文字以内でプランについての説明を入力します。

アクション・プランへのアクティビティの追加

「アクティビティ・テンプレートの追加」フォームにアクセスします。

アクティビティ・テンプレートの追加

アクティビティ・テンプレート

保存して新規追加(N) 変更の保存(V) 変更を元に戻す(U) 取消(L)

件名 * Phone call アクティビティ・タイプ 発信

担当者 6002 Abbott, Dominique

優先度 * 2 - 中

完了までの日数

開始時刻 00:00 -- 1つ選択 -- 終了時刻 00:00 -- 1つ選択 --

記述

「アクティビティ・テンプレートの追加」フォーム

- 件名** アクティビティ名を入力します。アクティビティ名を表す37文字以内のテキストを半角の英数字で入力します。このアクティビティ名は、アクション・プランにアクセスしてアクティビティ・テンプレートから実際にアクティビティを生成する際に表示されます。
- アクティビティ・タイプ** アクティビティの実行内容を入力します。アクション・プランにアクセスしてアクティビティ・テンプレートから実際にアクティビティを生成する際に、このアクティビティ・タイプが使用されます。
- 担当者** アクティビティを割り当てる事業体の住所録番号を入力します。アクション・プランを関連付けると、プランに関連付けしたユーザーおよびこのフィールドで指定した住所録番号先にアクティビティが割り当てられます。このフィールドを空白にすると、アクション・プランを関連付けたユーザーのみにアクティビティが割り当てられます。
- 優先度** アクティビティの優先度を入力します。

完了までの日数

アクティビティの開始日を決めるために、アクティビティ完了までの日数を入力します。「0」を入力すると、アクション・プランの関連付けを行った日にアクティビティが開始されます。

開始時刻、終了時刻

イベントの開始時刻と終了時刻を入力します。これらのフィールドへの値の入力は必須ではありません。「開始時刻」フィールドを空白にすると、アクション・プランを関連付けるときに、ユーザーのカレンダーの開始時刻がイベントのデフォルト開始時刻として使用されます。

注意: アクティビティ・タイプがタスクの場合、これらのフィールドは表示されません。

記述

アクティビティに関する追加指示を入力します。

第 7 章

住所録セルフサービスの使い方

この章では、JD Edwards住所録システム内のセルフサービス・アプリケーションの概要と、次の方法について説明します。

- 住所録の改訂プログラム (P01012) のセルフサービスの使用方法
- 住所録セルフサービス・プログラム (P01012SS) の使用方法

住所録セルフサービスについて

JD Edwards住所録システムのセルフサービス・プログラムを使用することで、顧客および仕入先は、各自の住所録情報をオンラインで検討したり改訂したりできます。顧客および仕入先は、次の2つのプログラムの1つを使用して、各自の情報を更新できます。

- 住所録の改訂プログラム
- 住所録セルフサービス・プログラム

顧客と仕入先が住所録の改訂プログラムを使用して更新できるのは、各自の郵送先住所、電話番号、人名録情報、および11から30までのカテゴリ・コードの情報のみです。一方、住所録セルフサービス・プログラムでは、各自のユーザー・プロファイルと、会社分類コード、株式取引、銘柄コードなどの情報を更新できます。

住所録の改訂プログラムのセルフサービスの使用方法

この項では、住所録の改訂プログラムのセルフサービスの概要、および住所録の改訂プログラムのセルフサービス機能をアクティブにする方法について説明します。

住所録の改訂プログラムのセルフサービスについて

顧客および仕入先が住所録の改訂プログラムのセルフサービスを使用できるようにするには、このプログラムの「セルフサービス」処理オプションに「1」または「2」を入力する必要があります。「1」を入力すると、顧客に対してセルフサービス機能がアクティブになります。「2」を入力すると、仕入先に対してセルフサービス機能がアクティブになります。

住所録の改訂プログラムのセルフサービス機能をアクティブにすることで、顧客および仕入先は各自の住所録レコードの次の情報を更新できます。

- 郵送先住所
- 電話番号

- 連絡先
- 連絡先関連の電話番号、電子メール・アドレス、関係先情報、代替住所

住所録の改訂プログラムのセルフサービス機能のアクティブ化

住所録の改訂プログラムの処理オプションを使用して、セルフサービス機能をアクティブにします。

参照: 第 4 章、「住所録レコードの入力」、「住所録の改訂 (P01012) の処理オプションの設定」、39 ページ

住所録セルフサービス・プログラムの使用方法

この項では、住所録セルフサービス・プログラムと連絡先セルフサービス・プログラムの概要、および次の方法について説明します。

- 住所録セルフサービス (P01012SS) の処理オプションの設定
- 住所録セルフサービス・プログラムの使用方法
- 連絡先セルフサービス・プログラムの使用方法

住所録セルフサービス・プログラムについて

顧客や仕入先などの外部ユーザーは、住所録セルフサービス・プログラム (P01012SS) を使用して、各自の住所録情報をオンラインで検討したり改訂したりすることができます。住所録セルフサービス・プログラムの処理オプションを使用して、外部ユーザーに各自の情報の更新を許可するか、または確認のみ許可するかのいずれかを指定できます。

住所録セルフサービス・プログラムには、タブが 4 つあります。「一般情報」、「連絡先」、「仕入先情報」、「顧客情報」の 4 つです。住所録レコードに仕入先マスターと顧客マスターのレコードがある場合に、仕入先情報と顧客情報が表示されます。

外部ユーザーは、住所録セルフサービス・プログラムを使用して、各自の会社の住所録レコードに対して次の操作を行うことができます。

- 郵送先住所情報の更新
- 有効住所情報の更新 (住所録固定情報の「有効日付別住所の設定」チェックボックスを選択した場合)
- ユーザー・プロファイル情報の更新
- 会社情報の更新 (次の情報を含む)
 - 税ID番号
 - 免税
 - 分類コード値
 - 株式取引 (証券取引所)
 - ティッカー記号 (銘柄コード)
 - 従業員数
 - 開始年度
 - 増加率 (収益伸び率)

- 年間収益
- DUNS 番号

関連項目:

第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 住所録システムの設定」、「固定情報の設定」、11 ページ

第 4 章、「住所録レコードの入力」、「住所録レコードへの人名録情報の追加」、48 ページ

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理 9.0 製品ガイド、「仕入先情報の入力」、「サプライヤ・セルフサービス・プログラムの使い方」

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 9.0 製品ガイド、「顧客マスター情報の設定」、「カスタマ・セルフサービス・プログラムの利用」

連絡先セルフサービス・プログラムについて

住所録セルフサービス・プログラムを使用する際、外部ユーザーは、連絡先セルフサービス・プログラム (P0111SS) にアクセスして各自の会社の人名録情報を更新できます。顧客および仕入先は、連絡先セルフサービス・プログラムを使用して、次の操作を行うことができます。

- 住所録レコードに登録されている電話番号および電子メール・アドレスの更新または削除
- 連絡先の更新、追加、削除
- 連絡先の電話番号、電子メール・アドレス情報の更新、追加、削除
- 主連絡先の指定

住所録および連絡先情報の更新に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
セルフサービス - 住所録レコードの更新	W01012SSA	「セルフサービス・アプリケーション」(4/G01101)、「住所録セルフサービス」	住所録情報を更新します。 連絡先情報を更新します。
連絡先を住所録に変換	W0111SSB	「セルフサービス - 住所録レコードの更新」フォームで「連絡先」タブの連絡先名を選択します。	既存の連絡先情報を更新します。 連絡先の電話番号、電子メール・アドレスを追加、更新、削除します。
住所録レコードに連絡先を追加	W0111SSB	「セルフサービス - 住所録レコードの更新」フォームで「新規連絡先の追加」をクリックします。	新規連絡先を追加します。

住所録セルフサービス (P01012SS) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、デフォルトの会社電話番号タイプ、ユーザーによる情報更新の許可/不許可を設定します。また、住所録、仕入先マスター、顧客マスター、連絡先の各マスター・ビジネス関数のデフォルト・バージョンを指定します。

タイプ

1. 会社電話番号タイプ 「連絡先」タブに表示するデフォルトの電話番号タイプを指定します。ユーザー定義コード(UDC)テーブル01/PHから値を選択します。

入力

1. 住所更新の許可 ユーザーによる住所情報の更新を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: ユーザーによる住所情報の更新を許可する。
1: ユーザーによる住所情報の更新を許可しない。

MFBのバージョン

1. 住所録マスター・ビジネス関数(P0100041)のバージョン 使用する住所録MBFプログラムのバージョンを指定します。
2. 仕入先マスター・ビジネス関数(P0100043)のバージョン 使用する仕入先MBFプログラムのバージョンを指定します。
3. 連絡先マスター・ビジネス関数(P0100087)のバージョン 使用する連絡先MBFプログラムのバージョンを指定します。
4. 顧客マスター・ビジネス関数(P0100042)のバージョン 将来使用のために予約されています。

住所録セルフサービス・プログラムの使用方法

「セルフサービス - 住所録レコードの更新」フォームにアクセスします。

住所録セルフサービス - セルフサービス - 住所録レコードの更新

保存して閉じる(O) 取消(L)

会社名: **AB Common** 住所録番号: **1001**

一般情報 連絡先 仕入先情報 顧客情報

郵送宛名 第2郵送宛名

住所

住所行1

住所行2

住所行3

住所行4

市町村 州/都道府県 郵便番号

郡 国 [フォーマット済み表示](#)

「セルフサービス - 住所録レコードの更新」フォーム (1/3)

会社統計

税ID 株式取引

免税 銘柄コード

分類コード01 従業員数

分類コード02 開始年度

分類コード03 増加率

分類コード04 年間収益

分類コード05 D-U-N-S No. - -

「セルフサービス - 住所録レコードの更新」フォーム (2/3)

電話

レコード 1-2			グリッドのカスタマイズ
	市外局番	電話番号	電話タイプ
<input checked="" type="radio"/>	555	111-1111	職場
<input type="radio"/>			-- 1つ選択 --

電子メール・アドレス

レコード 1-2		グリッドのカスタマイズ
	電子メールアドレス	電子メールアドレス・タイプ
<input type="radio"/>	annette.walters@ABC.com	電子メール・アドレス
<input checked="" type="radio"/>		-- 1つ選択 --

「セルフサービス - 住所録レコードの更新」フォーム (3/3)

「セルフサービス - 住所録レコードの更新」フォームで更新可能なフィールドは、「住所録の改訂」フォーム、「電話番号」フォーム、「電子メール/インターネットの改訂」フォームに表示されるフィールドと同じです。

フォーマット済み宛名ラベル宛名ラベルおよびレポートに出力される形式で郵送先住所を表示するには、このリンクをクリックします。住所フォーマットは、国別固定情報の改訂プログラム (P0070) で国別に指定します。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 住所録システムの設定」、「国別固定情報について」、12 ページ

参照: 第 4 章、「住所録レコードの入力」、「住所録レコードの追加」、41 ページ

参照: 第 4 章、「住所録レコードの入力」、「住所録レコードへの電話番号の追加」、48 ページ

参照: 第 4 章、「住所録レコードの入力」、「人名録レコードへの電子メール/インターネット・アドレス情報の追加」、55 ページ

連絡先セルフサービス・プログラムの使用方法

「連絡先を住所録に変換」フォームにアクセスします。

住所録 - 連絡先を住所録に変換

保存して閉じる(O)

取消(L)

会社名

AB Common

住所録No.

1001

連絡先情報

名前/役職

名称

Joe Smith

名

ミドル・ネーム

姓

連絡先タイプ

意思決定者

指定連絡方法

.

役職

CFO

性別

.

「連絡先を住所録に変換」フォーム (1/2)

電話

レコード 1-3

グリッドのカスタマイズ

	市外局番	電話番号	電話タイプ
<input type="radio"/>	555	111-1212	職場
<input checked="" type="radio"/>	555	111-1213	ファックス
<input type="radio"/>			-- 1つ選択 --

削除(D)

電子メール・アドレス

レコード 1-2

グリッドのカスタマイズ

	電子メール アドレス	電子メール アドレス・タイプ
<input checked="" type="radio"/>	joe.smith@ABC.com	電子メール・アドレス
<input type="radio"/>		-- 1つ選択 --

「連絡先を住所録に変換」フォーム (2/2)

「連絡先を住所録に変換」フォームで更新可能なフィールドは、「人名録」フォーム、「電話番号」フォーム、「電子メール/インターネットの改訂」フォームに表示されるフィールドと同じです。

参照: 第 4 章、「住所録レコードの入力」、「人名録レコードの追加」、52 ページ; 第 4 章、「住所録レコードの入力」、「人名録レコードへの電話番号の追加」、54 ページ および 第 4 章、「住所録レコードの入力」、「人名録レコードへの電子メール/インターネット・アドレス情報の追加」、55 ページ

第 8 章

住所録レコードの更新と除去

この章では、住所録の更新および除去プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 有効日付による住所録レコードの更新
- カテゴリ・コードの更新
- 住所録とメッセージ・ログ・レコードの除去
- (BRA)ブラジルの住所録レコードの除去

住所録の更新プログラムと除去プログラムについて

住所録の情報は、定期的に更新または除去する必要があります。住所録レコードの情報を個別に更新するには、住所録の改訂プログラム(P01012)を使用します。複数の住所録レコードを同時に更新する場合は、有効住所の更新プログラム(R01840)またはカテゴリ・コード一括更新プログラム(R01490)を使用します。

住所録レコードを除去するには、住所録レコードの除去プログラム(R01800P)を使用します。

有効日付による住所録レコードの更新

この項では、住所録の更新の概要、事前設定、および有効住所の更新プログラム(R01840)の実行方法について説明します。

住所録の更新について

住所録固定情報プログラム(P0000)の「有効日付別住所の設定」を有効にした場合は、定期的に有効住所の更新プログラム(R01840)を実行して、通信文、請求書、支払、その他の郵便物の郵送先として、最新の住所が使用されるようにする必要があります。有効住所の更新プログラムを実行しないかぎり、住所録レコードは有効な住所に更新されません。

R01840プログラムを実行すると、住所録マスター(F0101)の情報が日付別住所テーブル(F0116)の有効日付を基に現在有効な住所に更新されます。すべての住所を更新する必要がない場合は、データ選択を使用して、更新する住所録レコードを限定できます。このプログラムには処理オプションはありません。

今日の日付以外の日付を基準日として住所を更新するためのバージョンを設定することもできます。たとえば、郵送日に有効な住所を出力するために、今日以外の日付を基準日とした住所を生成できます。

注意: R01840プログラムによって、R730101プログラムが自動的に実行されます。これは、Vertexを使用しているクライアントが対象です。

事前設定

この項のタスクを実行する前に、住所録固定情報プログラムで「有効日付別住所の設定」オプションが選択されていることを確認します。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの設定」、「固定情報の設定」、11ページ

有効住所の更新プログラムの実行

「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「有効住所更新」を選択します。

カテゴリ・コードの更新

この項では、カテゴリ・コード更新の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- カテゴリ・コード一括更新プログラムの実行
- カテゴリ・コード一括更新 (R01490) の処理オプションの設定

カテゴリ・コードの更新について

住所録レコードを入力した後、カテゴリ・コード情報の変更が必要になることがあります。JD Edwards住所録システム全体に変更を反映させるには、カテゴリ・コード一括更新プログラムを実行します。すべての住所録レコードを対象にカテゴリ・コードの変更を反映させたり、住所録レコードを指定して更新できます。

特定の住所録レコードだけを更新する場合は、処理オプションを使用してカテゴリ・コードごとに更新対象レコードを指定するか、処理オプションはブランクにして、データ選択を使用して更新対象レコードを指定できます。

処理オプションを設定して、変更されたレコードをレポートに出力します。この処理オプションを設定しない場合は、バッチ完了に関するメッセージがワークフローに送信されます。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行する前に、住所録マスターのコピーを保存します。

カテゴリ・コード一括更新プログラムの実行

「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「カテゴリ・コード一括更新」を選択します。

カテゴリ・コード一括更新 (R01490) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

選択基準

- | | |
|---|--|
| 1. 住所番号 | 特定の住所番号のカテゴリ・コードを更新する場合に、住所録番号を指定します。 |
| 2. 従業員 | 従業員のカテゴリ・コード値を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
N: しない。
Y: する。 |
| 3. 顧客 | 顧客のカテゴリ・コード値を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
N: しない。
Y: する。 |
| 4. 仕入先 | 仕入先のカテゴリ・コード値を更新するかどうか、および更新対象となる仕入先タイプを指定します。値は次のとおりです。
F: 海外仕入先。
M: その他、単発取引の仕入先。
N: しない。
Y: する。 |
| 5. レポートを作成するには、「1」を入力してください。 | レポートを印刷するには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、レポートは印刷されません。 |
| 6. ブランクのカテゴリコードを空白のまま更新するには、「1」を入力してください。 | 空白になっているカテゴリ・コード・フィールドを空白値のまま更新する場合は、「1」を入力してください。 |

住所フィールド

- | | |
|-------------|---------------------|
| 5. ビジネスユニット | 将来使用するための処理オプションです。 |
| 6. 与信メッセージ | 将来使用するための処理オプションです。 |
| 7. 検索タイプ | 将来使用するための処理オプションです。 |

カテゴリ・コード1-15

- | | |
|---------------|-----------------------|
| カテゴリ・コード1-15 | 変更するカテゴリ・コードの値を入力します。 |
| カテゴリ・コード16-30 | 変更するカテゴリ・コードの値を入力します。 |

住所録とメッセージ・ログ・レコードの除去

この項では、住所録レコードとメッセージ・ログの除去の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 住所録レコードの除去プログラムの実行
- 住所録レコードの除去 (R01800P) の処理オプションの設定
- メッセージ・ログの除去プログラムの実行
- メッセージ・ログの除去 (R01131P) の処理オプションの設定

住所録とメッセージ・ログの除去について

住所録レコードの除去プログラムを使用して、住所録マスターと次の関連テーブルからレコードを除去します。

- F0030 - 銀行/支店マスター
- F0030W - 銀行口座/仕入先番号ワークテーブル
- F01092 - 補足データベース - コード
- F01093 - 補足データベース - 説明
- F0111 - 住所録 - 人名録
- F0115 - 住所録 - 連絡先電話番号
- F01151 - 電子メール/インターネット・アドレス
- F01112 - 関連先
- F0116 - 日付別住所
- F01161 - 代替住所
- F0150 - 住所組織構造マスター
- F03012 - 業種別顧客マスター
- F0401 - 仕入先マスター
- F01815 - 住所録語句検索マスター

トランザクション・テーブルに関連する支払人や住所録レコードが存在する場合、住所録レコードは除去されません。レポートを最終モードで実行する処理オプションを設定すると、他のテーブルに対応するレコードがない場合、レコードはデータベースから削除されます。関連テーブルがあるかどうか不明な場合は、必ずテストモードで実行してから、最終モードで実行するようにしてください。

JD Edwards 電子メール・システムを使用している場合は、メッセージ・ログの除去プログラム (R01131P) を実行することで、PPATメッセージ制御ファイル (F01131) テーブルとJDEMマルチレベル・メッセージ (F01131M) テーブルからメッセージ・ログ・レコードを定期的に除去する必要があります。処理オプションで、メッセージの状況にかかわらず日付によりメッセージを除去するかどうかを指定し、日付で除去する場合はその日付範囲を指定します。日付範囲を指定しない場合は、削除済のタスクだけが自動的に対象に指定され、除去されます。

事前設定

この項のタスクを実行する前に、すべてのユーザーがシステムからサインオフしていることを確認してください。

住所録レコードの除去プログラムの実行

「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「住所録レコードの除去」を選択します。

住所録レコードの除去(R01800P)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

1. レポート

住所録レコードの除去レポート(R01800P)で、除去されたレコードを表示するかどうかを指定します。除去したレコードを出力しないように指定した場合、結果レポートに出力されるのは処理されたレコード数と除去されたレコード数のみです。値は次のとおりです。

ブランク: レポートにレコードを表示しない。

1: レポートにレコードを表示する。

2. 処理モード

住所録レコードの除去プログラムをテスト・モードで実行するか、最終モードで実行するかを指定します。警告: このレポートを最終モードで実行すると、住所録および関連するテーブルのレコードが削除されます。レコードを完全に削除してもよいか不明の場合は、必ずテスト・モードで実行してください。

このプログラムを最終モードで実行すると、住所録マスター(F0101)および関連テーブルからデータが除去されます。除去の対象となるテーブルは、F0030、F0030W、F01092、F01093、F0111、F0115、F01151、F01112、F0116、F01161、F0150、F03012、F0401、F01815です。またレポートには、処理したレコード数と除去したレコード数が表示されます。

テスト・モードで実行すると、処理したレコード数および最終モードで実行した場合に除去されるレコード数を示すレポートが表示されます。値は次のとおりです。

ブランク: プログラムをテスト・モードで実行する。

1: プログラムを最終モードで実行する。

メッセージ・ログの除去プログラムの実行

「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「メッセージ・ログの除去」を選択します。

メッセージ・ログの除去(R01131P)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

1. 状況に関係なく、日付に基づいてタスクを除去するには、「1」を入力してください。

状況に関係なく日付でタスクを除去するかどうかを指定します。ブランクの場合、削除済のタスクのみが自動的に除去されます。

開始日付

開始日付を指定します。日付範囲を指定した削除を行う場合に、この開始日付で除去対象のレコードが選択されます。

終了日付

終了日付を指定します。日付範囲を指定した削除を行う場合に、この終了日付で除去対象のレコードが選択されます。

(BRA)ブラジルの住所録レコードの除去

この項では、Purge Brazilian Address Book Tag Filesプログラム(R76011P)の概要、および次の方法について説明します。

- Purge Brazilian Address Book Tag Filesプログラムの実行
- Purge Brazilian Address Book Tag Files(R76011P)の処理オプションの設定

ブラジルの住所録タグ・ファイルの除去プログラムについて

住所録の除去プログラム(R01800P)を実行後、ブラジルの住所録の除去プログラムを実行します。ブラジルの住所録の除去プログラムを最終モードで実行すると、住所録ブラジル・タグ・テーブル(F76011)から、住所録マスター(F0101)に対応するレコードのないすべてのレコードが除去されます。次に、F76011テーブルから除去された各レコードについて、住所録ブラジル・タグのアーカイブ・テーブル(F76011P)にレコードが書き込まれます。テーブルF76011とF76011Pには、同じフィールドが含まれています。

Purge Brazilian Address Book Tag Filesプログラムの実行

「Brazilian Localization Setup」(G76B41B)、「Purge Brazilian Address Book Tag Files」を選択します。

Purge Brazilian Address Book Tag Files(R76011P)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションを使用して、プログラムをテスト・モードまたは最終モードのどちらで実行するか、および除去されるレコードの情報を表示するかどうかを指定します。

1. Report Output

プログラムを最終モードで実行したときに除去されるレコードをレポートに一覧表示するかどうかを指定します。レコードを一覧表示し、プログラムをテスト・モードで実行するように指定すると、プログラムを最終モードで実行したときに除去されるレコードがレポートに一覧表示されます。レコードを一覧表示しないように指定した場合は、レポートには除去されるレコードの数のみが表示されます。値は次のとおりです。

ブランク: レコードを一覧表示しない。

1: レコードを一覧表示する。

2. Processing Mode

レポートをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モード。R76011Pを最終モードで実行したときに除去されるレコードの合計数を示すレポートが生成されます。R76011Pの「レポート出力」処理オプションを「1」に設定すると、レポートには、R76011Pを最終モー

ドで実行したときに除去されるレコードも一覧表示されます。プログラムをテスト・モードで実行した場合は、レコードの削除と除去は行われません。

1: 最終モード。住所録ブラジル・タグ・テーブル (F76011) からレコードが除去され、除去されたレコードと同一のレコードが住所録ブラジル・タグのアーカイブ・テーブル (F76011P) に書き込まれ、除去されたレコードの数を示すレポートが出力されます。R76011P の「レポート出力」処理オプションを「1」に設定すると、レポートには、除去されたレコードも一覧表示されます。

第 9 章

住所録レコードのバッチ処理

この章では、バッチ処理の概要と、次の方法について説明します。

- バッチ住所録レコードの追加
- 住所録バッチ情報のアップロード
- 顧客マスター・バッチ情報のアップロード
- 仕入先マスター・バッチ情報のアップロード
- 人名録バッチ情報のアップロード
- 未処理バッチの改訂
- 処理済バッチの改訂
- 住所録バッチの除去

バッチ処理について

バッチ処理を使用すると、外部ソースにある住所録、顧客、仕入先、連絡先（人名録）情報を変換して、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムに転送できます。外部ソースの住所情報を変換するには、該当するバッチ入力テーブルの指定フィールドに外部システムからのデータを転送するためのカスタム・プログラムを作成する必要があります。

カスタム・プログラムの作成では、次のバッチ入力テーブルのフィールドに適切なデータが入力されるようプログラムを設定する必要があります。

- 住所録 – インタオペラビリティ (F0101Z2)
- 業種別顧客マスター – バッチ (F0301Z1)
- 仕入先マスター – バッチ・アップロード (F0401Z1)
- バッチ – 人名録情報 (F0111Z1)
- バッチ – 関連先 (F0111Z2)
- 電話番号 – インタオペラビリティ (F0115Z1)
- バッチ – 電子メール・アドレス (F01151Z1)
- バッチ – 代替住所 (F01161Z1)

住所録レコードをアップロードするには、いくつかのフィールドへの入力が必要ですが、補足フィールドへの詳細情報の入力は任意です。これ以外のフィールドは、無視されるか、ユーザー用として予約されています。

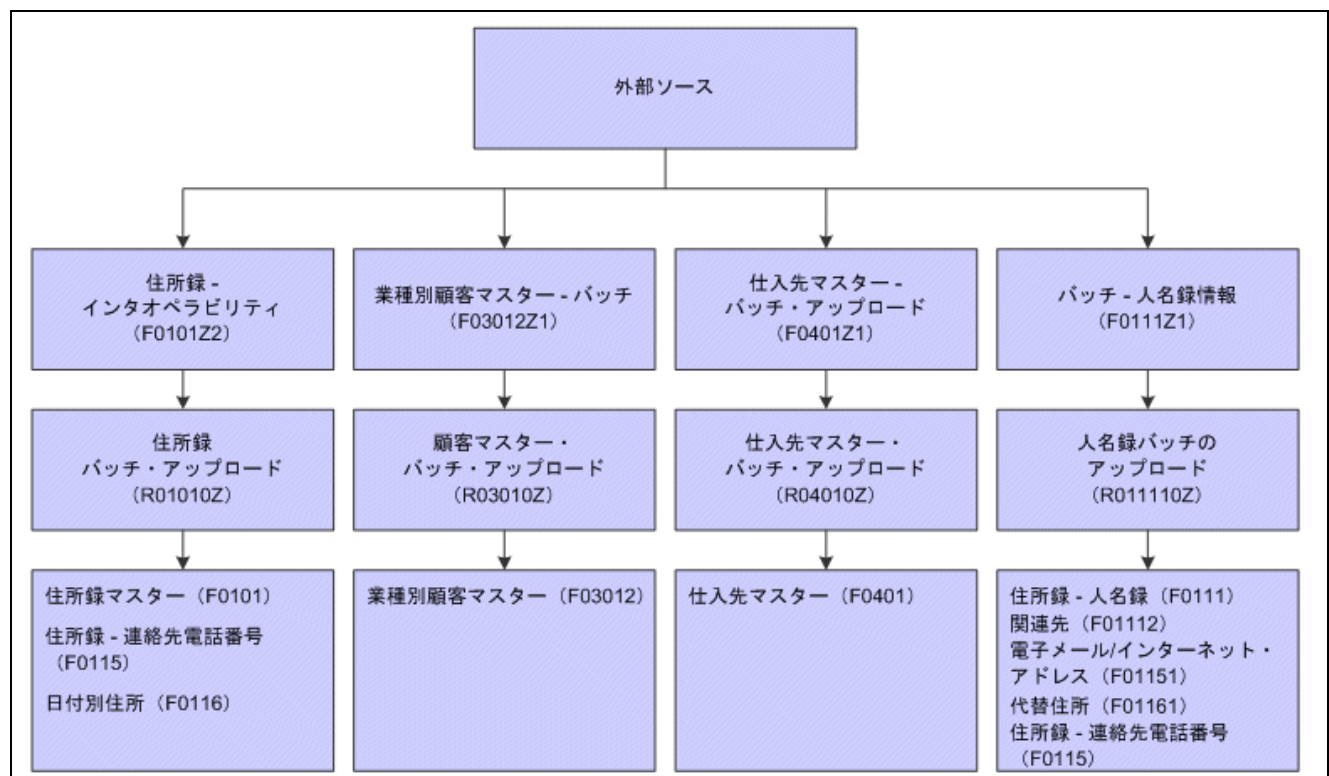
参照: 付録 A、「バッチ処理用のフィールドのマッピング、」155ページ

外部ソースの情報をバッチ入力テーブルに転送した後、住所録、顧客マスター、仕入先マスター、連絡先（人名録）情報について、確認や追加、改訂、削除を行うことができます。その後、バッチ・アップロード・プログラムを実行して、JD Edwards EnterpriseOneの該当するマスター・テーブルに情報を転送します。バッチ・アップロード・プログラムには次のような機能があります。

- 住所録マスター（F0101）に住所録レコードを作成する。
- 業種別顧客マスター（F03012）に住所録レコードを作成する（該当する場合）。
- 仕入先マスター（F0401）に住所録レコードを作成する（該当する場合）。
- 人名録テーブル（F0111）に住所レコードを作成する（該当する場合）。
- 関連先テーブル（F01112）にレコードを作成する。
- 電子メール/インターネット・アドレス・テーブル（F01151）にレコードを作成する。
- 代替住所テーブル（F01161）にレコードを作成する。
- 住所録番号を割り当てる（該当する場合）。
- ブランクのフィールドのデータを処理する。
- レポートを作成する。

バッチ・アップロード・プログラムは処理が完了すると、正常にアップロードされたレコード数、正常に処理されたレコード数、および処理されなかったレコードを示すレポートを生成します。処理されなかったレコードは、修正してアップロード・プログラムを再度実行できます。処理済の各バッチは、除去される時点まで、各バッチ入力テーブルに保存されます。

次の図は、JD Edwards住所録システムのバッチ処理を示しています。



住所録のバッチ処理

バッチ住所録レコードの追加

この項では、バッチ・レコードの概要、および新しいバッチを作成してレコードを追加する方法について説明します。

バッチ・レコードについて

外部システムから適切なバッチ入力テーブルへのデータの転送後は、バッチ・レコードを追加して既存のバッチは変更できません。この場合、新しくバッチ・レコードを作成して、そこにレコードを追加する必要があります。通常はこの操作は必要とされません。ただし、バッチ・レコードで特定のフィールドを改訂できない場合は、そのバッチ・レコードを一度削除して、バッチ改訂のプログラムを使って新しくレコードを追加できます。

バッチ・レコードは次のテーブルのうちの1つまたは複数に存在します。

- 住所録 – インタオペラビリティ (F0101Z2)
- 業種別顧客マスター – バッチ (F0301Z1)
- 仕入先マスター – バッチ・アップロード (F0401Z1)
- バッチ – 人名録情報 (F0111Z1)
- バッチ – 関連先 (F0111Z2)
- バッチ – 電子メール・アドレス (F01151Z1)
- 電話番号 – インタオペラビリティ (F0115Z1)
- バッチ – 代替住所 (F01161Z1)

バッチ住所録レコードの追加に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチ住所録の改訂	W0101Z1A	「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「住所録バッチ改訂」 「バッチ住所録の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	新しいバッチを作成およびレコードを追加します。
バッチ顧客マスターの改訂	W0301Z1B	「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「顧客マスター・バッチ改訂」 「顧客マスターバッチの処理」フォームで「追加」をクリックします。	顧客のバッチ・レコードを追加します。
バッチ仕入先マスターの改訂	W0401Z1A	「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「仕入先マスター・バッチ改訂」 「バッチ仕入先マスターの処理」フォームで「追加」をクリックします。	仕入先のバッチ・レコードを追加します。
人名録 - バッチの改訂	W01111Z1B	「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「人名録バッチの改訂」 「人名録バッチ情報の処理」フォームで「追加」をクリックします。	人名録のバッチ・レコードを追加します。

新しいバッチの作成およびレコードの追加

「バッチ住所録の改訂」、「バッチ顧客マスターの改訂」、「バッチ仕入先マスターの改訂」、または「人名録 - バッチの改訂」フォームにアクセスします。

トランザクションNo. トランザクション番号を入力します。電子データ交換(EDI)を使用しない場合は、バッチ内のトランザクションを識別するために、任意の番号を指定できます。JD Edwards EnterpriseOneの伝票番号と同じにすることもできます。

アクション トランザクションで実行する処理を示すコードを入力します。EDIトランザクションでは、トランザクション・セット目的コードや変更コードを表します。

会社 業種別(会社別)処理で使用される会社番号を入力します。デフォルト会社(00000)に対しては追加レコードが自動的に作成されます。このフィールドをブランクにすると、会社00000のみが割り当てられます。

住所録バッチ情報のアップロード

この項では、住所録バッチ・アップロード・プロセスの概要、および次の方法について説明します。

- 住所録バッチ・アップロード・プログラムの実行
- 住所録バッチ・アップロード(R01010Z)の処理オプションの設定

住所録バッチ・アップロード・プログラムについて

外部ソースの住所録情報を変換し、住所録 - インタオペラビリティ・テーブルに転送した後で、住所録バッチ・アップロード・プログラム(R01010Z)を使用して情報を処理し、次のテーブルを更新します。

- 住所録マスター(F0101)
- 住所録 - 人名録(F0111)
- 住所録 - 連絡先電話番号(F0115)
- 日付別住所(F0116)

JD Edwards住所録システムで重複レコードの検証を有効にしている場合、住所録バッチ・アップロード・プログラムで重複レコードが検出されたときにメッセージが表示されます。メッセージのタイプに応じて、次のいずれかの処理が行われます。

- エラーの場合、ワーク・センターにメッセージが送信され、エラーの詳細情報を確認できます。住所録レコードのバッチは処理されません。
- 警告の場合、住所録レコードのバッチは更新されます。このとき、ワーク・センターのメッセージにはエラーが発生した状態でバッチが作成されたことが表示され、レポートのメッセージにはレコードの処理が正常に行われたことが表示されます。住所録レコードのバッチは処理されます。

参照: 第 4 章、「住所録レコードの入力」、35ページ

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 住所録バッチ・アップロード・プログラムを実行する前に、住所録バッチ・レコードの確認を行い、必要に応じて改訂してください。
- (CHL)チリのレコードをアップロードするための事前設定は、次のとおりです。
 - PO - 住所録バッチ・アップロード・プログラム(R76H101Z1)の処理オプションを設定します。
 - F76H101Zテーブルのチリ向けの追加の必須住所録フィールドに、適切なデータを入力します。
 - PO - 住所録バッチ・アップロード・プログラムと住所録バッチ・アップロード・プログラムのバージョンが一致していることを確認します。
- (PER)ペルーのレコードをアップロードするための事前設定は、次のとおりです。
 - PO - 住所録バッチ・アップロード・プログラムの処理オプションを設定します。
 - F76P101Zテーブルのペルー向けの追加の必須住所録フィールドに、適切なデータを入力します。
 - PO - 住所録バッチ・アップロード・プログラムと住所録バッチ・アップロード・プログラムのバージョンが一致していることを確認します。

参照: 第 9 章、「住所録レコードのバッチ処理」、「未処理バッチの改訂」、148ページ

住所録バッチ・アップロード・プログラムの実行

「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「住所録バッチ・アップロード」を選択します。

住所録バッチ・アップロード(R01010Z)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

バージョン詳細

1. 住所録MBF(P0100041) レポートに使用する住所録MBFプログラム(P0100041)のバージョンを指定します。このフィールドをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

処理

1. 処理モード このレポートをテスト・モードで実行するか、最終モードで実行するかを指定します。テスト・モードでは、レポートの出力のみ行われます。最終モードでは、レポートが出力され、住所録マスターと次の該当するテーブルが更新されます。
 - 住所録 - 人名録(F0111)
 - 電子メール/インターネット・アドレス(F01151)
 - 日付別住所(F0116)値は次のとおりです。
ブランク: テスト・モード
1: 最終モード

顧客マスター・バッチ情報のアップロード

この項では、顧客マスター・バッチ・アップロード・プログラム(R03010Z)の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 顧客マスター・バッチ・アップロード・プログラムの実行
- 顧客マスター・バッチ・アップロード(R03010Z)の処理オプションの設定

顧客マスター・バッチ・アップロード・プログラムについて

顧客情報のアップロードを行う前に、住所録マスターに住所録番号が定義されている必要があります。顧客マスター・バッチ・アップロード・プログラムの実行時に、業種別顧客マスター - バッチ・テーブル(F03012Z1)の「住所録」フィールドに住所録番号を入力します。

顧客マスター・バッチ・アップロード・プログラムは、処理済の住所録レコードにアクセスし、F03012Z1テーブルから該当する顧客情報を取り込んで業種別顧客マスターにアップロードします。

顧客レコードに親番号が関連付けられている場合は、親/子関係を個別に入力する必要があります。バッチ処理で親番号は追加できません。親番号は住所組織構造マスター(F0150)に保存されます。

注意: 住所録MBF(P0100041)の独自のバージョンを作成する場合、同じ名前で顧客MBFプログラム(P0100042)を作成する必要があります。これは、顧客マスター・バッチ・アップロード・プログラムの処理オプションに、住所録MBFのバージョンを入力するオプションがないためです。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 住所録バッチ・アップロード・プログラムを実行して、住所録情報を処理します。
- 顧客マスター・バッチ・アップロード・プログラムを実行する前に、顧客マスター・バッチ・レコードの確認を行い、必要に応じて改訂してください。

参照: 第 9 章、「住所録レコードのバッチ処理」、「未処理バッチの改訂」、148ページ

顧客マスター・バッチ・アップロード・プログラムの実行

「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「顧客マスター・バッチ・アップロード」を選択します。

顧客マスター・バッチ・アップロード(R03010Z)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

バージョン

1. 顧客マスターMBF (P0100042)

このレポートに使用する顧客MBFプログラムのバージョンを指定します。このフィールドを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

処理

1. 処理モード

このレポートをテスト・モードで実行するか、最終モードで実行するかを指定します。テスト・モードでは、レポートの出力のみ行われます。最終モードでは、このレポートが出力され、業種別顧客マスターが更新されます。値は次のとおりです。

空白: プログラムをテスト・モードで実行する。

1: プログラムを最終モードで実行する。

仕入先マスター・バッチ情報のアップロード

この項では、仕入先マスター・バッチ・アップロード・プログラム(R04010Z)の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 仕入先マスター・バッチ・アップロード・プログラムの実行
- 仕入先マスター・バッチ・アップロード(R04010Z)の処理オプションの設定

仕入先マスター・バッチ・アップロード・プログラムについて

変換した外部仕入先情報のアップロードを行う前に、住所録マスターに住所録番号が定義されている必要があります。仕入先マスター・バッチ・アップロード・プログラム(R04010Z)の実行時に、仕入先マスター・バッチ・アップロード・テーブルの「住所録」フィールドに住所録番号を入力します。

仕入先マスター・バッチ・アップロード・プログラムは、処理済の住所録レコードにアクセスし、F0401Z1テーブルから該当する仕入先情報を取り込んで、仕入先マスターにアップロードします。

仕入先レコードに親番号が関連付けられている場合は、親/子関係を個別に入力する必要があります。バッチ処理で親番号は追加できません。親番号は住所組織構造マスターに保存されます。

注意: 住所録MBFの独自のバージョンを作成する場合、同じ名前で仕入先MBF(P0100043)を作成する必要があります。これは、仕入先マスター・バッチ・アップロード・プログラムの処理オプションに、住所録MBFのバージョンを入力するオプションがないためです。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 住所録バッチ・アップロード・プログラムを実行して、住所録情報を処理します。
- 仕入先マスター・バッチ・アップロード・プログラムを実行する前に、仕入先バッチ・レコードの確認を行い、必要に応じて改訂してください。

参照: 第 9 章、「住所録レコードのバッチ処理」、「未処理バッチの改訂」、148ページ

仕入先マスター・バッチ・アップロード・プログラムの実行

「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「仕入先マスター・バッチ・アップロード」を選択します。

仕入先マスター・バッチ・アップロード(R04010Z)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

バージョン

- | | |
|-----------------------------|---|
| 1. 仕入先マスターMBF
(P0100043) | このレポートに使用する仕入先MBFプログラムのバージョンを指定します。
このフィールドを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
|-----------------------------|---|

処理

- | | |
|----------|--|
| 1. 処理モード | このレポートをテスト・モードで実行するか、最終モードで実行するかを指定します。テスト・モードでは、レポートの出力のみ行われます。最終モードでは、このレポートが出力され、仕入先マスターが更新されます。値は次のとおりです。

空白: このプログラムをテスト・モードで実行する。
1: このプログラムを最終モードで実行する。 |
|----------|--|

人名録バッチ情報のアップロード

この項では、人名録バッチのアップロード・プログラム(R011110Z)の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 人名録バッチのアップロード・プログラムの実行
- 人名録バッチのアップロード(R011110Z)の処理オプションの設定

人名録バッチのアップロード・プログラムについて

変換した外部人名録情報のアップロードを行う前に、住所録マスターに住所録番号が定義されている必要があります。人名録バッチのアップロード・プログラムの実行時に、バッチ - 人名録情報テーブル (F0111Z1) の「住所録」フィールドに住所録番号を入力します。

人名録バッチのアップロード・プログラムは、処理済の住所録レコードにアクセスし、F0111Z1テーブルから該当する人名録情報を取り込んで、次のテーブルにアップロードします。

- 住所録 - 人名録 (F0111)
- 関連先 (F01112)
- 住所録 - 連絡先電話番号 (F0115)
- 電子メール/インターネット・アドレス (F01151)
- 代替住所 (F01161)

人名録バッチのアップロード・プログラムで人名録レコードが正常に処理された後、F0111Z1テーブルのバッチ番号、トランザクション番号、ユーザーIDを使用して、F01161Z1、F01151Z1、F0115Z1、F01112Z1テーブル内の人名録情報の検索が行われます。バッチ - 人名録情報テーブルで一致する値のレコードが検出されると、正常に処理されていないレコードが次の順番で選択されます。

1. F01161Z1
2. F01151Z1
3. F01112Z1
4. F0115Z1

電話番号情報の処理時には、データの追加選択が行われ、関連先の電話番号の処理が先に行われます。次に、連絡先の電話番号が処理されます。F01112Z1テーブルの「EDI行No.」(EDLN)フィールドの値によって、電話番号レコードが関連先か人名録レコードであるかが決定されます。電話番号レコードが連絡先用である場合、EDLNフィールドの値は0です。

人名録バッチのアップロード・プログラムの実行時に子レコード(電話番号、電子メール・アドレスなど)でエラーが発生した場合、エラーとなった部分を修正後に再処理ができます。正常に処理されたレコードと未処理のレコードは両方とも、人名録バッチのアップロードのレポートに出力されます。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 住所録バッチ・アップロード・プログラムを実行して、住所録情報を処理します。
- 人名録バッチのアップロード・プログラムを実行する前に、人名録バッチ・レコードの確認を行い、必要に応じて改訂してください。

参照: 第 9 章、「住所録レコードのバッチ処理」、「未処理バッチの改訂」、148ページ

人名録バッチのアップロード・プログラムの実行

「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「人名録バッチのアップロード」の選択

人名録バッチのアップロード(R011110Z)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

オプション

1. 子テーブルのアップロード

子テーブルのレコードをアップロードするかどうかを指定します。対象となるのは次のテーブルです。

- バッチ - 代替住所 (F01161Z1)
- バッチ - 関連先 (F01112Z1)
- バッチ - 電子メール・アドレス (F01151Z1)
- 電話番号 - インタオペラビリティ (F0115Z1)

値は次のとおりです。

ブランク: 子テーブルのレコードをアップロードしない。

1: 子テーブルのレコードをアップロードする。

2. 住所の同期化(将来使用)

連絡先情報の入力時に、住所録マスターと代替住所のテーブルを同期するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 同期化しない。

1: 同期化する。

未処理バッチの改訂

この項では、正常に処理が行われなかったバッチの概要、および未処理のバッチ・レコードを改訂する方法について説明します。

正常に処理が行われなかったバッチについて

アップロード・プログラムの実行後は、バッチを確認して、正常に処理されたバッチと処理されなかったバッチを特定します。正常に処理されなかったバッチは、改訂する必要があります。

正常に処理されなかったバッチ・レコードは、次のバッチ入力テーブルに保管されます。

- 住所録 - インタオペラビリティ (F0101Z2)
- 業種別顧客マスター - バッチ (F03012Z1)
- 仕入先マスター - バッチ・アップロード (F0401Z1)
- バッチ - 人名録情報 (F0111Z1)
- バッチ - 関連先 (F01112Z1)
- 電話番号 - インタオペラビリティ (F0115Z1)
- バッチ - 電子メール・アドレス (F01151Z1)
- バッチ - 代替住所 (F01161Z1)

バッチが正常に処理されなかった場合は、適切なフォームを使用してレコードを修正し、アップロード・プログラムを再度実行します。これにより、該当するバッチ入力テーブルのレコードが更新されます。

未処理バッチの改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチ住所録の改訂	W0101Z1A	「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「住所録バッチ改訂」 「バッチ住所録の処理」フォームで、レコードを選択して「選択」をクリックします。	住所録の未処理のバッチ・レコードを改訂します。
顧客マスターバッチの処理	W0301Z1B	「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「顧客マスター・バッチ改訂」 バッチを選択し、「顧客マスターバッチの処理」フォームで「選択」をクリックします。	顧客の未処理のバッチ・レコードを改訂します。
バッチ仕入先マスターの処理	W0401Z1A	「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「仕入先マスター・バッチ改訂」 バッチを選択し、「バッチ仕入先マスターの処理」フォームで「選択」をクリックします。	仕入先の未処理のバッチ・レコードを改訂します。
人名録バッチ情報の処理	W0111Z1B	「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「人名録バッチの改訂」	人名録(連絡先)の未処理のバッチ・レコードを改訂します。
電話 - バッチの改訂	W0111Z1G	バッチを選択して、「人名録バッチ情報の処理」フォームの「ロー」メニューから「電話番号」を選択します。	人名録レコードの電話番号を入力します。


未処理バッチ・レコードの改訂

「バッチ住所録の改訂」、「バッチ顧客マスターの改訂」、「バッチ仕入先マスターの改訂」、または「人名録 - バッチの改訂」フォームにアクセスします。

次の例では、「バッチ住所録の改訂」フォームを示しています。

住所録バッチ改訂 - バッチ住所録の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)


バッチNo.

トランザクションNo.

102151

ユーザーID

住所番号

アクション

A

追加

タブを選択: 1-住所録

名称

詳細住所No.

フリガナ

検索タイプ

税ID

ビジネスユニット

「バッチ住所録の改訂」フォーム

処理済バッチの改訂

この項では、正常に処理されたバッチの概要と、処理済バッチの改訂に使用するフォームについて説明します。

正常に処理されたバッチについて

アップロード・プログラムの実行後は、バッチを確認して、正常に処理されたバッチと処理されなかったバッチを特定します。正常に処理が行われていても、誤りのあるバッチは改訂する必要があります。

正常に処理されたバッチ・レコードは次のテーブルに保管されます。

- ・住所録マスター(F0101)
- ・業種別顧客マスター(F03012)
- ・仕入先マスター(F0401)
- ・住所録 - 人名録(F0111)

- 関連先 (F01112)
- 電子メール/インターネット・アドレス (F01151)
- 代替住所 (F01161)
- 住所録 - 連絡先電話番号 (F0115)

バッチ・レコードの処理が正常に完了しても誤りがある場合は、該当するフォームを使用してレコードを訂正します。

処理済バッチの改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
住所録の改訂	W01012A	「日次処理」(G0110)、「住所録の改訂」 「住所の処理」フォームで「選択」をクリックします。	処理済の住所録レコードを改訂します。
顧客マスターの改訂 (P03013)	W03013B	「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「顧客マスター情報」 「顧客マスターの処理」フォームで「選択」をクリックします。	処理済の顧客マスター・レコードを改訂します。
仕入先マスターの改訂 (P04012)	W04012A	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「仕入先マスター情報」 「仕入先マスターの処理」フォームで「選択」をクリックします。	処理済の仕入先マスター・レコードを改訂します。
連絡先情報の処理	W01111A	「日次処理」(G0110)、「住所録の改訂」 「住所の処理」フォームの「ロー」メニューから「人名録」を選択します。「人名録」フォームの「ロー」メニューから連絡先情報を選択します。	処理済の連絡先情報レコードを処理します。

住所録バッチの除去

この項では、住所録バッチ除去プログラムの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 住所録バッチ除去プログラムの実行
- 住所録バッチ除去 (R0101Z1P) の処理オプションの設定

住所録バッチ除去プログラムについて

住所録、仕入先マスター、顧客マスター、連絡先情報バッチの正常なアップロードと処理が完了し、レコードが次のいずれかのマスター・テーブルにある場合、バッチを除去できます。

住所録バッチ除去プログラム(R0101Z1P)の処理オプションの設定に応じて、処理済のすべてのバッチが次の1つまたは複数のバッチ入力テーブルから除去されます。

- 住所録 – インタオペラビリティ(F0101Z2)
- 業種別顧客マスター – バッチ(F0301Z1)
- 仕入先マスター – バッチ・アップロード(F0401Z1)
- バッチ – 人名録情報(F0111Z1)
- バッチ – 関連先(F0111Z2)
- バッチ – 電子メール・アドレス(F01151Z1)
- バッチ – 代替住所(F01161Z1)

各バッチ入力テーブルでは、処理済バッチの「処理済」フィールド(EDSP)に1またはYが表示され、レコードが正常に処理されたことを示します。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、次のバッチ入力テーブルをバックアップする必要があります。

- 住所録 – インタオペラビリティ(F0101Z2)
- 業種別顧客マスター – バッチ・テーブル(F0301Z1)
- 仕入先マスター – バッチ・アップロード(F0401Z1)
- バッチ – 人名録情報(F0111Z1)
- バッチ – 関連先(F0111Z2)
- バッチ – 電子メール・アドレス(F01151Z1)
- バッチ – 代替住所(F01161Z1)
- 電話番号 – インタオペラビリティ(F0115Z1)

住所録バッチ除去プログラムの実行

「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「住所録バッチ除去」を選択します。

住所録バッチ除去(R0101Z1P)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理オプション

1. 顧客マスター・バッチ・テーブルの除去

業種別顧客マスター – バッチ・テーブルで、検索タイプC(顧客)を持つすべての処理済レコードを除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 処理済の顧客レコードを除去しない。

1: 処理済の顧客レコードを除去する。

2. 仕入先マスター・バッチ・テーブルの除去

仕入先マスター - バッチ・アップロード・テーブルで、検索タイプV(仕入先)を持つすべての処理済レコードを除去するかどうか指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 処理済の仕入先レコードを除去しない。

1: 処理済の仕入先レコードを除去する。

3. 住所録バッチ・テーブルの除去

住所録 - インタオペラビリティ・テーブルと、該当する場合は次のテーブルにあるすべての処理済レコードを除去するかどうかを指定します。

- バッチ - 人名録情報(F0111Z1)
- バッチ - 関連先(F01112Z1)
- バッチ - 代替住所(F01161Z1)
- バッチ - 電子メール・アドレス(F01151Z1)
- 電話番号 - インタオペラビリティ(F0115Z1)

値は次のとおりです。

ブランク: 処理済レコードを除去しない。

1: 処理済レコードを除去する。

付録 A

バッチ処理用のフィールドのマッピング

この付録では、次のバッチ処理テーブルのフィールドのマッピングについて説明します。

- 住所録 – インタオペラビリティ (F0101Z2)
- 業種別顧客マスター – バッチ (F0301Z1)
- 仕入先マスター – バッチ・アップロード (F0401Z1)
- バッチ – 人名録情報 (F0111Z1)
- バッチ – 関連先 (F0111Z2)
- 電話番号 – インタオペラビリティ (F0115Z1)
- バッチ – 電子メール・アドレス (F0115Z1)
- バッチ – 代替住所 (F0116Z1)

住所録 – インタオペラビリティ・テーブル (F0101Z2) のフィールドのマッピング

この項では、F0101Z2テーブルのフィールドの一覧を記載します。一部のフィールドは住所録バッチ・アップロード・プログラム (R01010Z) の実行において必須フィールドとなります。その他は省略可能です。すべてのフィールドが住所録フォームで表示されたり、住所録システムで使用されるわけではありません。

必須フィールド

この表はF0101Z2テーブルの必須フィールドの一覧です。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザーID	SZEDUS	文字	10	ユーザー定義のID番号。R01010Zプログラムの実行者のユーザーIDか、従業員ワーク・センターのメッセージ受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドと、SZEDTNおよびSZEDBTの各フィールドを組み合わせることにより、トランザクションが一意に識別されます。
EDI-バッチ番号	SZEDBT	文字	15	住所録バッチ・アップロード・プログラムの実行者が各バッチに割り当てる番号。このフィールドが変更されるたびに、新しいバッチ番号が自動的に割り当てられます。処理する各トランザクション・グループに1つのバッチ番号を割り当てることで、パフォーマンスを大幅に向上できます。
EDI-トランザクション番号	SZEDTN	文字	22	各トランザクションを識別する番号。トランザクション番号ごとに、異なる住所録レコードを示します。1つのバッチには、番号の重複したトランザクションが存在することはできません。このフィールドには通常、送信者がトランザクションを簡単に識別できるよう、ソース・システムの伝票番号が入力されます。
EDI-行番号	SZEDLN	数値	7	レコードを個別に識別する番号。各トランザクションには、連続する複数の行番号を含めることができます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 処理済	SZEDSP	文字	1	<p>トランザクションが正常に処理されたかどうかを示す値。このフィールドはブランクにしてください。Nは、トランザクションが処理されなかったか、処理中にエラーが発生したことを示します。</p> <p>トランザクションが正常に終了すると、値がYに変わります。</p>
トランザクション・アクション	SZTNAC	文字	1	<p>実行するトランザクションの処理を示す値。Aは新規トランザクションを示します。Dは削除を示します。Aは追加を示し、Cは既存の伝票の変更を示します。変更処理は、追加処理後に行う必要があります。</p> <p>送信処理の場合、このフィールドはUA(変更後トランザクション)またはUB(変更前トランザクション)のいずれかに自動的に更新されます。住所録MBF(P0100041)の処理オプションがオンになっている場合にのみ、UBが使用されます。</p> <p>送信処理では、追加には「A」を、削除には「D」を入力することもできます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ビジネスユニット	SZMCU	文字	12	<p>セキュリティの保護のために使用するビジネスユニットを識別する値。このフィールドの値は、トランザクション入力プログラムでも使用されます。特定のAAI(自動仕訳)の主科目と連結して、勘定科目コードを構成することもできます。このフィールドをブランクにすると、自動的に1が割り当てられます。</p> <p>値は、ビジネスユニット・マスター(F0006)に存在する必要があります。</p>
税ID	SZTAX	文字	20	<p>様々な納税先で入力が必要の税IDコード。これは、社会保障番号(米国)、国税、州税、または法人用の税ID、売上税番号などです。</p> <p>このフィールドは、検索タイプ・フィールド(SZAT1)がEで、国コードがUSまたはCANの場合に限って必須になります。</p>
名称	SZALPH	文字	40	<p>検索機能を最適化するため通常は姓、名の形式で入力する名称。語句検索プログラム(P01BDWRD)では、このフィールドが使用されます。</p>
検索タイプ	SZAT1	文字	3	<p>レコードの分類を示す値。仕入先、顧客、従業員、会社などの分類項目があります。このフィールドには、UDCテーブル01/ST(検索タイプ)で定義されている値を入力する必要があります。</p>

任意フィールド

次のF0101Z2テーブルのフィールドは、任意のフィールドです。これらのフィールドを使用して、トランザクションに関する追加情報を提供できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	SZTYTN	文字	8	トランザクションのタイプを識別する値。 このフィールドをブランクにすると、住所録MBF(P0100041)の「トランザクション・タイプ」処理オプションが指定されている場合はその値が使用されます。 送信処理を使用する場合は、必須フィールドとなります。
送受信インディケータ	SZDRIN	文字	1	バッチ・ジョブが、受信処理、送信処理のどちらであるかを示す番号。 受信処理の場合は、「0」(ゼロ)を入力します。 送信処理の場合は、このフィールドはブランクにします。このフィールドは、レコードが“変更前”に指定されている場合は1、“変更後”であれば2に更新されます。住所録MBF(P0100041)の処理オプションにより、テーブルに変更前トランザクションの書込みを行うかどうかを指定します。
EDI - 処理済明細行数	SZEDDL	数値	5	特定のトランザクションに含まれる明細行数の数。このフィールドは参考情報としてのみ使用されます。
取引先ID	SZPNID	文字	15	電子データ交換(EDI)で、取引先を識別するために使用する値。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
住所番号	SZAN8	数値	8	<p>仕入先、顧客、従業員、会社などを識別する固有の値。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、住所録システムの自動採番テーブル (F0002) を基に自動的に番号が割り当てられます。</p> <p>このフィールドに値を入力する場合、SZTNACフィールドの値がC (既存レコードの変更) に指定されている場合を除き、住所録マスター (F0101) にある値は使用できません。住所録マスターに値が存在する場合は、トランザクションが重複しているとみなされ、処理は実行されません。</p> <p>注意: このフィールドはSZTNACフィールドがC (既存レコードの変更) の場合に必須です。</p>
詳細住所番号	SZALKY	文字	20	<p>システムで割り当てられた形式以外の住所録レコードを識別する値。通常、このフィールドには旧システムの住所番号を入力し、JD Edwards EnterpriseOneシステムで割り当てられた住所録番号との相互参照に使用します。値をこのフィールドに入力する場合、他の住所録レコードに存在する値は使用できません。他のレコードに同じ値がある場合は、重複レコードとして扱われ、処理されません。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
産業分類コード	SZSIC	文字	10	標準産業分類(SIC)など、商品とサービスを分類するコード。
言語	SZLNGP	文字	2	<p>フォームおよびレポートで使用する言語を示すコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル01/LP(使用言語)に存在している必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、処理を実行しているユーザーのプロファイルに指定された言語が使用されます。言語が指定されていない場合は、システムのデフォルト言語が使用されます。</p>
与信メッセージ	SZCM	文字	2	顧客、または仕入先に関する特定の情報を表示するコード。このフィールドには、UDCテーブル00/CM(与信メッセージ)で定義されている値を入力する必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
個人/法人コード	SZTAXC	文字	1	<p>納税者のタイプを示すコード。米国ユーザーの場合、SZTAXフィールドとあわせて次のいずれかのコードを使用します。</p> <p>C: 法人 P: 個人 N: 自営業</p> <p>1099レポートについては、PとNのコードの仕入先が選択されます。</p> <p>米国以外のユーザーの場合、SZTAXフィールドとあわせて次のいずれかのコードを使用します。</p> <p>1: 個人 2: 法人</p>
売掛金/買掛金相殺インディケーター	SZAT2	文字	1	<p>顧客と仕入先が売掛金/買掛金相殺の対象となるかどうかを示すオプション。値は次のとおりです。</p> <p>Y: 売掛金/買掛金相殺の対象です。「相殺状況」フィールドの値が1(相殺承認済)になっている住所番号について、請求書と伝票が更新されます。</p> <p>N: 売掛金/買掛金相殺の対象外です。「相殺状況」フィールドの値が0(相殺無効)になっている住所番号について、請求書と伝票が更新されます。</p>
住所タイプ3	SZAT3	文字	1	将来使用のために予約されたコード。
住所タイプ4	SZAT4	文字	1	将来使用のために予約されたコード。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
住所タイプ - 売掛金	SZATR	文字	1	住所録レコードが顧客かどうかを示すコード。値には、YとNがあります。
住所タイプ5	SZAT5	文字	1	将来使用のために予約されたコード。
住所タイプ - 買掛金	SZATP	文字	1	住所録レコードが仕入先かどうかを示すコード。有効値はY（はい）、N（いいえ）、M（その他、単発の仕入先）、F（海外仕入先）です。このフィールドには、UDCテーブルH01/AS（住所タイプ - 買掛金）で定義されている値を入力する必要があります。
住所タイプ - コード、 購買者	SZATPR	文字	1	住所録レコードの参照用としてデータ辞書に定義できるコード。
その他のコード	SZAB3	文字	1	将来使用のために予約されたコード。
住所タイプ - 従業員	SZATE	文字	1	住所録レコードが従業員のものかどうかを示すコード。値には、YとNがあります。
補助元帳無効コード	SZSBLI	文字	1	ブランクは住所録番号を補助元帳として使えることを示します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
開始有効日	SZEFTB	日付	6	<p>住所録レコードが始めて有効になる日付。データベースで使用可能な形式で指定します。データベースによっては、グレゴリオ暦の日付形式 (mmddyyまたはyyymmdd) が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式で入力する必要がある場合があります。</p> <p>ユリウス暦の日付は、cyyddd (cは世紀数下1桁) という形式で表します。21世紀のトランザクションには「1」を入力します。たとえば、6/1/2005 (2005年6月1日) はユリウス暦では105152になります。6/1/04 (2004年6月1日) は104153になります (2000年は2月29日があるうるう年のためです)。</p>
住所番号 - 第1	SZAN81	数値	8	<p>関連住所録番号 (販売担当者、法律事務所、会計士など)。多くの住所録プログラムでは、関連住所番号を基にレコードを照会できます。</p> <p>このフィールドの入力値は、バッチ処理の実行前にテーブルに値が存在する必要があります。したがって、関連住所録番号を入力する場合は、先に関連住所レコードを処理する必要があります。</p>
住所番号 - 第2	SZAN82	数値	8	<p>SZAN81フィールドの説明を参照してください。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
住所番号 - 第3	SZAN83	数値	8	SZAN81フィールドの説明を参照してください。
住所番号 - 第4	SZAN84	数値	8	SZAN81フィールドの説明を参照してください。
住所番号 - 第5	SZAN86	数値	8	SZAN81フィールドの説明を参照してください。
ファクタ/代替受取人	SZAN85	数値	8	買掛管理で代替支払先の住所を識別する住所録番号。 このフィールドの入力値は、バッチ処理の実行前にF0101テーブルに値が存在する必要があります。
住所録カテゴリ・コード01から30	SZAC01 - SZAC30	文字	3	カテゴリ・コード。カテゴリ・コード・フィールドには、対応するUDCテーブル01/01から01/30で定義されている値を入力する必要があります。 買掛管理システムでは、カテゴリ・コード07は1099レポート用に使用されます。
銀行勘定科目	SZGLBA	文字	8	住所録レコードに関連付けられた銀行勘定科目を識別する値。このフィールドは参照情報で、JD Edwards EnterpriseOneの会計処理で使用されることはありません。会計トランザクションに関連付けられている銀行勘定科目は、AAI(自動仕訳)に基づいて更新されます。
時間 - 帰社予定	SZPTI	数値	6	ユーザーの帰社予定時間。HH.MMの形で入力します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
日付 - 帰社予定	SZPDI	日付	6	<p>ユーザーの帰社予定日付。データベースで使用可能な形式で指定します。データベースによっては、グレゴリオ暦の日付形式が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式で入力する必要がある場合があります。</p> <p>詳細は、SZEBDT フィールドの説明を参照してください。</p>
アクション - メッセージ制御	SZMSG	文字	1	<p>ワークフローのメッセージを表示するかどうかを示すコード。「Y」を指定すると、クリアまたは処理されたメッセージも含め、すべてのメッセージが表示されます。Y 以外の値は、現在のメッセージのみが表示されることを意味します。</p>
備考	SZRMK	文字	30	<p>注記、説明、名前などを記述する情報フィールド。このフィールドは住所録システムのフォームには表示されません。</p>
免税証明	SZTXCT	文字	20	<p>免税される個人と会社に対して納税先が交付する許可証明書または免税証明書を識別する番号。</p>
追加税ID - 個人	SZTX2	文字	20	<p>個人に対して納税先が割り当てる追加識別番号。</p>
第2名称 (フリガナ)	SZALP1	文字	40	<p>ダブルバイトのコーディングに対応する代替名。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
郵送宛名	SZMLNM	文字	40	郵送用のレポートやラベルに記載する名前。このフィールドをブランクにすると、SZALPHフィールドに入力した値が使用されます。
第2郵送宛名	SZMLN1	文字	40	ダブルバイトのコーディングに対応する代替名。
住所行1、住所行2、住所行3、住所行4	SZADD1 SZADD2 SZADD3 SZADD4	文字	40	住所録レコードの郵送先住所を識別する文字、英数字の値。
郵便番号	SZADDZ	文字	12	郵便物の配達用に各国の郵便機関によって住所に対して割り当てられたコード。
市町村	SZCTY1	文字	25	住所に使用する市。
国	SZCTR	文字	3	住所に使用する国。このフィールドには、UDCテーブル00/CN(国コード)で定義されている値を入力する必要があります。
州/都道府県	SZADDS	文字	3	住所に使用する都道府県(州)。このフィールドには、UDCテーブル00/S(都道府県)で定義されている値を入力する必要があります。
郡	SZCOUN	文字	25	郵便物の配達または税務上の目的で住所の表記に使用する群、地域、行政上の特別区。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
市外局番	SZAR1	文字	6	<p>電話番号の市外局番。米国では、カッコで囲んだ3つの文字を使用します。</p> <p>米国以外の市外局番で別の形式を使用する場合は、項目AR1のデータ辞書の表示ルール・フィールドを変更する必要があります。</p>
電話番号	SZPH1	文字	20	住所録レコードに関連付けられた電話番号。
電話番号タイプ1	SZPHT1	文字	4	SZPH1フィールドに対応する電話番号タイプを指定するコード。たとえば、FAX、CELL、HOME、WORKなどを指定します。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル01/PH(電話タイプ)で定義されている必要があります。
電話番号2	SZPH2	文字	20	住所録レコードに関連付けられている第2の電話番号。
電話番号タイプ2	SZPHT2	文字	4	SZPH2フィールドに対応する電話番号タイプを指定するコード。たとえば、FAX、CELL、HOME、WORKなどを指定します。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル01/PH(電話タイプ)で定義されている必要があります。
銘柄コード	SZTICKER	文字	10	企業の銘柄コード(ティッカー記号)を指定するコード。
株式取引	SZEXCHG	文字	10	株式を取引する証券取引所を指定するコード。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
D-U-N-S No.	SZDUNS	文字	13	企業のDUNS番号を指定するコード。この番号はDun And BradstreetのID番号で、企業の与信レポート入手の際に使用します。
CLASS01	SZCLASS01	文字	3	企業分類コード。ユーザー定義コード(01/CA)から有効な値を入力してください。
CLASS02	SZCLASS02	文字	3	企業分類コード。ユーザー定義コード(01/CB)から有効な値を入力してください。
CLASS03	SZCLASS03	文字	3	企業分類コード。ユーザー定義コード(01/CC)から有効な値を入力してください。
CLASS04	SZCLASS04	文字	3	企業分類コード。ユーザー定義コード(01/CD)から有効な値を入力してください。
CLASS05	SZCLASS05	文字	3	企業分類コード。ユーザー定義コード(01/CE)から有効な値を入力してください。
従業員数	SZNOE	数値	15	顧客または仕入先の従業員数。
増加率	SZGROWTHR	数値	8	企業の収益伸び率を指定するコード。
開始年度	SZYEARSTAR	文字	15	取引開始年を指定するコード。
従業員グループ承認	SZAEMPGP	文字	5	従業員の承認処理グループを指定するコード。このフィールドは購買要求セルフサービスでのみ使用されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
将来使用インディケータ	SZACTIN	文字	1	このフィールドは、将来使用のために予約されています。
収益範囲	SZREVRNG	文字	5	企業の収益高の範囲を示す値。ユーザー定義コード(01/RR)から有効な値を入力してください。

無視されるフィールド

次の表は、F0101Z2テーブルで無視されるフィールドの一覧です。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
EDI-伝票タイプ	SZEDCT	文字	2
EDI-変換フォーマット	SZEDFT	文字	10
EDI-伝送日付	SZEDDT	日付	6
圧縮記述	SZDC	文字	40
トランザクション入力者	SZTORG	文字	10
ユーザーID	SZUSER	文字	10
プログラムID	SZPID	文字	10
ワーク・ステーションID	SZJOBIN	文字	10
更新日付	SZUPMJ	日付	6
時刻	SZTDAY	日付	6
最終更新時刻	SZUPMT	数値	6

ユーザー予約フィールド

次の表は、F0101Z2テーブルでユーザー使用のため予約されているフィールドの一覧です。これらのフィールドは、JD Edwards EnterpriseOneプログラムでは更新されません。また、住所録システムのフォームにもこれらのフィールドは表示されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ユーザー予約コード	SZURCD	文字	3	英数字3文字以内のユーザー定義の値

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ユーザー予約日付	SZURDT	日付	6	データベースで使用可能な形式のユーザー定義の日付
ユーザー予約金額	SZURAT	数値	15	データベースで使用可能な形式のユーザー定義の金額
ユーザー予約番号	SZURAB	数値	8	8桁までのユーザー定義の番号
ユーザー予約参照	SZURRF	文字	15	15文字以内の英数字からなるユーザー定義の値

業種別顧客マスター – バッチ・テーブル (F03012Z1) のフィールドのマッピング

この項では、F03012Z1テーブルのフィールドの一覧を記載します。フィールドによっては、顧客マスター・バッチ・アップロード・プログラム (R03010Z) を実行する際の必須フィールドとなります。その他は任意のフィールドです。

必須フィールド

次は、F03012Z1テーブルの必須フィールドの一覧です。フィールドによっては、ブランクが有効値となります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザーID	VOEDUS	文字	10	ユーザー定義のID番号。処理実行者のユーザーID、または従業員ワーク・センター・プログラム (P012501) でのメッセージの受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドと、VOEDTNおよびVOEDBTの各フィールドを組み合わせることにより、トランザクションが個別に識別されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-バッチ番号	VOEDBT	文字	15	VOEDTNおよびVOEDUSフィールドと組み合わせることにより、指定したバッチ内のトランザクションを個別に特定するコード。このフィールドはレベル区切りとしても使用され、この値が変わるたびにJD Edwards EnterpriseOneのバッチ番号が新しく割り当てられます。各トランザクション・グループに1つのバッチ番号を割り当てることで、パフォーマンスを大幅に向上できます。
EDI-トランザクション番号	VOEDTN	数値	22	各トランザクションを識別するコード。トランザクション番号ごとに、異なる住所録レコードを示します。1つのバッチには、番号の重複したトランザクションが存在することはできません。このフィールドには、トランザクションを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれることが多くあります。
EDI-行番号	VOEDLN	数値	7	レコードを個別に識別する番号。各トランザクションには、連続する複数の行番号を含めることができます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 処理済	VOEDSP	文字	1	<p>このフィールドはblankにしてください。 このフィールドには、トランザクションが正常に終了したかどうかを示す値が自動的に入力されます。 Nは、トランザクションが処理されなかったか、エラーが発生したことを示します。 トランザクションが正常に終了すると、値がYに変わります。</p> <p>送信処理の場合、この値はNに更新されます。</p>
トランザクション・アクション	VOTNAC	文字	2	<p>新規のトランザクションを処理する場合は、このフィールドに「A」と入力します。 既存レコードの変更を処理する場合は、「C」と入力します。 既存レコードの削除を処理する場合は、「D」と入力します。 レコードの変更と削除はすべて、追加処理後に行われます。</p> <p>送信処理の場合、このフィールドは変更後トランザクション(UA)または変更前トランザクション(UB)のいずれかに更新されます。顧客マスターMBF(P0100042)の処理オプションがオンになっている場合にのみ、UBに更新されます。</p> <p>送信処理では、追加には「A」を、削除には「D」を入力することもできます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
住所番号	VOAN8	数値	8	顧客を一意に識別する数値。 このフィールドに入力する値は、F0101テーブルに存在している必要があります。テーブルに存在しない場合、レコードは処理されません。
会社	VOCO	文字	5	顧客の会社を識別する値。会社番号は業種(会社)別処理で使用します。顧客に対して入力した会社番号だけでなく、会社00000のレコードも処理されます。このフィールドを空白にすると、会社00000が使用されます。
通貨コード - 住所録金額	VOCRCA	文字	3	このフィールドは、多通貨機能がオンになっている場合にかぎり、表示されます。 VOASTYとVOSPYEフィールドの通貨を識別するコード。このフィールドに入力する値は、通貨コード・テーブル(F0013)に存在している必要があります。 このフィールドを空白にすると、顧客マスター(P03013)の処理オプションで入力した値が使用されます。処理オプションが空白の場合は、このフィールドは、F0101テーブルのビジネスユニットの会社に対応する通貨コードで更新されます。

売掛管理システムで使用される任意フィールド

次の表は、売掛管理システムで使用されるF03012Z1の任意フィールドの一覧です。これらのフィールドを使用して、トランザクションに関する追加情報を提供できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	VOTYTN	文字	2	トランザクションのタイプを識別する値。このフィールドをブランクにすると、顧客マスターMBF(P0100042)のトランザクション・タイプの処理オプションの値が使用されます。
送受信インディケータ	VODRIN	文字	1	<p>バッチ・ジョブが、受信処理、送信処理のどちらであるかを示す番号。</p> <p>受信処理の場合は、「0」(ゼロ)を入力します。</p> <p>送信処理の場合は、このフィールドはブランクにします。このフィールドは、レコードが“変更前”に指定されている場合は1、“変更後”であれば2に更新されます。顧客マスターMBF(P0100042)の処理オプションにより、テーブルに変更前トランザクションの書込みを行うかどうかを指定します。</p> <p>このフィールドはバッチ・アップロード・プログラムのデータ選択の際に使用され、送信処理用のレコードをアップロードしないように、値0の検索が行われます。</p>
EDI - 処理済明細行数	VOEDDL	数値	5	特定のトランザクションに含まれる明細行の数を示す番号。このフィールドは参考情報としてのみ使用されます。
取引先ID	VOPNID	文字	15	電子データ交換(EDI)で、取引先を識別するために使用する値。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
相手勘定	VOARC	文字	4	<p>VOCOフィールドと組み合わせることにより、トランザクションを転記する先の売掛金勘定を指定する値。</p> <p>AAI項目PCxxxx (xxxx は相手勘定フィールドの値) で設定した勘定科目が、転記処理で使用されます。</p> <p>取引によって異なる相殺勘定科目を割り当てる場合を除き、このフィールドには値を入力する必要はありません。</p>
ビジネスユニット - 売掛デフォルト値	VOMCUR	文字	12	<p>VOOBARおよびVOAIDRフィールドと組み合わせることにより、請求書の入力時に使用される収益勘定を定義する番号。</p> <p>モデル仕訳のフィールド (VOCKOR、VODCAR、VODTAR) に値を入力する場合は、このフィールドには値を入力しないでください。このフィールドの値は、モデル仕訳に割り当てられる収益勘定によって上書きされます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
主科目 - 売掛デフォルト値	VOOBAR	文字	6	<p>VOMCURおよびVOAIDRフィールドと組み合わせることにより、請求書の入力時に使用されるデフォルトの収益勘定を定義する番号。</p> <p>モデル仕訳のフィールド (VOCKOR、VODCAR、VODTAR) に値を入力する場合は、このフィールドには値を入力しないでください。このフィールドの値は、モデル仕訳に割り当てられる収益勘定によって上書きされます。</p>
補助科目 - 売掛デフォルト値	VOAIDR	文字	8	<p>VOOBARフィールドと組み合わせることにより、請求書の入力時に使用されるデフォルトの収益勘定を定義する番号。</p> <p>モデル仕訳のフィールド (VOCKOR、VODCAR、VODTAR) に値を入力する場合は、このフィールドには値を入力しないでください。このフィールドの値は、モデル仕訳に割り当てられる収益勘定によって上書きされます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
伝票会社 - 売掛モデル	VOKCOR	文字	5	<p>VODCARおよびVODTARフィールドと組み合わせることにより、請求書の入力時に使用されるデフォルトの収益勘定を定義する番号。</p> <p>デフォルトの収益勘定の各フィールド（VOMCUR、VOOBAR、VOAIDR）に値を入力する場合は、モデル仕訳のフィールドは指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、デフォルトの収益勘定がモデル仕訳によって上書きされます。</p>
伝票番号 - 売掛モデル	VODCAR	文字	8	<p>VOKCORおよびVODTARフィールドと組み合わせることにより、請求書の入力時に使用されるデフォルトの収益勘定を定義する番号。入力した値は、検証されません。</p> <p>デフォルトの収益勘定の各フィールド（VOMCUR、VOOBAR、VOAIDR）に値を入力する場合は、モデル仕訳のフィールドは指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、デフォルトの収益勘定がモデル仕訳によって上書きされます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
伝票タイプ-売掛モデル	VODTAR	文字	2	<p>VOKCORおよびVODCARフィールドと組み合わせることにより、請求書の入力時に使用されるモデル仕訳を示す番号。入力した値は、検証されません。</p> <p>デフォルトの収益勘定の各フィールド(VOMCUR、VOOBAR、VOAIDR)に値を入力する場合は、モデル仕訳のフィールドは指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、デフォルトの収益勘定がモデル仕訳によって上書きされます。</p>
通貨コード	VOCRCO	文字	3	<p>このフィールドは、多通貨機能がオンになっている場合にかぎり、表示されます。</p> <p>請求書の入力時にその顧客に対して使用するデフォルトの通貨を示す値。このフィールドには、F0013テーブルにある値を入力してください。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、請求書に入力された会社に対応する通貨が使用されます。</p>
税率/税域	VOTXAI	文字	10	<p>顧客の請求書に使用するデフォルトの税率/税域を示す値。税率/税域テーブル(F4008)にある値を入力してください。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
税目コード	VOEXR1	文字	2	顧客の請求書に使用するデフォルトの税目コードを示す値。このフィールドには、UDCテーブル00/EX(税目コード)にある値を入力してください。
金額 - 与信限度額	VOACL	数値	15	<p>データベースで使用可能な形式の与信限度額を示す値。データベースによっては小数点以下桁数を使用できます。このフィールドの更新は与信管理者が設定し、ワークフロー処理をオフにする必要があります。</p> <p>ワークフロー処理をオフにしないと、与信限度の承認メッセージがVOCMGフィールドで指定したユーザーに送信され、このフィールドは自動的に更新されません。デフォルトでは、与信限度額の承認がワークフロー処理でオンになっています。</p>
請求書保留	VOHDAR	文字	1	<p>顧客への請求書をすべて保留に指定するコード。値は次のとおりです。</p> <p>Y: 請求書を保留する。新規の請求書の入力はできません。受注オーダーと入荷情報は入力できません。</p> <p>N: 請求書を保留しない。新規請求書の入力ができます。</p> <p>ブランクの場合、Nが使用されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
支払条件	VOTRAR	文字	3	顧客請求書の支払条件を定義する値。このフィールドには、支払条件テーブル(F0014)にある値を入力してください。
計算書送付先	VOSTTO	文字	1	<p>計算書の送付先の住所を示すコード。値は次のとおりです。</p> <p>C: 顧客</p> <p>P: 親</p> <p>1: 第1住所番号</p> <p>2: 第2住所番号</p> <p>3: 第3住所番号</p> <p>4: 第4住所番号</p> <p>5: 第5住所番号</p> <p>6: 第6住所番号(ファクタ/代替支払先)</p>
支払手段	VORYIN	文字	1	顧客への支払方法を指定するコード。UDCテーブル00/PY(支払手段)にある値を入力してください。
計算書の印刷(Y/N)	VOSTMT	文字	1	顧客が、計算書または請求書の受取り対象となるかどうかを指定するコード。デフォルトはYで、請求書または計算書が印刷されます。
代替支払人	VOARPY	文字	1	PYRフィールドに割り当てられた顧客以外の個人または会社。このフィールドをブランクにすると、レコードを処理する際に顧客番号で更新されます。このフィールドには、F0101テーブルにある値を入力してください。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
自動入金 (Y/N)	VOATCS	文字	1	この顧客が、自動入金（ロックボックス）を使用して入金処理できるかどうかを示すコード。このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、Yに更新されます。
請求書送付先	VOSITO	文字	1	請求書の送付先の住所を示すコード。値は次のとおりです。 C: 顧客 P: 親 1: 第1住所番号 2: 第2住所番号 3: 第3住所番号 4: 第4住所番号 5: 第5住所番号 6: 第6住所番号（ファクタ/代替支払先）
計算書発行サイクル	VOCYCN	文字	2	顧客の計算書を印刷する期間を識別するコード。このコードを使用して、具体的な請求サイクルを指定することもできます。このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で顧客名のイニシャル文字が自動入力されます。
一時与信メッセージ	VOTSTA	文字	2	顧客に対する一時的な与信条件を表すコード。このフィールドには、UDCテーブル01/CM（与信メッセージ）にある値を入力する必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
最終与信検討日	VODLC	日付	6	<p>顧客の最終与信検討日。データベースで使用可能な形式で指定します。データベースによっては、グレゴリオ暦の日付形式 (mmddyy または yymmdd) が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式で入力する必要がある場合があります。</p> <p>ユリウス暦の日付は、cyyddd (c は世紀数下1桁) という形式で表します。21世紀に発生するトランザクションには、「1」を入力します。たとえば、6/1/2001 (2001年6月1日) はユリウス暦では101152になります。6/1/00 (2000年6月1日) は100153になります (2000年は2月29日があるうるう年のためです)。</p>
延滞通知 (Y/N)	VODNLT	文字	1	顧客が延滞通知の受取り対象となるかどうかを指定するコード。ブランクは、顧客が延滞通知の受取り対象であることを示しています。
最終与信検討の担当者	VOPLCR	文字	10	顧客の最終的な与信検討を行った担当者を示すコード。入力した値とテーブルとの照合は行われません。
与信検討日付	VORVDJ	日付	6	<p>顧客の与信状況を検討する日時を示す日付。</p> <p>検討要求日付は、データベースで使用可能な形式で指定してください。例については、データ項目 VODLC を参照してください。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
与信管理者	VOCMGR	文字	10	<p>ワークフロー・メッセージの送信先の与信管理者を示すコード。</p> <p>ワークフロー・メッセージを受信するには、与信管理者の住所録レコードがF0101テーブルに存在する必要があります。また、このフィールドの指定値が、「記述2」フィールドに割り当てられた住所録番号とともに、UDCテーブル01/CRで定義されている必要があります。</p>
回収管理者	VOCLMG	文字	10	<p>ワークフロー・メッセージの送信先の回収管理者を示すコード。</p> <p>ワークフロー・メッセージを受信するには、回収管理者の住所録レコードがF0101テーブルに存在する必要があります。また、このフィールドの指定値が、「記述2」フィールドに割り当てられた住所録番号とともに、UDCテーブル01/CRで定義されている必要があります。</p>
回収レポート(Y/N)	VOCOLL	文字	1	<p>顧客の住所録番号が、回収レポートに印刷する対象となるかどうかを指定するコード。このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、Yに更新されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
延滞利息金の適用 (Y/N)	VOAFC	文字	1	延滞利息金を顧客に適用するかどうかを指定するコード。このフィールドに「N」と入力した場合、その顧客は手数料処理の対象外になります。このフィールドをblankにすると、レコードを処理した時点で、Nに更新されます。
初回請求書日付	VODFIJ	日付	6	最初の請求書をシステムに入力した日付。データベースで使用可能な形式で指定します。例については、データ項目 VODLCを参照してください。 このフィールドをblankにして、売掛金統計実績のリフレッシュ・プログラム (R03B16) の実行時に値を自動的に更新することもできます。
前回請求書日付	VODLIJ	日付	6	最後の請求書をシステムに入力した日付。データベースで使用可能な形式で指定します。例については、データ項目 VODLCを参照してください。 このフィールドをblankにして、売掛金統計実績のリフレッシュ・プログラムを実行することもできます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
前回支払日付	VODLP	日付	6	<p>前回支払を受け取った日付。データベースで使用可能な形式で指定します。例については、データ項目VODLCを参照してください。</p> <p>このフィールドをブランクにして、売掛金統計実績のリフレッシュ・プログラムの実行時に値を自動更新することもできます。</p>
Dun & Bradstreet格付	VODB	文字	3	Dun & Bradstreetによる格付を示す値。
Dun & Bradstreet日付	VODNBJ	日付	6	Dun & Bradstreet格付が提供された日付。データベースで使用可能な形式で指定します。例については、データ項目VODLCを参照してください。
TRW格付	VOTRW	文字	3	TRW (Experian)による格付を示す値。
TRW日付	VOTWDJ	日付	6	TRW格付が提供された日付。データベースで使用可能な形式で指定します。例については、データ項目VODLCを参照してください。
未決済請求額	VOAD	数値	15	将来使用のために予約されています。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
金額 - 前年度延滞金	VOAFCP	数値	15	<p>当年度と過去の年度の延滞利息金。データベースで使用可能な形式で指定します。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。</p> <p>多通貨機能を使用している場合は、顧客マスター情報プログラム (P03013) の「通貨コード - 住所録金額」フィールド (VOCRCA) に対応する通貨で入力する必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにして、売掛金統計実績のリフレッシュ・プログラムの実行時に値を自動更新することもできます。</p>
金額 - 年累計延滞利息	VOAFCY	数値	15	<p>当年度と過去の年度の延滞利息金を表す数字。データベースで使用可能な形式で指定します。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。</p> <p>多通貨機能を使用している場合は、顧客マスター情報プログラムの「通貨コード - 住所録金額」フィールド (VOCRCA) に対応する通貨で入力する必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにして、売掛金統計実績のリフレッシュ・プログラムの実行時に値を自動更新することもできます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
今年度請求額	VOASTY	数値	15	<p>当年度と過去の年度の請求済金額を表す数字。データベースで使用可能な形式で指定します。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。</p> <p>多通貨機能を使用している場合は、P03013プログラムの「通貨コード-住所録金額」フィールド(VOCRCA)に対応する通貨で入力する必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにして、売掛金統計実績のリフレッシュ・プログラムの実行時に値を自動更新することもできます。</p>
請求済金額	VOSPYE	数値	15	<p>当年度と過去の年度の請求済金額を表す数字。データベースで使用可能な形式で指定します。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。</p> <p>多通貨機能を使用している場合は、「通貨コード-住所録金額」フィールド(VOCRCA)の値に対応する通貨で入力する必要があります。</p> <p>このフィールドの自動更新は、実績の年次締めプログラム(R03B161)を実行する際にのみ行われます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
前回支払金額	VOALP	数値	15	<p>この顧客から最後に受領した支払金額を表す数値。データベースで使用可能な形式で指定します。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。</p> <p>このフィールドをブランクにして、売掛金統計実績のリフレッシュ・プログラムの実行時に値を自動更新することもできます。</p>
顧客情報設定日	VODAOJ	日付	6	顧客レコードをシステムに入力した日付。データベースで使用可能な形式で指定します。例については、データ項目VODLCを参照してください。このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した日付に更新されます。
方針番号(内部用)	VOPLY	数値	5	<p>売掛管理の延滞方針を表す内部コード。このフィールドは、「顧客マスター情報」フォームに方針名が入力された時点で更新されます。売掛金延滞方針が設定されている場合、売掛金延滞処理方針マスター(F03B25)に保存された方針名に関連付けられている方針ID番号(RFPLY)でこのフィールドを更新できます。このフィールドに入力する値は、このテーブルの項目に対して検証されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
損金管理者	VOMAN8	文字	1	損金管理の責任者の住所録番号。このフィールドには、F0101テーブルにある値を入力してください。
自動入金実行リスト	VOARL	文字	10	入金と請求書を特定の順序で照合する自動入金処理のアルゴリズムのリストを表す値。このフィールドに入力する値は、入金消込アルゴリズム実行リスト・テーブル (F03B50) に存在している必要があります。
住所録カテゴリ・コード01から30	VOAC01 – VOAC30	文字	3	住所録システムで定義され、売掛管理システムでレポート用に使用されるコード。これらのフィールドに入力する値はいつでも、対応するUDCテーブル01/01から01/30 (住所録カテゴリ・コード) に存在している必要があります。 住所録マスターの各カテゴリ・コード (ABAC01 から ABAC30) に入力する値は、これらのフィールドには反映されません。

受注管理システムで使用される任意フィールド

次の表では、受注管理システムで使用されるF03012Z1テーブルの任意フィールドを記載します。これらのフィールドを使用して、トランザクションに関する追加情報を提供できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ABCコード - 売上	VOABC1	文字	1	<p>顧客または在庫品目の売上レベルを示すコード。このフィールドは8割2割の法則（利益の80%は全体の20%の製品によって生み出される）を使用していることを示すものです。A（最高）からF（最低）までの等級があります。</p> <p>このフィールドをブランクにしてABC分析プログラム（R4164）を実行することにより、コードを割り当てることもできます。</p>
ABCコード - 在庫	VOABC2	文字	1	<p>平均投資額別に品目のランク付けを表すコード。値は次のとおりです。</p> <p>A: 品目を第1の金額ランク（A級）に割り当てます。</p> <p>B: 品目を第2の金額ランク（B級）に割り当てます。</p> <p>C: 品目を第3の金額ランク（C級）に割り当てます。</p> <p>D: 品目をABC分析の対象から除外します。</p> <p>このフィールドをブランクにしてABC分析プログラムを実行することにより、次のような値に基づいてコードを割り当てることもできます。</p> <p>平均投資総額をビジネスユニットの平均値で除算した値。</p> <p>品目の計算価値の合計と一致する投資額。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ABCコード - 平均日数	VOABC3	文字	1	顧客が請求書の支払に要する平均日数を表すコード。このフィールドは8割2割の法則(利益の80%は全体の20%の製品によって生み出される)を使用していることを示すものです。A(最高)からF(最低)までの等級があります。 このフィールドをブランクにしてABC分析プログラムを実行することにより、コードを割り当てることもできます。
受注残額	VOAPRC	数値	15	この顧客で未決済になっているオーダーの合計金額を表す値。データベースで使用可能な形式で指定します。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。
最大オーダー値	VOMAXO	数値	15	入力可能なオーダーの最大金額を示す値。オーダーの金額がこのフィールドの値を上回ると、エラーが返されます。
最小オーダー値	VOMINO	数値	15	入力可能なオーダーの最小金額を示す値。オーダーの金額がこのフィールドの値を下回ると、エラーが返されます。
年累計オーダー	VOOYTD	数値	3	現行年度のオーダー数。
前年度オーダー	VOOPY	数値	3	前年度のオーダー数。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
関連住所番号	VOAN8R	数値	8	<p>出荷先住所と販売先住所を関連付ける値。たとえば、受注オーダー入力で出荷先住所のみを入力すると、システムではこのフィールドの値を使って、関連住所番号のリストから販売先フィールドの値として使用する住所番号を選択します。</p> <p>このフィールドに入力できる値は1から7までです。このフィールドには、UDCテーブル40/RA(関連住所番号)にある値を入力する必要があります。</p>
請求住所タイプ	VOBADT	文字	1	<p>指定した住所を販売先、出荷先、またはその両方の住所として使用するように指示するコード。値は次のとおりです。</p> <p>X: 請求先住所と出荷先住所を指定します。</p> <p>S: 出荷先住所のみを指定します。</p> <p>B: 請求先住所のみを指定します。</p> <p>このフィールドに入力する値は、UDCテーブルH42/BA(請求先住所タイプ)に存在している必要があります。</p>
顧客価格グループ	VOCPGP	文字	8	<p>顧客のグループを識別するコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル40/PC(顧客価格グループ)に存在している必要があります。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
オーダー・テンプレート	VOORTP	文字	8	最も頻繁に注文する品目のリストを示すコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル40/OT（オーダー・テンプレート）に存在する必要があります。
取引値引	VOTRDC	数値	7	システムが各品目に適用する値引率のパーセント値。値引には、このパーセントだけが適用されます。価格を入力すると、値引率を上書きすることができます。値引率は、整数（5%であれば5）で指定します。
印刷メッセージ	VOINMG	文字	10	購買オーダーに印刷されるメッセージに割り当てられるコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル40/PM（印刷メッセージ）に存在する必要があります。
与信チェックの免除	VOEXHD	文字	1	顧客が、受注オーダー処理サイクルで与信チェックの免除対象となるかどうかを示すコード。値は次のとおりです。 Y: この顧客の与信チェックを実施しない。 N: この顧客の与信チェックを実施する。受注オーダー入力の処理オプションで与信チェックをオンにすると、顧客がその限度を超えた時点で、オーダーが保留になります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
保留オーダー・コード	VOHOLD	文字	2	オーダーが保留された理由を示すコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル42/HC(コード保留)に存在する必要があります。
経路コード	VOROUT	文字	3	<p>顧客の配送経路を示すコード。このフィールドは、オーダーにかかる輸送費の計算時に運賃集計機能で使用するフィールドの1つです。</p> <p>ピッキングの場合は、配送経路/中継点コードおよび区域コードを使用して、特定経路の配送車両に積載するすべての品目を分類します。</p> <p>このフィールドに入力する値は、UDCテーブル42/RT(経路コード)に存在する必要があります。</p> <p>このフィールドのデフォルトは、「顧客請求指示」フォームで設定します。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
中継点コード	VOSTOP	文字	3	<p>配送経路上の中継点を示すコード。このフィールドは、オーダーにかかる輸送費の計算時に運賃集計機能で使用されるフィールドの1つです。</p> <p>ピッキングの場合は、中継点コードと配送経路/区域コードを使用して、特定経路の配送車両に積載する品目を分類します。</p> <p>このフィールドに入力する値は、UDCテーブル42/SP(中継点コード)に存在する必要があります。</p> <p>このフィールドのデフォルトは、「顧客請求指示」フォームで設定します。</p>
配送区域番号	VOZON	文字	3	<p>顧客の配送区域を示すコード。このフィールドは、オーダーにかかる輸送費の計算時に、運賃集計機能で使用されるフィールドの1つです。</p> <p>ピッキングの場合は、区域コードと配送経路/中継点コードを使用して、特定経路の配送車両に積載する品目を分類します。</p> <p>このフィールドに入力する値は、UDCテーブル40/ZN(配送区域番号)に存在する必要があります。</p> <p>このフィールドのデフォルトは、「顧客請求指示」フォームで設定します。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
運送業者番号	VOCARS	数値	8	運送業者の住所録番号を表す値。 このフィールドには、F0101テーブルにある値を入力してください。
配送指示行1	VODEL1	文字	30	このフィールドを使用して、配送指示を入力します。
配送指示行2	VODEL2	文字	30	このフィールドを使用して、配送指示を入力します。
輸送日数	VOLTDT	数値	5	商品の配送にかかる日数を表す値。このフィールドに値を入力すると、受注オーダー明細プログラム(P4210)では、約束配送日付からこの値を減算して、ピッキング・リリース日付を計算します。
貨物取扱コード	VOFRTH	文字	5	顧客の入荷方法を指定するコード。このコードで、運賃の責任者を指定できます。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル42/FR(貨物取扱コード)に存在している必要があります。
運賃の適用	VOAFT	文字	1	システムが処理中に運賃計算を実行するかどうかを示すコード。値は次のとおりです。 Y: 処理中に運賃計算を実行する。 N: 処理中に運賃計算を実行しない。 このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、Yに更新されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
部分オーダー出荷可 (Y/N)	VOAPTS	文字	1	<p>顧客が行全体の一括出荷を要求しているか、複数の部分出荷を認めているかを指定するコード。値は次のとおりです。</p> <p>Y: 顧客が一括出荷を要求している。</p> <p>N: 部分出荷を許可している。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、Yに更新されます。</p>
代替品許可 (Y/N)	VOSBAL	文字	1	<p>顧客が代替品を許可しているかどうかを示すコード。値は次のとおりです。</p> <p>Y: 顧客が代替品を許可している。</p> <p>N: 顧客が代替品を許可していない。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、Yに更新されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
バックオーダー許可 (Y/N)	VOBACK	文字	1	<p>顧客が、特定の品目のバックオーダーを認めるかどうかを示すコード。バックオーダーの許可は、品目マスター・プログラム (P4101) または事業所品目プログラム (P41012) を使用して品目別に設定するか、顧客請求指示プログラム (P03013) を使用して顧客別に設定するか、または事業所固定情報プログラム (P41001) を使用して事業所別に設定できます。値は次のとおりです。</p> <p>Y: この品目のバックオーダーを認める。</p> <p>N: 顧客に割り当てられたバックオーダー・コードにかかわらず、この品目のバックオーダーを認めない。</p>
顧客購買オーダー必須 (Y/N)	VOPORQ	文字	1	<p>顧客に購買オーダーが必要かどうかを示すコード。値は次のとおりです。</p> <p>Y: 顧客の購買オーダー番号が必要。</p> <p>N: 顧客の購買オーダー番号は必須ではない。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
優先順位処理	VOPRIO	文字	1	<p>顧客のオーダーの優先順位を示すコード。この値によってピッキング・リスト印刷の優先順序が決定されます。また、バックオーダー・レポート (R42118) で、このコードにより、優先順位の高いオーダーから順にリリースするように指定することもできます。</p> <p>このフィールドに入力する値は、UDCテーブルH40/PR (優先順位処理コード) に存在している必要があります。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
与信チェック・レベル	VOARTO	文字	1	<p>与信チェックの実行方法を制御するコード。値は次のとおりです。</p> <p>P: 顧客の親番号に基づいて与信チェックを実行します。</p> <p>C: 顧客の番号だけにに基づいて与信チェックを実行します。</p> <p>S: 顧客の番号だけにに基づいて与信チェックを実行します。</p> <p>Pの実行方法を使用すると、親子の未決済の売掛金と受注オーダーの合計と親番号の与信限度額を照合します。たとえば、複数の事業所を持つ顧客の指示で、個別の与信チェックをすべて1つの勘定科目にまとめる場合に使用します。</p> <p>注意: 親番号、または顧客番号のレベルで与信チェックが実行可能な場合でも、顧客売上更新プログラム(R42800)の実行時に売掛金勘定トランザクションはすべて「顧客No.」フィールド(SDAN8)に転記されます。</p>
請求書等のコピー枚数	VOINVC	数値	2	印刷する請求書コピーの部数。
集計請求書	VOICON	文字	1	<p>顧客の請求書を集計するかどうか示すコード。値は次のとおりです。</p> <p>Y: 複数の受注オーダーから単一の請求書を生成</p> <p>ブランク: レコードを処理した時点でNに更新</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
請求頻度	BOBLFR	文字	1	<p>請求書を発行する間隔を決めるときに、請求書の処理頻度を定義するコード。値は次のとおりです。</p> <p>M: 月次 W: 週次 D: 日次</p> <p>このフィールドに入力する値は、UDCテーブルH42/BL(請求頻度)に存在する必要があります。ただし、システムでは前述の値だけが認識されます。</p>
次の請求書日付	VONIVD	日付	6	<p>顧客の請求書を次回印刷する日付。データベースで使用可能な形式で指定します。例については、データ項目VODLCを参照してください。</p> <p>このフィールドとVOBLFRフィールドを組み合わせ、請求書の印刷頻度と印刷日が決まります。</p>
ライセンス失効日	VOLEDJ	日付	6	<p>ライセンスが失効する日付。</p>
ピッキング・リストの印刷(Y/N)	VOPLST	文字	1	<p>顧客のピッキング・リスト、購買オーダー、または受注オーダーに価格情報を表示するかどうかを示すコード。このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、Yに更新されます。</p>
オーダーのマージ(Y/N)	VOMORD	文字	1	<p>倉庫管理システムによる顧客オーダーの一括出荷とマージを防止するコード。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
パレット・コントロール	VOPALC	文字	1	<p>パレットの出荷を認めている顧客を識別するコード。値は次のとおりです。</p> <p>Yまたは1: 顧客がパレットの出荷を許可している。</p> <p>Nまたは0: 顧客がパレットの出荷を許可していない。</p>
容量表示単位	VOVUMD	文字	2	<p>オーダーの数量を表す単位を示すコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル00/UM(単位)に存在している必要があります。このフィールドをブランクにすると、在庫固定情報テーブル(F41001)に入力された値に更新されます。</p>
重量表示単位	VOWUMD	文字	2	<p>オーダーの重量を表す単位を表すコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル00/UM(単位)に存在している必要があります。このフィールドをブランクにすると、F41001テーブルの値に更新されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
バッチ処理モード	VOEDPM	文字	1	<p>顧客のレコードについて、バッチ処理の禁止、またはテスト・モード/最終モードでの実行を示すコード。値は次のとおりです。</p> <p>I: 禁止。顧客のバッチ処理は実行できません。</p> <p>T: テスト・モード。レコードの処理時にレポートのみ作成します。</p> <p>P: 最終モード。レコードの処理時にレポートの作成とオーダーの処理を実行します。</p>
品目タイプID	VOEDII	文字	1	<p>電子データ交換 (EDI) トランザクション用に転送する品目番号のタイプを指定するコード (たとえば UPC コードや仕入先部品番号など)。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/II (品目タイプID) に存在している必要があります。</p>
顧客ID	VOEDCI	文字	1	<p>EDI トランザクション用に転送する番号のタイプを指定するコード (たとえば DUNS 番号や電話番号など)。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/CI (顧客タイプID) に存在している必要があります。</p>
数量の表示小数点以下桁数	VOEDQD	数値	1	<p>この顧客の EDI トランザクションのすべての数量フィールドに適用する表示小数点以下桁数。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
金額の表示小数点 以下桁数	VOEDAD	数値	1	この顧客のEDITラン ザクションのすべて の金額フィールドに 適用する表示小数点 以下桁数。
配送票	VOEDF1	文字	1	顧客の配送票を印刷 するかどうかを指定 するコード。この フィールドをブランク にすると、レコードを 処理した時点で、N に更新されます。
品目制約	VOEDF2	文字	2	仕入先に品目を発注 するときに特定の 制約を適用するかどうかを指定するコード。値は次のとおりです。 I:「品目制約」フォームで設定されている場合にのみ、品目を購入できます。 E:「品目制約」フォームで設定されている場合は、品目を購入できません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
部分オーダー出荷可 (Y/N)	VOSI01	文字	1	<p>顧客がオーダー全体の一括出荷を要求しているか、複数の部分出荷を認めているかを指定するコード。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、Yに更新されます。</p> <p>注意: 部分出荷機能は、引当可能数量チェックをオンに設定している受注オーダー入力プログラム(P4210)でオーダーを入力した場合にのみ有効に設定されます。これは、複数の明細行を1つのオーダーで処理できるのがこのプログラムにしかないためです。ピッキング・リストや出荷確認で引当可能数量チェックを実行しても、オーダーのすべての行が処理されるかは保証されません。</p>
分析証明書の印刷	VOSI02	文字	1	分析証明を指定するコード。
特殊指示03	VOSI03	文字	10	将来使用のために予約されています。
特殊指示04	VOSI04	文字	10	将来使用のために予約されています。
特殊指示05	VOSI05	文字	10	将来使用のために予約されています。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
販売価格基準日	VOCP01	文字	1	受注オーダー見出し (F4201) と受注オーダー明細 (F4211) で価格有効日付を決定する方法を指定する値。受注管理システムでは、「価格有効日付」フィールド (PEFJ) を使用して、品目基本価格 (F4106) テーブルから基本価格、また価格調整明細 (F4072) テーブルから調整価格を取得します。
価格および調整スケジュール	VOASN	文字	8	<p>価格調整スケジュールを表すコード。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。顧客と価格調整スケジュールの関連付けには、顧客請求指示を使用します。受注オーダーを入力すると、オーダー見出しの販売先住所に関連付けられたスケジュールがコピーされます。スケジュールは、明細行レベルで上書きすることができます。</p> <p>契約管理システムの場合、これは契約ペナルティ・スケジュールとして使用されます。契約ペナルティ・スケジュールの情報により、ペナルティの条件適用基準が規定されます。</p> <p>このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/AS (価格調整スケジュール) に存在する必要があります。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
請求書の価格調整 (Y/N)	VODSPA	文字	1	請求書に価格調整 明細を印刷するかど うかを指定するコード。 上級価格調整システム を使用している場合 にのみ、このフィー ルドが有効になります。
出荷ラベル印刷プログラム	VOSLPG	文字	10	顧客宛ての出荷ラベル を印刷するときに 使用するプログラムの 名前。
出荷ラベル印刷プログラムのバージョン	VOSLDW	文字	10	顧客宛ての出荷ラベル を印刷するときに 使用するプログラムの バージョン。
ピッキング/梱包コン フィギュレーション	VOCFPP	文字	18	顧客から指示された デフォルトのピッキ ング/梱包コンフィ ギュレーション。
標準カートン梱包コ ンフィギュレーション	VOCFSP	文字	18	顧客から指示され たデフォルトの標準 カートン梱包コンフィ ギュレーション。
デフォルト・コンフィ ギュレーション	VOCFDF	文字	1	顧客から指示された デフォルトのカートン 梱包コンフィギュレ ーション。値は次のと おりです。 1: ピッキング/梱包コ ンフィギュレーション 2: 標準カートン・コン フィギュレーション ブランク: この顧客に はUCC128処理は実 行されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
梱包コード必須	VORQ01	文字	1	顧客に梱包コードが必要かどうかを示す値。値は次のとおりです。 1: 顧客に梱包コードが必要 ブランク: 梱包コードは不要
重量コード必須	VORQ02	文字	1	顧客に重量コードが必要かどうかを示す値。値は次のとおりです。 1: 顧客に重量コードが必要 ブランク: 重量コードは不要
識別コード1必須	VORQ03	文字	1	顧客にIDコードが必要かどうかを示す値。値は次のとおりです。 1: 顧客にIDコードが必要。このフィールドに「1」を入力する場合は、CODR03フィールドにも値を入力する必要があります。 ブランク: IDコードは不要
識別コード2必須	VORQ04	文字	1	顧客にIDコードが必要かどうかを示す値。値は次のとおりです。 1: 顧客にIDコードが必要。このフィールドに「1」を入力する場合は、CODR04フィールドにも値を入力する必要があります。 ブランク: IDコードは不要

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
輸送方法必須	VORQ05	文字	1	顧客に輸送方法が必要かどうかを示す値。値は次のとおりです。 1: 顧客に輸送方法が必要 ブランク: 輸送方法は不要
配送経路必須	VORQ06	文字	1	顧客に配送経路の記述が必要かどうかを示す値。値は次のとおりです。 1: 顧客に経路の記述が必要 ブランク: 経路コードの記述は不要
設備必須	VORQ07	文字	1	顧客に設備コードが必要かどうかを示す値。値は次のとおりです。 1: 顧客に設備コードが必要 ブランク: 設備コードは不要
参照番号1必須	VORQ08	文字	1	顧客に参照番号が必要かどうかを示す値。値は次のとおりです。 1: 顧客に参照番号が必要。このフィールドに「1」を入力する場合は、VODR08フィールドにも値を入力する必要があります。 ブランク: 参照番号は不要。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
参照番号2必須	VORQ09	文字	1	<p>顧客に参照番号が必要かどうかを示す値。値は次のとおりです。</p> <p>1: 顧客に参照番号が必要。このフィールドに「1」を入力する場合は、VODR09フィールドにも値を入力する必要があります。</p> <p>ブランク: 参照番号は不要。</p>
デフォルト参照番号修飾子1	VODR03	文字	2	<p>この顧客に使用するデフォルトのIDコード修飾子の値。このコードは在庫管理システムで使用されます。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル41/X6(X12参照番号修飾子)に存在している必要があります。</p>
デフォルト参照番号修飾子2	VODR04	文字	2	<p>この顧客に使用するデフォルトのIDコード修飾子の値。このコードは在庫管理システムで使用されます。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル41/X6(X12参照番号修飾子)に存在している必要があります。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
デフォルト参照番号 修飾子1	VODR08	文字	2	この顧客に使用するデフォルト参照番号修飾子の値。このコードは在庫管理システムで使用されます。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル41/X6(X12参照番号修飾子)に存在している必要があります。
デフォルト参照番号 修飾子2	VODR09	文字	2	この顧客に使用するデフォルト参照番号修飾子の値。このコードは在庫管理システムで使用されます。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル41/X6(X12参照番号修飾子)に存在している必要があります。

無視されるフィールド

次の表は、F03012Z1テーブルで無視されるフィールドの一覧です。これらのフィールドはブランクにします。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
トランザクション入力者	VOTORG	文字	10
ユーザーID	VOUSER	文字	10
プログラムID	VOPID	文字	10
ワーク・ステーションID	VOJOBN	文字	10
最終更新時刻	VOUPMT	数値	6
更新日付	VOUPMJ	日付	6
時刻	VOTDAY	日付	6
EDI - 伝票タイプ	VOEDCT	文字	2
EDI - 変換フォーマット	VOEDFT	文字	10
EDI - 伝送日付	VOEDDT	日付	6
元帳照会順序	VOSQNL	文字	1

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
自動入金アルゴリズム	VOALGM	文字	2
繰越残高/未決済売掛金	VOBO	文字	1
与信チェック処理コード	VOCKHC	文字	1
売掛金回収平均日数	VODSO	数値	5
督促状番号	VODLQT	数値	3
最終催促日	VODLQJ	日付	6
延滞通知内容	VONBRR	文字	1
延滞通知送付回数 - 1	VONBR1	数値	3
延滞通知送付回数 - 2	VONBR2	数値	3
延滞通知送付回数 - 3	VONBR3	数値	3
延滞金計算猶予日数	VOFD	数値	3
延滞利息自動入力 (Y/N)	VOCFCE	文字	1
入金保留	VOAB2	文字	1
財務諸表受領日	VOFNDJ	日付	6
売上未回収平均日数	VOAVD	数値	3
最高残高	VOAHB	数値	15
送付方法	VOCRMD	文字	1
最高残高	VOAHB	数値	15
管理用与信限度	VOAMCR	数値	15

CRM用の追加フィールド

次の表は、CRMシステムで使用される追加フィールドの一覧です。CRMを使用している場合、これらのフィールドに値をロードできます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
階層1	VOTIER1	文字列	45	ユーザー定義コード・テーブル01/T1の値を入力して、顧客に関連付けられた階層数を指定します。この数は、顧客価値について主観的なランクを示したものです。
販売チーム割当ての一時変更	VOSTOF	文字	1	産業グループとテリトリに基づいて販売チームを顧客に対して自動的に割り当てない場合、このオプションを選択します。選択した場合は、顧客に対して販売チーム・メンバーを個別に割り当てる必要があります。選択しない場合は、顧客レコードの追加または変更時に、顧客に関連付けられているテリトリおよび産業グループの両方でアクティブとなっている販売チーム・メンバー全員が割り当てられます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
テリトリID	VOTERRID	数字	15	顧客の所在地の地域を入力します。システムは、このフィールドと「顧客産業グループ」フィールドを使用して、顧客の担当販売チーム・メンバーを決定します。販売チーム・メンバーを自動的に顧客に割り当てるには、顧客に関連付けられたテリトリおよび産業グループの両方でその販売チーム・メンバーがアクティブになっている必要があります。「販売チーム割当ての一時変更」オプションを選択した場合、このフィールドは参照用となり、顧客への販売チーム・メンバー割当には使用されません。
顧客産業グループ	VOCIG	数字	15	顧客に関連する産業を入力します。システムは、このフィールドと「テリトリID」フィールドを使用して、顧客の担当販売チーム・メンバーを決定します。販売チーム・メンバーを自動的に顧客に割り当てるには、顧客に関連付けられたテリトリおよび産業グループの両方でその販売チーム・メンバーがアクティブになっている必要があります。「販売チーム割当ての一時変更」オプションを選択した場合、このフィールドは参照用となります。

ユーザー予約フィールド

次の表は、F03012Z1テーブルでユーザー使用のため予約されているフィールドの一覧です。これらのフィールドは、JD Edwards EnterpriseOneプログラムでは更新されません。また、住所録システム、売掛管理、受注管理の各システムのフォームにもこれらのフィールドは表示されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
金額 - 住所録	VOABAM	数値	15	ユーザー定義の金額フィールド。データベースで使用可能な形式で指定します。
金額 - 住所録	VOABA1	数値	15	ユーザー定義の金額フィールド。データベースで使用可能な形式で指定します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ユーザー予約コード	VOURCD	文字	3	ユーザー定義のコード。3文字以内の英数字を使用できます。
ユーザー予約日付	VOURDT	日付	6	日付を示す値。データベースで使用可能な形式で指定します。 詳細は、データ項目 VOEBDT を参照してください。
ユーザー予約金額	VOURAT	数値	15	ユーザー定義の金額フィールド。データベースで使用可能な形式で指定します。
ユーザー予約番号	VOURAB	数値	8	8桁までのユーザー定義の番号フィールド。
ユーザー予約参照	VOURRF	文字	15	15桁までのユーザー定義の英数字フィールド。

仕入先マスター - バッチ・アップロード・テーブル (F0401Z1) のフィールドのマッピング

この項では、F0401Z1テーブルのフィールドの一覧を記載します。一部のフィールドは、仕入先マスター・バッチ・アップロード・プログラム (R04010Z) の実行において必須フィールドとなります。その他は必須ではありません。すべてのフィールドが住所録、買掛管理、調達管理のシステムで表示されたり、使用されるわけではありません。

必須フィールド

次の表では、F0401Z1テーブルの必須フィールドの一覧を記載しています。フィールドによっては、空白が有効値となります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザーID	VOEDUS	文字	10	ユーザー定義のID番号。仕入先マスター・バッチ・アップロード・プログラムの実行者のユーザーID、またはワークフロー・メッセージの受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドと、VOEDTNおよびVOEDBTの各フィールドを組み合わせることにより、トランザクションが個別に識別されます。
EDI-バッチ番号	VOEDBT	文字	15	仕入先マスター・バッチ・アップロード・プログラムの実行者が各バッチに割り当てる番号。このフィールドが変更されるたびに、新しいバッチ番号が自動的に割り当てられます。処理する各トランザクション・グループに1つのバッチ番号を割り当てることで、パフォーマンスを大幅に向上できます。
EDI-トランザクション番号	VOEDTN	文字	22	各トランザクションを識別する番号。トランザクション番号ごとに、異なる住所録レコードを示します。1つのバッチには、番号の重複したトランザクションが存在することはできません。通常このフィールドには、送信者がトランザクションを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれます。
EDI-行番号	VOEDLN	数値	7	トランザクションを一意に識別する番号。トランザクションには、連続する複数の行を含めることができます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-処理済	VOEDSP	文字	1	<p>トランザクションが正常に処理されたかどうかを示す値。このフィールドはブランクにしてください。Nは、トランザクションが処理されなかったか、エラーが発生したことを示します。</p> <p>トランザクションが正常に終了すると、値がYに変わります。</p>
トランザクション・アクション	VOTNAC	文字	2	<p>新規のトランザクションを処理する場合は、このフィールドに「A」と入力します。既存レコードの変更を処理する場合は、「C」と入力します。既存レコードの削除を処理する場合は、「D」と入力します。レコードの変更と削除はすべて、追加処理後に行われます。</p> <p>送信処理の場合、このフィールドは変更後トランザクション(UA)または変更前トランザクション(UB)のいずれかに更新されます。仕入先マスターMBF(P00400047)の処理オプションがオンになっている場合にのみ、UBに更新されます。</p> <p>送信処理では、追加には「A」を、削除には「D」を入力することもできます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
住所番号	VOAN8	数値	8	仕入先を一意に識別する番号。このフィールドに入力する値は、F0101テーブルに存在している必要があります。テーブルに存在しない場合は、レコードは処理されません。
通貨コード - 住所録金額	VOCRCA	文字	3	<p>このフィールドは、多通貨機能がオンになっている場合にかぎり、表示されます。</p> <p>住所録の通貨を示す文字コード。このフィールドに入力する値は、VOAYPDとOAPPDフィールドの通貨を示します。このフィールドに入力する値は、通貨コード・テーブル (F0013) に存在している必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、仕入先マスター・プログラム (P04012) の処理オプションで入力した値が使用されます。処理オプションがブランクの場合は、このフィールドは、F0101テーブルのビジネスユニットの会社に対応する通貨コードで更新されます。</p>

買掛管理システムで使用される任意フィールド

次の表は、買掛管理システムで使用されるF0401Z1の任意フィールドの一覧です。これらのフィールドを使用して、トランザクションに関する追加情報を提供できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	VOTYTN	文字	2	トランザクションのタイプを識別する値。このフィールドをブランクにすると、仕入先マスターMBF (P0400047) のトランザクション・タイプの処理オプションの値が使用されます。 送信処理を使用する場合は、必須フィールドとなります。
送受信インディケータ	VODRIN	文字	1	トランザクションが受信と送信のどちらであるかを指定する値。値は次のとおりです。 ブランク: 受信 2: 送信
EDI - 処理済明細行数	VOEDDL	数値	5	特定のトランザクションに含まれる明細行数の数。このフィールドは参考情報としてのみ使用されます。
取引先ID	VOPNID	文字	15	電子データ交換 (EDI) で、取引先を識別するために使用する値。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
相手勘定	VOAPC	文字	4	<p>会社番号と組み合わせることにより、トランザクションを転記する先の買掛金勘定を指定する値。AAI項目PCxxxx (xxxxは相手勘定フィールドの値)で設定した勘定科目が、転記処理で使用されます。AAIは会社別に、またはデフォルトの会社00000に対して設定できます。</p> <p>このフィールドの値は、仕入先に対して入力するすべての買掛伝票のデフォルトとなります。</p> <p>AAI項目PCで指定した以外の相殺勘定科目を使用する場合を除いては、このフィールドに値は入力しないでください。</p>
ビジネスユニット－買掛デフォルト値	VOMCUP	文字	12	<p>VOOBAPおよびVOAIDPフィールドと組み合わせることにより、伝票の入力時に自動的に「勘定科目情報」フォームに表示されるデフォルトの経費勘定を指定する値。</p> <p>モデル仕訳のフィールド (VOCKOP、VODCAP、VODTAP) に値を入力する場合は、デフォルトの費用勘定は指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、デフォルトの費用勘定はモデル仕訳で上書きされます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
主科目 - デフォルト 買掛金	VOOBAP	文字	6	<p>VOMCUPおよびVOAIDPフィールドと組み合わせることにより、伝票の入力時に自動的に「勘定科目情報」フォームに表示されるデフォルトの経費勘定を指定する値。</p> <p>モデル仕訳のフィールド（VOCKOP、VODCAP、VODTAP）に値を入力する場合は、デフォルトの費用勘定は指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、デフォルトの費用勘定はモデル仕訳で上書きされます。</p>
補助科目 - 買掛デ フォルト値	VOAIDP	文字	8	<p>VOMCUPおよびVOOBAPフィールドと組み合わせることにより、伝票の入力時に自動的に「勘定科目情報」フォームに表示されるデフォルトの経費勘定を指定する値。</p> <p>モデル仕訳のフィールド（VOCKOP、VODCAP、VODTAP）に値を入力する場合は、デフォルトの費用勘定は指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、デフォルトの費用勘定はモデル仕訳で上書きされます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
伝票会社 - 買掛モデル	VOKCOP	文字	5	<p>VODCAPおよびVODTAPフィールドと組み合わせることにより、取引明細テーブル(F0911)のモデル仕訳を指定する値。この値は検証されません。</p> <p>有効なモデル仕訳を入力すると、伝票を入力する際に「勘定科目情報」フォームでこの勘定が使用されます。</p> <p>デフォルトの費用勘定のフィールド(VOMCUP、VOOBAP、VOAIDP)に値を入力するときは、モデル仕訳のフィールドは指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、デフォルトの費用勘定はモデル仕訳で上書きされます。</p>
伝票番号 - 買掛モデル	VODCAP	数値	8	<p>VOKCOPおよびVODTAPフィールドと組み合わせることにより、F0911テーブルのモデル仕訳を指定する値。有効なモデル仕訳を入力すると、伝票を入力する際に「勘定科目情報」フォームでこの勘定が使用されます。</p> <p>デフォルトの費用勘定のフィールド(VOMCUP、VOOBAP、VOAIDP)に値を入力するときは、モデル仕訳のフィールドは指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、デフォルトの費用勘定はモデル仕訳で上書きされます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
伝票タイプ - 買掛モデル	VODTAP	文字	2	<p>VOKCOPおよびVODCAPフィールドと組み合わせることにより、F0911テーブルのモデル仕訳を指定する値。値の検証は行われません。</p> <p>有効なモデル仕訳を入力すると、伝票を入力する際に「勘定科目情報」フォームでこの勘定が使用されます。</p> <p>デフォルトの費用勘定のフィールド(VOMCUP、VOOBAP、VOAIDP)に値を入力するときは、モデル仕訳のフィールドは指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、デフォルトの費用勘定はモデル仕訳で上書きされます。</p>
通貨コード	VOCRRP	文字	3	<p>このフィールドは、多通貨機能がオンになっている場合にかぎり、表示されます。</p> <p>この仕入先の伝票を入力する際に使用される通貨を表すコード。通貨コード・テーブル(F0013)にある値を入力してください。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、買掛伝票に入力された会社に対応する通貨が使用されます。</p>
税率/税域	VOTXA2	文字	10	<p>この仕入先の伝票に使用する納税先を識別するコード。税率/税域テーブル(F4008)にある値を入力してください。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
税目コード	VOEXR2	文字	2	この仕入先の伝票に使用する税金のタイプを識別するコード。このフィールドには、UDCテーブル00/EX（税目コード）にある値を入力してください。
支払保留コード	VOHDPY	文字	1	<p>この仕入先に対する買掛伝票と支払を入力可能かどうかを指定するコード。値は次のとおりです。</p> <p>1またはY: 未処理の買掛伝票の支払を保留し、新しい買掛伝票の入力を不可とする。</p> <p>2: 未処理の買掛伝票の支払を保留し、新しい買掛伝票の入力は許可する。</p> <p>N: 買掛伝票と支払の入力を許可する。</p> <p>ブランクの場合、Nが使用されます。</p>
税域 - 源泉徴収	VOTXA2	文字	10	<p>仕入先の源泉徴収税に使用する納税先を識別するコード。このフィールドの値は、仕入先マスター（F0401）に書き込まれます。</p> <p>このフィールドは、買掛管理システムでは表示されません。</p>
税目コード - 源泉徴収	VOEXR3	文字	2	<p>仕入先に使用される源泉徴収税のタイプを表す値。このフィールドに入力する値はいずれも、F0401テーブルに書き込まれます。</p> <p>このフィールドは、買掛管理システムでは表示されません。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
納税先	VOTAWH	数値	8	仕入先の源泉徴収税の納税先を指定する番号。このフィールドには、F0101テーブルにある値を入力してください。
源泉徴収税率	VOPCWH	数値	5	仕入先への支払から留保する源泉徴収税の比率を指定する数値。この値は、小数点以下桁数を使って表します。たとえば、20%は「.20」と表されます。
支払条件	VOTRAP	文字	3	仕入先に適用可能な割引の期日と金額を指定するコード。 このフィールドの値は、仕入先のすべての伝票に入力されます。このフィールドに入力する値は、支払条件テーブル (F0014) に存在している必要があります。
複数支払	VOSCK	文字	1	買掛伝票の支払項目ごとに個別の小切手を発行するかどうかを指定するコード。値は次のとおりです。 Y: 買掛伝票の支払項目ごとに個別の小切手を発行します。 N: 支払項目の数に関係なく、この買掛伝票に対して1枚の小切手を発行します。 C: 契約ごとに1つの小切手を作成し、契約または作業番号順に並べ替えます。 このフィールドをブランクにすると、Nが使用されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
支払手段	VOPYIN	文字	1	仕入先への支払形式を指定するコード。UDCテーブル00/PY(支払手段)に設定されている値を入力してください。
承認者番号	VOSNTO	数値	8	仮伝票を使って記録された伝票の承認担当者を識別する番号。このフィールドには、F0101テーブルにある値を入力してください。
事前通知コード	VOAB1	文字	1	<p>仕入先の電子資金決済(EFT)処理の状況がセットアップ中かどうかを示すコード。値は次のとおりです。</p> <p>P: 事前通知状況。仕入先に対して小切手を発行し、検証用の銀行テープ・テーブルへの入力を行います。この状況コードでは、資金の電子決済は行われません。</p> <p>N: 銀行が仕入先の口座情報を受け取り、検証を完了しました。この仕入先への今後の支払は、EFTを使って行われます。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、最初の支払の処理時にPが割り当てられます。</p>
支払浮動日数	VOFLD	数値	3	支払の支払日付に追加される日数を表す数値。この数値によって、自動支払が実行される際に買掛金照合伝票明細テーブル(F0414)の決済日付(RMVLDT)が更新されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
年累計請求金額	VOAYPD	数値	15	<p>現行年度中に作成された買掛伝票の金額を表す値。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。</p> <p>多通貨機能を使用する場合は、VOCRCA フィールドに入力した通貨で入力する必要があります。</p> <p>このフィールドの更新には、年累計伝票金額の更新プログラム (R04820A) を使用します。</p>
前年度支払金額	VOAPPD	数値	15	<p>前年度中に入力された伝票の金額を表す値。この値は年累計伝票金額の更新プログラムを実行すると更新されます。</p>

調達管理システムで使用される任意フィールド

次の表は、調達管理システムで使用されるF0401Z1の任意フィールドの一覧です。これらのフィールドを使用して、トランザクションに関する追加情報を提供できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ピッキング・リストに価格を印刷 (Y、N、2)	VOPLST	文字	1	<p>購買オーダーに正味価格情報を記載するかどうかを示すコード。値は次のとおりです。</p> <p>Y: 正味価格を印刷する。</p> <p>N: 印刷しない。</p> <p>2: 基本価格調整と正味価格を印刷する。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
受注残額	VOAPRC	数値	15	仕入先のオーダーの発注残の合計金額を表す値。値引テーブルまたは一時変更価格によって品目保管場所 (F41021) の表示価格を調整します。
最小オーダー値	VOMINO	数値	15	オーダーに入力できる最小金額を示す値。オーダーの金額がこのフィールドの値を下回ると、エラーが返されます。
最大オーダー値	VOMAXO	数値	15	オーダーに入力できる最大金額を示す値。オーダーの金額がこのフィールドの値を上回ると、エラーが返されます。
関連住所番号	VOAN8R	数値	8	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
請求住所タイプ	VOBADT	数値	8	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
顧客価格グループ	VOCPGP	数値	8	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
オーダー・テンプレート	VOORTP	文字	8	頻繁に注文する品目のリストを示すコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル40/OT(オーダー・テンプレート) に存在する必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
印刷メッセージ	VOINMG	文字	10	購買オーダーに出力されるメッセージを示すコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル40/PM (印刷メッセージ)に存在する必要があります。
保留オーダー・コード	VOHOLD	文字	2	オーダーが保留された理由を示すコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル42/HC (コード保留)に存在する必要があります。
経路コード	VOROUT	文字	3	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
中継点コード	VOSTOP	文字	3	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
配送区域番号	VOZON	文字	3	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
運送業者番号	VOCARS	数値	8	顧客または自社が指定した運送業者の住所録番号を示す値。このフィールドを使用して、経路や特別取扱の要件を指定します。このフィールドには、F0101テーブルにある値を入力してください。
配送指示行1	VODEL1	文字	30	配送指示を入力する情報フィールド。
配送指示行2	VODEL2	文字	30	配送指示を入力する情報フィールド。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
輸送日数	VOLTDT	数値	5	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
貨物取扱コード	VOFRTH	文字	5	仕入先への貨物の配送に使用する方 法、または運賃の負担者を示すコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル42/FR(貨物取扱コード)に存在している必要があります。
購買オーダー等のコピー枚数	VOINVC	数値	2	この仕入先に対して印刷する購買オーダーの数を指定する値。
重量表示単位	VOWUMD	文字	2	オーダーの重量を表す単位を指定するコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル00/UM(単位)に存在している必要があります。このフィールドをblankにすると、在庫固定情報テーブル(F41001)に入力された値に更新されます。
容量表示単位	VOVUMD	文字	2	オーダーの数量を表す単位を示すコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル00/UM(単位)に存在している必要があります。このフィールドをblankにすると、F41001テーブルに入力された値に更新されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
陸揚費用規則	VOPRP5	文字	3	業者手数料やコミッションなど、品目の価格以外の金額を示すコード。陸揚費用規則は、陸揚費用の改訂プログラム(P41291)で設定します。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル41/P5(陸揚費用規則)に存在している必要があります。
バッチ処理モード	VOEDPM	文字	1	仕入先レコードについて、バッチ処理の禁止、またはテスト・モード/最終モードでの実行を示すコード。値は次のとおりです。 I: 禁止。仕入先をバッチ処理の対象にしません。 T: テスト・モード。レコードの処理時にレポートのみ作成します。 P: 最終モード。レコードの処理時にレポートの作成とオーダーの処理を実行します。
仕入先タイプID	VOEDCI	文字	1	DUNS番号や電話番号など、EDITランザクション用に転送する番号のタイプを指定するコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル40/CI(顧客タイプID)に存在している必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
品目タイプID	VOEDII	文字	1	UPCコードや仕入先部品番号など、EDITランザクションで転送する品目番号のタイプを指定するコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル40/II(品目タイプID)に存在している必要があります。
数量の表示小数点以下桁数	VOEDQD	数値	1	この仕入先のEDITランザクションのすべての数量フィールドに適用する表示小数点以下桁数を指定する値。
金額の表示小数点以下桁数	VOEDAD	数値	1	この仕入先のEDITランザクションで使用するすべての金額フィールドに適用する表示小数点以下桁数を指定する値。
配送票	VOEDF1	文字	1	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
品目制約	VOEDF2	文字	2	仕入先に品目を発注するときに特定の制約を適用するかどうかを指定するコード。値は次のとおりです。 ブランク: 制約なし I: 「品目制約」フォームで設定されている場合にのみ購入できます。 E: 品目が、「品目制約」フォームで設定されている場合は、購入できません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
仕入先/親リポート・レベル	VOVI01	文字	1	リポート・システムの基準である組織レベルを示すコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル43/RL(リポート・レベル)に存在する必要があります。
仕入先リポート・コード	VOVI02	文字	1	この支払先でリポートが有効であるかどうかを指定するコード。このフィールドに入力する値は、UDCテーブル43/RA(仕入先リポート・コード)に存在する必要があります。
特殊指示3	VOVI03	文字	1	将来使用のために予約されています。
特殊指示4	VOVI04	文字	1	将来使用のために予約されています。
特殊指示5	VOVI05	文字	1	将来使用のために予約されています。
小切手最小金額コード	VOMNSC	文字	1	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
住所タイプ・コード5	VOATO	文字	1	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
収益正味計算(Y/N)	VORVNT	文字	1	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
価格および調整スケジュール	VOASN	文字	8	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
送付方法	VOCRMD	文字	1	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
入荷基準決済	VOAVCH	文字	1	<p>入荷品目に基づいて伝票を送信するという合意が仕入先との間にあるかどうかを示すコード。仕入先が請求書を送信しない場合、支払入力（伝票照合あり）プログラムを省略できます。かわりに、評価済入荷決済プログラム（R43800）が使われます。値は次のとおりです。</p> <p>N: 入荷基準決済を適用できません。</p> <p>Y: 入荷基準決済を適用可能です。</p> <p>T: 入荷基準決済を適用可能ですが、入荷処理中に許容エラーが生じました。</p> <p>R: 入荷基準決済を適用可能ですが、現在入荷工程処理中です。</p> <p>V: 入荷基準決済処理を使用して、入荷トランザクションの伝票が処理されました。</p>

無視されるフィールド

次の表は、F0401Z1テーブルで無視されるフィールドの一覧です。これらのフィールドはブランクにします。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
トランザクション入力者	VOTORG	文字	10
ユーザーID	VOUSER	文字	10
プログラムID	VOPID	文字	10

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
ワーク・ステーションID	VOJOBN	文字	10
更新日付	VOUPMJ	日付	6
最終更新時刻	VOUPMT	数値	6
時刻	VOTDAY	日付	6
EDI-伝票タイプ	VOEDCT	文字	2
EDI-変換フォーマット	VOEDFT	文字	10
EDI-伝送日付	VOEDDT	日付	6

ユーザー予約フィールド

次の表は、F0401Z1テーブルでユーザー使用のため予約されているフィールドの一覧です。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
金額-住所録	VOABAM	数値	15	金額を表すユーザー定義の数値。データベースで使用可能な形式で指定します。
金額-住所録	VOABA1	数値	15	金額を表すユーザー定義の数値。データベースで使用可能な形式で指定します。
ユーザー予約コード	VOURCD	文字	3	3文字以内の英数字からなるユーザー定義のコード。
ユーザー予約日付	VOURDT	日付	6	日付を表すユーザー定義の値。データベースで使用可能な形式で指定します。 詳細は、データ項目VOEBDTを参照してください。
ユーザー予約金額	VOURAT	数値	15	金額を表すユーザー定義の値。データベースで使用可能な形式で指定します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ユーザー予約番号	VOURAB	数値	8	8桁までのユーザー定義の番号。
ユーザー予約参照	VOURRF	文字	15	15文字以内の英数字からなるユーザー定義の値。

バッチ – 人名録情報テーブル(F0111Z1)のフィールドのマッピング

この項では、F0111Z1テーブルのフィールドの一覧を記載します。一部のフィールドは、人名録情報バッチのアップロード・プログラム(R011110Z)の実行において必須フィールドとなります。その他は必須ではありません。すべてのフィールドが住所録フォームで表示されたり、住所録システムで使用されるわけではありません。

必須フィールド

次の表では、F0111Z1テーブルの必須フィールドの一覧を記載しています。フィールドによっては、空白が有効値となります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI – ユーザーID	CBEDUS	文字	10	ユーザーを識別する番号。プロセスの実行者またはワークフロー・メッセージの受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドと、CBEDTNおよびCBEDBTの各フィールドを組み合わせることにより、トランザクションが個別に識別されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-バッチ番号	CBEDBT	文字	15	<p>データの特定のバッチを識別する番号。このフィールドと、CBEDTNおよびCBEDUSの各フィールドを組み合わせることにより、特定のバッチにあるトランザクションが一意に識別されます。</p> <p>このフィールドはレベル区切りとしても使用され、この値が変わるたびにバッチ番号が新しく割り当てられます。F01151Z1 (EBEDBT)、F01161Z1 (LBEDBT)、またはF01112Z1 (PBEDBT)の「EDI-バッチ番号」フィールドとの整合性を保つため、処理する新規トランザクションごとに一意のバッチ番号を割り当てる必要があります。</p>
EDI-トランザクション番号	CBEDTN	文字	22	<p>各トランザクションを識別する番号。トランザクション番号ごとに、異なる住所録レコードを示します。1つのバッチには、番号の重複したトランザクションが存在することはできません。通常このフィールドには、送信者がトランザクションを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれます。</p>
EDI-行番号	CBEDLN	数値	7	<p>レコードを個別に識別する番号。各トランザクションには、連続する複数の行番号を含めることができます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 処理済	CBEDSP	文字	1	<p>トランザクションが正常に処理されたかどうかを示す値。このフィールドはブランクにしてください。Nは、トランザクションが処理されなかったか、エラーが発生したことを示します。</p> <p>トランザクションが正常に終了すると、値がYに変わります。</p>
トランザクション・アクション	CBTNAC	文字	2	<p>実行するトランザクションの処理を示す値。Aは新規トランザクションを示します。Cは既存の伝票の変更を示します。Dは既存のレコードの削除を意味します。変更および削除の処理は、追加処理後に行う必要があります。</p> <p>送信処理の場合、このフィールドはUA(変更後トランザクション)またはUB(変更前トランザクション)に自動的に更新されます。住所録MBF(P0100041)の処理オプションがオンになっている場合にのみ、UBが使用されます。</p> <p>送信処理では、追加には「A」を、削除には「D」を入力することもできます。</p>
名称	CBALPH	文字	40	<p>検索機能を最適化するため通常は姓、名の形式で入力する名称。語句検索プログラム(P01BDWRD)では、このフィールドが使用されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
住所番号	CBAN8	数値	8	顧客を一意に識別する値。 このフィールドに入力する値は、住所録マスター(F0101)に存在している必要があります。テーブルに存在しない場合は、レコードは処理されません。
人名録行	CBIDLN	数値	5	人名録項目を住所録番号に関連付ける値。
郵送宛名	CBMLNM	文字	40	通信文の送付先の会社または個人の名前を表す英数値。

任意フィールド

次の表は、F0111Z1テーブルの任意フィールドの一覧です。これらのフィールドを使用して、トランザクションに関する追加情報を提供できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	CBTYTN	文字	8	トランザクションのタイプを識別する値。このフィールドをblankにすると、人名録MBF(P0100087)のトランザクション・タイプの処理オプションの値が使用されます。 送信処理を使用する場合は、必須フィールドとなります。
送受信インディケータ	CBDRIN	文字	1	トランザクションが受信と送信のどちらであるかを指定する値。受信トランザクションの場合は、このフィールドをblankにします。送信トランザクションの場合は「2」を入力します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 処理済明細行数	CBEDDL	数値	5	特定のトランザクションに含まれる明細行の数。このフィールドは参考情報としてのみ使用されます。
取引先ID	CBPNID	文字	15	電子データ交換 (EDI) で、取引先を識別するために使用する値。
表示順序	CBDSS5	数値	5	レコードのグループの表示順序を指定するコード。連絡先の各入力項目の表示順序を指定できます。
コンタクト・タイトル	CBATTL	文字	40	連絡先の役職を示す値。
備考	CBREM1	文字	40	注記、説明、名前などを記述する情報フィールド。このフィールドは住所録システムのフォームには表示されません。
敬称	CBSLNM	文字	40	名字の前に使用する敬称を表す情報コード。通常、通信文の冒頭部分に使用します。
第2名称 (フリガナ)	CBALP1	文字	30	宛名のフリガナ用フィールド。
名前	CBGNNM	文字	25	個人の名。これは、参照用のフィールドです。
ミドル・ネーム	CBMDNM	文字	25	個人のミドル・ネーム。これは、参照用のフィールドです。
名字	CBSRNM	文字	25	個人の名字。このフィールドは参考情報としてのみ使用されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
タイプ・コード	CBTYC	文字	1	<p>連絡先(人名録)の入力項目のタイプを指定するユーザー定義コード。タイプ・コードの例は、次のとおりです。</p> <p>A: 宛名 B: 請求先 C: 連絡先 E: 緊急連絡先 O: その他 T: 1099用会社名(米国)</p> <p>このフィールドには、UDCテーブル01/WO(タイプ・コード)で定義されている値を入力する必要があります。</p>
ニックネーム	CBNICK	文字	40	<p>個人のニックネームに使用する参照用情報フィールド。ニックネームは、住所録番号の人名録行に関連付けられます。</p>
性別	CBGEND	文字	1	<p>個人の性別を示すコード。値は次のとおりです。</p> <p>M: 男性 F: 女性</p>
住所有効日付	CBEFTW	日付	8	<p>代替住所テーブル(F01161)の住所が有効となる日付。</p> <p>有効日付を入力する場合は、「住所録固定情報」の「有効日付別住所の設定」オプションを選択する必要があります。</p>
生年月日 - 日	CBDDATE	数値	2	<p>生年月日の日を示す数字。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
生年月日 - 月	CBDMON	数値	2	生年月日の月を示す数字。
生年月日 - 年	CBDYR	数値	4	生年月日の年を示す数字。
人名録情報カテゴリ・コード01から10	CBW001 - CBW010	文字	3	カテゴリ・コード。カテゴリ・コード・フィールドには、対応するUDCテーブル01/W0から01/WTで定義されている値を入力する必要があります。
人名録カテゴリ・コード01から10	CBWN001 - CBWN010	文字	3	カテゴリ・コード。カテゴリ・コード・フィールドには、対応するUDCテーブル01/N1から01/NAで定義されている値を入力する必要があります。
指定連絡方法	CBPCM	文字	10	連絡先の希望の連絡方法を定義するユーザー定義コード(01/CQ)。
主連絡先	CBPCF	文字	1	住所録の主連絡先を指定するために使用するコード。主連絡先は、連絡先タイプ当たり1件のみです。主連絡先としてレコードを指定するには、「1」を入力します。
インディケータ・フラグ	CBACTIN	文字	1	このフィールドは、将来使用のために予約されています。
固有識別子	CBCFRGUID	文字	36	このフィールドは、DominoまたはExchangeとの同期の際に、人名録レコードを識別するのに使用されます。
職務コード	CBFUCO	文字	10	会社での連絡先の職務を示すユーザー定義コード。ユーザー定義コード(01/FC)から値を入力してください。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
参照名	CBREFNAME	文字	40	このフィールドは、DominoおよびExchangeとの同期化に使用されます。DominoまたはExchangeにある会社名を入力してください。この値は重複入力の検出に使用されます。
子(正常処理済)	CBCHPROC	文字	1	<p>F0111Z1レコードの子レコードが正常に処理されたかどうか指定するコード。子レコードには、次のテーブルのレコードがあります。</p> <p>F01161Z1 F0115Z1 F01151Z1 F01112Z1</p> <p>子レコードは、EDI-ユーザーID、EDI-バッチ番号、およびEDI-トランザクション番号を使用して、親F0111Z1フィールドに関連付けられます。</p>

無視されるフィールド

次の表は、F0111Z1テーブルで無視されるフィールドの一覧です。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
EDI-伝票タイプ	CBEDCT	文字	2
EDI-変換フォーマット	CBEDFT	文字	10
EDI-伝送日付	CBEDDT	日付	6
圧縮記述	CBDC	文字	40
トランザクション入力者	CBTORG	文字	10
ユーザーID	CBUSER	文字	10

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
プログラムID	CBPID (DominoまたはExchangeからJD Edwards EnterpriseOneに送信されたレコードでは、このフィールドの値がPIMSYNCHになります。これは送信済のレコードが送信元のDominoまたはExchangeに戻されないようにするためです。) 参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 System Administration Guide	文字	10
ワーク・ステーションID	CBJOBN	文字	10
更新日付	CBUPMJ	日付	6
時刻	CBTDAY	日付	6
最終更新時刻	CBUPMT	数値	6

ユーザー予約フィールド

次の表は、F0111Z1テーブルでユーザー使用のため予約されているフィールドの一覧です。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
第2郵送宛名	CBMLN1	文字	1	宛名のフリガナ用フィールド。
検索タイプ	CBAT1	文字	3	レコードの分類を示す値。仕入先、顧客、従業員、会社などの分類項目があります。このフィールドには、UDCテーブル01/ST(検索タイプ)で定義されている値を入力する必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
アクティブ/非アクティブ・フラグ	CBCCAI	文字	1	通貨の関係がアクティブか、非アクティブかを指定するインディケータ。
連絡先タイプ	CBNTYP	文字	3	影響者、競争相手など、連絡先の役割を示すユーザー定義の値。このフィールドには、UDCテーブル01/CT(連絡先タイプ)で定義されている値を入力する必要があります。

バッチ – 関連先テーブル(F01112Z1)のフィールドのマッピング

この項では、F01112Z1テーブルのフィールドの一覧を記載します。一部のフィールドは、人名録情報バッチのアップロード・プログラム(R011110Z)の実行において必須フィールドとなります。その他は必須ではありません。すべてのフィールドが住所録フォームで表示されたり、住所録システムで使用されるわけではありません。

必須フィールド

次は、F01112Z1テーブルの必須フィールドの一覧です。フィールドによっては、ブランクが有効値となります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザーID	PBEDUS	文字	10	プロセスを実行しているユーザー、またはワークフロー・メッセージの受信対象ユーザーを識別する番号。このフィールドと、PBEDTNおよびPBEDBTフィールドを組み合わせることで、特定のバッチにあるトランザクションが個別に識別されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-バッチ番号	PBEDBT	文字	15	バッチを識別する値。このフィールドと、PBEDUSおよびPBEDTNの各フィールドを組み合わせる使用することにより、特定のバッチにあるトランザクションが個別に識別されます。この値が変更されるたびに、新しいバッチ番号が割り当てられます。各トランザクション・グループに1つのバッチ番号を割り当てることで、パフォーマンスを大幅に向上できます。
EDI-トランザクション番号	PBEDTN	文字	22	各トランザクションを識別する値。新しいトランザクション番号はそれぞれ、新しい関連先レコードを示します。1つのバッチに、番号の重複するトランザクションを複数含むことはできません。通常このフィールドには、レコードを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれます。
EDI-行番号	PBEDLN	数値	7	レコードを個別に識別する番号。各トランザクションには、連続する複数の行番号を含めることができます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-処理済	PBEDSP	文字	1	<p>トランザクションが正常に処理されたかどうかを示すシステム提供値。値は次のとおりです。</p> <p>N: トランザクションが処理されなかった、またはエラーが発生。</p> <p>Y: 正常に処理が完了。</p> <p>送信処理の場合、この値はNに更新されます。</p>
トランザクション・アクション	PBTNAC	文字	2	<p>受信処理の場合、トランザクションのタイプを指定する値。値は次のとおりです。</p> <p>A: 新規レコード</p> <p>C: 既存の伝票の変更レコード。追加を処理した後で、変更が処理されます。</p> <p>D: 既存の伝票の削除レコード。追加を処理した後で、削除が処理されます。</p> <p>送信処理の場合、有効値は次のとおりです。</p> <p>UA: 変更後トランザクション</p> <p>UB: 変更前トランザクション</p> <p>人名録MBF (P0100087) の処理オプションがオンになっている場合にのみ、UBに更新されます。</p> <p>送信処理では、追加には「A」を、削除には「D」を入力することもできます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
住所番号	PBAN8	数値	8	関連先を固有の住所録レコードに関連付ける値。このフィールドに入力する値は、住所録マスター(F0101)に存在している必要があります。テーブルに存在しない場合は、レコードは処理されません。
人名録行	PBIDLN	数値	5	人名録項目を住所録レコードに関連付ける値。
関連先	PBRALP	文字	40	関連先項目を住所録レコードに関連付ける値。

任意フィールド

次の表は、F01112Z1テーブルの任意フィールドの一覧です。これらのフィールドを使用して、トランザクションに関する追加情報を提供できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	PBTYTN	文字	8	処理されるトランザクションのタイプを識別する値。 このフィールドをブランクにすると、人名録MBF(P0100087)のトランザクション・タイプの処理オプションの値が使用されます。 送信処理を使用しているときは、必ずこのフィールドに値を入力してください。
送受信インディケータ	PBDRIN	文字	1	トランザクションが受信と送信のどちらであるかを示す値。値は次のとおりです。 ブランク: 受信 2: 送信

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-処理済明細行数	PBEDDL	数値	5	電子データ交換 (EDI) で、特定のトランザクションに含まれる明細行の数を指定するために使用する値。このフィールドは参考情報としてのみ使用されます。
取引先ID	PBPNIID	文字	15	電子データ交換 (EDI) で、取引先を識別するために使用する値。
関連先ID	PBCNLN	数値	5	人名録または連絡先のレコードを関連先に関連付ける値。各関連先レコードに対して固有の値を入力します。 レコードの変更または削除を実行する場合、このフィールドは必須です。
関係タイプ	PBRELY	文字	5	連絡先と関連先の間の関係を識別する値。このフィールドには、UDCテーブル 01/RT で定義されている値を入力する必要があります。
生年月日 - 日	PBDDATE	数値	2	関連先の生年月日の日を示す数字。
生年月日 - 月	PBDMON	数値	2	関連先の生年月日の月を示す数字。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
生年月日 - 年	PBDYR	数値	4	関連先の生年月日の年を示す数字。
関連先カテゴリ・コード01から10	PBCP001 - PBCP005	文字	3	住所録システムで定義され、関連先に関するレポート用に使用されるカテゴリ・コード。 このフィールドには、対応するUDCテーブル01/CP001から01/CP005で定義されている値を入力する必要があります。

無視されるフィールド

次の表は、F01112Z1テーブルで無視されるフィールドの一覧です。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
EDI - 伝票タイプ	PBEDCT	文字	2
EDI - 変換フォーマット	PBEDFT	文字	10
EDI - 伝送日付	PBEDDT	日付	6
トランザクション入力者	PBTORG	文字	10
ユーザーID	PBUSER	文字	10
プログラムID	PBPID	文字	10
ワーク・ステーションID	PBJOBN	文字	10
更新日付	PBUPMJ	日付	6
時刻	PBTDAY	日付	6
最終更新時刻	PBUPMT	数値	6

電話番号 - インタオペラビリティ・テーブル (F0115Z1) のフィールドのマッピング

この項では、F0115Z1のフィールドの一覧を記載します。一部のフィールドは、人名録バッチのアップロード・プログラム (R011110Z) の実行において必須フィールドとなります。その他は必須ではありません。

必須フィールド

次は、F01151Z1テーブルの必須フィールドの一覧です。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザーID	PIEDUS	文字	10	<p>ユーザー定義のID番号。プロセスの実行者またはワークフロー・メッセージの受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドと、PIEDTNおよびPIEDBTの各フィールドを組み合わせることにより、トランザクションが個別に識別されます。</p> <p>人名録レコードの電話番号をアップロードする場合は、人名録レコードのアップロードに使用する値を入力します。</p>
EDI-バッチ番号	PIEDBT	文字	15	<p>PIEDTNおよびPIEDUSフィールドと組み合わせることにより、指定したバッチ内のトランザクションを個別に特定するコード。</p> <p>このフィールドはレベル区切りとしても使用され、この値が変わるたびにバッチ番号が新しく割り当てられます。各トランザクション・グループに1つのバッチ番号を割り当てることで、パフォーマンスを大幅に向上できます。</p> <p>人名録レコードの電話番号をアップロードする場合は、人名録レコードのアップロードに使用する値を入力します。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-トランザクション番号	PIEDTN	文字	22	<p>各トランザクションを識別するコード。トランザクション番号ごとに、異なる人名録レコードを示します。1つのバッチには、番号の重複したトランザクションが存在することはできません。通常このフィールドには、トランザクションを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれます。</p> <p>人名録レコードの電話番号をアップロードする場合は、人名録レコードに使用する値を入力します。</p>
EDI-行番号	PIEDLN	数値	7	<p>レコードを個別に識別する番号。各トランザクションには、連続する複数の行番号を含めることができます。</p> <p>人名録レコードの電話番号をアップロードする場合は、「0」を入力します。関連先レコードの電話番号をアップロードする場合は、関連先レコードのアップロードに使用したEDLN番号フィールドの値を入力します。</p>
EDI-トランザクション番号	PIEDTL	文字列	20	<p>電話番号レコードを識別する番号。電話番号レコードごとに固有の番号を入力します。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・アクション	PITNAC	文字	1	実行するトランザクションの処理を示す値。Aは新規トランザクションを示します。Cは既存の伝票の変更を示します。Dは既存のレコードの削除を意味します。変更および削除の処理は、追加処理後に行う必要があります。
処理済み	PIEDSP	文字	1	トランザクションが正常に処理されたかどうかを示す値。このフィールドはブランクにしてください。Nは、トランザクションが処理されなかったか、エラーが発生したことを示します。 トランザクションが正常に終了すると、値がYに変わります。
住所番号	PIAN8	数値	8	仕入先、顧客、従業員などを識別する固有の値。 電話番号情報のアップロード対象となる顧客または仕入先の住所録番号を入力します。
電話番号	PIPH1	数値	20	電話番号情報のアップロード対象となる担当者の電話番号。

任意フィールド

次は、F0115Z1テーブルの任意フィールドの一覧です。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	PITYTN	文字	8	トランザクションのタイプを識別する値。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
送受信インディケーター	PIDRIN	文字	1	トランザクションが受信と送信のどちらであるかを指定する値。値は次のとおりです。 ブランク: 受信 1: 送信 電話番号の送信処理はサポートされていません。
処理された明細行数	PIEDDL	数値	5	特定のトランザクションに含まれる明細行の数。このフィールドは参考情報としてのみ使用されます。
取引先ID	PIPNIID	文字	15	電子データ交換(EDI)で、取引先を識別するために使用する値。
人名録行番号 - ID	PIIDLN	数値	5	人名録レコードの行ID番号の識別に使用されるコード。
行番号ID - 5.0	PIRCK7	数値	5	ファイルで個別のキーを作成するのに使用される番号。レコード順序の並べ替えができるプログラムを使用している場合は、データ辞書項目DSS5、DSS7、DSS9のいずれかの使用をお勧めします。
関連先ID	PICNLN	数値	5	関連先レコードを識別する番号。このフィールドは、関連先レコードを変更または削除する際に使用されます。変更または削除の対象となる関連先の行番号を入力します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
電話番号タイプ	PIPHTP	文字	4	電話番号の場所または電話番号のタイプのいずれかを示すコード。ユーザー定義コード(01/PH)から有効なコードを入力してください。
市外局番	PIAR1	文字	6	電話番号の先頭部分の番号。米国の場合は3桁のエリア・コードを使用します。
汎用番号1	PICFN01	数値	8	このフィールドは、将来使用のために予約されています。
一般情報 - 1	PIGEN1	文字	10	このフィールドは、将来使用のために予約されています。
将来使用フラグ	PIFALGE	文字	1	このフィールドは、将来使用のために予約されています。

無視されるフィールド

次の表に示すF0115Z1テーブルのフィールドは無視されます。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
EDI - 変換フォーマット	PIEDFT	文字	10
EDI - 伝送日付	PIEDDT	日付	6
EDI - 伝票タイプ	PIEDCT	文字	2
ユーザーID	PIUSER	文字	10
プログラムID	PIPID	文字	10
ワーク・ステーションID	PIJOBN	文字	10
更新日付	PIUPMJ	日付	6
最終更新時刻	PIUPMT	数値	6

バッチ - 電子メール・アドレス・テーブル (F01151Z1) のフィールドのマッピング

この項では、F01151Z1テーブルのフィールドの一覧を記載します。一部のフィールドは、人名録バッチのアップロード・プログラム (R011110Z) の実行において必須フィールドとなります。その他は必須ではありません。すべてのフィールドが住所録フォームで表示されたり、住所録システムで使用されるわけではありません。

必須フィールド

次は、F01151Z1テーブルの必須フィールドの一覧です。フィールドによっては、ブランクが有効値となります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - ユーザーID	EBEDUS	文字	10	ユーザー定義のID番号。プロセスの実行者またはワークフロー・メッセージの受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドと、EBEDTNおよびEBEDBTの各フィールドを組み合わせることにより、トランザクションが個別に識別されます。
EDI - バッチ番号	EBEDBT	文字	15	EBEDTNおよびEBEDUSフィールドと組み合わせることにより、指定したバッチ内のトランザクションを個別に特定するコード。 このフィールドはレベル区切りとしても使用され、この値が変わるたびにバッチ番号が新しく割り当てられます。各トランザクション・グループに1つのバッチ番号を割り当てることで、パフォーマンスを大幅に向上できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-トランザクション番号	EBEDTN	文字	22	各トランザクションを識別するコード。トランザクション番号ごとに、異なる住所録レコードを示します。1つのバッチには、番号の重複したトランザクションが存在することはできません。通常このフィールドには、トランザクションを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれます。
EDI-行番号	EBEDLN	数値	7	レコードを個別に識別する番号。各トランザクションには、連続する複数の行番号を含めることができます。
EDI-処理済	EBEDSP	文字	1	トランザクションが正常に処理されたかどうかを示す値。Nは、トランザクションが処理されなかったか、エラーが発生したことを示します。トランザクションが正常に終了すると、値がYに変わります。 送信処理の場合、この値はNに更新されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・アクション	EBTNAC	文字	2	<p>トランザクションの処理を識別する値。新規追加の場合は、このフィールドに「A」と入力します。既存伝票の変更を処理する場合は、「C」と入力します。変更処理はすべて、追加処理が終了してから行う必要があります。</p> <p>送信処理の場合、このフィールドはUA（変更後トランザクション）またはUB（変更前トランザクション）のいずれかに更新されます。人名録MBF（P0100087）の処理オプションがオンになっている場合にのみ、UBに更新されます。</p> <p>送信処理では、削除用に「D」を、追加用に「A」を入力することもできます。</p>
住所番号	EBAN8	数値	8	<p>関連先の連絡先（人名録）が関連付けられる会社、顧客、仕入先などを固有に識別する値。このフィールドに入力する値は、住所録マスター（F0101）に存在している必要があります。テーブルに存在しない場合は、レコードは処理されません。</p>
人名録行	EBIDLN	数値	5	<p>EBAN8フィールドに入力した住所番号の特定の人名録項目に電子メール・アドレスを関連付ける値。</p>

任意フィールド

次の表は、F01151Z1テーブルの任意フィールドの一覧です。これらのフィールドを使用して、トランザクションに関する追加情報を提供できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	EBTYTN	文字	8	トランザクションが変更後のみか、あるいは変更前と変更後の両方かを識別する値。このフィールドがブランクで、人名録 MBF (P0100087) のトランザクション・タイプの処理オプションが設定されている場合は、このフィールドは処理オプションの値で更新されます。 送信処理を使用しているときは、必ずこのフィールドに値を入力してください。
送受信インディケータ	EBDRIN	文字	1	トランザクションが受信と送信のどちらであるかを指定する値。値は次のとおりです。 ブランク: 受信 2: 送信
EDI - 処理済明細行数	EBEDDL	数値	5	特定のトランザクションに含まれる明細行の数を示す値。これは、参照用のフィールドです。
取引先ID	EBPNID	文字	15	電子データ交換 (EDI) で、取引先を識別するために使用する値。
行番号ID - 5.0	EBRCK7	数値	5	固有のキー・フィールドを示す値。連絡先、または人名録の入力項目に対して複数の電子メール・アドレスがある場合は、このフィールドを使用して、入力項目の順序を決めることができます。
電子メール・アドレス・タイプ	EBETP	文字	4	電子メール・アドレスがインターネット・アドレスかを示す値。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
電子メール・アドレス	EBEMAL	文字	256	連絡先または人名録の担当者の電子メール・アドレス、またはインターネット・アドレス。
メッセージ処理インディケーター	EBEHIER	数値	2	電子メール・アドレスの処理方法を決定するためにワークフローで使用するメッセージ・インディケーター。指定した電子メール・アドレスに電子メールを送信しない場合は、「00」を入力します。指定した電子メール・アドレスに電子メールを送信する場合は、「01」を入力します。
電子メール・フォーマット	EBEFOR	文字	15	電子メール・アドレスの形式を入力します。たとえば、次のような値を入力します。 HTML テキスト RTF
汎用番号1	EBCFN01	数値	8	このフィールドは、将来使用のために予約されています。
一般情報1	EBGEN1	文字	10	このフィールドは、将来使用のために予約されています。
将来使用フラグ	EBFALGE	文字	1	このフィールドは、将来使用のために予約されています。
電子メール分類	EBCLASS	文字	3	将来使用のために予約されています。

無視されるフィールド

次の表は、F01151Z1テーブルで無視されるフィールドの一覧です。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
EDI-伝票タイプ	EBEDCT	文字	2
EDI-変換フォーマット	EBEDFT	文字	10
EDI-伝送日付	EBEDDT	日付	6
トランザクション入力者	EBTORG	文字	10
ユーザーID	EBUSER	文字	10
プログラムID	EBPID	文字	10
ワーク・ステーションID	EBJOBN	文字	10
更新日付	EBUPMJ	日付	6
時刻	EBTDAY	日付	6
最終更新時刻	EBUPMT	数値	6

バッチ - 代替住所テーブル(F01161Z1)のフィールドのマッピング

この項では、F01161Z1テーブルのフィールドの一覧を記載します。一部のフィールドは、人名録情報バッチのアップロード・プログラム(R011110Z)の実行において必須フィールドとなります。その他は必須ではありません。すべてのフィールドが住所録フォームで表示されたり、住所録システムで使用されるわけではありません。

必須フィールド

次は、F01161Z1テーブルの必須フィールドの一覧です。フィールドによっては、ブランクが有効値となります。次のフィールドに入力された値は、代替住所テーブル(F01161)に取り込まれます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザーID	LBEDUS	文字	10	ユーザー定義のID番号。人名録バッチのアップロード・プログラムの実行者のユーザーID、またはワークフロー・メッセージの受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドと、LBEDTNおよびLBEDBTの各フィールドを組み合わせることにより、トランザクションが個別に識別されます。
EDI-バッチ番号	LBEDBT	文字	15	人名録バッチのアップロード・プログラムの実行者が各バッチに割り当てる番号。このフィールドが変更されるたびに、新しいバッチ番号が自動的に割り当てられます。処理する各トランザクション・グループに1つのバッチ番号を割り当てることで、パフォーマンスを大幅に向上できます。
EDI-トランザクション番号	LBEDTN	文字	22	各トランザクションを識別する番号。トランザクション番号ごとに、異なる代替住所レコードを示します。1つのバッチには、番号の重複したトランザクションが存在することはできません。通常このフィールドには、送信者がトランザクションを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれます。
EDI-行番号	LBEDLN	数値	7	レコードを個別に識別する番号。各トランザクションには、連続する複数の行番号を含めることができます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-処理済	LBEDSP	文字	1	<p>トランザクションが正常に処理されたかどうかを示す値。このフィールドはブランクにしてください。Nは、トランザクションが処理されなかったか、エラーが発生したことを示します。</p> <p>トランザクションが正常に終了すると、値がYに変わります。</p>
トランザクション・アクション	LBTNAC	文字	2	<p>実行するトランザクションの処理を示す値。Aは新規トランザクションを示します。Cは既存の伝票の変更を示します。Dは既存のレコードの削除を意味します。変更および削除の処理は、追加処理後に行う必要があります。</p> <p>送信処理の場合、このフィールドは変更後トランザクション(UA)または変更前トランザクション(UB)のいずれかに更新されます。連絡先情報MBF POの処理オプションがオンになっている場合にのみ、このフィールドにUBが使用されます。</p> <p>送信処理では、追加には「A」を、削除には「D」を入力することもできます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
住所番号	LBAN8	数値	8	<p>仕入先、顧客、従業員、会社などを識別する固有の値。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、住所録システムの自動採番テーブル (F0002) を基に自動的に番号が割り当てられます。</p> <p>このフィールドに値を入力する場合、SZTNACフィールドの値がC (既存レコードの変更) に指定されている場合を除き、住所録マスター (F0101) にある値は使用できません。住所録マスターに値が存在する場合は、トランザクションが重複しているとみなされ、処理は実行されません。</p>
タイプ - 住所番号	LBATYPE	文字	5	<p>自宅や会社の住所など住所のタイプを表すコード。このフィールドには、UDCテーブル01/AT (住所タイプ) で定義されている値を入力する必要があります。</p>
人名録行	LBIDLN	数値	5	<p>代替住所レコードに関連付ける人名録項目を指定する値。</p>

任意フィールド

次の表は、F01161Z1の任意フィールドの一覧です。これらのフィールドを使用して、トランザクションに関する追加情報を提供できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	LBTYTN	文字	8	トランザクションのタイプを識別する値。このフィールドがblankで、人名録MBF (P0100087) のトランザクション・タイプの処理オプションが設定されている場合は、このフィールドは処理オプションの値で更新されます。 送信処理を使用する場合は、必須フィールドとなります。
送受信インディケータ	LBDRIN	文字	1	トランザクションが受信と送信のどちらであるかを指定する値。値は次のとおりです。 blank: 受信 2: 送信
EDI- 処理済明細行数	LBEDDL	数値	5	特定のトランザクションに含まれる明細行数の数。このフィールドは参考情報としてのみ使用されます。
取引先ID	LBPNIID	文字	15	電子データ交換 (EDI) で、取引先を識別するために使用する値。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
開始有効日	LBEFTB	日付	6	<p>代替住所レコードが始めて有効になる日付。データベースで使用可能な形式で指定します。データベースによっては、グレゴリオ暦の日付形式 (mmddyy または yymmdd) が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式で入力する必要がある場合があります。</p> <p>ユリウス暦の日付は、cyyddd (c は世紀数下1桁) という形式で表します。21世紀のトランザクションには「1」を入力します。たとえば、6/1/2005 (2005年6月1日) はユリウス暦では105152になります。6/1/04 (2004年6月1日) は104153になります (2000年は2月29日があるうるう年のためです)。</p>
住所行1、住所行2、住所行3、住所行4	LBADD1 LBADD2 LBADD3 LBADD4	文字	40	代替住所レコードの郵送先住所を識別する英数字の値。
郵便番号	LBADDZ	文字	12	郵便物の配達用に各国の郵便機関によって住所に対して割り当てられたコード。
市町村	LBCTY1	文字	25	代替住所に使用する市。
郡	LBCOUN	文字	25	郵便物の配達または税務上の目的で住所の表記に使用する群、地域、行政上の特別区。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
州/都道府県	LBADDS	文字	3	住所に使用する都道府県(州)。このフィールドには、UDCテーブル00/S(都道府県)で定義されている値を入力する必要があります。
国	LBCTR	文字	3	住所に使用する国。このフィールドには、UDCテーブル00/CN(国コード)で定義されている値を入力する必要があります。
有効日付フラグ	LBEFTF	文字	1	住所に有効日付が設定されているかどうかを示すコード。
主住所フラグ	LBMAINA	文字	1	この住所が基本住所であることを示すコード。

無視されるフィールド

次の表は、F01161Z1テーブルで無視されるフィールドの一覧です。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
EDI-伝票タイプ	LBEDCT	文字	2
EDI-変換フォーマット	LBEDFT	文字	10
EDI-伝送日付	LBEDDT	日付	6
トランザクション入力者	LBTORG	文字	10
ユーザーID	LBUSER	文字	10
プログラムID	LBPID	文字	10
ワーク・ステーションID	LBJOBN	文字	10
更新日付	LBUPMJ	日付	6
時刻	LBTDAY	日付	6
最終更新時刻	LBUPMT	数値	6

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide

付録 B

住所録システムで使用するテーブル

住所録システムには、住所録情報用のテーブルとバッチ処理用のテーブルがあります。

住所録テーブル

次の表は、住所録システムで使用するテーブルの一覧です。

テーブル	説明
住所録マスター (F0101)	住所録番号が割り当てられた個人または会社の、名前、住所番号、検索タイプ、および住所録カテゴリ・コードを保存します。
住所録 - 人名録 (F0111)	特定の住所録番号に関連付けられた個人の、名前、住所録情報、および人名録カテゴリ・コード情報を保存します。
関連先 (F01112)	人名録に関連付けられた個人の、名前、個人情報、および関連先カテゴリ・コード情報を保存します。
住所録 - 連絡先電話番号 (F0115)	市外局番、電話番号および電話のタイプを保存します。
電子メール/インターネット・アドレス (F01151)	人名録に関連付けられた電子メールおよびURLアドレスを保存します。
日付別住所 (F0116)	住所録番号に関する、住所、住所行、郵便番号、有効日付を保存します。
郵便番号 (F0117)	入力した郵便番号に対応する市、都道府県(州)、国の他、オプションで第2郵便番号、料金別納郵便センター、配送経路を保存します。
代替住所 (F01161)	人名録レコードと連絡先レコードの、住所、住所行、郵便番号、および有効日付を保存します。
住所組織構造マスター (F0150)	親番号、子番号、住所番号、および構造タイプを保存します。
親/子関係 (上級) (F01501)	親番号と人名録の子番号を保存します。

テーブル	説明
国別固定情報マスター・ファイル (F0070)	国外の宛名ラベル用の国別の住所フォーマットを保存します。
住所録語句検索マスター (F01815)	名前の検索時に参照される語句を保存します。
補足データベース - コア (F01090) 補足データベース - コード (F01092) 補足データベース - 説明 (F01093)	テキストおよび統計情報など、ユーザー定義情報を保存します。
住所録マスター監査ログ (F0101A)	既存の住所録レコードに対する変更の記録と、入力された新規住所録レコードの記録を保存します。
住所録データ許可リスト定義 (F01138)	住所録データのプライバシー保護のために使用される許可リストの定義を保存します。保存される情報には、データのプライバシーのため保護する必要があるフィールドが含まれます。
郵便番号別住所 (F0118)	特定の郵便番号に関連付けられた住所を保存します。
アクティビティ・マスター (F01301)	基本設定カレンダー・モジュールで使用するアクティビティとタスクを保存します。
アクティビティ・マスター・ワークテーブル (F01301W)	アクティビティとタスクのレコードを保存します。アクティビティの照会時に生成される定期処理レコードも保存対象に含まれます。
アクティビティ - 同期用削除ID (F01302)	接続解除モードで削除されたレコードを保存します。
カレンダー・マスター (F01311)	基本設定カレンダー・モジュールで作成されたすべてのカレンダーについて、カレンダー・レコードおよび関連プロパティを保存します。
定期マスター (F01321)	アクティビティとタスクの定期処理パターンを保存します。
定期除外 (F01331)	アクティビティまたはタスクで指定した定期処理の除外設定を保存します。
アクション・プラン (F01401)	アクティビティ・テンプレートのグループ (擬似グループ) を保存します。後に実際のアクティビティを作成する際に使用されます。
アクション・プラン・アクティビティ (F01411)	アクション・プランとの関連付けに使用可能なアクティビティ・テンプレートを保存します。
連絡先サブスクリプション・テーブル (F011901)	JD Edwards EnterpriseOne サーバーとPIMの同期対象として指定された連絡先を保存します。

テーブル	説明
仕入先マスター (F0401)	仕入先固有の情報を保存します。
業種別顧客マスター (F03012)	顧客固有の情報を保存します。

バッチ処理用の住所録テーブル

次の表は、住所録システムでバッチ処理に使用するテーブルの一覧です。

テーブル	説明
住所録 - インタオペラビリティ (F0101Z2)	JD Edwards EnterpriseOneの住所録マスターにアップロードするために外部ソース(サード・パーティ)から読み込んだ住所録レコードを保存します。
業種別顧客マスター - バッチ・テーブル (F03012Z1)	JD Edwards EnterpriseOneの顧客マスター・レコードにアップロードするために外部ソース(サード・パーティ)から読み込んだレコードを保存します。
仕入先マスター - バッチ・アップロード (F0401Z1)	JD Edwards EnterpriseOneの仕入先マスター・レコードにアップロードするために外部ソース(サード・パーティ)から読み込んだレコードを保存します。
バッチ - 人名録情報 (F0111Z1)	JD Edwards EnterpriseOneの人名録テーブルにアップロードするために外部ソース(サード・パーティ)から読み込んだ人名録レコードを保存します。
バッチ - 関連先 (F01112Z1)	JD Edwards EnterpriseOneの関連先情報テーブルにアップロードするために外部ソース(サード・パーティ)から読み込んだ関連先情報レコードを保存します。
電話番号 - インタオペラビリティ (F0115Z1)	連絡先の電話番号情報を保存します。
バッチ - 電子メール・アドレス (F01151Z1)	JD Edwards EnterpriseOneの電子メール・アドレス・レコードにアップロードするために外部ソース(サード・パーティ)から読み込んだ電子メールおよびURLレコードを保存します。
バッチ - 代替住所 (F01161Z1)	JD Edwards EnterpriseOneの代替住所レコードにアップロードするために外部ソース(サード・パーティ)から読み込んだ代替住所レコードを保存します。

関連項目:

第4章、「住所録レコードの入力」、「住所録レコードの追加」、41ページ

付録 C

JD Edwards EnterpriseOne住所録の標準ワークフロー

この付録では、JD Edwards EnterpriseOne住所録の標準ワークフローについて説明します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

JD Edwards EnterpriseOne住所録の標準ワークフロー

この項では、JD Edwards EnterpriseOne住所録の標準ワークフローについて説明します。

アクティビティ/タスクの通知

この項では、アクティビティ/タスクの通知ワークフローについて説明します。

内容

ワークフローの概要	基本設定カレンダー・システムのイベントまたはタスクの所有者と割当先に対して、ワークフロー処理が開始されます。ワークフロー処理は、イベントまたはタスクに対して指定されたリードタイムに達するまで、スリープ状態になります。リードタイムに達すると、イベントまたはタスクの所有者と割当先に対してワークフロー・メッセージが送信されます。
ワークフロー・トリガー	イベントまたはタスクを入力または更新して、通知オプションにリードタイムとリードユニットを選択すると、ワークフロー処理が開始されます。
ワークフロー処理	イベントまたはタスクの所有者と割当先が、通知メッセージを受信します。メッセージに含まれる内容は、住所録番号フィールド1、住所録1の連絡先、住所録番号フィールド2、住所録2の連絡先、イベントまたはタスクの説明、アクティビティ・タイプ、開始日と開始時間、および終了日と終了時間です。

ワークフロー・オブジェクト

システム	01
ワークフロー・オブジェクト名	K0130040
オブジェクトID	N0130040
イベント記述/関数名	ActivityStartReminder
順序/行番号	19

付録 D

JD Edwards EnterpriseOne住所録レポート

この付録では、住所録レポートの概要について説明し、次の情報を提供します。

- 全レポートの一覧表
- 主なレポートの詳細

住所録レポート

住所録レポートでは、次のテーブルの情報が使用されます。

- 住所録マスター (F0101)
- 住所録 - 人名録 (F0111)
- 日付別住所 (F0116)

各種レポートを出力することにより、住所録情報が正確かどうかを確認したり、変更状況を追跡できます。レポートによっては、住所に割り当てた連絡先名の数により、1つの住所が何度も出力されることがあります。

住所録レコードとして設定されている個人や会社宛に郵便物を送付する場合、住所録システムを使用して宛名ラベルを印刷できます。Cheshireラベルまたは標準宛名ラベルのいずれかを使用して、宛名ラベルを印刷できます。ラベルは、国別に指定したフォーマットで印刷されます。国別固定情報テーブル (F0070) に設定されていない国の場合は、デフォルトの国のフォーマットでラベルが印刷されます。

有効日付を使用する場合は、有効住所更新プログラム (R01840) を実行して、住所録レポートと宛名ラベルに最新の住所が出力されるようにします。

参照: [第 4 章、「住所録レコードの入力」、35 ページ](#)

住所録情報が正確であるかどうかを確認するには、コード付き詳細住所レポート (R01403) を印刷します。

住所録のすべてのレポート

次の表に、住所録レポートをレポートID順に示します。

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R01050 顧客マスターへのカテゴリ・コードのコピー	住所録のカテゴリ・コードを変更したとき、顧客マスター・レコードのカテゴリ・コードをその値に更新する場合に、このプログラムを使用します。	「住所録上級/技術的操作」(G0131)、「顧客マスターへのカテゴリ・コードのコピー」
R01401 宛名ラベルの印刷	Cheshireマシンを使用したり、宛名ラベルを外注する場合に、このプログラムを使用します。	「定期処理」(G0121)、「宛名ラベルの印刷」
R01401A 標準宛名ラベル	自分で郵送作業を行い標準ラベル用紙を使用する場合に、このプログラムを使用します。	「定期処理」(G0121)、「標準宛名ラベル」
R014021 住所別レポート	このレポートには、すべての住所の一覧が出力されます。住所番号ごとに詳細情報が1行出力されます。	「定期処理」(G0121)、「住所別レポート」
R01402W 人名録別レポート	このレポートには、人名録の全住所の一覧が出力されます。住所番号に関連付けられた人名録レコードごとに詳細情報が1行出力されます。	「定期処理」(G0121)、「人名録別レポート」
R01403 コード付き詳細住所	このレポートには、すべての住所録番号について、郵送先住所とカテゴリ・コードの一覧が出力されます。	「定期処理」(G0121)、「コード付き詳細住所」
R01403W コード付き詳細住所(人名録)	このレポートには、すべての住所録番号について、人名録の名前、郵送先住所、カテゴリ・コードの一覧が出力されます。	「定期処理」(G0121)、「コード付き詳細住所(人名録)」
R014032A 税ID付き住所録レポート	このレポートには、すべての仕入先の一覧とその税ID番号が出力されます。また、このレポートには各仕入先の個人/法人コードの値も出力されます。 参照: JD Edwards EnterpriseOne 1099 Processing for 2007 Implementation Guide	「年次処理」(G0422)、「税ID付き住所録レポート」

住所録の主なレポート

一部のレポートについて、処理オプションの情報などをより詳細に説明します。この付録では、これらのレポートをレポートID順に示します。

R01050 – 顧客マスターへのカテゴリ・コードのコピー

住所録カテゴリ・コードを変更した場合に、顧客マスターへのカテゴリ・コードのコピーレポートを使用して、顧客マスターのカテゴリ・コードと同期をとります。これにより、住所録カテゴリ・コードの値が顧客マスター・レコードの対応するカテゴリ・コードにコピーされます。業種別処理を使用している場合は、データ選択で会社を指定しないかぎり、すべての会社の全顧客マスター・レコードにカテゴリ・コードがコピーされます。

顧客マスターへのカテゴリ・コードのコピーの処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

カテゴリ・コード01-15

カテゴリ・コード01からカテゴリ・コード15 更新するカテゴリ・コードのフィールドに「1」を入力します。

カテゴリ・コード16-30

カテゴリ・コード16からカテゴリ・コード30 更新するカテゴリ・コードのフィールドに「1」を入力します。

R01401 – 宛名ラベルの印刷

Cheshireマシンを使用したり、宛名ラベルを外注する場合に、宛名ラベルの印刷プログラム(R01401)を使用します。

接着剤の付いていない白の用紙にラベルを印刷します。宛名ラベルの印刷プログラムでは、横3.2インチ、縦0.9インチのラベルが横4列に印刷されます。1枚のCheshireラベルには、住所行4行を含めて最大6行まで印刷できます。Cheshireラベルの用紙のサイズは、横14 7/8インチ、縦12インチです。Cheshireマシンを使ってラベル用紙を個々のラベルにカットできます。カットしたラベルを郵便物に貼ります。

宛名ラベルの印刷(R01401)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷オプション

- | | |
|--|---|
| 1. ラベル・タイプ | 印刷するラベルのタイプを指定します。値は次のとおりです。
1: Cheshireラベル
2: Dun/Bradstreetラベル(将来使用) |
| 2. Cheshireラベル・フォーマット | Cheshireラベル・フォーマットを指定します。値は次のとおりです。
1: 標準フォーマット。
2: 住所番号を含める。
3: 電話番号を含める。 |
| 3. Dun/Bradstreetラベル・フォーマット(将来使用) | 将来使用するために予約されています。
Dun/Bradstreetラベル・フォーマットを指定します。値は次のとおりです。
1: 標準フォーマット。
2: 住所番号を含める。 |

3: 電話番号を含める。

R01401A – 標準宛名ラベル

自分で郵送作業を行い標準ラベル用紙を使用する場合に、標準宛名ラベル・プログラム(R01401A)を使用して、宛名ラベルを印刷します。レーザープリンタまたはドット・マトリックス・プリンタを次の設定で使用できます。

- レーザープリンタの場合は、Avery Laser Printer Label #5260(1インチ × 2 5/8インチ)を使用し、用紙は縦に印刷します。
- ドット・マトリックス・プリンタの場合は、Avery Pin Fed Label #4062(3 1/2インチ × 1 7/16インチ)を使用します。

ドット・マトリックス・プリンタの場合は、10文字/インチ、または15文字/インチの印字密度を選択できます。10文字/インチを選択すると、32文字印刷されます。15文字/インチを選択すると、40文字印刷されます。

ドット・マトリックス・プリンタによっては、1インチに15文字を印刷できない場合があるため、ラベルをフルセット印刷する前に、少数のラベルを(たとえば4ラベル程度)使用してプリンタのテストを行ってください。ドット・マトリックス・プリンタで15文字/インチを印刷できない場合は、1セット印刷後に改ページされます。テストを実行してラベルを1セット印刷した後に改ページされない場合は、1インチ当たり15文字を印刷できるプリンタです。

すべてのラベルには名前と住所の情報が含まれており、必要に応じて住所番号、電話番号、または住所および電話番号を含めることができます。ラベルは、国別に指定したフォーマットで印刷されます。国別固定情報テーブル(F0070)に設定されていない国の場合は、デフォルトの国のフォーマットでラベルが印刷されます。

標準宛名ラベル(R01401A)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示

1. 印刷形式

標準宛名ラベルに印刷する情報を指定します。値は次のとおりです。

- 1: 宛名ラベル。郵送宛名と郵送先住所を印刷します。
- 2: 宛名ラベル(住所番号と電話番号付き)。郵送宛名、郵送先住所、住所録番号、電話番号を印刷します。
- 3: 宛名ラベル(住所番号付き)。郵送宛名、郵送先住所、住所録番号を印刷します。
- 4: 宛名ラベル(電話番号付き)。郵送宛名、郵送先住所、電話番号を印刷します。

郵送先住所の行1から4がラベルに印刷されます。

JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	<p>取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。</p>
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	<p>サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。</p>
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	<p>クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。</p> <p>“ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。</p>
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

BPEL	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
BPEL PM	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
ビルド構成ファイル	ANTスクリプトを生成するプログラムで 사용되는、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
ビルド・エンジニア	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
ビルド・プログラム	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
ビジネス・アナリスト	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
ビジネス関数	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます（在庫照会、作業オーダー発注など）。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック（Credit Check）や在庫照会（Item Availability）などがあげられます。
ビジネス関数イベント・ルール	“ネームド・イベント・ルール（NER）”の説明を参照してください。
ビジネス・サービス	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
ビジネス・サービス・アーティファクト	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
ビジネス・サービス・クラス・メソッド	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
ビジネス・サービス構成ファイル	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど（他にもある）の構成ファイルです。
ビジネス・サービス相互参照	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
ビジネス・サービス開発環境	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
ビジネス・サービス開発ツール	JDeveloperという名前でも知られています。
ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用するユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の1つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用する、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定のカラムを選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定のローを選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

	Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。
チャート	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
チェックイン・リポジトリ	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
コネクタ	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間にロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
相殺/相手勘定	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
コントロール・テーブル・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
コントロール・テーブルのマージ	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
関連データ	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
コスト割当	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
原価要素	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
資格証明	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
相互参照ユーティリティ・サービス	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
セグメント間編集	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
cXML	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
データベース資格証明	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
データベース・サーバー	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

データ・ソース・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
デプロイメント・アーティファクト	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
デプロイメント・サーバー	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
明細情報	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
ダイレクト接続	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
DNT (Do Not Translate)	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
2重価格設定	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
重複した公開ビジネス・サービス承認レコード	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
編集コード	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
電子データ交換 (EDI)	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
埋込みイベント・ルール	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
従業員ワーク・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
エンタープライズ・サーバー	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

ESB (Enterprise Service Bus)	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
EnterpriseOne管理者	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
EnterpriseOne資格証明	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
EnterpriseOneオブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne開発クライアント	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
EnterpriseOne拡張機能	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
EnterpriseOneプロセス	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
EnterpriseOneリソース	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
環境ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
エスカレーション・モニター	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
イベント・ルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
明示的トランザクション	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
公開されたメソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
施設、事業所	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
ファイル・サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけではなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
最終モード	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
基盤	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBJがあげられます(この他にもあります)。
FTPサーバー	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
HTTPアダプタ	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
インスタンス化	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
統合開発者	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
インテグレーション・ポイント(IP)	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
インテグレーション・サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
整合性テスト	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
インターフェイス・テーブル	“Zテーブル”の説明を参照してください。
内部メソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
インタオペラビリティ・モデル	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
エラー表示の有効化	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
IServerサービス	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
代替ラベル	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
Javaアプリケーション・サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

JDEBASEデータベース・ミドルウェア	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
jde.ini	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
JDeveloperプロジェクト	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
JDeveloperワークスペース	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
JMSキュー	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
リスナー・サービス	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
ローカル・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
ロケーション・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
ロジック・サーバー	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
手動コミット・トランザクション	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
マスター・ビジネス関数(MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
マスター・テーブル	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
照合伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
メディア・ストレージ・オブジェクト	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
メッセージ・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
メッセージング・アダプタ	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
メッセージング・サーバー	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
中間層BPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
監視アプリケーション	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
ネームド・イベント・ルール (NER)	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
オブジェクト・ライブラリアン	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
オブジェクト・ライブラリアンのマージ	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
オープン・データ・アクセス (ODA)	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス(OSA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下の子ディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	<p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p>
本稼働用環境	<p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p>
本稼働レベルのファイル・サーバー	<p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p>
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p>
プログラム一時修正 (PTF)	<p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p>
プロジェクト	<p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p>
プロモーション・パス	<p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11>21>26>28>38>01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p>
プロキシ・サーバー	<p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p>
公開ビジネス・サービス	<p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p>
公開ビジネス・サービス識別情報	<p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p>
公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p>
パブリッシュ済テーブル	<p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p>
パブリッシュ	<p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p>
プル・レプリケーション	<p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクライバとしてセットアップされます。プル・サブスクライバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクライバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p>

QBE	Query by Example (例示照会) の略語です。JD Edwards EnterpriseOneでは、QBE行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
リアルタイム・イベント	外部システムで使用するためにEnterpriseOneのアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
リフレッシュ	新規リリースやPTF/累積アップデート・リリース (B73.2やB73.2.1など) に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアまたはそのサブセット (テーブルや業務データなど) を修正する機能です。
レプリケーション・サーバー	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
Rt-Addressing	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
規則	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
見積オーダー	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。 JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
Secure by Default	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
SSL (Secure Socket Layer)	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSLを使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
SEI実装	サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI) を宣言するメソッドを実装するJavaクラスです。
選択項目	JD Edwards EnterpriseOneメニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して[Enter]キーを押します。
シリアルライズ	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
サーバーワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI)	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言するJavaインターフェイスです。
SOA	Service Oriented Architectureの略語です。
ソフトコーディング	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
ソース・リポジトリ	HTTPアダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
スポット・レート	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリイバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシャ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリイバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

3方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
トランザクション処理 (TP) モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
トランザクション処理方法	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です (開始、コミット、ロールバック、取消など)。
トランザクション・セット	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション (電子データ交換の標準ドキュメント) です。
トリガー	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
トリガーイベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
2方向認証	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
2方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
ユーザー識別情報	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
値オブジェクト	データ構造がデータを渡すのと同様に入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開 (公開ビジネス・サービスで使用) か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
差異	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。 JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
公開ビジネス・サービスのバージョン	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
バージョン・リストのマージ	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
ビジュアル・アシスト	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
用語一時変更	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

Webアプリケーション・サーバー	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
Webサーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
WSDL (Web Service Description Language)	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
WSIL (Web Service Inspection Language)	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
Webサービス・プロキシ基盤	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
Webサービス・ソフトコーディング・レコード	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
WHERE句	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。
Windowsターミナル・サーバー	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
ウィザード	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエントリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
ワークフロー	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス (ワークフロー) では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークグループ・サーバー	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
XAPIイベント	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス (XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

索引

- 「A/B – Additional Information」フォーム 70
- 「A/B Regional Information Revision」フォーム 62, 66
- Address Book Additional Info – Brazil 58
- 「Address Book Localization Data」フォーム 68, 69
- 「Colombian Additional Information Revisions」フォーム 63
- Customer Connection Webサイト xvi
- F0017テーブル 22
- F0070テーブル 12
- F0101テーブル 36
- F01112Z1テーブル 147, 246
- F01112テーブル 49
- F0111Z1テーブル 147, 237
- F0111テーブル 49
- F01151Z1テーブル 147, 257
- F01151テーブル 49
- F0115Z1テーブル 147, 251
- F0115テーブル 36, 49
- F01161Z1テーブル 147, 262
- F01161テーブル 50
- F0116テーブル 12
- F01501テーブル 31
- F01815テーブル 73
- F03012Z1テーブル 171
- F0401Z1テーブル 216
- JD Edwards EnterpriseOne Customer Relationship Management 85
- JD Edwards EnterpriseOne Human Capital Management 3, 85
- JD Edwards EnterpriseOne Payroll 3
- JD Edwards EnterpriseOne一般会計 2
- JD Edwards EnterpriseOne売掛管理 xxiii, 1, 2, 11, 174, 189, 190, 215
- JD Edwards EnterpriseOne買掛管理 xxiii, 1, 2, 10, 11, 165, 216, 219, 225
- JD Edwards EnterpriseOne価格管理 2
- JD Edwards EnterpriseOne契約管理 2
- JD Edwards EnterpriseOne契約請求 2
- JD Edwards EnterpriseOne固定資産管理 2
- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理 2, 211, 212
- JD Edwards EnterpriseOne作業オーダー管理 3
- JD Edwards EnterpriseOne作業原価 2
- JD Edwards EnterpriseOneサービス管理 3, 49
- JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理 2
- JD Edwards EnterpriseOneシステムのユーザー・プロファイル 3
- JD Edwards EnterpriseOne住所録 215, 216
 - 統合 2
 - 導入 3
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理 2, 190, 207, 215
- JD Edwards EnterpriseOne所要量計画 2
- JD Edwards EnterpriseOne設備/工場管理 2
- JD Edwards EnterpriseOneセールス・フォース・オートメーション xxiii
- JD Edwards EnterpriseOne調達管理 2, 216
- JD Edwards EnterpriseOne予測管理 2
- JD Edwards EnterpriseOneワークフロー・ツール 3
- P0000プログラム 11
- P01012プログラム 36
- P0117プログラム 22
- P01301プログラム 96
- P01311プログラム 92
- P01401プログラム 118
- P0150プログラム 25
- P01BDWRDプログラム 73
- PeopleCodeの表記規則 xviii
- Purge Brazilian Address Book Tag Filesプログラム (R76011P) 136
- R0101Z1Pプログラム 152
- R01050レポート 278, 279
- R011110Zプログラム 147
- R01401Aレポート 278, 280
- R01401レポート 278, 279
- R014021レポート 278
- R01402Wレポート 278
- R014032Aレポート 278

R01403Wレポート 278
 R01403レポート 278
 R01800Pプログラム 131
 R01840プログラム 131
 R03010Zプログラム 144
 R04010Zプログラム 145
 「Tax Person Code」フォーム 65

あ

「アクション・プランの追加」フォーム 119
 アクション・プラン・プログラム
 (P01401) 118
 アクティビティ共通処理オプション
 (P01350) 108
 アクティビティ検索(P01300) 106
 「アクティビティ・テンプレートの追加」
 フォーム 120
 「アクティビティの検索」フォーム 114
 「アクティビティの追加」フォーム 110
 「アクティビティの編集」フォーム 117
 アクティビティ・ビュー(P01301) 105
 アクティビティ・ビュー・プログラム
 (P01301) 96
 アクティビティ・ホームページ
 (P01312) 109
 「アクティビティ・ホームページ」フォー
 ム 114, 117
 宛名ラベルの印刷レポート
 (R01401) 278, 279
 アプリケーションの基礎 xv

え

エクアドル 65

お

親/子関係
 階層の設定 29
 概要 25
 上級 31
 親/子関係(上級)テーブル(F01501) 31
 「親/子住所の改訂(上級)」フォーム 32
 「親住所/子住所の改訂」フォーム 27,
 30

か

「階層記述の改訂」フォーム 31
 カテゴリ・コード
 更新 132
 設定 9

カテゴリ・コード一括更新プログラム
 (R01490) 132
 カレンダ管理プログラム(P01311) 92,
 93
 「カレンダの検索」フォーム 95
 「カレンダ」フォーム 93
 関連先テーブル(F01112) 49
 「関連先」フォーム 55
 関連ドキュメンテーション xvi

き

基本アクティビティの管理(P01302) 108
 基本設定カレンダー
 アクション・プラン 118
 アクティビティ
 追加 110
 アクティビティ検索 104
 アクティビティ・ホームページ 103
 イベント 96
 概要 85
 カレンダーの作成 92
 システム設定 86
 タスク 96
 通知 97, 102
 定期アクティビティ 97
 ユーザー定義コード 87
 割当 97
 業種別顧客マスター - バッチ・テーブル
 (F03012Z1) 171
 共通フィールド xx

く

「国別固定情報の設定」フォーム 18
 国別固定情報マスター・ファイル・テー
 ブル(F0070) 12

け

警告 xix

こ

ご意見 xx
 構造の改訂プログラム(P0150) 25, 26
 構造の照会プログラム(P02150) 26
 顧客マスター・バッチ・アップロード・プロ
 グラム(R03010Z) 144, 145
 顧客マスターへのカテゴリ・コードのコ
 ピー(R01050) 279
 顧客マスターへのカテゴリ・コードのコ
 ピーレポート(R01050) 278, 279

語句検索 73
 語句検索プログラム(P01BDWRD) 73
 個人データ・セキュリティ有効 12
 ご要望 xx
 コロンビア 63
 コード付き詳細住所(人名録)
 (R01403W) 278
 コード付き詳細住所レポート
 (R01403) 278

し

仕入先マスター・バッチ・アップロード
 (R04010Z) 146
 仕入先マスター・バッチ・アップロード・プ
 ログラム(R04010Z) 145
 仕入先マスター - バッチ・テーブル
 (F0401Z1) 216
 システム設定
 概要 5
 カテゴリ・コード 9
 監査ログ 19
 国別固定情報 12
 固定情報 11
 自動採番 20
 補足データ 22
 郵便番号 22
 ユーザー定義コード 6
 システムの統合 2
 「システム別自動採番の設定」フォー
 ム 21
 事前定義済の住所フォーマット 13
 住所フォーマット 13
 住所別レポート(R014021) 278
 住所録MBFプログラム(P0100041) 38
 住所録語句検索マスター(F01815) 73
 「住所録固定情報」フォーム 16
 住所録固定情報プログラム(P0000) 11
 住所録情報 35
 使用されるテーブル 35
 変換 139
 住所録 - 人名録テーブル(F0111) 49
 住所録セルフサービス(P01012SS) 125
 住所録で使用するテーブル 271
 「住所録の改訂」フォーム 41
 住所録の改訂プログラム(P01012) 36,
 39
 「住所録の語句検索」フォーム 74
 住所録バッチ・アップロード・プログラム
 (R01010Z) 143, 144
 住所録バッチ除去(R0101Z1P) 152

住所録バッチ除去プログラム
 (R0101Z1P) 152
 住所録マスター(F0101) 36
 住所録レコード
 検索 37
 人名録情報の追加 49
 重複 37
 追加情報の入力
 エクアドル 65
 コロンビア 63
 チリ 61
 ブラジル 57
 ベネズエラ 70
 ペルー 66
 ポーランド 68
 ロシア 69
 入力 36
 ブラジルのタグ・ふあいるの除去 136
 モバイル・セールスの利用 37
 住所録レコードの除去(R01800P) 135
 住所録レコードの除去プログラム
 (R01800P) 131, 134
 住所録レポート 277
 住所録 - 連絡先電話番号テーブル
 (F0115) 36, 49
 除去 134
 R76011P(Purge Brazilian Address
 Book Tag Files) 136
 バッチ 151
 処理オプション
 Purge Brazilian Address Book Tag Files
 (R76011P) 136
 アクティビティ共通処理オプション
 (P01350) 108
 アクティビティ検索(P01300) 106
 アクティビティ・ビュー(P01301) 105
 アクティビティ・ホームページ
 (P01312) 109
 宛名ラベルの印刷(R01401) 279
 カテゴリ・コード一括更新
 (R01490) 132
 カレンダ管理プログラム(P01311) 93
 基本アクティビティの管理
 (P01302) 108
 構造の改訂プログラム(P0150) 26
 構造の照会(P02150) 26
 顧客マスター・バッチ・アップロード
 (R03010Z) 145
 顧客マスターへのカテゴリ・コードの
 コピー 279

語句検索の作成(R01BDWRD) 73
 仕入先マスター・バッチ・アップロード
 (R04010Z) 146
 住所録MBFプログラム(P0100041) 38
 住所録セルフサービス
 (P01012SS) 125
 住所録 - 重複チェック(R014052) 72
 住所録の改訂プログラム(P01012) 39
 住所録バッチ・アップロード
 (R01010Z) 144
 住所録バッチ除去(R0101Z1P) 152
 住所録レコードの除去(R01800P) 135
 人名録MBF PO(P0100087) 52
 人名録バッチのアップロード
 (R011110Z) 147
 標準宛名ラベル・レポート
 (R01401A) 280
 メッセージ・ログの除去
 (R01131P) 135
 人名録MBF PO(P0100087) 52
 「人名録詳細」フォーム 52
 人名録情報 49
 人名録バッチのアップロード
 (R011110Z) 147
 人名録別レポート(R01402W) 278

せ

税ID付き住所録レポート
 (R014032A) 278
 製品ガイド
 注文 xvi
 「セルフサービス - 住所録レコードの更
 新」フォーム 126
 前提知識 xv

そ

相互参照 xix
 組織構造 29

た

代替住所テーブル(F01161) 50
 「代替住所」フォーム 56
 「対話型バージョンの処理」フォーム 20

ち

注意 xix
 注意事項 xix
 重複入力の検証 37
 チリ 61

つ

追加ドキュメンテーション xvi

て

デフォルトの国別フォーマット 13
 電子メール/インターネット・アドレス・テー
 ブル(F01151) 49
 「電子メール/インターネットの改訂」
 フォーム 55
 「電話番号」フォーム 48, 54

と

ドキュメンテーション
 関連 xvi
 最新版 xvi
 ダウンロード xvi
 ドキュメンテーションのダウンロード xvi

は

「配布リストの処理」フォーム 28
 バッチ処理
 概要 139
 顧客マスター情報 144
 仕入先マスター情報 145
 処理済バッチの改訂 150
 人名録情報 147
 バッチ・レコードの追加 141
 フィールドのマッピング 155
 F0101Z2 155
 F01112Z1 246
 F0111Z1 237
 F01151Z1 257
 F0115Z1 251
 F01161Z1 262
 F03012Z1 171
 F0401Z1 216
 未処理バッチの改訂 148
 レコードのアップロード 143
 バッチ - 人名録情報テーブル
 (F0111Z1) 147, 237
 バッチ - 代替住所テーブル
 (F01161Z1) 262

ひ

日付別住所テーブル(F0116) 12
 表記規則 xviii
 標準宛名ラベル・レポート
 (R01401A) 278, 280

ふ

フォーマット
 事前定義済の住所 13
 住所 13
 デフォルトの国 13
 フォーム
 A/B - Additional Information 70
 A/B Regional Information Revision 62, 66
 Address Book Additional Info - Brazil 58
 Address Book Localization Data 68, 69
 Colombian Additional Information Revisions 63
 Tax Person Code 65
 アクション・プランの追加 119
 アクティビティ・テンプレートの追加 120
 アクティビティの検索 114
 アクティビティの追加 110
 アクティビティの編集 112, 117
 アクティビティ・ホームページ 114, 117
 親/子住所の改訂(上級) 32
 親住所/子住所の改訂 27, 30
 階層記述の改訂 31
 カレンダー 93
 カレンダーの検索 95
 関連先 55
 国別固定情報の設定 18
 「システム別自動採番の設定」フォーム 21
 住所録固定情報 16
 住所録の改訂 41
 住所録の語句検索 74
 人名録詳細 52
 セルフサービス - 住所録レコードの更新 126
 代替住所 56
 対話型バージョンの処理 20
 電子メール/インターネットの改訂 55
 電話番号 48, 54
 配布リストの処理 28
 補足データベース設定 23
 有効日付親住所レコードの検索 30
 郵便番号の改訂 22
 連絡先を住所録に変換 128
 ブラジル 136
 税情報 57

へ

ベネズエラ 70
 ペルー 66

ほ

「補足データベース設定」フォーム 23
 ポーランド 68

め

メッセージ・ログの除去(R01131P) 135

も

モバイル・セールス 37

ゆ

有効住所更新プログラム(R01840) 131
 「有効日付親住所レコードの検索」フォーム 30
 郵便番号テーブル(F0017) 22
 「郵便番号の改訂」フォーム 22
 郵便番号プログラム(P0117) 22

れ

レポート
 宛名ラベルの印刷(R01401) 278, 279
 カテゴリ・コード一括更新 132
 顧客マスター・バッチ・アップロード 144, 171
 顧客マスターへのカテゴリ・コードのコピー(R01050) 278, 279
 コード付き詳細住所(R01403) 278
 コード付き詳細住所(人名録)(R01403W) 278
 仕入先マスター・バッチ・アップロード 145, 216
 住所別レポート(R014021) 278
 住所録バッチ・アップロード 143
 住所録バッチ除去 151
 住所録レコードの除去 131
 人名録バッチのアップロード 147, 237
 人名録別レポート(R01402W) 278
 税ID付き住所録レポート(R014032A) 278
 重複チェック 71
 標準宛名ラベル(R01401A) 280
 標準宛名ラベル・レポート(R01401A) 278
 有効住所の更新 131
 連絡先情報 xx

「連絡先を住所録に変換」フォーム 128

ろ

ロシア 69